令和７年第１回（３月）上牧町議会定例会会議録

議　事　日　程（第１号）

令和７年３月３日（月）午前１０時開会

第　１		会議録署名議員の指名について
第　２		会期の決定について
第　３	報第　１号	専決処分報告について 車両損傷による事故の損害賠償額の決定及び和解について
第　４	報第　２号	専決処分報告について 物損事故による損害賠償の決定及び和解について
第　５	議第　１号	刑法等の一部を改正する法律及び刑法等の一部を改正する法律の施行に伴う関係法律の整理等に関する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例について
第　６	議第　２号	奈良県広域水道企業団への水道事業の統合に伴う関係条例の整理に関する条例について
第　７	議第　３号	上牧町議会議員の議員報酬等に関する条例の一部を改正する条例について
第　８	議第　４号	特別職の職員で常勤のものの給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例について
第　９	議第　５号	一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について
第１０	議第　６号	一般職の任期付職員の採用等に関する条例の一部を改正する条例について
第１１	議第　７号	上牧町会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について
第１２	議第　８号	地方公務員法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整備に関する条例の一部を改正する条例について
第１３	議第　９号	職員の旅費に関する条例の一部を改正する条例について
第１４	議第１０号	職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例について

第１５　議第１１号　上牧町非常勤消防団員に係る退職報奨金の支給に関する条例の一部を改正する条例について

第１６　議第１２号　上牧町消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例について

第１７　議第１３号　上牧町国民健康保険税条例の一部を改正する条例について

第１８　議第１４号　上牧町指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について

第１９　議第１５号　上牧町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について

第２０　議第１６号　上牧町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について

第２１　議第１７号　上牧町下水道条例の一部を改正する条例について

第２２　議第１８号　奈良県広域水道企業団設立準備協議会の廃止に関する協議について

第２３　議第１９号　公の施設の指定管理者の指定について

第２４　議第２０号　令和６年度上牧町一般会計補正予算（第９回）について

第２５　議第２１号　令和６年度上牧町国民健康保険特別会計補正予算（第４回）について

第２６　議第２２号　令和６年度上牧町後期高齢者医療特別会計補正予算（第２回）について

第２７　議第２３号　令和６年度上牧町介護保険特別会計補正予算（第４回）について

第２８　議第２４号　令和６年度上牧町住宅新築資金等貸付事業特別会計補正予算（第２回）について

第２９　議第２５号　令和６年度上牧町水道事業会計補正予算（第４回）について

第３０　議第２６号　令和７年度上牧町一般会計予算について

第３１　議第２７号　令和７年度上牧町国民健康保険特別会計予算について

第３２　議第２８号　令和７年度上牧町後期高齢者医療特別会計予算について

第３３　議第２９号　令和７年度上牧町介護保険特別会計予算について

第３４　議第３０号　令和７年度上牧町住宅新築資金等貸付事業特別会計予算について

第３５　議第３１号　令和７年度上牧町下水道事業会計予算について

第３６　議第３２号　上牧町政治倫理審査会委員の選任について

第３７　議第３３号　上牧町政治倫理審査会委員の選任について

第３８　議第３４号　上牧町政治倫理審査会委員の選任について

第３９　議第３５号　上牧町政治倫理審査会委員の選任について

第４０　議第３６号　上牧町政治倫理審査会委員の選任について

第４１　議第３７号　上牧町政治倫理審査会委員の選任について

第４２　議第３８号　上牧町政治倫理審査会委員の選任について

第４３　議員提出議案第１号　上牧町議会の個人情報の保護に関する条例の一部を改正する条例（案）

第４４　予算特別委員会の設置及び委員の選任について

本日の会議に付した事件

第１から第４４まで議事日程に同じ

◇

出席議員（１２名）

１番	服　部　公　英	２番	氏　原　賢　一
３番	竹　中　亮　造	４番	安　中　　和
５番	東　　初　子	６番	上　村　哲　也
７番	遠　山　健太郎	８番	竹之内　　剛
９番	石　丸　典　子	１０番	康　村　昌　史
１１番	木　内　利　雄	１２番	牧　浦　秀　俊

欠席議員（なし）

◇

地方自治法第１２１条により説明のため出席した者の職氏名

町　　長	今　中　富　夫	教　育　長	松　浦　教　雄
総　務　部　長	中　川　恵　友	都市環境部長	吉　川　昭　仁
住民生活部長	山　下　純　司	健康福祉部長	寺　口　万佐代
教　育　部　長	松　井　良　明	総務部理事	髙　木　真　之
総　務　課　長	丸　橋　秀　行	企画財政課長	中　本　義　雄
建設環境課長	武　安　康　至	税　務　課　長	山　本　敏　光

◇

職務のため議場に出席した事務局員

議会事務局長	金　﨑　恭　彦	書　　記	森　本　香寿美
書　　記	横　田　大　樹	書　　記	林　　大　貴

開会　午前１０時００分

◎開会の宣告

○議長（牧浦秀俊）　皆様、おはようございます。ただいまの出席議員数は12名です。定足数に達しておりますので、令和７年第１回上牧町議会定例会を開会いたします。

本日、定例会が開催されましたところ、議員各位におかれましてはご出席賜り、厚く御礼申し上げます。どうか議員各位のご協力をお願い申し上げます。

―――――――――――――――――――― ◇ ――――――――――――――――――――

◎開議の宣告

○議長（牧浦秀俊）　これから本日の会議を開きます。

―――――――――――――――――――― ◇ ――――――――――――――――――――

◎町長の挨拶

○議長（牧浦秀俊）　初めに、招集者の挨拶をお願いいたします。

今中町長。

（町長　今中富夫　登壇）

○町長（今中富夫）　皆さん、おはようございます。

本日、ここに令和７年第１回定例会を招集いたしましたところ、議員の皆様にはご出席を頂き、誠にありがとうございます。

さて、我が国の経済は、穏やかな回復を続け、令和６年度の実質ＧＤＰ成長率は0.4％程度、名目ＧＤＰ成長率は2.9％程度、消費者物価は2.5％程度の上昇率になると見込まれております。また、33年ぶりの高水準となった賃上げを実現し、成長と分配の好循環が動き始めており、長きにわたったコストカット型経済から脱却し、デフレに後戻りせず、賃上げと投資が牽引する成長型経済に移行できるかどうかの分岐点にあります。一方、賃金上昇は物価上昇に追いついておらず、個人消費は依然、力強さを欠いている状況でございます。

令和７年度の地方財政計画では、社会保障関係費や人件費の増加、また物価高が見込まれる中、地方公共団体が様々な行政課題に対応し、行政サービスを安定的に提供できるよう、

地方税、地方交付税等の一般財源総額を前年度比1.7％、金額にして１兆535億円増の63兆7,714億円を確保することとしております。このうち地方税は45兆4,493億円とし、２兆7,164億円の増収を見込む中で、地方交付税総額は2,904億円増の18兆9,574億円と、本来の役割が適切に発揮されるよう増額確保をすることとし、所要の財政措置が盛り込まれたところでございます。

一方、本町においては、自主財源である町税は大幅な増収は見込めず、その先行きがまだまだ不透明な状況であり、町の財政状況に与える影響を見通せない状況でございます。歳入については、地方交付税、町債などの依存財源に頼っている状況であり、自主財源の確保について引き続き注視していく必要がございます。足元の物価高、調達価格の上昇に対応しつつ、県をはじめ関係機関と連携を図り、子育て支援や健康長寿への取組など、住民福祉の充実、教育環境の整備、防災対策の強化や利便性の向上など、暮らしの安心につながる取組を充実させ、幅広い世代に対して切れ目のない施策を展開するために、迅速かつ積極的に取り組んでいかなければならないと考えております。

このようなことから、令和７年度上牧町一般会計予算につきましては、骨格予算ではございますが、あらゆる事務事業を精査しながら、上牧町第５次総合計画に掲げる施策を中心に、総額115億1,729万8,000円の予算を編成いたしました。前年度と比較して11.5％の増となっております。

それでは、令和７年度に取り組む主な事業等について、上牧町第５次総合計画の５つの政策体系に沿ってご説明申し上げます。

まずは、町民とともに築く安全で笑顔あふれるまちづくりでございます。

第６次総合計画策定事業では、820万6,000円の予算を計上しております。現行の第５次総合計画は令和８年度で計画期間が終了となるため、令和９年度を始期とする第６次総合計画を令和７年度から２か年で策定いたします。

ペガサスホール空調機更新事業では、679万5,000円の予算を計上しております。文化センターの長期的な施設の維持管理を図るため、空調機更新工事実施設計を行います。

文化センター及び庁舎西館照明器具ＬＥＤ化更新事業では、１億204万7,000円の予算を計上しております。温室ガス削減を目的に、従来より、CO_2排出量が少ないＬＥＤ照明への更新工事を行います。

次に、ともに支え合い健やかでときめきが生まれるまちづくりでございます。

地方福祉計画及び地域福祉活動計画策定事業では、744万5,000円の予算を計上しており

ます。現行計画が令和７年度で計画期間が終了となるため、令和８年度を始期とする地域福祉計画及び地域福祉活動計画を一体的に策定いたします。

福祉医療費助成事業では、１億1,894万5,000円の予算を計上しております。福祉医療助成において経済的負担を軽減し、必要な医療を受けやすい環境をつくり、健康の保持及び福祉の増進を図ることを目的に、医療保険診療の自己負担額から一部負担金を控除した額を引き続き助成いたします。

子育て世代包括支援センター事業では、1,610万3,000円の予算を計上しております。妊娠、出産、子育て期に関する相談に応じるなど、妊娠期から子育て期にわたるまで切れ目のない支援を提供することにより、安心して子育てができる体制の確保を引き続き図ってまいります。

妊婦のための支援給付交付金事業では、1,306万2,000円の予算を計上しております。妊娠届出時に５万円、その後、妊娠している子ども１人につき５万円を支給し、経済的支援を行います。

高齢者等インフルエンザ予防接種事業では、2,834万円の予算を計上しております。高齢者等インフルエンザ予防接種を令和７年10月１日から令和８年１月31日までの期間、自己負担を無料で引き続き実施いたします。

次に、快適で住みよく自慢できるまちづくりでございます。

道路長寿命化事業では、１億3,150万円の予算を計上しております。道路長寿命化修繕計画に基づき、計画的に道路、歩道の舗装の修繕を実施し、長寿命化を図ってまいります。

橋梁長寿命化事業では、1,100万円の予算を計上しております。橋梁長寿命化修繕計画に基づき、今後老朽化する橋梁について、予防保全的な長寿命化修繕を計画的に実施し、令和７年度は二重坂橋の補修工事を実施いたします。

道路冠水防止対策事業では、8,500万円の予算を計上しております。大雨等が発生した場合の冠水被害の防止、また軽減のため、令和７年度は服部台地区の雨水管渠更正工事及び坂口牛萩線の水路改修工事を行います。

道路環境改善事業では、6,000万円の予算を計上しております。町内主要道路のＬＥＤ照明導入に向けた詳細設計を行うとともに、下牧高田線の道路照明ＬＥＤ化工事を行います。

都市計画マスタープラン及び立地適正化計画策定事業では、1,164万9,000円の予算を計上しております。居住や都市の生活を支える医療、福祉、商業機能の誘導、都市計画と公共交通の一体化、都市全体での防災・減災施策等を計画的に推進するための都市計画マスター

プラン及び立地適正化計画を令和７年度から３か年で策定いたします。

上牧町営第６住宅外部改修事業では、1,148万4,000円の予算を計上しております。上牧町公営住宅等長寿命化計画に基づき、町営第６住宅外部改修に向けた外部改修設計を行います。

次に、地域の魅力を生かしたにぎわいがあふれるまちづくりでございます。

ペガサスフェスタ2025では、481万1,000円の予算を計上しております。郷土愛の醸成の一環として地域活性やにぎわいづくりを目的に、ペガサスフェスタ2025を開催いたします。

次に、歴史文化が息づき上牧っ子を育むまちづくりでございます。

校務支援システム導入事業では、2,461万4,000円の予算を計上しております。教員の業務負担の軽減や児童、生徒に対する個別最適化された教育の推進を図るため、奈良圏域において共同で校務支援システムを導入いたします。

学校適正化事業では、22億8,692万8,000円の予算を計上しております。令和８年４月１日の開校に向け、現在進めております新校舎棟の整備を引き続き進めてまいります。

フリースクール事業では、817万8,000円の予算を計上しております。不登校児童、生徒に居場所を提供するとともに、一人一人に寄り添った支援を行うことで、児童、生徒の学校復帰や社会的自立に向けた支援に引き続き取り組んでまいります。

上牧町放課後塾「まきっ子塾」事業では、625万4,000円の予算を計上しております。基礎学力の向上や家庭学習の定着を目的に、学習アドバイザーによる宿題や自主活動の支援を引き続き行ってまいります。

史跡上牧久渡古墳群整備事業では、１億7,051万5,000円の予算を計上しております。上牧久渡古墳群の計画的な公園整備を引き続き進め、令和７年度は古墳群西側の一部、南側の造成工事等を行います。

町民体育館空調整備事業では、１億244万7,000円の予算を計上しております。災害時には多くの避難者が想定されることから、都市ガス機能が停止した場合でも電源供給可能なバックアップ機能を実装した空調機の整備を行います。

以上、令和７年度に実施を予定している全ての事業が、これからの上牧町及び町民生活にとって欠かすことのできない重要な事業と考えておりますので、今後も町民の皆様、議員の皆様の町政に対するご理解と一層のご支援を賜りますようお願いを申し上げます。

それでは、本日提出しております議案につきまして、簡単に説明させていただきます。

報第１号から報第２号につきましては、車両損傷による事故及び物損事故による損害賠償

額の決定及び和解成立に伴い、地方自治法第180条第１項の規定により、議会の議決により指定された町長の専決処分事項について専決処分をいたしましたので、同条第２項の規定により報告するものでございます。

議第１号につきましては、刑法等の一部を改正する法律及び刑法等の一部を改正する法律の施行に伴う関係法律の整理等に関する法律の施行に伴い、関係する条例の該当部分を改正するものでございます。

議第２号につきましては、令和７年４月１日から奈良県広域水道企業団への水道事業の統合に伴い、関係条例の整理を行うものでございます。

議第３号から議第８号につきましては、人事院勧告に伴う国家公務員における給与法の一部改正に伴い、上牧町議会議員の議員報酬等に関する条例、特別職の職員で常勤のものの給与及び旅費に関する条例、一般職の職員の給与に関する条例、一般職の任期付職員の採用等に関する条例、上牧町会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例、地方公務員法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整備に関する条例の一部を改正するものでございます。

議第９号につきましては、宿泊料金の高騰、その他の社会経済情勢の変化並びに国家公務員等の旅費に関する法律の一部改正及び国家公務員等の旅費に関する法律施行令の施行に伴い、職員の旅費に関する条例の一部を改正するものでございます。

議第10号につきましては、育児休業等または家族介護を行う労働者の福祉に関する法律及び次世代育成支援対策推進法の一部を改正する法律の公布に伴い、職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正するものでございます。

議第11号につきましては、消防団員等公務災害補償等責任共済等に関する法律施行令の一部改正に伴い、上牧町非常勤消防団員に係る退職報償金の支給に関する条例の一部を改正するものでございます。

議第12号につきましては、一般職の職員の給与に関する法律及び非常勤消防団員等に係る損害賠償の基準を定める政令の一部改正に伴い、上牧町消防団員等公務災害補償条例の一部を改正するものでございます。

議第13号につきましては、国民健康保険の県単位化により、令和７年度の賦課限度額が示されたことに伴い、上牧町国民健康保険税条例の一部を改正するものでございます。

議第14号につきましては、指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準の一部改正に伴い、上牧町指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関

する基準を定める条例の一部を改正するものでございます。

議第15号につきましては、特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業並びに特定子ども・子育て支援施設等の運営に関する基準の一部改正に伴い、上牧町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正するものでございます。

議第16号につきましては、家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準の一部改正に伴い、上牧町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正するものでございます。

議第17号につきましては、都市下水路の維持管理に関する技術基準及び下水道法施行令の一部改正に伴い、上牧町下水道条例の一部を改正するものでございます。

議第18号につきましては、奈良県広域水道企業団設立準備協議会の廃止に関する協議でございます。

議第19号につきましては、公の施設の指定管理者の指定について、地方自治法第244条の２第３項の規定により、公の施設の指定管理を指定したいので、同条第６項の規定により議決を求めるものでございます。

議第20号　令和６年度上牧町一般会計補正予算（第９回）につきましては、既定の歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ3,879万3,000円を減額し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ121億8,846万4,000円とするものでございます。

第２条、繰越明許費の補正では、地方自治法第213条第１項の規定により、翌年度に繰り越して使用できる経費について、予算書６ページ、第２表で、総務費の物価高騰対策給付金給付事業から消防費の避難所生活環境改善事業までの合計６事業、金額にして２億1,483万9,000円としております。

第３条、地方債の補正では、起こすことができる地方債の追加、変更として、予算書７ページ、第３表、追加として避難所生活環境改善事業債を追加し、学校適正化事業債の限度額を変更しております。

今回の補正予算では、令和６年度事業完了に伴う精算金及び入札差金について計上しております。

それでは、補正予算に関する説明書の事項別明細書で、主なものにつきまして説明させていただきます。

歳入、説明書４、５ページ、款分担金及び負担金、説明欄、高齢者福祉負担金につきましては、三室園入所者の死去に伴い、35万2,000円を減額計上し、あわせて、歳出、説明書12、

13ページ、款民生費、説明欄、高齢者福祉費で50万円を減額計上しております。

歳入に戻りまして、説明書４、５ページ、款国庫支出金、節社会福祉負担金につきましては、利用単価及び利用件数の増加に伴い、財源として305万8,000円、款県支出金、節社会福祉負担金で152万9,000円を計上し、あわせて、歳出、説明書14、15ページ、款民生費、説明欄、障害者総合支援事業費で611万6,000円を計上しております。

歳入に戻りまして、説明書４から７ページ、款国庫支出金、節社会福祉費補助金につきましては、利用単価の増加に伴い、財源として46万8,000円を、款県支出金、節社会福祉費補助金で23万4,000円を計上し、あわせて、歳出、説明書14、15ページ、款民生費、説明欄、地域生活支援事業費で93万6,000円を計上しております。

歳入に戻りまして、説明書４、５ページ、款国庫支出金、説明欄、新しい地方経済生活環境創生交付金につきましては、指定避難所４か所に配置するキッチン資機材を備えた防災倉庫を購入する財源として1,670万円を、説明書８、９ページ、款町債、節避難所生活環境改善事業債で670万円を計上し、あわせて、歳出、説明書18、19ページ、款消防費、説明欄、避難所生活環境改善事業費で3,340万円を計上しております。

歳入に戻りまして、説明書６、７ページ、款県支出金、説明欄、地籍調査費補助金につきましては、県補助金が採択されたことに伴い、財源として857万2,000円を計上し、あわせて、歳出説明書16、19ページ、款農林商工業費、説明欄、会計年度任用職員人件費で342万6,000円を、地籍調査費で1,677万7,000円を計上しております。

歳入に戻りまして、説明書６、７ページ、款県支出金、説明欄、団体営農地防災事業補助金につきましては、防災重点ため池のボーリング調査の財源として1,000万円を計上し、あわせて、歳出、説明書16、17ページ、款農林商工業費、説明欄、団体営農地防災事業費で同額を計上しております。

歳入に戻りまして、説明書６、７ページ、款財産収入、節物品売払収入につきましては、パソコン、プリンター等の売払収入として16万8,000円を計上しております。

款寄附金、節一般寄附金につきましては、住民の方より50万円の寄附を頂きましたので、計上をいたしております。

説明書６、９ページ、款繰入金、節財政調整基金繰入金につきましては、今回の補正予算の財源調整のため、3,279万7,000円を繰り入れております。繰り入れ後の基金残高は９億7,672万9,000円となっております。節公共施設整備基金繰入金につきましては、上牧中学校グラウンドくい撤去工事の減額に伴う財源振替として72万9,000円を、款町債、節学校適

正化事業債で690万円を減額計上し、あわせて、歳出、説明書18、19ページ、款教育費、説明欄、上牧中学校グラウンドくい撤去工事で762万9,000円を減額計上しております。

歳入に戻りまして、説明欄、災害派遣に伴う求償費につきましては、能登半島地震における災害派遣及び物資の支援に要した経費の求償として668万9,000円を計上しております。節消防団員等公務災害補償及び退職報償金受入金につきましては、消防団員等公務災害補償等共済基金からの退職報償金の一部収入として125万2,000円を計上し、あわせて、歳出、説明書18、19ページ、款消防費、節報償費で176万5,000円を計上しております。

歳出に移りまして、説明書14、15ページ、款衛生費、説明欄、母子衛生費につきましては、手術を伴う利用者が見込まれるため、200万円を計上しております。

説明書16、17ページ、説明欄、予防接種事業費につきましては、県外で接種した人数の増加に伴い、15万1,000円を計上しております。

款衛生費、節備品購入費につきましては、令和５年９月に債務負担行為を行った２トンリサイクルカーが令和６年度中に納車されることに伴い、827万8,000円を計上しております。

説明書18、19ページ、款教育費、説明欄、幼稚園給食事業費につきましては、給食材料費の物価高騰の影響に伴い、30万円を計上しております。

説明書20、21ページ、款教育費、説明欄、体育施設費につきましては、夜間開放の利用増加に伴い、14万2,000円を計上しております。

款諸支出金、項基金費につきましては、各基金の預金利子を積み立てております。積み立て後の基金残高は、財政調整基金費では９億7,672万9,000円、減債基金では7,343万4,000円、公共施設整備基金費では４億8,191万円、長寿社会福祉基金費では457万3,000円、森林環境基金費では702万円、ふるさとまちづくり基金費では1,880万9,000円となっております。

議第21号　令和６年度上牧町国民健康保険特別会計補正予算（第４回）につきましては、既定の歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ1,159万1,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ25億9,186万2,000円とするものでございます。

それでは、補正に関する説明書の事項別明細書で、主なものにつきまして説明させていただきます。

歳入、説明書４、５ページ、款国庫支出金、節社会保障税番号制度システム整備基金費補助金につきましては、システム改修費用が確定したことにより、279万8,000円を減額し、あわせて、歳出、説明書６、７ページ、款総務費、説明欄、システム改修委託料で同額を減額しております。

歳入に戻りまして、説明書４、５ページ、款財産収入、節利子及び配当金につきましては、34万9,000円を計上し、あわせて、歳出、説明書６、７ページ、款諸支出金、説明欄、財政調整基金費で同額を積み立てております。

歳入に戻りまして、説明書４、５ページ、款繰入金、節保険基盤安定繰入金で460万7,000円を増額計上しております。これにつきましては、保険税の軽減相当額を一般会計から繰り入れるものでございます。節未就学児均等割保険税繰入金では１万6,000円を、節産前・産後期間保険税繰入金では８万9,000円をそれぞれ減額計上しております。款繰入金、節財政調整基金繰入金では、今回の補正予算の調整額として953万8,000円を計上しております。繰り入れ後の基金残高は２億1,978万9,000円となっております。

歳出に移りまして、説明書６、７ページ、款国民健康保険事業費納付金、説明欄、一般被保険者医療給付費分につきましては986万2,000円を、説明欄、一般被保険者後期高齢者支援金等分につきましては436万6,000円をそれぞれ計上しております。説明欄、介護納付金につきましては、18万8,000円の減額計上をしております。これらにつきましては、奈良県に納付します納付額の確定によるものでございます。

議第22号　令和６年度上牧町後期高齢者医療特別会計補正予算（第２回）につきましては、既定の歳入歳出予算の総額から歳入歳出それぞれ317万8,000円を減額し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ５億592万5,000円とするものでございます。

それでは、補正予算に関する説明書の事項別明細書で、主なものにつきまして説明させていただきます。

歳入、説明書４、５ページ、款繰入金、節保険基盤安定繰入金につきましては、317万8,000円を減額計上しております。

歳出に移りまして、説明書６、７ページ、款後期高齢者医療広域連合納付金、節負担金補助及び交付金につきましては、納付額が確定したことにより、317万8,000円を減額計上しております。

議第23号　令和６年度上牧町介護保険特別会計補正予算（第４回）につきましては、規定の保険事業勘定の歳入歳出予算の総額から歳入歳出それぞれ370万円を減額し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ23億9,667万9,000円とするものでございます。

それでは、補正予算に関する説明書の事項別明細書で、主なものにつきまして説明させていただきます。

歳入、説明書４、５ページ、款保険料、節現年保険料につきましては、歳出、説明書６、

７ページ、款地域支援事業費、説明欄、介護予防ケアマネジメント費10万円を計上し、説明欄、家族介護支援事業費135万円、説明欄、配食見守り支援事業費で80万円の減額に伴い、補助案分率に応じ、46万8,000円を減額計上しております。款国庫支出金、節包括的支援事業任意事業交付金につきましては、歳出、説明書６、７ページ、説明欄、家族介護支援事業費を、説明欄、配食見守り支援事業費の減額による国庫負担分として82万8,000円を減額し、あわせて、款県支出金、節包括的支援事業任意事業交付金で41万4,000円を減額計上しております。款国庫支出金、目事業費補助金につきましては、歳出、説明書６、７ページ、款総務費、節委託料の185万9,000円の減額に伴う国庫補助分として、93万円を減額計上しております。款繰入金、節一般会計繰入金につきましては、歳出における委託料、電子計算費の減額分、介護予防ケアマネジメント事業負担金の増額分、家族介護支援事業における紙おむつ支給費の減額及び配食見守り支援事業委託料の減額の合算額として、133万1,000円を減額計上しております。

歳出に移りまして、款保険給付費、説明欄、介護サービス等諸費につきましては、居宅介護サービス給付費や地域密着型介護サービス給付費等において、当初の計画値ほど利用実績が伸びなかったことにより、500万円を減額計上しております。説明欄、高額介護サービス等費につきましては、支給対象者の増加や給付額が高額となるケースが重なり、計画値を超える件数の伸びが見込まれるため、500万円を計上しております。款地域支援事業費、説明欄、介護予防ケアマネジメント費では、要支援１、２及び事業対象者の認定者数の増加により10万円を計上しております。説明欄、家族介護支援事業費につきましては、対象要件に該当する高齢者の施設入所や死亡等により、当初の見込みより執行見込額が下回るため、135万円を減額計上し、説明欄、配食見守り支援事業費では、利用者が施設入所や訪問型サービスの利用により対象要件外になったことにより、80万円を減額計上しております。款基金積立金につきましては、利息分の積立金として20万9,000円を計上しております。積み立て後の基金残高は１億8,469万1,000円となっております。

議第24号　令和６年度上牧町住宅新築資金等貸付事業特別会計補正予算（第２回）につきましては、既定の歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ２万2,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ139万2,000円とするものでございます。

それでは、補正予算に関する説明書の事項別明細で、主なものにつきまして説明させていただきます。

歳入、説明書４、５ページ、款財産収入、節利子及び配当金につきましては、預金利息と

して２万2,000円を計上し、あわせて、歳出、説明書６、７ページ、款諸支出金、節積立金で同額を積み立てております。積み立て後の基金残高は、2,263万2,000円となっております。

議第25号　令和６年度上牧町水道事業会計補正予算（第４回）につきましては、既定予算第２条に定めた収益的収入及び支出を983万5,000円増額し、水道事業費用を４億6,442万2,000円とするものでございます。

内容につきましては、補正予算書２ページ、令和６年度上牧町水道事業会計補正予算実施計画、収益的収入及び支出、款１水道事業費用、項１営業費用、目１原水及び浄水費207万6,000円増額の２億6,079万円とするもので、漏水の増加によるものでございます。目２配水及び給水費600万円増額の7,503万9,000円とするもので、漏水に伴う修繕費の増額でございます。項２営業外費用、目２消費税175万9,000円増額の811万9,000円とするもので、総支出額の減少が予想されるため、消費税額としての増額分でございます。

議第26号　令和７年度上牧町一般会計予算についてでございます。

一般会計予算につきましては、第１条で歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ115億1,729万8,000円と定めております。前年度比11.5％増、金額にして11億8,783万円の増額となっております。

第２条の債務負担行為につきましては、債務を負担する行為をすることができる事項、期間及び限度額を７ページ、第２表で明記しております。

第３条の地方債につきましては、起こすことができる地方債の起債の目的、限度額、起債の方法、利率及び償還の方法を８、９ページ、第３表で明記しております。借入れの限度額の総額といたしましては、25億8,580万円と定めております。

第４条では、一時借入金の借入最高額を30億円と定め、第５条では、歳出予算の利用について定めております。

それでは、予算書の内容についてご説明させていただきます。予算に関する説明書の事項別明細書１ページ、歳入につきましては、款町税で21億1,291万1,000円を計上しております。前年度比5.4％増、金額にして１億866万7,000円の増額となっております。増額の主な要因といたしましては、令和６年度に実施されました個人町民税の定額減税の影響により、前年度において一時的に減少したことに伴うものでございます。地方消費税交付金では４億5,896万9,000円を計上しております。前年度比8.5％増、金額にして3,586万6,000円の増額となっております。地方特例交付金では2,141万3,000円を計上しております。前年度比

80.8％減、金額にして9,023万8,000円の減額となっております。減額の主な要因といたしましては、令和６年度に実施されました定額減税の影響による個人町民税の減収分が全額国庫から補塡されていたことによるものでございます。地方交付税では30億3,527万1,000円を計上しております。前年度比3.6％増、金額にして１億556万4,000円の増額となっております。増額の主な要因といたしましては、人事院勧告に伴う人件費の増加、燃料費の高騰による公共施設等の光熱水費の増加、物価高騰による委託料の増加に加え、障害福祉サービスの利用者数や高齢者人口の増加等によるものでございます。使用料及び手数料では１億7,900万7,000円を計上しております。前年度比1.9％減、金額にして343万9,000円の減額となっております。国庫支出金では13億657万円を計上しております。前年度比34.6％増、金額にして３億3,587万円の増額となっております。増額の主な要因といたしましては、児童手当関係国庫負担金、史跡等総合活用整備事業費補助金等及び学校適正化関係補助金の増加によるものでございます。県支出金では７億4,497万6,000円を計上しております。前年度比8.1％増、金額にして5,604万3,000円の増額となっております。増額の主な要因といたしましては、ＧＩＧＡ第２期端末導入に係る県補助金、文化財保存事業費補助金等の増加によるものでございます。繰入金では４億3,172万5,000円を計上しております。前年度比66.6％増、金額にして１億7,258万6,000円の増額となっております。増加の主な要因といたしましては、学校適正化事業に係る公共施設整備基金の繰入金の増加によるものでございます。諸収入では２億9,046万7,000円を計上しております。前年度比211.3％増、金額にして１億9,716万6,000円の増額となっております。増額の主な要因といたしましては、基幹業務システムの標準化に伴うデジタル基盤改革支援補助金の増加によるものでございます。町債では25億8,580万円を計上しております。前年度比10.5％増、金額にして２億4,643万円の増額となっております。増額の主な要因といたしましては、学校適正化事業に伴う町債の増加によるものでございます。

次に、歳出に移りまして、総務費では13億7,454万9,000円を計上しております。前年度比23.3％増、金額にして２億5,978万円の増額となっております。増加の主な要因といたしましては、基幹業務システムの標準化並びに文化センター及び庁舎西館照明器具ＬＥＤ化更新工事によるものでございます。民生費では32億7,561万3,000円を計上しております。前年度比2.8％増、金額にして9,058万9,000円の増額となっております。増額の主な要因といたしましては、障害福祉に係る社会保障関係経費の増加、児童手当新制度の通年化や保育士処遇改善に伴う保育所負担金等の子ども関係費の増加によるものでございます。衛生費では

８億6,630万8,000円を計上しております。前年度比66.6％減、金額にして17億2,443万7,000円の減額となっております。減額の主な要因といたしましては、山辺・県北西部広域環境衛生組合に係る建設費の分担金の減少によるものでございます。農林商工業費では4,778万2,000円を計上しております。前年度比32.4％減、金額にして2,292万3,000円の減額となっております。減額の主な要因といたしましては、地籍調査に係る経費の減少によるものでございます。土木費では７億6,614万3,000円を計上しております。前年度比23.1％増、金額にして１億4,357万7,000円の増額となっております。増額の主な要因といたしましては、下水道事業会計に対する補助金の増加、バリアフリー対策工事及び道路照明整備工事等の増加によるものでございます。消防費では３億838万9,000円を計上しております。前年度比16.2％減、金額にして5,980万1,000円の減額となっております。減額の主な要因といたしましては、消防屯所改築工事が令和６年度に完了したことによるものでございます。教育費では36億4,804万3,000円を計上しております。前年度比228.3％増、金額にして25億3,675万8,000円の増額となっております。増額の主な要因といたしましては、上牧中学校舎新築工事、史跡上牧久渡古墳群整備工事及び上牧町民体育館空調設置工事によるものでございます。公債費では、10億8,789万8,000円を計上しております。前年度比0.9％増、金額にして964万円の増額となっております。

先ほど、令和７年度に取り組む主な事業について申し上げました。上牧町第５次総合計画に掲げる施策を中心にあらゆる事務事業を精査しながら、教育の充実や生涯学習機会の創出、子育て世帯や高齢者に対する福祉支援、生きがいや活躍できる場の提供などの施策を積極的に計上し、町民生活の向上や安全で安心なまちづくりに向けて予算編成を行ったものでございます。

議第27号　令和７年度上牧町国民健康保険特別会計予算についてでございます。

第１条で、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ25億5,815万円と定めております。前年度比0.4％減、金額にして1,118万6,000円の減額となっております。

第２条では、歳出予算の流用について定めております。

予算に関する説明書の事項別明細書１ページ、歳入につきましては、款国民健康保険税で３億9,269万9,000円を計上しております。前年度比2.0％減、金額にして794万3,000円の減額となっております。款国庫支出金では、1,089万1,000円を計上しております。これにつきましては、新たに子ども・子育て支援事業費補助金1,089万円を計上したことにより増額となっております。款県支出金では、19億2,849万円を計上しております。前年度比0.3％

減、金額にして604万6,000円の減額となっております。これにつきましては、主に歳出の保険給付費に要する費用として、奈良県が市町村に対して交付するものでございます。款繰入金では、２億2,331万6,000円を計上しております。前年度比3.1％減、金額にして723万4,000円の減額となっております。

次に、歳出に移りまして、説明書２、３ページ、款総務費では5,248万8,000円を計上しております。前年度比5.8％増、金額にして288万2,000円の増額となっております。款保険給付費では、19億901万4,000円を計上しております。前年度比0.3％増、金額にして565万円の増額となっております。主な増額の要因といたしましては、高額療養費の増によるものでございます。款国民健康保険事業費納付金では、５億5,467万1,000円を計上しております。前年度比3.4％減、金額にして1,968万円の減額となっております。主な減額の要因といたしましては、被保険者数の減に伴う県全体の保険税必要額の減少によるものでございます。保険事業費では、3,884万8,000円を計上しております。前年度比0.8％減、金額にして30万2,000円の減額となっております。今年度も人間ドック等助成事業として４万円を限度に、人間ドック等の費用を助成いたします。

議第28号　令和７年度上牧町後期高齢者医療特別会計予算についてでございます。

第１条で、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ５億4,988万9,000円と定めております。前年度比8.6％増、金額にして4,372万9,000円の増額となっております。

予算に関する説明書の事項別明細書１ページ、歳入につきましては、款後期高齢者医療保険料で４億3,647万7,000円を計上しております。前年度比8.7％増、金額にして3,486万2,000円の増額となっております。主な増額の要因といたしましては、被保険者数の増によるものでございます。款国庫支出金では、新たに352万円を計上しております。これにつきましては子ども・子育て支援事業費補助金でございます。款繰入金では１億802万5,000円を計上しております。前年度比5.4％増、金額にして550万3,000円の増額となっております。内訳といたしましては、事務費繰入金2,694万8,000円、保険基盤安定繰入金8,107万7,000円となっております。款諸収入では、182万1,000円を計上しております。前年度比7.4％減、金額にして14万6,000円の減額となっております。

次に、歳出に移りまして、説明書２、３ページ、款総務費では882万7,000円を計上しております。前年度比60.3％増、金額にして332万2,000円の増額となっております。主な増額の要因といたしましては、子ども・子育て支援金制度に向けたシステム改修委託料352万円によるものでございます。款後期高齢者医療広域連合納付金では、５億4,106万2,000円

を計上しております。前年度比8.1％増、金額にして4,040万7,000円の増額となっております。

議第29号　令和７年度上牧町介護保険特別会計予算についてでございます。

令和７年度当初予算につきましては、第９期介護保険事業計画３年間の中間年に当たり、本計画の平均値の指標となる年になります。令和７年度には団塊の世代全体が75歳以上となり、高齢者人口、高齢化率ともに増加傾向での推移が見込まれます。引き続き、地域包括ケアシステムの構築に向け、切れ目のない医療介護連携の体制づくり、日常生活の支援などに関する施策並びに介護予防・生活支援体制整備の充実強化を図ってまいります。

それでは、予算書の内容について説明させていただきます。第１条第１項、保険事業勘定の歳入歳出予算の総額は歳入歳出それぞれ23億7,724万2,000円と定めております。前年度比４％の増、金額にして9,046万1,000円の増額となっております。第２項、介護サービス事業勘定の歳入歳出予算の総額は歳入歳出それぞれ993万円と定めております。前年度比0.9％の増、金額にして８万6,000円の増額となっております。

第２条の債務負担行為につきましては、債務を負担する行為をすることができる事項、期間及び限度額を６ページ、第２表で明記いたしております。

第３条では、歳出予算の流用について定めております。

予算に関する説明書の事項別明細書１ページ、歳入につきましては、款保険料で４億7,068万1,000円を計上しております。前年度比0.2％増、金額にして115万1,000円の増額となっております。款国庫支出金では４億9,640万3,000円を、款支払基金交付金で６億992万円を、款県支出金で３億3,307万4,000円を計上しております。それぞれ歳出における保険給付費及び地域支援事業費に対する法定補助率を基に計上しております。款繰入金では４億6,679万7,000円を計上しております。前年度比12.1％増、金額にして5,043万1,000円の増額となっております。これにつきましては、一般会計からの法定繰入分の４億668万3,000円と介護給付費準備基金繰入金の6,011万4,000円となっております。

次に、歳出に移りまして、説明書２、３ページ、款総務費では8,078万7,000円を計上しております。前年度比43.1％増、金額にして2,433万4,000円の増額となっております。主な要因といたしましては、人事院勧告等による職員の人件費の増加によるものでございます。款保険給付費では21億8,326万7,000円を計上しております。前年度比2.7％増、金額にして5,646万1,000円の増額となっております。内訳といたしましては、介護サービス等諸費で20億4,845万9,000円を、介護予防サービス等諸費で7,005万3,000円を、その他諸費で248万

5,000円を、高額介護サービス等費で5,427万円を、高額医療合算介護サービス等費で800万円となっております。款地域支援事業費では１億1,165万6,000円を計上しております。前年度比9.2％増、金額にして943万9,000円の増額となっております。主な要因といたしましては、第10期介護保険事業計画等策定のための調査業務委託料を計上しております。

次に、介護サービス事業勘定につきましては、事項別明細書22ページの歳入、款サービス収入では992万9,000円を計上しております。前年度比0.9％増、金額にして８万6,000円の増額となっております。

歳出に移りまして、説明書23、24ページ、款サービス事業費では932万1,000円を計上しております。前年度比0.7％増、金額にして６万8,000円の増額となっております。内容といたしましては、主に介護予防プラン作成委託料となっております。

議第30号　令和７年度上牧町住宅新築資金等貸付事業特別会計予算についてでございます。

第１条で、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ109万円と定めております。前年度比1.7％増、金額にして１万8,000円の増額となっております。

それでは、予算の内容について説明させていただきます。予算に関する説明書の事項別明細書１ページ、歳入につきましては、款諸収入で前年度と同額の106万4,000円を計上しております。

次に、歳出の主なものにつきましては、説明書６、７ページ、款公債費、説明欄、元金では70万9,000円を計上しております。前年度比1.7％増、金額にして１万2,000円の増額となっております。説明欄、利子では１万4,000円を計上しております。前年度比46.2％減、金額にして１万2,000円の減額となっております。

議第31号　令和７年度上牧町下水道事業会計予算についてでございます。

下水道事業会計予算書１ページ、第２条、業務の予定量につきましては、水洗化人口１万9,400人、年間有収水量は203万1,000立方メートル、主要な建設改良事業では、汚水管渠等建設事業費で8,632万円としております。第３条、収益的収入及び支出の収入、第１款下水道事業費収益では６億595万4,000円と定めております。前年度比11.6％増、金額にして6,308万9,000円の増額となっております。支出の第１款下水道事業費用では、５億9,520万9,000円と定めております。前年度比11.8％増、金額にして6,294万4,000円の増額となっております。この第３条、予算の収支につきましては、1,074万5,000円の単年度黒字となります。第４条、資本的収入及び支出の収入、第１款資本的収入では２億1,189万4,000円と

定めております。前年度比16.4％減、金額にして4,143万4,000円の減額となっております。支出の第１款資本的支出では３億6,182万5,000円と定めております。前年度比6.6％減、金額にして2,576万3,000円の減額となっております。また、収入額が支出額に対して不足する額１億4,993万1,000円につきましては、当該年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額551万5,000円、減債積立金937万7,000円、過年度分損益勘定留保資金328万2,000円、当年度分損益勘定留保資金１億3,175万7,000円で補塡を予定しております。

次に、２ページ、第５条の債務負担行為につきましては、上牧町水洗便所改造資金あっせんに係る取扱金融機関に対する債務の損失補償を令和７年度から償還期間満了までを期間とし、限度額を町と金融機関で協議の上、設定した範囲内で貸付けを行った貸付金、これに伴う利子等の合計額に相当する額とするものでございます。次に、第６条の企業債につきましては、その目的及び限度額は、公共下水道事業債では5,210万円、流域下水道事業債では790万円、資本費平準化債では7,000万円、下水道事業債特別措置分では1,930万円、下水道事業債特別措置分借換債では1,100万円と定めております。その起債の方法、利率及び償還の方法については、それぞれ記載されているとおりでございます。次に、第７条の一時借入金では、借入れの最高限度額を２億円と定めるものでございます。次に、第９条、議会の議決を得なければ流用することのできない経費につきましては、職員給与費3,880万4,000円と定めております。次に、第10条の他会計からの補助金につきましては、一般会計からこの会計への助成を受ける金額１億1,831万9,000円と定めております。

それでは、主な内容について説明させていただきます。説明書22、23ページ、実施計画明細書の収益的収入及び支出、収入の第１款下水道事業収益、第１項営業収益、第１目下水道使用料では２億7,243万5,000円を計上しております。前年度比0.3％増、金額にして78万2,000円の増額となっております。増額の主な要因といたしましては、公共下水道への接続に係る水洗化人口の増加によるものでございます。次に、第２目他会計負担金では前年度と同額の370万7,000円を計上しております。内容といたしましては、一般会計繰入金のうち雨水処理に係る負担金でございます。次に、第２項営業外収益、第１目他会計補助金では１億1,831万9,000円を計上しております。前年度比53.6％増、金額にして4,129万6,000円の増額となっております。内容といたしましては、営業費に該当する一般会計繰入金でございます。次に、第２目公共下水道事業補助金では2,600万円を計上しております。前年度比420％増、金額にして2,100万円の増額となっております。増額の主な要因といたしましては、ウォーターＰＰＰ導入可能性調査業務及び下水道ストックマネジメント計画に伴う修繕

改築計画策定業務に係る国庫補助金でございます。次に、第３目長期前受金戻入では１億8,536万4,000円を計上しております。前年度比0.1％増、金額にして15万2,000円の増額となっております。内容といたしましては、費用化する減価償却に応じて計上する分でございます。

24、25ページ、支出の第１款下水道事業費用、第１項営業費用、第１目管渠維持費では4,926万1,000円を計上しております。前年度比101.7％増、金額にして2,483万4,000円の増額となっております。増額の主な要因といたしましては、ウォーターＰＰＰの導入可能性調査業務及び下水道ストックマネジメント計画に伴う修繕改築計画策定業務等となっております。次に、第２目流域下水道維持管理費では１億2,675万2,000円を計上しております。前年度比0.8％増、金額にして102万8,000円の増額となっております。内容といたしましては、流域下水道維持管理市町村負担金でございます。次に、第４目総係費では3,543万4,000円で、前年度比419.2％増、金額にして2,860万9,000円の増額となっております。内容といたしましては、職員の人件費等でございます。第５目減価償却費では３億1,712万1,000円を計上しております。前年度比0.4％増、金額にして113万8,000円の増額となっております。内容といたしましては、第１節の管渠等構築物である有形固定資産減価償却費２億8,412万6,000円、第２節の流域下水道の施設利用権である無形固定資産減価償却費3,036万2,000円でございます。第２項営業外費用、第１目支払利息では2,997万6,000円を計上しております。前年度比8.3％減、金額にして271万4,000円の減額となっております。内容といたしましては、企業債借入償還金利息でございます。第２目消費税及び地方消費税では1,360万円を計上しております。前年度比25.7％減、金額にして470万1,000円の減額となっております。内容といたしましては、消費税及び地方消費税納付額を計上しております。

次に、28、29ページ、資本的収入及び支出、収入の第１款資本的収入、第１項企業債、第１目企業債では１億6,030万円を計上しております。前年度比23.4％減、金額にして4,910万円の減額となっております。主なものといたしましては、第１節企業債6,000万円、第２節その他企業債１億30万円でございます。第２項出資金、第１目出資金では2,359万4,000円を計上しております。前年度比97.8％増、金額にして1,166万6,000円の増額となっております。内容といたしましては、一般会計からの出資金でございます。第３項補助金、第１目国庫補助金では2,800万円を計上しております。前年度比12.5％減、金額にして400万円の減額となっております。内容といたしましては、社会資本整備総合交付金等を計上しております。

30、31ページ、第１款資本的支出、第１項建設改良費、第１目管渠整備費では8,632万円を計上しております。前年度比15.2％減、金額にして1,544万1,000円の減額となっております。主なものといたしましては、第９節委託料80万円、第10節工事請負費7,880万円を予定いたしております。第２目建設負担金では797万6,000円を計上しております。前年度比27.0％減、金額にして295万2,000円の減額となっております。内容といたしましては、大和川上流、宇陀川流域下水道事業市町村建設負担金でございます。第２項企業債償還金、第１目企業債償還金では２億6,702万9,000円を計上しております。前年度比2.7％減、金額にして737万円の減額となっております。内容といたしましては、長期債元金２億5,547万1,000円と借換分元金1,155万8,000円でございます。

議第32号から議第38号につきましては、上牧町政治倫理審査会委員の選任についてでございます。

いずれも重要な案件でございますので、慎重にご審議いただき、承認、議決、同意賜りますようお願いを申し上げまして、招集のご挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

◇

◎議会運営委員会の報告

○議長（牧浦秀俊）　挨拶が終わりましたので、過日開催されました議会運営委員会の報告を求めます。

木内議会運営委員長。

（議会運営委員長　木内利雄　登壇）

○議会運営委員長（木内利雄）　おはようございます。11番、木内利雄でございます。

議会運営委員会のご報告を申し上げます。

本日、令和７年３月３日招集の第１回上牧町議会定例会の議会運営について、２月28日に全委員６人出席の下、議会運営委員会を開会いたしました。

初めに、本定例会に今中富夫町長から提出されている案件は、議案38件と専決処分報告が２件、そして議員提出議案が１件であります。慎重審議を期すために、本会議審議及び総務建設委員会、そして文教厚生委員会に付託する議案の振り分けを審議いたしました。結果は次のとおりでございます。

本日の本会議で審議を行うものは以下のとおりです。報第１号　専決処分の報告について、車両損傷による事故の損害賠償額の決定及び和解について、報第２号　専決処分の報告について、物損事故による損害賠償額の決定及び和解について、次に、議第32号から議第38号、この７件につきましては、上牧町政治倫理審査会委員の選任についてでございます。次に、議員提出議案第１号　上牧町議会の個人情報の保護に関する条例の一部を改正する条例（案）について、以上の10件であります。

次に、総務建設委員会への付託議案は以下のとおりであります。議第１号　刑法等の一部を改正する法律及び刑法等の一部を改正する法律の施行に伴う関係法律の整理等に関する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例について、議第３号　上牧町議会議員の議員報酬等に関する条例の一部を改正する条例について、議第４号　特別職の職員で常勤のものの給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例について、議第５号　一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について、議第６号　一般職の任期付職員の採用等に関する条例の一部を改正する条例について、議第７号　上牧町会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について、議第８号　地方公務員法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例の一部を改正する条例について、議第９号　職員の旅費に関する条例の一部を改正する条例について、議第10号　職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例について、議第11号　上牧町非常勤消防団員に係る退職報償金の支給に関する条例の一部を改正する条例について、議第12号　上牧町消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例について、議第20号　令和６年度上牧町一般会計補正予算（第９回）について、議第24号　令和６年度上牧町住宅新築資金等貸付事業特別会計補正予算（第２回）について、以上の13議案であります。

次に、文教厚生委員会の付託議案は以下のとおりであります。議第２号　奈良県広域水道企業団への水道事業の統合に伴う関係条例の整理に関する条例について、議第13号　上牧町国民健康保険税条例の一部を改正する条例について、議第14号　上牧町指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について、議第15号　上牧町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について、議第16号　上牧町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について、議第17号　上牧町下水道条例の一部を改正する条例について、議第18号　奈良県広域水道企業団設立準備協議会の廃止に関する協議について、議第19号　公の施設の指定管理者の指定について、議第

21号　令和６年度上牧町国民健康保険特別会計補正予算（第４回）について、議第22号令和６年度上牧町後期高齢者医療特別会計補正予算（第２回）について、議第23号　令和６年度上牧町介護保険特別会計補正予算（第４回）について、議第25号　令和６年度上牧町水道事業会計補正予算（第４回）について、以上の12議案であります。

次に、予算特別委員会への付託議案は以下のとおりであります。議第26号　令和６年度上牧町一般会計予算について、議第27号　令和７年度上牧町国民健康保険特別会計予算について、議第28号　令和７年度上牧町後期高齢者医療特別会計予算について、議第29号令和７年度上牧町介護保険特別会計予算について、議第30号　令和７年度上牧町住宅新築資金等貸付事業特別会計予算について、議第31号　令和７年度上牧町下水道事業会計予算について、以上の６議案であります。

本会議審議及び委員会付託議案については、全委員異議なく決しました。

次に、会期についての審議結果は次のとおりであります。本日、３月３日、本会議、３月４日、文教厚生委員会、３月５日、総務建設委員会、そして、３月６日、７日及び10日が予算特別委員会、そして、３月11日及び13日を一般質問、そして、３月17日、本会議最終日といたします。なお、開会時刻は、３月17日、本会議のみ午後１時からとし、以外の日は全て午前10時からとし、全委員異議なく決しました。よって、会期は３月３日から３月17日までの15日間であります。

次に、一般質問について審議をいたしました。一般質問の持ち時間は従来どおり、理事者側の答弁を含め１人１時間以内と決しました。また、今議会には10人の議員から一般質問の通告がありましたので、日程の振り分けと質問の順番を申し上げます。３月11日は、議席番号３番、竹中議員、議席番号１番、服部議員、議席番号４番、安中議員、議席番号10番、康村議員、そして、議席番号９番、石丸議員、以上の５人であります。

次に、３月13日は、議席番号２番、氏原議員、議席番号５番、東議員、議席番号８番、竹之内議員、議席番号７番、遠山議員、そして、議席番号11番、私、木内、以上の５人であります。

以上、議会運営委員会のご報告とさせていただきます。ありがとうございました。

◇

◎議事日程の報告

○議長（牧浦秀俊）　報告が終わりましたので、これより委員長の報告どおり議事を進めてまいりたいと思います。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。

――――――――――――――――――――◇――――――――――――――――――――

◎会議録署名議員の指名について

○議長（牧浦秀俊）　日程第１、会議録署名議員の指名について。

会議録署名議員の指名を行います。

本定例会の会議録署名議員は、会議規則第125条の規定により、１番、服部議員、10番、康村議員を指名いたします。

――――――――――――――――――――◇――――――――――――――――――――

◎会期の決定について

○議長（牧浦秀俊）　日程第２、会期の決定について、これを議題といたします。

お諮りいたします。

本定例会の会期は、本日から３月17日までの15日間にしたいと思います。ご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　ご異議なしと認めます。

したがって、会期は、本日から３月17日までの15日間と決定いたしました。

――――――――――――――――――――◇――――――――――――――――――――

◎報第１号の上程、説明、質疑

○議長（牧浦秀俊）　日程第３、報第１号　専決処分の報告について、車両損害による事故の損害賠償額の決定及び和解について、これを議題といたします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

都市環境部長。

○都市環境部長（吉川昭仁）　報第１号　専決処分の報告についてご説明いたします。専第１号　車両損傷による事故の損害賠償額の決定及び和解につきましては、緊急に処理を要するため、地方自治法第180条第１項の規定により、議会の議決により指定されている事項について、別紙のとおり、令和７年２月５日に専決処分させていただいたもので、同条第２項の規定により報告するものでございます。

専決処分させていただいた内容につきましては、相手方が町道を走行中、道路幅の中央部分にある側溝のグレーチングを前輪で踏んだ瞬間、グレーチングが跳ね上がって引っかかり、車両底面のカバーを損傷した。この事故は、道路中央部分にある側溝端部の経年劣化により、グレーチングの予期せぬ動きが原因の物損事故による損害賠償額の決定及び和解をするため、専決処分させていただいたものでございます。

相手方は、奈良県奈良市登大路町、法人。和解の要旨は、過失割合が本町100、相手方がゼロで、損害賠償額が１万1,660円でございます。

以上の内容で専決処分をさせていただいておりますので、ご報告を申し上げ、ご承認賜りますよう、よろしくお願いいたします。

○議長（牧浦秀俊）　説明が終わりましたので、これから質疑を行います。

質疑はございませんか。

石丸議員。

○９番（石丸典子）　９番、石丸典子です。

専決処分が行われた内容は理解いたしましたけれども、原状回復の修繕ですね、当然、側溝部分、グレーチング部分の修繕が行われていると思いますけれども、この場所は現在、道路拡幅工事が行われているすぐ近くなんですけども、先日見ましたところ、立ち入れないような三角錐で囲って、既に処理、修繕が行われている形跡ですけれども、これで完了ですか。今後の予定等ありましたら、簡単にご説明をお願いいたします。

○議長（牧浦秀俊）　建設環境課長。

○建設環境課長（武安康至）　現在の状況でございますが、今回の事故を受けまして、グレーチングのほうを撤去させていただきまして、一時的な仮復旧を行っております。現在、常温合材による仮復旧を行っておるところでございますが、今後、隣接する工事の最終的な舗装復旧の段階で、そこも併せて舗装のほうをさせていただいて、最終的な道路整備を完了していきたいなと考えているところでございます。

○議長（牧浦秀俊）　石丸議員。

○９番（石丸典子）　お聞きいたします。囲いはずっとそれまで現状のままで、注意するような囲いをしているという状況でいいんですね。

○議長（牧浦秀俊）　建設環境課長。

○建設環境課長（武安康至）　現在現場にございますますの部分なんですけども、最終的な計画高に合わせて設置しておりますので、あそこを開放してしまうと少々危険ですので、現在囲いのほうはさせていただいております。最終的には撤去させていただく予定となっております。

○議長（牧浦秀俊）　石丸議員。

○９番（石丸典子）　分かりました。了解いたしました。

以上です。

○議長（牧浦秀俊）　ほかにございませんか。

服部議員。

○１番（服部公英）　１番、服部です。

この場所につきましては、北上牧地区内の外町橋から入ってきたとこら辺と思うんですが、この事故が起きた状況は分かったんですけれども、今後、あの中央にグレーチングを置くような道路の形のままなんですか。舗装を全部してしまうような形にはならないんですか。

○議長（牧浦秀俊）　建設環境課長。

○建設環境課長（武安康至）　現在、ますと側溝の部分にグレーチングを設置しているわけでございますが、側溝の部分は撤去して舗装をさせていただきます。ますにつきましては隣接地からの排水が接続されておりますので、ますの部分については高さ調整を行い、グレーチングも固定式の跳ねないグレーチングを設置させてもらっていますので、その部分については残ってまいります。

○議長（牧浦秀俊）　服部議員。

○１番（服部公英）　今後とも、安全な道路にしていただくようにお願いしておきます。

以上です。

○議長（牧浦秀俊）　ほかにございませんか。

（「なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　質疑なしと認めます。

よって、本案の報告は終了いたしました。

◇

◎報第２号の上程、説明、質疑

○議長（牧浦秀俊）　日程第４、報第２号　専決処分の報告について、物損事故による損害賠償額の決定及び和解について、これを議題といたします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

住民生活部長。

○住民生活部長（山下純司）　報第２号　専決処分の報告についてご説明いたします。専第２号　物損事故による損害賠償額の決定及び和解につきましては、地方自治法第180条第１項の規定により、議会の議決により指定された町長の専決処分事項について、別紙のとおり、令和７年２月８日に専決処分をさせていただいたものでございます。同条第２項の規定により報告するものでございます。

専決処分をさせていただいた内容につきましては、本町の職員が公用車の運転中に方向転換をしようと後退したところ、民家のブロックに公用車のフロント部分を衝突させ、ブロック塀を損傷させたことによる物損事故の損害賠償額の決定及び和解をするため、専決処分をさせていただいたものでございます。

相手方は、奈良県北葛城郡、個人。和解の要旨は、過失割合が本町100、相手方がゼロ、損害賠償額が14万7,400円でございます。

以上の内容で専決処分をさせていただいておりますので、ご報告申し上げます。

○議長（牧浦秀俊）　説明が終わりましたので、これから質疑を行います。

質疑はございませんか。

（「質疑なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　質疑なしと認めます。よって、本案の報告は終了いたしました。

◇

◎議第１号の上程、説明

○議長（牧浦秀俊）　日程第５、議第１号　刑法等の一部を改正する法律及び刑法等の一部を改正する法律の施行に伴う関係法律の整理等に関する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例について、これを議題といたします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

総務部長。

○総務部長（中川恵友）　議第１号　刑法等の一部を改正する法律及び刑法等の一部を改正する法律の施行に伴う関係法律の整理等に関する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例について、提案理由の説明をいたします。

刑法等の一部を改正する法律の施行による刑法の一部改正により、懲役及び禁錮の刑が廃止され、拘禁刑が創設されることに伴い、関係条例について規定の整理を行うものでございます。

改正内容につきましては、条例案のとおりでございます。

ご審議の上、議決賜りますよう、よろしくお願いいたします。

○議長（牧浦秀俊）　説明が終わりましたが、この件につきましては議案熟読のため保留し、次に進みます。

―――――――――――――――――――― ◇ ――――――――――――――――――――

◎議第２号の上程、説明

○議長（牧浦秀俊）　程第６、議第２号　奈良県広域水道企業団への水道事業の統合に伴う関係条例の整理に関する条例について、これを議題といたします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

都市環境部長。

○都市環境部長（吉川昭仁）　議第２号　奈良県広域水道企業団への水道事業の統合に伴う関係条例の整理に関する条例についてご説明いたします。

今回の改正につきましては、令和７年４月１日から奈良県広域水道企業団への水道事業の統合に伴い、条例改正及び廃止の必要な条例の整理を行うものでございます。

それでは、条例の改正内容について説明いたします。

条例の改正内容につきましては、条例案のとおりでございます。

よろしく慎重審議の上、議決賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（牧浦秀俊）　説明が終わりましたが、この件につきましては議案熟読のため保留し、次に進みます。

◇

◎議第３号から議第８号の上程、説明

○議長（牧浦秀俊）　日程第７、議第３号　上牧町議会議員の議員報酬等に関する条例の一部を改正する条例について、日程第８、議第４号　特別職の職員で常勤のものの給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例について、日程第９、議第５号　一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について、日程第10、議第６号　一般職の任期付職員の採用等に関する条例の一部を改正する条例について、日程第11、議第７号　上牧町会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について、日程第12、議第８号　地方公務員法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整備に関する条例の一部を改正する条例について、これらを一括議題といたします。

本案について、提案の理由の説明を求めます。

総務部長。

○総務部長（中川恵友）　議第３号　上牧町議会議員の議員報酬等に関する条例の一部を改正する条例についてから議第８号　地方公務員の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整備に関する条例の一部を改正する条例について、一括で提案理由の説明をいたします。

議第３号　上牧町議会議員の議員報酬等に関する条例の一部を改正する条例についてから議第７号　上牧町会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例についてまでは、令和６年の人事院勧告を受け、国家公務員における給与法の一部改正に伴い、本町も準拠し、特別職、一般職、任期付職員及び会計年度任用職員の給与について、関係条例の一部改正を行うものです。

議第８号　地方公務員法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整備に関する条例の一部を改正する条例については、議第５号　一般職の職員の給与に関する条例の一部改正で、定年前再任用短時間勤務職員において住居手当が支給できるように改正することに伴い、暫定再任用職員も同様に住居手当が支給できるように所要の改正を行うものでございます。

改正内容については、別紙案のとおりでございます。

ご審議の上、議決賜りますよう、よろしくお願いいたします。

○議長（牧浦秀俊）　説明が終わりましたが、この件につきましては議案熟読のため保留し、次に進みます。

◇

◎議第９号の上程、説明

○議長（牧浦秀俊）　日程第13、議第９号　職員の旅費に関する条例の一部を改正する条例について、これを議題といたしいたします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

総務部長。

○総務部長（中川恵友）　議第９号　職員の旅費に関する条例の一部を改正する条例について、提案理由の説明をいたします。

宿泊料金の高騰、その他の社会経済情勢の変化並びに国家公務員法等の旅費に関する法律の一部改正及び国家公務員等の旅費に関する法律施行令の施行等を考慮し、宿泊料の上限を引き上げるなど、必要な改正を行うものでございます。

改正内容については、別紙案のとおりでございます。

ご審議の上、議決賜りますよう、よろしくお願いいたします。

○議長（牧浦秀俊）　説明が終わりましたが、この件につきましては議案熟読のため保留し、次に進みます。

◇

◎議第１０号の上程、説明

○議長（牧浦秀俊）　日程第14、議第10号　職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例について、これを議題といたします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

総務部長。

○総務部長（中川恵友）　議第10号　職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例についてご説明いたします。

育児休業等または家族介護を行う労働者の福祉に関する法律及び次世代育成支援対策推進法の一部を改正する法律が公布され、少子高齢化が進展し人口減少が加速している中で、男女ともに仕事と育児、介護を両立できるようにするための措置等が講じられたことに伴い、必要な改正を行うものでございます。

改正内容については、条例案のとおりでございます。

ご審議の上、議決賜りますよう、よろしくお願いいたします。

○議長（牧浦秀俊）　説明が終わりましたが、この件につきましては議案熟読のため保留し、次に進みます。

―――――――――――――――――――― ◇ ――――――――――――――――――――

◎議第１１号の上程、説明

○議長（牧浦秀俊）　日程第15、議第11号　上牧町非常勤消防団員に係る退職報償金の支給に関する条例の一部を改正する条例について、これを議題といたします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

総務部長。

○総務部長（中川恵友）　議第11号　上牧町非常勤消防団員に係る退職報償金の支給に関する条例の一部を改正する条例について、提案理由の説明をいたします。

非常勤消防団員の処遇改善を図るため、消防団員等公務災害補償等責任共済等に関する法律施行令が一部改正されたことに伴い、必要な改正を行うものでございます。

改正内容については、別紙案のとおりでございます。

ご審議の上、議決賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（牧浦秀俊）　説明が終わりましたが、この件については議案熟読のため保留し、次に進みます。

―――――――――――――――――――― ◇ ――――――――――――――――――――

◎議第１２号の上程、説明

○議長（牧浦秀俊）　日程第16、議第12号　上牧町消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例について、これを議題といたします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

総務部長。

○総務部長（中川恵友）　議第12号　上牧町消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例について、提案理由の説明をいたします。

一般職の職員の給与に関する法律の一部を改正する法律により、一般職の職員の給与に関する法律で、別表、公安職棒給表及び扶養手当支給額が改正され、これを受け、非常勤消防団員等に係る損害補償の基準を定める政令が改正されたことに伴い、必要な改正を行うものでございます。

改正内容については、別紙、条例案のとおりでございます。

ご審議の上、議決賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（牧浦秀俊）　説明が終わりましたが、この件につきましては議案熟読のため保留し、次に進みます。

―――――――――――――――――――― ◇ ――――――――――――――――――――

◎議第１３号の上程、説明

○議長（牧浦秀俊）　日程第17、議第13号　上牧町国民健康保険税条例の一部を改正する条例について、これを議題といたします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

住民生活部長。

○住民生活部長（山下純司）　議第13号　上牧町国民健康保険税条例の一部を改正する条例につきましてご説明いたします。

令和６年３月30日公布の地方税法の一部を改正する法律等が同年４月１日から施行され、後期高齢者支援金等課税額の賦課限度額が22万円から24万円に引上げとなりました。奈良県では、県内統一保険料率の参考とする市町村標準保険料率の算定における賦課限度額の実質的な影響を考慮し、賦課限度額については納付金の算定を行う時点で施行されている政令に定める賦課限度額により県内統一化とすることから、上牧町国民健康保険税条例の所要の改正を行うものでございます。今回の改正によりまして、後期高齢者支援金等課税額の賦課限度額が２万円引き上げられ24万円となり、国民健康保険税賦課限度額の合計額が106万円となります。

改正内容につきましては、条例案のとおりでございます。

ご審議の上、議決賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（牧浦秀俊）　説明が終わりましたが、この件につきましては議案熟読のため保留し、次に進みます。

◇

◎議第１４号の上程、説明

○議長（牧浦秀俊）　日程第18、議第14号　上牧町指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について、これを議題といたします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

健康福祉部長。

○健康福祉部長（寺口万佐代）　議第14号　上牧町指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例案について、提案理由の説明をいたします。

地域の自主性及び自立性を高めるための改革の推進を図るための関係法律の整備に関する法律、これにより栄養士法が改正され、管理栄養士養成施設卒業生については、管理栄養士国家試験の受験資格として栄養士免許を取得することが不要となったことを踏まえ、指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準が改正されたことに伴い、本条例を一部改正するものです。

改正内容については、条例案のとおりでございます。

ご審議の上、議決賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（牧浦秀俊）　説明が終わりましたが、この件につきましては議案熟読のため保留し、次に進みます。

◇

◎議第１５号の上程、説明

○議長（牧浦秀俊）　日程第19、議第15号　上牧町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について、これを議題といたします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

健康福祉部長。

○健康福祉部長（寺口万佐代）　議第15号　上牧町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例案について、提案理由の説明をいたします。

子ども・子育て支援法施行規則の一部を改正する内閣府令により、家庭的保育事業者等の連携施設経過措置の延長、保育内容支援に係る連携施設の見直し及び代替保育に係る連携施設の見直し、その他所要の改正が行われ、特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業並びに特定子ども・子育て支援施設等の運営に関する基準が改正されたことに伴い、本条例を一部改正するものです。

改正内容については、条例案のとおりでございます。

ご審議の上、議決賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（牧浦秀俊）　説明が終わりましたが、この件につきましては議案熟読のため保留し、次に進みます。

―――――――――――――――――――― ◇ ――――――――――――――――――――

◎議第１６号の上程、説明

○議長（牧浦秀俊）　日程第20、議第16号　上牧町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について、これを議題といたします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

健康福祉部長。

○健康福祉部長（寺口万佐代）　議第16号　上牧町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例案について、提案理由の説明をいたします。

子ども・子育て支援法施行規則の一部を改正する内閣府令により、家庭的保育事業者等の連携施設経過措置の延長、保育内容支援に係る連携施設の見直し及び代替保育に係る連携施設の見直し、その他所要の改正並びに地域の自主性及び自立性を高めるための改革の推進を図るための関係法律の整備に関する法律により、栄養士法が改正され、管理栄養士養成施設卒業生については、管理栄養士国家試験の受験資格として栄養士免許を取得することが不要となったことを踏まえ、家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準が改正されたことに伴い、本条例を一部改正するものです。

改正内容については、条例案のとおりでございます。

ご審議の上、議決賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（牧浦秀俊）　説明が終わりましたが、この件につきましては議案熟読のため保留し、次に進みます。

―――――――――――――――――――― ◇ ――――――――――――――――――――

◎議第１７号の上程、説明

○議長（牧浦秀俊）　日程第21、議第17号　上牧町下水道条例の一部を改正する条例について、これを議題といたします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

都市環境部長。

○都市環境部長（吉川昭仁）　議第17号　上牧町下水道条例の一部を改正する条例についてご説明いたします。

今回の改正につきましては、令和３年10月29日に特定都市河川浸水被害対策法等の一部を改正する法律の施行に伴う関係政令の整備等に関する政令が公布され、下水道法第28条第２項の規定により、都市下水路の維持管理に関して必要な技術上の基準は、政令で定める基準を参酌して、都市下水路管理者である地方公共団体の条例で定めることとされております。これを受けて、下水道法施行令第18条において都市下水路の維持管理の基準が定められています。この整備政令により、下水道法施行令第18条が改正され、都市下水路の維持管理の新たな基準として樋門または樋管の点検に係る規定が加えられました。

また、令和６年１月４日に下水道法施行令の一部を改正する政令が公布され、公共下水道または流域下水道からの放流水に含まれる大腸菌群数に係る基準を定めているところ、今般、簡便な大腸菌の培養技術が確立されたことにより、大腸菌群数より正確な指標である大腸菌数を測定することが可能となったことから、所要の改正を行うものでございます。

ただし、この改正につきましては、令和７年４月１日から施行されます。

条例の改正内容については、条例案のとおりでございます。

慎重審議の上、議決賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（牧浦秀俊）　説明が終わりましたが、この件につきましては議案熟読のため保留し、次に進みます。

◇

◎議第１８号の上程、説明

○議長（牧浦秀俊）　日程第22、議第18号　奈良県広域水道企業団設立準備協議会の廃止に関する協議について、これを議題といたします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

都市環境部長。

○都市環境部長（吉川昭仁）　議第18号　奈良県広域水道企業団設立準備協議会の廃止に関する協議についてご説明いたします。

地方自治法第252条の６の規定により、令和７年３月31日をもって奈良県広域水道企業団設立準備協議会を廃止するに当たり、関係地方公共団体と協議を行うため、議会の議決を求めるものでございます。

以上、慎重審議の上、議決賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（牧浦秀俊）　説明が終わりましたが、この件につきましては議案熟読のため保留し、次に進みます。

◇

◎議第１９号の上程、説明

○議長（牧浦秀俊）　日程第23、議第19号　公の施設の指定管理者の指定について、これを議題といたします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

健康福祉部長。

○健康福祉部長（寺口万佐代）　議第19号　公の施設の指定管理者の指定についてご説明いたします。

地方自治法第244条の２第３項の規定に基づき、上牧町の公の施設「ほほ笑みサロン片岡」の指定管理を上牧町社会福祉協議会に、令和２年４月１日より指定管理者として管理をお願いしておりますが、指定期間が令和７年３月31日までとなっておりますので、今回、令和７年４月１日から令和12年３月31日までの５年間の指定管理者の指定を引き続いてお願いするものでございます。

ご審議の上、議決賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（牧浦秀俊）　説明が終わりましたが、この件につきましては議案熟読のため保留し、次に進みます。

―――――――――――――――――――― ◇ ――――――――――――――――――――

◎議第２０号の上程、説明

○議長（牧浦秀俊）　日程第24、議第20号　令和６年度上牧町一般会計補正予算（第９回）について、これを議題といたします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

総務部長。

○総務部長（中川恵友）　議第20号　令和６年度上牧町一般会計補正予算（第９回）について、提案理由の説明をいたします。

一般会計補正予算（第９回）の内容につきましては、先ほど町長より説明させていただいたとおりでございます。

ご審議の上、議決賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（牧浦秀俊）　説明が終わりましたが、この件につきましては議案熟読のため保留し、次に進みます。

―――――――――――――――――――― ◇ ――――――――――――――――――――

◎議第２１号の上程、説明

○議長（牧浦秀俊）　日程第25、議第21号　令和６年度上牧町国民健康保険特別会計補正予算（第４回）について、これを議題といたします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

住民生活部長。

○住民生活部長（山下純司）　議第21号　令和６年度上牧町国民健康保険特別会計補正予算（第４回）についてご説明いたします。

令和６年度上牧町国民健康保険特別会計補正予算（第４回）の補正内容につきましては、先ほど町長より説明させていただいたとおりでございます。

ご審議の上、議決賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（牧浦秀俊）　説明が終わりましたが、この件については議案熟読のため保留し、次に進みます。

◇

◎議第２２号の上程、説明

○議長（牧浦秀俊）　日程第26、議第22号　令和６年度上牧町後期高齢者医療特別会計補正予算（第２回）について、これを議題といたします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

住民生活部長。

○住民生活部長（山下純司）　議第22号　令和６年度上牧町後期高齢者医療特別会計補正予算（第２回）についてご説明いたします。

令和６年度上牧町後期高齢者医療特別会計補正予算（第２回）の補正内容につきましては、先ほど町長より説明させていただいたとおりでございます。

ご審議の上、議決賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（牧浦秀俊）　説明が終わりましたが、この件につきましては議案熟読のため保留し、次に進みます。

◇

◎議第２３号の上程、説明

○議長（牧浦秀俊）　日程第27、議第23号　令和６年度上牧町介護保険特別会計補正予算（第４回）について、これを議題といたします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

健康福祉部長。

○健康福祉部長（寺口万佐代）　議第23号　令和６年度上牧町介護保険特別会計補正予算（第４回）について、提案理由の説明をいたします。

上牧町介護保険特別会計補正予算（第４回）の補正内容につきましては、先ほど町長より説明させていただいたとおりでございます。

ご審議の上、議決賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（牧浦秀俊）　説明が終わりましたが、この件につきましては議案熟読のため保留し、次に進みます。

◇

◎議第２４号の上程、説明

○議長（牧浦秀俊）　日程第28、議第24号　令和６年度上牧町住宅新築資金等貸付事業特別会計補正予算（第２回）について、これを議題といたします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

都市環境部長。

○都市環境部長（吉川昭仁）　第24号　令和６年度上牧町住宅新築資金等貸付事業特別会計補正予算（第２回）について説明いたします。

今回の補正予算（第２回）の内容につきましては、先ほど町長より説明させていただいたとおりでございます。

慎重審議の上、議決賜りますよう、よろしくお願いいたします。

○議長（牧浦秀俊）　説明が終わりましたが、この件につきましては議案熟読のため保留し、次に進みます。

◇

◎議第２５号の上程、説明

○議長（牧浦秀俊）　日程第29、議第25号　令和６年度上牧町水道事業会計補正予算（第４回）についてこれを議題といたします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

都市環境部長。

○都市環境部長（吉川昭仁）　議第25号　令和６年度上牧町水道事業会計補正予算（第４回）について説明いたします。

今回の補正予算（第４回）の内容につきましては、先ほど町長より説明させていただいたとおりでございます。

慎重審議の上、議決賜りますよう、よろしくお願いいたします。

○議長（牧浦秀俊）　説明が終わりましたが、この件については議案熟読のため保留いたします。

午前中をこれで終わります。再開は１時でお願いいたします。

休憩　午後　０時００分

再開　午後　１時００分

○議長（牧浦秀俊）　再開いたします。

◎議第２６号の上程、説明

○議長（牧浦秀俊）　続きまして、日程第30、議第26号　令和７年度上牧町一般会計予算について、これを議題といたします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

総務部長。

○総務部長（中川恵友）　議第26号　令和７年度一般会計補正予算について、提案理由の説明をいたします。

一般会計補正予算の内容につきましては、先ほど町長より説明させていただいたとおりでございます。

ご審議の上、議決賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（牧浦秀俊）　説明が終わりましたが、この件につきましては議案熟読のため保留し、次に進みます。

◎議第２７号の上程、説明

○議長（牧浦秀俊）　日程第31、議第27号　令和７年度上牧町国民健康保険特別会計予算に

ついて、これを議題といたします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

住民生活部長。

○住民生活部長（山下純司）　議第27号　令和７年度上牧町国民健康保険特別会計予算についてご説明いたします。

令和７年度上牧町国民健康保険特別会計予算につきましては、先ほど町長より説明させていただいたとおりでございます。

ご審議の上、議決賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（牧浦秀俊）　説明が終わりましたが、この件につきましては議案熟読のため保留し、次に進みます。

◎議第２８号の上程、説明

○議長（牧浦秀俊）　日程第32、議第28号　令和７年度上牧町後期高齢者医療特別会計予算について、これを議題といたします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

住民生活部長。

○住民生活部長（山下純司）　議第28号　令和７年度上牧町後期高齢者医療特別会計予算についてご説明いたします。

令和７年度上牧町後期高齢者医療特別会計予算の内容につきましては、先ほど町長より説明させていただいたとおりでございます。

ご審議の上、議決賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（牧浦秀俊）　説明が終わりましたが、この件につきましては議案熟読のため保留し、次に進みます。

◎議第２９号の上程、説明

○議長（牧浦秀俊）　日程第33、議第29号　令和７年度上牧町介護保険特別会計予算につい

て、これを議題といたします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

健康福祉部長。

○健康福祉部長（寺口万佐代）　議第29号　令和７年度上牧町介護保険特別会計予算についてご説明いたします。

令和７年度上牧町介護保険特別会計予算の内容につきましては、先ほど町長より説明させていただいたとおりでございますので、ご審議の上、議決賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（牧浦秀俊）　説明が終わりましたが、この件につきましては議案熟読のため保留し、次に進みます。

◎議第３０号の上程、説明

○議長（牧浦秀俊）　日程第34、議第30号　令和７年度上牧町住宅新築資金等貸付事業特別会計予算について、これを議題といたします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

都市環境部長。

○都市環境部長（吉川昭仁）　議第30号　令和７年度上牧町住宅新築資金等貸付事業特別会計予算についてご説明いたします。

今回の当初予算の内容につきましては、先ほど町長より説明させていただいたとおりでございます。

慎重審議の上、議決賜りますよう、よろしくお願いいたします。

○議長（牧浦秀俊）　説明が終わりましたが、この件につきましては議案熟読のため保留し、次に進みます。

◎議第３１号の上程、説明

○議長（牧浦秀俊）　日程第35、議第31号　令和７年度上牧町下水道事業会計予算について、

これを議題といたします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

都市環境部長。

○都市環境部長（吉川昭仁）　議第31号　令和７年度上牧町下水道事業会計予算について説明いたします。

今回の当初予算の内容につきましては、先ほど町長より説明させていただいたとおりでございます。

慎重審議の上、議決賜りますよう、よろしくお願いいたします。

○議長（牧浦秀俊）　説明が終わりましたが、この件につきましては議案熟読のため保留し、次に進みます。

◇

◎議第３２号から議第３８号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（牧浦秀俊）　日程第36、議第32号から日程第42、議第38号まで、上牧町政治倫理審査会委員の選任について、これらを一括議題といたします。

本案について、一括して提案理由の説明を求めます。

上牧町長。

○町長（今中富夫）　それでは、議第32号から議第38号の上牧町政治倫理審査会委員の選任について、一括してご説明をさせていただきます。

議第32号の青木弘詞氏、議第34号の高木雄一氏、議第35号、中西達也氏、議第38号、宮城美和氏の４氏を推薦いたしたく提案するものでございます。

４氏は、人格識見も高く、政治倫理審査会委員として適任でございます。

また、議第33号の篠崎雄爾氏、議第36号の村井映子氏、議第37号の林智良氏につきましては、同委員会の委員としてご活躍を頂いておりますが、本年３月31日をもって任期満了となりますので、引き続き選任いたしたく提案するものでございます。

３氏は、豊かな経験と優れた識見を有されており、同委員としてふさわしいと考え、提案させていただくものでございます。

なお、各氏の経歴につきましては、配付の略歴のとおりでございます。

ご同意賜りますよう、よろしくお願いを申し上げます。

○議長（牧浦秀俊）　説明が終わりましたので、議第32号から議第38号までを一括して質疑を行います。

質疑はございませんか。

（「質疑なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　質疑なしと認めます。

これから議第32号から議第38号までを一括して討論を行います。討論はございませんか。

（「討論なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　討論なしと認めます。

これから一括して採決いたします。議第32号から議第38号までを原案のとおり同意することにご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　ご異議なしと認めます。

したがって、議第32号から議第38号までは原案どおり同意することに決定いたしました。

――――――――――――――――――――◇――――――――――――――――――――

◎議員提出議案第１号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（牧浦秀俊）　日程第43、議員提出議案第１号　上牧町議会の個人情報の保護に関する条例の一部を改正する条例（案）、これを議題といたします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

11番、木内議員。

○１１番（木内利雄）　11番、木内利雄です。

議員提出議案第１号　上牧町議会の個人情報の保護に関する条例の一部を改正する条例（案）の提案理由を説明いたします。

本改正は、令和７年度より奈良県広域水道企業団へ水道事業が統合されることに伴う改正と刑法改正に伴う語句の改正でございます。

第12条第２項第３号の改正については、水道事業管理者という語句を削除するための改正を行い、第53条から第55条までについては、懲役を拘禁刑に改めるものであります。

以上、ご審議の上、議決賜りますよう、よろしくお願いを申し上げます。

提案理由の説明は以上でございますが、先ほどの私、木内から議会運営委員長報告につい

て一部誤りがございましたので、ここで訂正をさせていただきたいと思います。

その部分は、議第26号について、正しくは令和７年度上牧町一般会計予算についてというところを令和６年度という発言をしたようでございますので、ここで訂正をさせていただきますので、ご容赦のほどお願いをいたします。

以上でございます。

○議長（牧浦秀俊）　説明が終わりましたので、これから質疑を行います。

質疑はございませんか。

（「質疑なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

討論はございませんか。

（「討論なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　討論なしと認めます。

これから採決いたします。

本案を原案のとおり可決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　ご異議なしと認めます。

したがって、本案は原案のとおり可決することに決定いたしました。

◇

◎予算特別委員会の設置及び委員の選任について

○議長（牧浦秀俊）　日程第44、予算特別委員会の設置及び委員の選任について、これを議題といたします。

お諮りいたします。

令和７年度予算案件については、委員会条例第５条第１項の規定により、６名で構成する予算特別委員会を設置し、これに付託し審査したいと思いますが、これにご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　異議なしと認めます。

したがって、令和７年度予算案件については、６名で構成する予算特別委員会を設置し、これに付託して審査することに決定いたしました。

お諮りいたします。

委員の選任について、どのような方法ですればよろしいでしょうか。

（「議長一任」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　議長一任という声がありますが、ご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　異議ないようですので、私のほうで選任させていただきます。

それでは暫時休憩いたします。

休憩　午後　１時１２分

再開　午後　１時１２分

○議長（牧浦秀俊）　それでは再開いたします。

先ほど設置されました予算特別委員会の委員の選任については、委員会条例第５条第２項及び第７条第１項の規定により、１番、服部議員、２番、氏原議員、３番、竹中議員、４番、安中議員、９番、石丸議員、10番、康村議員、以上６名の方を指名したいと思います。

ご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　ご異議なしと認めます。

したがって、ただいま指名いたしました６名の方を予算特別委員に選任することにいたしました。

予算特別委員会におかれましては、委員長、副委員長を互選の上、報告願います。

それでは暫時休憩いたします。

休憩　午後　１時１３分

再開　午後　１時１５分

○議長（牧浦秀俊）　それでは再開いたします。

◇

◎予算特別委員会正副委員長の互選結果について

○議長（牧浦秀俊）　休憩中に予算特別委員会の委員長、副委員長を互選いただきましたので、ご報告申し上げます。

予算特別委員会の委員長に１番、服部議員、副委員長に９番、石丸議員という報告でございます。

◇

◎議第１号から議第３１号の委員会付託

○議長（牧浦秀俊）　お諮りいたします。

ただいま議題となっております議第１号から議第31号については、お手元に配付いたしました議案付託表のとおり、それぞれ所管の委員会に付託し、また、一般質問については理事者側の答弁を含め１人１時間以内とすることにご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　異議なしと認めます。

よって、議案付託表のとおり所管の委員会に付託し、また、一般質問については１人１時間以内とすることに決定いたしました。

◇

◎散会の宣告

○議長（牧浦秀俊）　以上で本日の日程は終了いたしました。

本日はこれで散会いたします。どうも皆様、ご苦労さまでした。

散会　午後　１時１６分

文教厚生委員会会議録

１．日　　時　　令和７年３月４日（火）　午前１０時

１．場　　所　　３階委員会室

１．協議事項　　議第２号　奈良県広域水道企業団への水道事業の統合に伴う関係条例の整理に関する条例について

議第13号　上牧町国民健康保険税条例の一部を改正する条例について

議第14号　上牧町指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について

議第15号　上牧町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について

議第16号　上牧町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について

議第17号　上牧町下水道条例の一部を改正する条例について

議第18号　奈良県広域水道企業団設立準備協議会の廃止に関する協議について

議第19号　公の施設の指定管理者の指定について

議第21号　令和６年度上牧町国民健康保険特別会計補正予算（第４回）について

議第22号　令和６年度上牧町後期高齢者医療特別会計補正予算（第２回）について

議第23号　令和６年度上牧町介護保険特別会計補正予算（第４回）について

議第25号　令和６年度上牧町水道事業会計補正予算（第４回）について

１．出席委員

委　員　長	康村　昌史	副委員長	竹之内　剛
委　　員	服部　公英	氏原　賢一	竹中　亮造
	安中　　和		

１．理 事 者

町　　長	今中　富夫	教　育　長	松浦　教雄
総 務 部 長	中川　恵友	都市環境部長	吉川　昭仁
住民生活部長	山下　純司	健康福祉部長	寺口万佐代
教 育 部 長	松井　良明	総務部理事	髙木　真之

	総務課長	丸橋　秀行	上下水道課長	南浦　伸介
	住民保険課長	和田　　暁	福祉課長	俵本　大輔
	生き活き対策課長	杉分　　太	こども未来課長	木下　優子
１．事務局	局長	金﨑　恭彦	書記	森本香寿美
	書記	横田　大樹	書記	林　　大貴

開会　午前１０時００分

○康村委員長　皆さん、おはようございます。文教厚生委員長の康村昌史でございます。

寒暖差の大きな季節になりましたが、春の訪れを感じる今日この頃ですが、皆さん、お体には十分気をつけていただきたいと思います。

それでは、定足数に達しておりますので、これより文教厚生委員会を開催いたします。

初めに、理事者側より挨拶をお願いいたします。

今中町長。

○今中町長　おはようございます。文教厚生委員会に付託をされました議第２号　奈良県広域水道企業団への水道事業の統合に伴う関係条例の整理に関する条例について、議第13号　上牧町国民健康保険税条例の一部を改正する条例について、議第14号　上牧町指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について、議第15号　上牧町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について、議第16号　上牧町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について、議第17号　上牧町下水道条例の一部を改正する条例について、議第18号　奈良県広域水道企業団設立準備協議会の廃止に関する協議について、議第19号　公の施設の指定管理者の指定について、議第21号　令和６年度上牧町国民健康保険特別会計補正予算（第４回）について、議第22号　令和６年度上牧町後期高齢者医療特別会計補正予算（第２回）について、議第23号　令和６年度上牧町介護保険特別会計補正予算（第４回）について、議第25号　令和６年度上牧町水道事業会計補正予算（第４回）について、活発なご議論を頂きまして、全議案可決すべきものと決定いただきますようお願いを申し上げまして、冒頭のご挨拶にさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○康村委員長　本委員会に付託されました議案はお手元に配付の次第のとおりです。順次、審議してまいります。

議第２号　奈良県広域水道企業団への水道事業の統合に伴う関係条例の整理に関する条例について、これを議題といたします。

提案理由の説明は終わっておりますので、これから質疑を行います。

質疑はございませんか。

服部委員。

○服部委員　おはようございます。服部です。１つだけ質問をさせていただきます。

奈良県広域水道企業団の水道事業の統合に伴う関係条例の整備ということで、８本の条例を整理を行いますということでなっているんですけども、ほとんどが文言の整理であるんですけれども、第２条についてなんですが、上牧町下水道条例の下水道使用料の徴収方法を企業団が定める徴収方法の例に改めますとあるんですが、この点について、企業団の徴収方法はどんなものなのか説明していただきたいと思うんですが、お願いいたします。

以上、１点なんですが。

○康村委員長　上下水道課長。

○南浦上下水道課長　基本的には今の手続と変わらないんですが、ただ、今、町でやっているものが企業団になるというところで変わるものでございます。

○康村委員長　服部委員。

○服部委員　そしたら、従来の支払い方法と何ら変わらないという形で理解したらいいんですか。

○康村委員長　上下水道課長。

○南浦上下水道課長　そのとおりでございます。

○康村委員長　服部委員。

○服部委員　企業団の例に改めというんで､企業団ではまた違うのをするのかなと思いまして。

以上です。ありがとうございました。

○康村委員長　ほかに質疑はございませんか。

（「なし」と言う者あり）

○康村委員長　質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

討論はございませんか。

（「討論なし」と言う者あり）

○康村委員長　討論なしと認めます。

これから採決いたします。

本案を原案のとおり可決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○康村委員長　ご異議なしと認めます。

したがって、本案は原案どおり可決すべきものと決定いたしました。

議第13号　上牧町国民健康保険税条例の一部を改正する条例について、これを議題といた

します。

提案理由の説明は終わっておりますので、これから質疑を行います。

質疑はございませんか。

（「質疑なし」と言う者あり）

○康村委員長　質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

討論はございませんか。

（「討論なし」と言う者あり）

○康村委員長　討論なしと認めます。

これから採決いたします。

本案を原案のとおり可決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○康村委員長　ご異議なしと認めます。

したがって、本案は原案どおり可決すべきものと決定いたしました。

議第14号　上牧町指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について、これを議題といたします。

提案理由の説明は終わっておりますので、これから質疑を行います。

質疑はございませんか。

（「質疑なし」と言う者あり）

○康村委員長　質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

討論はございませんか。

（「討論なし」と言う者あり）

○康村委員長　討論なしと認めます。

これから採決いたします。

本案を原案のとおり可決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○康村委員長　ご異議なしと認めます。

したがって、本案は原案どおり可決すべきものと決定いたしました。

議第15号　上牧町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定め

る条例の一部を改正する条例について、これを議題といたします。

提案理由の説明は終わっておりますので、これから質疑を行います。

質疑はございませんか。

（「質疑なし」と言う者あり）

○康村委員長　質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

討論はございませんか。

（「討論なし」と言う者あり）

○康村委員長　討論なしと認めます。

これから採決いたします。

本案を原案のとおり可決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○康村委員長　ご異議なしと認めます。

したがって、本案は原案どおり可決すべきものと決定いたしました。

議第16号　上牧町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について、これを議題といたします。

提案理由の説明は終わっておりますので、これから質疑を行います。

質疑はございませんか。

（「質疑なし」と言う者あり）

○康村委員長　質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

討論はございませんか。

（「討論なし」と言う者あり）

○康村委員長　討論なしと認めます。

これから採決をいたします。

本案を原案のとおり可決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○康村委員長　ご異議なしと認めます。

したがって、本案は原案どおり可決すべきものと決定いたしました。

議第17号　上牧町下水道条例の一部を改正する条例について、これを議題といたします。

提案理由の説明は終わっておりますので、これから質疑を行います。

質疑はございませんか。

（「質疑なし」と言う者あり）

○康村委員長　質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

討論はございませんか。

（「討論なし」と言う者あり）

○康村委員長　討論なしと認めます。

これから採決をいたします。

本案を原案のとおり可決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○康村委員長　ご異議なしと認めます。

したがって、本案は原案どおり可決すべきものと決定いたしました。

議第18号　奈良県広域水道企業団設立準備協議会の廃止に関する協議について、これを議題といたします。

提案理由の説明は終わっておりますので、これから質疑を行います。

質疑はございませんか。

（「質疑なし」と言う者あり）

○康村委員長　質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

討論はございませんか。

（「討論なし」と言う者あり）

○康村委員長　討論なしと認めます。

これから採決いたします。

本案を原案のとおり可決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○康村委員長　ご異議なしと認めます。

したがって、本案は原案どおり可決すべきものと決定いたしました。

議第19号　公の施設の指定管理者の指定について、これを議題といたします。

提案理由の説明は終わっておりますので、これから質疑を行います。

質疑はございませんか。

氏原委員。

○氏原委員　おはようございます。氏原賢一でございます。

今回指定管理として指定する、下牧にありますほほ笑みサロン片岡の件について１点質問させていただきます。指定管理者制度、平成15年９月２日に施行されて既に22年たつわけですけども､なかなか住民の方には指定管理者制度って何だろうというのがあるんですけども、ただ、お聞きしたいのは、今回協定書を結ぶに当たりまして、１年間事業が終わったときには事業報告書をまず求めているかどうかをお聞きさせていただきます。

○康村委員長　福祉課長。

○俵本福祉課長　こちらのほうについて、ほほ笑みサロン片岡の事業計画書については提出していただいております。

○康村委員長　氏原委員。

○氏原委員　計画書のほう、そして協定書の中に、１年間終わった後に事業報告書を求めるかどうかの記載はどうでしょうか。

○康村委員長　福祉課長。

○俵本福祉課長　事業報告書につきましても、年度が終わりましたら、令和２年から６年度までは提出していただいておって、７年度もしていただく予定にしております。

○康村委員長　氏原委員。

○氏原委員　よく分かりました。ただ、この分についてはホームページ等には掲載はしていないと思うんですけども、ホームページに掲載しようと思ったら、上牧町が指定管理しているのは公民館とかも入ってきますので、非常に職員さんの負担が大きいと思いますので、できれば、全般になるんですけども、上牧町が指定管理者制度で指定しているところを一覧でも年に１回上げてもらえれば、住民さんも指定管理者制度って何かとも分かるし、上牧町に委託されてやっているんだなと分かるので、そういった部分をまた上牧町全体で検討していただければありがたいなと思っております。福祉課長が答えることではないんですけども、できれば要望としてお聞きいただければありがたいです。

私からは以上です。

○康村委員長　総務部長。

○中川総務部長　今、氏原委員のご質問の公表の件につきましては、ホームページで全ての施設を一度にということではないんですが、指定した場合は公表するというふうになっており

ますので、各施設、指定をさせていただいた時点で公表は一応させていただいております。今後、まとめてするかという部分については、また追って検討させていただきたいと思います。

○康村委員長　氏原委員。

○氏原委員　ありがとうございます。以上でございます。

○康村委員長　ほかに質疑ございませんか。

（「なし」と言う者あり）

○康村委員長　質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

討論はございませんか。

（「討論なし」と言う者あり）

○康村委員長　討論なしと認めます。

これから採決いたします。

本案を原案のとおり可決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○康村委員長　ご異議なしと認めます。

したがって、本案は原案どおり可決すべきものと決定いたしました。

議第21号　令和６年度上牧町国民健康保険特別会計補正予算（第４回）について、これを議題といたします。

提案理由の説明は終わっておりますので、これから質疑を行います。

質疑はございませんか。

（「質疑なし」と言う者あり）

○康村委員長　質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

討論はございませんか。

（「討論なし」と言う者あり）

○康村委員長　討論なしと認めます。

これから採決いたします。

本案を原案のとおり可決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○康村委員長　ご異議なしと認めます。

したがって、本案は原案どおり可決すべきものと決定いたしました。

議第22号　令和６年度上牧町後期高齢者医療特別会計補正予算（第２回）について、これを議題といたします。

提案理由の説明は終わっておりますので、これから質疑を行います。

質疑はございませんか。

（「質疑なし」と言う者あり）

○康村委員長　質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

討論はございませんか。

（「討論なし」と言う者あり）

○康村委員長　討論なしと認めます。

これから採決いたします。

本案を原案のとおり可決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○康村委員長　ご異議なしと認めます。

したがって、本案は原案どおり可決すべきものと決定いたしました。

議第23号　令和６年度上牧町介護保険特別会計補正予算（第４回）について、これを議題といたします。

提案理由の説明は終わっておりますので、これから質疑を行います。

質疑はございませんか。

竹中委員。

○竹中委員　３番、竹中です。よろしくお願いします。

補正予算書の７ページをお願いします。３点お聞かせいただきたいと思います。

まず、７ページの介護サービス等諸費、これが500万円の減額補正をされています。それから、その下の段の高額介護サービス等費、これが500万円の増額補正をされていますけれども、かなり大きな補正幅になっていると思うんです。高額介護サービス等のほうは事前の説明会でも理由は聞かせていただきましたけれども、この２つ、それぞれもう少し理由を説明いただきたい。それから、大幅な、言わば見込み違いがあったわけですから、その辺りの理由をまず聞かせていただきたいと思います。よろしくお願いします。

○康村委員長　生き活き対策課長。

○杉分生き活き対策課長　ご質問にご回答申し上げます。

まず、予算書の６、７ページの中での款の２番の保険給付費に関しましては、まず、介護保険事業計画というものを３年単位で作成させていただいております。その介護保険事業計画の中で３年間保険料を決めさせていただく中での事業費の見込みというものを算出させていただいて、予算を組ませていただいております。よくお間違いになられるのが、前年と対照してということではなくて、あらかじめ３年の高齢化率、認定率等を踏まえた上で３年間の給付費を算出しておりますので、これが令和５年度に策定させていただきました中での数字でございますので、令和６年度の補正予算の決算の中で大きく差額が出てしまったので、マイナスをさせていただいた次第でございます。

高額介護に関しても、３年間の介護事業計画の中で算出しております数字ですので、予定していた数字よりも大幅に高額介護のほうを償還させていただくというところで、補正を組ませていただいたところでございます。

○康村委員長　竹中委員。

○竹中委員　大体分かりました。ということは、３年ごとに計画を立てるということは、次の計画を立てるとき、かなり数字は変わってくるということになるんでしょうか。

○康村委員長　生き活き対策課長。

○杉分生き活き対策課長　現在、第９期の介護保険事業計画としましては、令和６年、７年、８年度の３か年で計画させていただいております。次回の第10期の介護保険計画に関しましては、９年、10年、11年の３か年で算出させていただきますので、そのときにまた数字等をお示しできるかと思っております。

○康村委員長　竹中委員。

○竹中委員　ということは、この３年度の数字が反映されたものが次回予算されるという、そういうふうに理解していいんでしょうか。

○康村委員長　生き活き対策課長。

○杉分生き活き対策課長　委員のおっしゃるとおりこの３年間の数字と、また高齢化率、認定化率等を加味した上で算出させていただきたいと考えております。

○康村委員長　竹中委員。

○竹中委員　了解しました。よろしくお願いします。

そしたら、もう１点、同じページの一番下の枠の家族介護支援事業費と配食見守り支援事

業費、これもかなり減額の補正があります。事前の説明会で一通り説明は聞きましたけれども、いま一度、この点、大幅な減額補正の説明をお願いします。

○康村委員長　生き活き対策課長。

○杉分生き活き対策課長　それでは、紙おむつ支給事業の扶助費のほうからご説明させていただきます。この款の地域支援事業費に関しましては前年度試算で算出されておりますが、このたび、紙おむつ支給にしても、施設に入所される方であったりとか、サービスを使ってはる方が増えたため、減額補正をさせていただくところでございます。

○康村委員長　竹中委員。

○竹中委員　あわせて、配食見守りのほうも説明をお願いします。

○康村委員長　生き活き対策課長。

○杉分生き活き対策課長　配食見守りのほうの予算の減額についてご説明申し上げます。減の理由といたしましては、死亡の方、介護認定を受けられて生活援助のサービスを受けられている方、施設入所等が挙げられます。

以上です。

○康村委員長　竹中委員。

○竹中委員　そうに違いないとは思うんですけれども、どちらも非常に丁寧な住民サービスだと思うんです。これだけ減額補正したということは、言うならば利用が少なかったということで、もしかしましてこの制度がありながら、必要であるのに知らなかったと、周知が不十分で活用してもらっていなかったというようなことはないでしょうか。

○康村委員長　生き活き対策課長。

○杉分生き活き対策課長　こちらの制度に関しましては、適宜、広報等で周知はさせていただいているところでございます。より一層、また周知させていただくように努力はしていきたいと考えております。

○康村委員長　竹中委員。

○竹中委員　ぜひ、紙おむつの支給事業も、それから配食見守りの事業も、広く必要としている人に活用していただいて、できるだけこの予算が執行できるように、今後とも周知、どうぞよろしくお願いします。

○康村委員長　生き活き対策課長。

○杉分生き活き対策課長　承知いたしました。

○康村委員長　竹中委員。

○竹中委員　それで結構かと思いますので、またよろしくお願いします。

○康村委員長　ほかにございませんか。

安中委員。

○安中委員　安中です。お願いいたします。

今、竹中委員に聞いていただきましたので、よく分かりました。ありがとうございます。重なりますところで、配食の見守りで、先ほどおむつも含めて、ここだけは前年比と言われていたんですが、町内の中でも配食というか、お昼だけ一緒に食べましょうとか、そういう努力をしてくださっている住民さんもいらっしゃいますので、今後、もちろん大きな単位ではサービスというか、介護施設に入られる方の率は多いんだろうと思いますが、前年比、どれぐらいの割合で減っていっているかを教えていただければ、こちらも対処ができるかな、そのヒントになるかなと思いますので、聞かせていただければと思います。お願いします。

○康村委員長　生き活き対策課長。

○杉分生き活き対策課長　前年比、令和４年から申し上げますと、令和４年では利用者、トータルで22名となっております。決算額としましては109万9,980円となっております。令和５年に関しましては、利用者のトータルが20名となっております。決算額にしまして129万2,100円となっております。令和６年の現在に関しましては、12月末現在で19名となっております。なので、決算見込みとしましては103万6,000円を見込んでおります。

以上です。

○安中委員　ありがとうございます。ここはこれからまた上下しますし、条件も変わっていくと思いますので、ありがとうございました。

私、以上でございます。

○康村委員長　ほかにございませんか。

服部委員。

○服部委員　１番、服部です。よろしくお願いします。

９ページの介護給付費準備金積立金の部分で、基金残高が１億8,469万1,000円になっていまして、今回の補正で20万9,000円の補正をされているんですが、今回、介護の給付の３年の間の真ん中の年という位置でこれだけの積立金が残っているんですけれども、この後１年残っているんですけども、このぐらいの金額が余っているというか、積み立てているということで、次の１人の介護の天引きされている介護負担は上がるんでしょうか。この部分を利用して少しでも安くなるというのはできないでしょうか。

○康村委員長　生き活き対策課長。

○杉分生き活き対策課長　９ページに書かせていただいております介護給付の積立金に関しましては現在のところなので、これから積み崩し等は行っていくところでございます。今現在、基準額としては5,800円として介護保険料を徴収はさせていただいているところでございますが、時期に関しましては、令和７年度の当初予算のこともありますし、取崩し等は行っていかないと介護給付が増える見込みなので、現在の保険料を保持できるように、介護給付の適正化に当町としては取り組んでいきたいところでございます。

○康村委員長　服部委員。

○服部委員　安定して介護保険を持続させるためにはこれだけ必要やというふうに理解してよろしいんですか。

○康村委員長　生き活き対策課長。

○杉分生き活き対策課長　服部委員のおっしゃるとおり、今の現在の介護保険料を維持するためには、基金はもう少しあってもいいのかなと思いますが、給付率が高くなっているのでなかなか保持するのは困難なのかなとは考えておりますが、給付の適正化に取り組むことで、基金の維持はできるかなと考えております。

○康村委員長　服部委員。

○服部委員　分かりました。以上です。

○康村委員長　ほかに質疑はございませんか。

（「なし」と言う者あり）

○康村委員長　これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

討論はございませんか。

（「討論なし」と言う者あり）

○康村委員長　討論なしと認めます。

これから採決いたします。

本案を原案のとおり可決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○康村委員長　ご異議なしと認めます。

したがって、本案は原案どおり可決すべきものと決定いたしました。

議第25号　令和６年度上牧町水道事業会計補正予算（第４回）について、これを議題とい

たします。

提案理由の説明は終わっておりますので、これから質疑を行います。

質疑はございませんか。

服部委員。

○服部委員　服部です。よろしくお願いします。

令和６年度上牧町水道事業会計補正予算（第４回）の２ページの修繕費について、補正予算額600万円についての説明をお願いいたします。

○康村委員長　上下水道課長。

○南浦上下水道課長　それでは、予算書の２ページ、修繕費について説明させていただきます。

このことにつきましては、12月議会でも増額補正させていただいているんですが、今年度につきましては漏水箇所が例年になく増えております。過去３年の平均では年間50件程度でありましたが、令和７年２月現在で62件となっております。このことに伴いまして増額補正をさせていただくものでございます。

○康村委員長　服部委員。

○服部委員　漏水が増えているという形で個々の修理をしていると思うんですが、一般家庭の漏水なのか、道路の部分の漏水なのか、どんなところで漏水しているのか教えてもらえますか。

○康村委員長　上下水道課長。

○南浦上下水道課長　平均的には、引込みの各家につなぐ給水管の漏水が増えているところでございます。

○康村委員長　服部委員。

○服部委員　今、埼玉県で漏水で大きな陥没事故が起きたりしているんですけども、上牧町において漏水が増えているということなんですが、今後、そういった大きな漏水は予想されるんですか。

○康村委員長　上下水道課長。

○南浦上下水道課長　先ほども説明しているんですけど、宅内の給水管が増えているというところで、本管に対してはそんな大きな漏水箇所はないので、今のところはないのかなと思っております。

○康村委員長　服部委員。

○服部委員　分かりました。以上です。

○康村委員長　ほかに質疑ございませんか。

（「なし」と言う者あり）

○康村委員長　これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

討論はございませんか。

（「討論なし」と言う者あり）

○康村委員長　討論なしと認めます。

これから採決いたします。

本案を原案のとおり可決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○康村委員長　ご異議なしと認めます。

したがって、本案は原案どおり可決すべきものと決定いたしました。

以上で、本委員会に付託されました議案は全て終了いたしました。

理事者側より挨拶をお願いいたします。

今中町長。

○今中町長　全議案可決すべきものと決定いただきまして、ありがとうございます。また、本会議でも議決を頂きますようお願いを申し上げまして、お礼のご挨拶にさせていただきます。ありがとうございました。

○康村委員長　これをもちまして文教厚生委員会を閉会いたします。皆様、ご苦労さまでした。

閉会　午前１０時４０分

上牧町議会委員会条例第２７条第１項の規定により署名する。

文教厚生委員長　　康　村　昌　史

総務建設委員会会議録

１．日　　時　　令和７年３月５日（水）　午前１０時

１．場　　所　　３階委員会室

１．協議事項　　議第１号　刑法等の一部を改正する法律及び刑法等の一部を改正する法律の施行に伴う関係法律の整理等に関する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例について

議第３号　上牧町議会議員の議員報酬等に関する条例の一部を改正する条例について

議第４号　特別職の職員で常勤のものの給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例について

議第５号　一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について

議第６号　一般職の任期付職員の採用等に関する条例の一部を改正する条例について

議第７号　上牧町会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について

議第８号　地方公務員法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整備に関する条例の一部を改正する条例について

議第９号　職員の旅費に関する条例の一部を改正する条例について

議第10号　職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例について

議第11号　上牧町非常勤消防団員に係る退職報償金の支給に関する条例の一部を改正する条例について

議第12号　上牧町消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例について

議第20号　令和６年度上牧町一般会計補正予算（第９回）について

議第24号　令和６年度上牧町住宅新築資金等貸付事業特別会計補正予算（第２回）について

１．出席委員　　委　員　長　　上村　哲也　　副 委 員 長　　遠山健太郎

委　　員　　東　　初子　　石丸　典子　　木内　利雄

			牧浦　秀俊		
１．理事者	町　　長	今中　富夫	教　育　長	松浦　教雄
	総 務 部 長	中川　恵友	都市環境部長	吉川　昭仁
	住民生活部長	山下　純司	健康福祉部長	寺口万佐代
	教 育 部 長	松井　良明	総務部理事	髙木　真之
	健康福祉部理事	林　　栄子	総 務 課 長	丸橋　秀行
	企画財政課長	中本　義雄	まちづくり推進課長	細川　夏人
	建設環境課長	武安　康至	住民保険課長	和田　　暁
	税 務 課 長	山本　敏光	福 祉 課 長	俵本　大輔
	生き活き対策課長	杉分　　太	こども未来課長	木下　優子
	教育総務課長	辻村　　純	社会教育課長	吉川信一郎
１．事務局	局　　長	金﨑　恭彦	書　　記	森本香寿美
	書　　記	横田　大樹	書　　記	林　　大貴

開会　午前１０時００分

○上村委員長　皆様、おはようございます。総務建設委員長の６番、上村です。

早速ですが、定足数に達しておりますので、昨日の文教厚生委員会に引き続き、これより総務建設委員会を開会いたします。

初めに、理事者側より挨拶をお願いいたします。

今中町長。

○今中町長　皆さん、おはようございます。総務建設委員会に付託をされました議第１号　刑法等の一部を改正する法律及び刑法等の一部を改正する法律の施行に伴う関係法律の整理等に関する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例について、議第３号　上牧町議会議員の議員報酬等に関する条例の一部を改正する条例について、議第４号　特別職の職員で常勤のものの給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例について、議第５号　一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について、議第６号　一般職の任期付職員の採用等に関する条例の一部を改正する条例について、議第７号　上牧町会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について、議第８号　地方公務員法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整備に関する条例の一部を改正する条例について、議第９号　職員の旅費に関する条例の一部を改正する条例について、議第10号　職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例について、議第11号　上牧町非常勤消防団員に係る退職報償金の支給に関する条例の一部を改正する条例について、議第12号　上牧町消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例について、議第20号　令和６年度上牧町一般会計補正予算（第９回）について、議第24号　令和６年度上牧町住宅新築資金等貸付事業特別会計補正予算（第２回）について、活発なご議論を頂き、全議案可決すべきものと決定いただきますようお願いを申し上げまして、冒頭でのご挨拶にさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○上村委員長　本委員会に付託されました議案はお手元に配付の次第のとおりです。順次、審議してまいります。

議第１号　刑法等の一部を改正する法律及び刑法等の一部を改正する法律の施行に伴う関係法律の整理等に関する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例について、これを議題といたします。

提案理由の説明は終わっておりますので、これから質疑を行います。

質疑はございませんか。

遠山副委員長。

○遠山副委員長　おはようございます。遠山です。

議第１号、件名については長いので省略をしますが、令和７年６月１日付で刑法が改正することに伴って関係条例の一部を改正するという議題だと思いますが、２点伺いたいと思います。

今ご案内のとおり、刑法が改正をされる内容ということなので、その刑法改正の内容についての説明をここでお願いをしたいと思います。

それと２点目ですが、今回、関係条例ということで６つの条例が上がっています。上牧町にはご案内のとおり､条例以外にも規則､要綱等で禁固あるいは懲役が規定されている要綱、規則等があると思うんですが、その辺りについての改正も同様にされるのかどうか、その２点だけお願いしたいと思います。

以上です。

○上村委員長　総務課長。

○丸橋総務課長　それでは、改正の内容でございます。内容につきましては、懲役及び禁錮を廃止いたしまして、これらに代えて拘禁刑が創設されますので、本町の条例で影響があるものにつきましても資料の明記にあるもので、改めて改正させていただくという部分でございます。

○上村委員長　遠山副委員長。

○遠山副委員長　今、課長からご案内がありましたとおり、今回刑法によりまして、ちょっと補足になりますけど、禁錮、懲役というものを拘禁刑に統一をするというのが今回の改正の趣旨というふうに理解をしています。ご案内のとおり、懲役は拘留されまして労役を伴うもの、禁錮は労役を伴わないもの、ただ、これは任意ということで、皆さんご承知かもしれないですが、禁固の方はほとんど実は労役をするらしいですね、じっとしているのもあれなんでということで。ということなので、柔軟にこれから対応するということで、それを統一して拘禁刑にするというような改正の趣旨だということで説明を頂いたので、これは理解をしました。

では、次お願いします。

○上村委員長　総務課長。

○丸橋総務課長　条例以外の規則等の部分についての改正はどうかという部分でございます。この部分につきましても、併せて進めていきたいというふうに考えておるところでございま

す。

○上村委員長　遠山副委員長。

○遠山副委員長　分かりました。もし今お手元にあればですけれども、どの程度規則とか要綱でこれがあるかというのは把握されたりしていますか。

○上村委員長　総務課長。

○丸橋総務課長　申し訳ございませんが､その辺についてはデータ等を持っておりませんので、お答えすることはできません。

○上村委員長　遠山副委員長。

○遠山副委員長　分かりました。関連で申し訳なかったんですが、上牧町の例規集というのを今ホームページで見ていて､これ､すごい便利ですよね｡本文というところに禁固とやると、禁固って表記をされる条例が全部ばーっと出てくるんですよ。見た中では、規則が１個と要綱が１個という形になっていて、例えば非常勤消防団員等に係る損害補償の支給に関する規則のところに懲役、禁錮があったりとかというのはすぐ出てくると思うので、それが把握できると思いますので、６月１日付で、そちらについても併せて改正するということで理解をしましたので、結構だと思います。

私からは以上です。

○上村委員長　ほかにございませんか。

（「なし」と言う者あり）

○上村委員長　これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

討論はございませんか。

（「討論なし」と言う者あり）

○上村委員長　討論なしと認めます。

これから採決いたします。

本案を原案のとおり可決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○上村委員長　ご異議なしと認めます。

したがって、本案は原案どおり可決すべきものと決定いたしました。

議第３号　上牧町議会議員の議員報酬等に関する条例の一部を改正する条例について、議第４号　特別職の職員で常勤のものの給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例につ

いて、議第５号　一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について、議第６号　一般職の任期付職員の採用等に関する条例の一部を改正する条例について、議第７号　上牧町会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について、議第８号　地方公務員法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整備に関する条例の一部を改正する条例について、これらを一括議題といたします。

提案理由の説明は終わっておりますので、議第３号から議第８号までを一括して質疑を行います。

質疑はございませんか。

（「質疑なし」と言う者あり）

○上村委員長　質疑なしと認めます。

議第３号から議第８号までを一括して討論を行います。

討論はございませんか。

（「討論なし」と言う者あり）

○上村委員長　討論なしと認めます。

これから採決いたします。

議第３号から議第８号までを原案のとおり可決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○上村委員長　ご異議なしと認めます。

したがって、議第３号から議第８号までは原案どおり可決すべきものと決定いたしました。

議第９号　職員の旅費に関する条例の一部を改正する条例について、これを議題といたします。

提案理由の説明は終わっておりますので、これから質疑を行います。

質疑はございませんか。

牧浦委員。

○牧浦委員　牧浦です。よろしくお願いいたします。議第９号　職員の旅費に関する条例の一部を改正する条例についてお願いいたします。

これについて宿泊手当の説明は受けましたが、タブレットの中に着後滞在費、転居費、家族移転費について書かれていましたが、これについて我が町で適用があるのかどうか聞かせてください。

○上村委員長　総務部理事。

○髙木総務部理事　ただいまのご質問でございますけれども、着後滞在費、家族移転費等々の上牧町の職員に対しての適用ということのご質問でございますが、今現在、適用のある職員はおりません。

○上村委員長　牧浦委員。

○牧浦委員　これからというのはどうなるでしょうか。

○上村委員長　総務部理事。

○髙木総務部理事　すぐに対象になる職員は今ないとは思っておりますが、今後、国の機関等への研修であるとか、人事交流等によって転居等が必要になった場合、そういうときにこれを適用するというふうに想定しております。

○上村委員長　牧浦委員。

○牧浦委員　分かりました。ありがとうございます。

○上村委員長　ほかにございませんか。

（「なし」と言う者あり）

○上村委員長　これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

討論はございませんか。

（「討論なし」と言う者あり）

○上村委員長　討論なしと認めます。

これから採決いたします。

本案を原案のとおり可決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○上村委員長　ご異議なしと認めます。

したがって、本案は原案どおり可決すべきものと決定いたしました。

続きまして、議第10号　職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例について、これを議題といたします。

提案理由の説明は終わっておりますので、これから質疑を行います。

質疑はございませんか。

石丸委員。

○石丸委員　石丸典子です。おはようございます。よろしくお願いいたします。

職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例についてということで、資料

は条例の５のところで出していただいているんですけれども、今回の条例改正は、育児休業等または家族介護を行う労働者の福祉に関する法律と次世代育成支援対策推進法の一部改正により上牧町での条例改正になっておりますけれども、これに関連いたしまして、職員の勤務時間、休暇等に関する法律に基づいて人事院では規則の改正が行われておりまして、それぞれの自治体でもこれに合わせて規則を改定するようにということが言われておりますけれども､これは議会には上がってこないんですけれども､上牧町での準備状況はいかがですか。特別休暇が拡充されるということなんですけれども、例えば子どもの看護休暇に関する見直しとかで、これが小学校３年生修了までの対象ということで、いろんなところで拡充があるんですけれども、上牧町でもこれに基づいた規則の改正が行われますか。内容と準備状況をご説明ください。

○上村委員長　総務部理事。

○高木総務部理事　ただいま石丸委員のご質問でございます。

子どもの看護休暇の見直しにつきましては、今現在の子が負傷し、若しくは疾病にかかったその子の世話又は疾病の予防が必要なものに対する看護のみを対象としておりますが、それに加えまして、新たに子どもの行事の参加、そして、感染症等に伴う学級閉鎖等の場合でも取得可能なことに改正をされます。そして、次に、現状の子の看護休暇の取得要件では、小学校の就学始期に達するまでの子と規定されておりますが、それにつきましても小学校３年生修了時まで対象となる子の拡大をする改正でございます。

これらの改正につきましては、ただいま規則の改正に向けて準備を進めているところでございますので、令和７年４月１日の施行に向けて今準備を進めているところでございます。

○上村委員長　石丸委員。

○石丸委員　なかなか作業が大変なようなのと内容がややこしくて、今回の条例改正で議会に上がってきているのは小学校就学の始期に達するまでの子ということで、人事院のほうで拡充されるのは小学校３年生までということで、上牧町においては統一ということにはならなかったんですね。

○上村委員長　総務部理事。

○高木総務部理事　ただいまのご質問でございますが、全て国に準拠した形を取らせていただいておりますので、今回の改正はそういうことでさせていただきたいと思っております。

○上村委員長　石丸委員。

○石丸委員　できれば町として独自の施策として統一というのも、今後そういう考え方もお願

いしたいと思います。それで、規則の改正ということになるんですけれども、できましたら、改正の内容の要点を分かりやすい形で議員のタブレットに配信を頂けるとありがたいんですけど、それは４月入ってからでも、遅れてでも構いませんので、どういうことで拡充されたかということで分かるように配信をお願いしたいと思いますが、これは委員長からもお願いしていただきたいと思います。

○上村委員長　総務部理事。

○高木総務部理事　そのようにさせていただきたいと思っております。

○上村委員長　よろしくお願いします。

石丸委員。

○石丸委員　分かりました。作業いろいろご苦労さまですが、よろしくお願いいたします。

以上です。

○上村委員長　ほかにございませんか。

（「なし」と言う者あり）

○上村委員長　これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

討論はございませんか。

（「討論なし」と言う者あり）

○上村委員長　討論なしと認めます。

これから採決いたします。

本案を原案のとおり可決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○上村委員長　ご異議なしと認めます。

したがって、本案は原案どおり可決すべきものと決定いたしました。

議第11号　上牧町非常勤消防団員に係る退職報償金の支給に関する条例の一部を改正する条例について、これを議題といたします。

提案理由の説明は終わっておりますので、これから質疑を行います。

質疑はございませんか。

（「質疑なし」と言う者あり）

○上村委員長　質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

討論はございませんか。

（「討論なし」と言う者あり）

○上村委員長　討論なしと認めます。

これから採決いたします。

本案を原案のとおり可決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○上村委員長　ご異議なしと認めます。

したがって、本案は原案どおり可決すべきものと決定いたしました。

議第12号　上牧町消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例について、これを議題といたします。

提案理由の説明は終わっておりますので、これから質疑を行います。

質疑はございませんか。

木内委員。

○木内委員　委員長、申し訳ないですが、直接には関係ないんですが、団員の充足率等について質問したいんですが、よろしゅうございますか。

○上村委員長　はい、よろしいです。

○木内委員　それじゃ、委員長の許可を得ましたので、上牧町における消防団員の条例に定められた定数、それから現在の団員数、よって、それに対する充足数はどの程度になっているのかだけ答弁を頂きたいと思います。

○上村委員長　総務課長。

○丸橋総務課長　それでは、消防団員の定数でございます。条例上の定数でございます。定数につきましては138名でございます。現在の団員数、３月１日現在でございますが、108人でございます。ということで、充足率につきましては78.26％となっているところでございます。

○上村委員長　木内委員。

○木内委員　以上でございます。ありがとうございます。

○上村委員長　ほかにございませんか。

（「なし」と言う者あり）

○上村委員長　これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

討論はございませんか。

（「討論なし」と言う者あり）

○上村委員長　討論なしと認めます。

これから採決いたします。

本案を原案のとおり可決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○上村委員長　ご異議なしと認めます。

したがって、本案は原案どおり可決すべきものと決定いたしました。

続きまして、議第20号　令和６年度上牧町一般会計補正予算（第９回）について、これを議題といたします。

提案理由の説明は終わっておりますので、これから質疑を行います。

質疑はございませんか。

東委員。

○東委員　おはようございます。東初子でございます。よろしくお願いいたします。

議第20号　令和６年度上牧町一般会計補正予算（第９回）について、３点ほど質問させていただきます。

まず初めに、歳出の15ページの説明欄を見ていただいて、障害者総合支援事業費についてでございます。障害児施設給付費補正額が444万円となっております。資料説明には、就学児童を対象とした放課後等デイサービスでは１人当たりの月平均単価が増加傾向となっており、増額補正の主な要因となっているというふうにあるのですが、この１人当たりの月平均単価が増加傾向となっている要因といいますか原因といいますか、その辺のことをお聞かせください。

２つ目に、同じ15ページなんですが、説明のところ、真ん中なんですけれども、児童措置についてというところで、予算額のところが３億1,492万円の10分の１に当たる3,097万円が減額になったというふうになっております。この理由をお聞かせください。

３つ目は、19ページの説明の真ん中のところ、避難所生活環境改善事業費についてでございます。備品等購入費の3,340万円ですが、これは能登半島地震などを教訓に、避難所環境の抜本改善を粘り強く推進してきているところですけれども、災害関連死の防止につながる避難所の生活環境改善に向けて、今よく言われていますＴＫＢですね、トイレ、キッチン、ベッドなどの整備が国から支援されるというふうになっていると思いますが、この資料説明にも購入数及びイメージ図等がありますけれども、具体的な活用方法を伺います。

以上でございます。よろしくお願いいたします。

○上村委員長　それでは、順次、答弁をお願いいたします。

福祉課長。

○俵本福祉課長　15ページ、障害児施設給付費444万円の増額補正でございます。こちらにつきましては、資料のとおり児童発達支援新規利用者が増加して、単価が増加している状況でございます。これにつきましては、利用されている方が月１回利用されると大体１万円ぐらいの利用料が発生しておりますので、利用される日数が増えているのが原因かなと考えているところでございます。

○上村委員長　東委員。

○東委員　分かりました。月１回の１万円の利用料の利用回数が増えていっているということでございますか。

○上村委員長　福祉課長。

○俵本福祉課長　利用されたら、町から事業所に大体１日１万円ぐらいの金額を報酬としてお支払いさせていただいているんですけれども、もちろん利用者の方が何日支給決定の範囲内で利用日数を使われるんですけれども、その日数が昨年度に比べて利用が多くなっている状況かなと考えております。

○上村委員長　東委員。

○東委員　分かりました。その増加していっているところの理由というようなところは分かるんでしょうか。

○上村委員長　福祉課長。

○俵本福祉課長　ここに書いてありますとおり、基本動作の指導とか、あと、運動機能の向上のために訓練的な、はしごを上ったりとか、そういう訓練をしながら子どもの発達を支援する事業でございますので、例えば週１回使っていたけれども、もう１回、週２回使いたいというご家庭もございますし、ご家庭のご希望で支給決定しておりますので、そういうのが今年度につきましては増加したというところでございます。

○上村委員長　東委員。

○東委員　理解できました。ありがとうございます。

では、次お願いいたします。

○上村委員長　こども未来課長。

○木下こども未来課長　補正予算書15ページ、真ん中辺りの児童措置費の扶助費、児童措置費

が3,000万円ほど減額になった理由ということでございます。児童手当は今年度途中から拡充されることが決まっておりまして、今まで対象でなかった高校生が対象になるということで、その分を年度当初に、まだシステムが改修されていないときに見込んだものですので、少し多く見込み過ぎたというところがありまして、それが主な原因でございます。

○上村委員長　東委員。

○東委員　分かりました。システム改修前のものなのでということですね。ありがとうございます。了解いたしました。

○上村委員長　総務課長。

○丸橋総務課長　それでは、東委員の質問でございます。

活用方法のことでございますが、今回、大型ガスコンロなどを購入させていただきます。それで、平常時での活用でございますが、防災訓練などでキッチン資機材の貸出しを行うというふうに考えております。その中で炊き出し訓練等に活用していただくというふうに考えているところでございます。

○上村委員長　東委員。

○東委員　防災訓練等で貸出しも行えるということでございましょうか。これを見させていただきますと、防災倉庫自体は大きいものですよね。これは各学校に設置ですか。

○上村委員長　総務課長。

○丸橋総務課長　はい。今回この防災倉庫につきましては、避難所の指定をさせていただいている学校施設、4施設に防災倉庫を設置したいというふうに考えているところでございます。

○上村委員長　東委員。

○東委員　その中に災害時の炊事のセット、数量からすると12セットずつ、ガスバーナーとかですね、なっていますけれども、また、テント一式も12セットというふうになっておりますが、これはどのような活用方法になるんでしょうか。

○上村委員長　総務課長。

○丸橋総務課長　このテントにつきましては、調理場という部分で活用させていただこうというふうに思っております。

○上村委員長　東委員。

○東委員　分かりました、貸出しをされるということですけれども、これは例えばですけれども、自治会とかが防災訓練を行うとか、そういうところで行われるときも貸出しという形は取れるんでしょうか。

○上村委員長　総務課長。

○丸橋総務課長　そのとおりでございます。

○上村委員長　東委員。

○東委員　分かりました。本当にこれからの避難所というのは温かいものをというふうに方向性も、皆様のためにそういう形になっておりますので、本町としてこのような取組をされることは本当にいいことだというふうに感じております。

以上でございます。

○上村委員長　東委員の質疑はこれで終わりました。

ほかにございませんか。

石丸委員。

○石丸委員　石丸典子です。一般会計の補正予算（第９回）で２点お伺いいたします。

まず、今回の大きな補正のところなんですけれども、歳出の10、11ページで、地方創生臨時交付金事業費で9,000万円の減額なんですけれども、給付金・定額減税一体支援支給金給付事業費ということで、説明では不用額で補正だという説明がありました。この給付金事業については約8,200万円の不用額というふうに理解したところですけれども、これは補正を専決処分で行われた事業なんですけれども、この補正予算時は、対象見込みが1,110世帯に対して、今回の決算見込みが402世帯、半分以下の減、子ども数については270人を見込んでいたけれども89人ということによる減額だと思いますけれども、この要因についてご説明をお願いしたいと思います。この事業については、令和６年11月末で事業が完了ということですけれども、この状況についての説明をお願いいたします。

もう１点は、18、19ページの教育費のところで、それぞれ学校の光熱水費が増額のところと、あと、幼稚園の給食費の事業費で、特に賄い材料費が幼稚園のところで30万円増額計上されています。物価高騰によるものということで説明がありましたけれども、幼稚園だけが賄い材料費ということで増額になっておりますが、その他、小・中学校のところの影響はどうなのかということも含めて説明をお願いいたします。

以上です。

○上村委員長　福祉課長。

○俵本福祉課長　11ページ、給付金・定額減税一体支援給付金給付事業費低所得者支援給付金の支給実績について、予算と決算の乖離についてというご質問と思います。こちらについてでございますけれども、まずこの予算が令和６年５月31日、専決処分第２回補正で予算組み

をさせていただきました。それで、この予算を組む際に、５月15日に非課税世帯、均等割世帯、また子どもの世帯についてデータを抽出させていただきました。その世帯が予算組みの根拠資料として使わせていただいて、１の住民税非課税世帯が新たに非課税世帯になるのが500世帯、また、均等割のみ世帯については480世帯、合計980世帯に10万円を予算を組ませていただきました。それで、子ども加算につきましては、住民税非課税世帯における子ども加算については150人、均等割課税世帯における子どもの加算については120人、合計270人を５万円で予算を組ませていただいたところでございます。

それで、そのときに抽出した数字が非課税世帯と均等割合わせて910世帯でしたので、予算計上については支給の漏れがないようにちょっと多めに組ませていただいて、980世帯で組ませていただきました。子ども加算については抽出したときの人数が214人、それで、これも漏れ落ちがないように270人で予算を組ませていただいたところでございます。

それで最終的に対象世帯となったのが、住民税非課税世帯については390世帯、均等割課税世帯については154世帯、子ども加算については95世帯、均等割の子ども世帯については32人でございました。これの差というのが、税が確定する前に５月15日の時点で抽出させていただきましたので、税が確定したときの世帯数との乖離があったものと考えております。それで例えば、この事業が１月１日時点の市町村で課税しますので、１月２日から基準日の６月３日までの間に転入された方については、他の市町村が税を確定させてから所得照会を行って、課税か、均等割か、非課税かという情報を頂くものでございます。だから、その照会をかける前に抽出しておりますので、転入者については全員対象者という扱いで予算を組ませていただきましたので、大きな乖離が出たのかなと今分析しているところでございます。

○上村委員長　石丸委員。

○石丸委員　見込みがなかなか大変だと思うんですけれども、それと、税の確定というところと転入とかいうのがあるんですけれども、要は、給付漏れとかいうのはないということでよろしいですか。

○上村委員長　福祉課長。

○俵本福祉課長　給付状況でございますが、令和６年度の非課税世帯、住民さんに通知書を上牧町が送らせていただいたのが390世帯、支給申請があった世帯は347世帯、そのうち支給させていただいた世帯が253世帯、そのほかの世帯については、死亡された世帯が２世帯と未申請の世帯が41世帯ございました。それで、均等割のみ課税世帯については、通知書を送らせていただいたのが154世帯、そのうち申請があったのが152世帯、支給した世帯が149世帯、そ

れで、対象外となった世帯が３世帯、未申請の世帯は２世帯でございました。

子ども加算につきましては、申請していただいた世帯に子どもがいた場合、支給させていただいておりまして､非課税世帯の390世帯の中に子ども加算対象者は95人いらっしゃったんですけれども、子ども加算については対象者が95人のうち58人支給させていただいて、対象外が22人、未申請が15人でございました。それで、均等割のみ課税のほうの子ども加算については、対象者が32人、支給済みが31人、未申請が１人でございました。

以上でございます。

○上村委員長　石丸委員。

○石丸委員　詳しい数字をありがとうございます。４種類に分けて資料にいろいろ出されていましてややこしいんですけど、今疑問に思ったのは、申請が上がったけれども給付に至ってない差がありますね。これはどういうことですか。例えば住民税非課税のところだったら、340世帯で申請が上がったけれども給付が253とかいうふうな説明がありましたけど、こういう大きな差が出る要因は何ですか。

○上村委員長　福祉課長。

○俵本福祉課長　対象外となった理由でございますけれども、非課税世帯対象外が94世帯ございました。その非課税世帯の対象外については、前住所地で支給したというのが53世帯。この前住所地で支給したというのが、この事業につきましては令和６年度に新たに非課税、均等割になった人に対して支給する分でございますので、令和５年に受け取っていた方については支給をしないということでございます。それで、令和５年に他市町村で受け取って、１月２日以降に転入された方については、申請していただいた後、転入前の市町村に受け取ったかどうかの確認をさせていただいておりますので、確認の際、転入前の市町村が令和５年にこの方についてはお支払いしたという方については対象外になりますので、それが53世帯ございました。それで、課税者の扶養者で、例えば住民税、上牧町に住んでいる方は非課税世帯になるんですけれども、ほかの市町村の子どもさんがこの方を、非課税世帯を扶養されている場合は対象外になります。そういう世帯が30世帯ございました。

あと、本人が申請書の欄に受け取り拒否とチェックする欄があるんですけれども、その受け取り拒否をチェックされて申請された方、１世帯ございました。それで、こちらの方については再度電話でも確認させていただいているんですけれども､「僕じゃなくて､ほかの人のためにそのお金を使ってほしい」というということで拒否されたケースもございました。

それで、未申告の方についてもこの通知書は送らせていただいておりまして、その未申告

の方に送った中で、確定申告をしていただいて、非課税やったら支給するんですけれども、その際、課税になった世帯が10世帯、これで合計94世帯でございました。

それで、均等割課税については対象外が３世帯で、前住所地で受給済みが２世帯、課税者が１世帯、３世帯ございました。

以上でございます。

○上村委員長　石丸委員。

○石丸委員　詳しい説明ありがとうございました。大変ややこしい、業務も大変な内容だなというのが分かりました。ありがとうございました。大体理解できましたので、分かりました。ありがとうございます。

では、次の項目をお願いいたします。

○上村委員長　教育総務課長。

○辻村教育総務課長　それでは、補正予算書19ページの小学校と中学校の光熱水費でございます。小学校に関しましては、光熱水費は電気代の120万でございます。中学校に関しましては、電気代が100万、水道代が60万でございます。電気代に関しましては、使用料、ボリュームが昨年度に比べまして５％から10％増えているんですけれども、要因といたしましては、学校は特にボリュームが増えるような使い方や行事というものはないようには聞いているんですけれども、日々の使い方の積み重ねであったり、一因として考えられますのは、今年度、スポーツクラブのミニバスケットの団体が１つ増えたということで、体育館とかで使用回数が増えているのかなということで、その点も一因なのかなというふうには考えております。

○上村委員長　教育総務課長。

○辻村教育総務課長　それでは、幼稚園の給食費の賄い材料費でございます。小学校、中学校、幼稚園も物価高騰の影響を受けまして、町が今年度は10％補助を載せた中でやりくりをしてもらってはいるんですが、幼稚園の給食に関しましては、学校の同じメニューの７割程度を使って給食を行っているんですけれども、やはり中には園児に不向きな、例えば硬い食材であったり、誤嚥といいますか、飲み込むのに問題があるような食材を変更して注文していますので、スケールメリットが受けにくいということで、物価高騰の影響を受けやすくなっておりまして、幼稚園だけ補正をさせていただいているという状況でございます。

○上村委員長　石丸委員。

○石丸委員　物価高騰で賄い材料費の調達等、給食費は一定ですので大変だと思うんですけど、ちらっと令和７年度の予算を見ましても、そんなに賄い材料費の変動はない形にうまく調整

されているような数字になっていたんですけれども、給食費が上がるとかいうふうなことは今後ないですね。無償化の動きもありますけれども、その辺いかがですか。

○上村委員長　教育総務課長。

○辻村教育総務課長　今のところは予定はございません。

○上村委員長　石丸委員。

○石丸委員　分かりました。また、予算のほうで来年度の分はお聞きしたいと思います。

以上です。ありがとうございました。

○上村委員長　石丸委員の質疑は終わりました。

ほかにございませんか。

牧浦委員。

○牧浦委員　牧浦です。よろしくお願いいたします。

17ページ、説明欄の団体営農地防災事業費について、７か所の池の防災重点ため池があるんですけども、調査だけで工事はまだできていないんでしょうか。これについてお願いします。

２つ目です。同じく17ページから19ページにかかります説明欄の地籍調査費についてお伺いいたします。地籍調査なんですけども、現在、法務局に備え付けられている地図や地積測量図は、境界や形状などが現地とは異なっている場合も少なくなく、登記簿に記載されている面積も正確でない場合があり、地籍調査を行うことにより登記簿の面積も更正でき、地図も正確なものとなりますと書いてあるんですが、旧村に入ってくるといろんなことがあると思うんです。例えばゼロ番地でありますとか、番地のついてないところもあるとか、番地があるんですが土地がないというところがあると思うんですけども、これに対してどのように対応されたのかお聞きいたします。

２点です。よろしくお願いいたします。

○上村委員長　それでは、順次、答弁をお願いします。

まちづくり推進課長。

○細川まちづくり推進課長　補正予算書17ページ、団体営農地防災事業費についての質問ですが、調査はしているけども工事はしなくていいのかというご質問で。工事については、調査の結果、工事が必要ないということですので、工事は行っておりません。

○上村委員長　牧浦委員。

○牧浦委員　例えば、６番の井戸ヶ尻上池、ここ、工事しているように見受けたんですけども、

これとは関係なくして工事をやっていてたのでしょうか。それと、米山池もそうなんかなというように思っているんですけども、これについてお伺いいたします。

○上村委員長　まちづくり推進課長。

○細川まちづくり推進課長　井戸ヶ尻上池については、その他の工事は当初の予算で行っておりますので、防災重点ため池の結果、問題があるということによる工事ではございません。

○上村委員長　牧浦委員。

○牧浦委員　分かりました。そしたら、この調査の結果、防災ができていると認識されると、工事は行わないという認識でよろしいでしょうか。

○上村委員長　まちづくり推進課長。

○細川まちづくり推進課長　委員のおっしゃるとおりでございます。

○上村委員長　牧浦委員。

○牧浦委員　分かりました。次、お願いいたします。

○上村委員長　まちづくり推進課長。

○細川まちづくり推進課長　地籍調査費の中の旧村の中で無番地等、どういう対応をしているかという質問やったかと思うんですけども、それについて今手持ちの資料がございませんので、後ほどの回答でもよろしいでしょうか。

○上村委員長　牧浦委員。

○牧浦委員　はい。そしたら、調査結果を見てまた質問をしますので、よろしくお願いいたします。ありがとうございました。

○上村委員長　ほかにございませんか。

木内委員。

○木内委員　それでは、木内でございますが、一般会計補正予算（第９回）について質問をさせていただきます。

まず、説明書の10、11ページでございます。ここに、さきの議員からも触れられておられましたが、給付金・定額減税一体支援給付金給付事業について、市タブレットの資料を見ると、補正額の根拠という資料がタブレットの出の１－２のところにございます。これを見ると、予算現額で１億1,576万7,000円、決算見込額で4,794万5,000円、よって、補正額が減額補正で6,782万2,000円となっているわけですね。合計額のその上の負担金額補助及び交付額についてもおおむね今申し上げたような金額になっています。要は執行率というか、実績というか、これは予算現額から見ると40％程度に終わっているんですよね。こういった大幅な減額補正はなぜ発生

したのかについて、まず答弁をお願いしたいと思います。

次に、16、17ページでございます。下のほうにございます地籍調査費、一筆調査みたいなことで言われていますけども、ここについて、今回の補正1,677万7,000円、これはなぜ今回この補正が発生したのかをまずお聞きしたい。

次に、進捗率についてお伺いする。そこの前後で取りあえずどこの地域が終わっているのか、終わっていないところはどこなのか。それからまた、終了年度はどの程度に目標を置かれているのかについて、長い年月のかかる事業でございますので、目標はどの程度なのかお伺いをしたいと思います。

それから、法務局と上牧町とがやられているようでございますが、そこら辺のことについてもすみ分けはどのようにされているのか、まずお伺いをしたいと思います。

以上でございます。

○上村委員長　木内委員の質疑は終わりましたが、ここで暫時休憩とし、再開は11時５分。

休憩　午前１０時５７分

再開　午前１１時０５分

○上村委員長　それでは再開いたします。

木内委員の質疑は終わっておりますので、順次、答弁をお願いします。

福祉課長。

○俵本福祉課長　11ページ、給付金・定額減税一体支援給付金給付事業費の低所得者支援給付金の減額補正6,685万、これが執行率40％しかないけれども、その原因はというご質問でございました。こちらにつきましては、税が確定する前の５月15日に抽出した世帯数を基に予算計上させていただきました。その予算計上する際に抽出した世帯としましては、非課税世帯、均等割世帯合わせて910世帯でしたので、910世帯から漏れ落ち、住民さんに払えなくならないように少し多めに組ませていただいて980世帯。また、子ども加算については、非課税世帯、均等割世帯合わせて214人抽出されておりましたので、漏れ落ちないように270人で予算を組ませていただきました。しかしながら、対象世帯数で通知を送らせていただいた世帯が980世帯と見込んでいた中で544世帯、また、子ども加算につきましては270人と予算計上させていただいたのですが、対象の子どもについては127人でございました。こちらにつきましては、税が確定する前に抽出させていただいたものでございますので、例えば１月２日以降に、基準日の６月３日までの間に転入された方は、ほかの市町村で課税されて、上牧町では課税状況が分からないので、照会をかけさせていただいて世帯数を確定させるんですけれども、そ

の確定させた世帯が544世帯という形でしたので、大きな乖離が出た原因の１つかなと考えているところでございます。

○上村委員長　木内委員。

○木内委員　１点確認なんですが、ざっくりの数字なんですが、私、記憶しとるんは、上牧町の住民税の非課税世帯数はおおむね三千数百世帯やったかと思うんです。間違っておったら後で訂正してくださいね。今回おっしゃっている対象世帯数が390だったというふうに答弁をなさっているんですが、上牧町全体の約三千数百世帯の住民税非課税数とこれとは、ここら辺の説明をしていただけますか。

○上村委員長　福祉課長。

○俵本福祉課長　こちらのほうが令和５年度に支給した世帯は対象外になっておりまして、令和６年度に新たに非課税世帯と均等割世帯になった世帯に支給するものでございますので、非課税世帯が例えば今年度か、また２月に実施している５万円給付の分があるんですけれども、それの対象者としましては、非課税世帯、未申告世帯に対して2,802世帯に対して通知書を送らせていただいておりますので、その世帯のうち令和５年度受けられていた人を抜いた、令和６年度新たに均等割課税されたり、非課税世帯になった世帯が対象世帯となったということでございます。

○上村委員長　木内委員。

○木内委員　それはお聞きしときますね。さきの委員に対する答弁の中で、いろいろ前住所地で受給済みとか、本人が受け取り拒否をして、これは涙が出るような話やなと思って聞いとったんですが、よっぽど金融資産をお持ちなんかなと思っているんですけども、要はほかの人に回してあげてくださいという奇特な方がおられるんで、しっかりと金融資産等をお持ちなんでしょうけども。そこで、未申請者については何世帯あったんでしょうか。

○上村委員長　福祉課長。

○俵本福祉課長　非課税世帯につきましては41世帯、均等割のみ課税世帯については２世帯でございました。

○上村委員長　木内委員。

○木内委員　それで41と２、この合計43世帯に関してですけども、これに対する町としてはどのようなアプローチをして、この人たち未申請でないように、要は申請をしてきちっと受給できる、要は10万円を受給できるようにする手だてについては、上牧町としてはどのような手だてをされたんでしょうか、お伺いします。

○上村委員長　福祉課長。

○俵本福祉課長　まず、対象者の方については全世帯、最初に通知を送らせていただいております。それに、申請がなかった世帯については、10月30日が受付期限でございましたので、９月30日に65世帯に、非課税給付世帯53世帯、均等割のみ課税世帯12世帯に対して、まだ申請がありませんでしたので通知を送らせていただいて、申請していただくように勧奨の通知を送らせていただきました。また、この給付金については７回目になりますので、今までに申請された方で申請が来られてない方については、電話番号が申請書に書かれている人につきましては、随時、職員が電話をして、申請どうですかという確認をさせていただいたところでございます。

○上村委員長　木内委員。

○木内委員　それで、この41世帯と２世帯については積み残しや、要は受給されないままということで今聞こえたんですが、もうちょっとアプローチの改革があったんではないかと思うんですけども、いかがでしょうか。

○上村委員長　福祉課長。

○俵本福祉課長　この給付金につきましてはもう７回目でございますので、周知というのは国のほうからもずっとされていますし､受けられている方に対しては､非課税世帯に対しては、周知はできていると考えております。その中で、電話、あと、通知による勧奨という形で実施しましたので、ほかの方法が思いつかなかったような感じではございます。

○上村委員長　木内委員。

○木内委員　この41世帯、２世帯が、先ほど私、触れましたけど、本人受け取り拒否みたいに金融資産があって、そんなん要らんわということで申請をされなかったらまだ救われるんですけども、本当に困っておる人であれば、例えばどこかへ入院しとったとか、応答ができないとか、みたいな非常に困窮な生活をされとって申請ができなかったということは考えられませんか。この43世帯の中でそういった人たちが３世帯、５世帯、10世帯あったんか分かりませんし、全部の世帯がそうだったんかもわかりませんが、要は困っているから申請しませんかということで通知を出しているわけですよね。電話することで、それでええんやみたいなことではいかんのじゃないかなと思っとるんですが、ここら辺のところはいかがお考えですか。

○上村委員長　福祉課長。

○俵本福祉課長　こちらにつきましてはそこまで、入院されているところまでの調査は実施し

てはいない事業になりますので、そこまで支援ができてはないと思いますけれども、７回目でずっとニュースとかも周知されている中で、例えばもう７回目だから私は受けられないよねとか、先ほど申しました上牧町に非課税で住んでいるけれども、ほかの人に扶養されているとかいう人で申請されてない方もいらっしゃると思いますので、そういう方が未申請者に当たるのではないかなとは考えているところでございます。

○上村委員長　木内委員。

○木内委員　人手の問題もありますけど、上牧町なんて狭いエリアで、コンパクトシティーですから、車で走ったら10分、20分あれば端から端まで行けるような町ですから、私は訪問して、丁寧に一軒一軒、合計43件ですか、ここら辺は訪問して、いかがですかみたいなことまで手を差し伸べても私はしかるべきやと思うんですが、いかがですか。

○上村委員長　福祉課長。

○俵本福祉課長　今のところはそこまでは考えていない状況です。と言いますのも、例えば今回は40世帯だったんですけれども、前回の給付金では205世帯ございました。それは同じ理由で申請主義の部分になりますので、例えば先ほど申しました、自分が対象外だから申請しないというケースもあると思いますので、今のところはそこまで……。

○上村委員長　木内委員。

○木内委員　案外、制度を知らんのですよ。例えば医療費の頭打ちというのがあるでしょう。私の年俸ですと、おおむね８万7,000円か９万円ぐらいが月額の頭打ちですよ、高額療養費やとね。それを超えて、例えば30万の医療費が月にかかったって９万弱で済むわけですね。この制度もほとんどの人が知りませんよ。だから、案外知らんのですよ。そやから、私はもう少し丁寧に困っている人たちなんですから、しっかりと取組をされてやっていただけるように、部署内で一遍打合せをするとかしていただいて、きめ細かなせっかくの制度ですから、末端の一人一人までこういった恩恵を被るように、施策をしっかりとやられるように強く求めておきたいと思います。これは結構です。

○上村委員長　ここで、先ほど牧浦委員の質疑の答弁が返ってきましたので、まちづくり推進課長、どうぞ。

○細川まちづくり推進課長　先ほどの牧浦委員のご質問で、無番地の場合の対応はということなんですけども、実際、今まで地籍調査を行った中で無番地は存在しておりませんので、実績はございません。ただ、もしそういった場合が今後出てきた場合につきましては、隣接者立会いの下、協議を行っていくということで考えております。

○上村委員長　牧浦委員。

○牧浦委員　後でまた法務局とのすみ分け、聞かせてください。ありがとうございました。

○上村委員長　まちづくり推進課長。

○細川まちづくり推進課長　そうしましたら、木内委員の質問にご回答させていただきます。

まず１つ目として、地籍調査費はどうして補正予算で対応しているのかということになります。地籍調査費については令和７年度当初予算にて計上する予定でしたが、この補助金について奈良県から補正予算で対応できないかということで打診がございました。そういったことを踏まえて６年度に補正予算計上して､翌年度に繰り越すものとさせていただきました。

○上村委員長　まちづくり推進課長。

○細川まちづくり推進課長　続きまして、進捗率ということですが、法務局の地図作成業務と地籍調査を併せまして、上牧町としては令和６年度終了時点で約26％となっております。

どの地区が終わっているかというご質問でしたが、地籍調査については、桜ケ丘１から３丁目地区及び片岡台２・３丁目地区が終了となっておりまして、法務局の地図作成業務にいたしましては、米山台及び服部台地区が終了となっております。

終了年度なんですが、上牧町としては令和２年度から10か年の計画として地籍調査の計画を立てておりますので、令和11年度をもって一旦終了となる形になっております。

最後に、法務局の14条地図作成業務との違いはということですが、まず地籍調査については国土調査法に基づく調査でございまして、法務局が行うものについては不動産登記法に基づく調査でございます。地籍調査については、農地、林地、山林など非住宅を主に行い、法務局の地図作成業務については、人口密集地かつ地図混乱地域を対象といたしております。

以上です。

○上村委員長　木内委員。

○木内委員　今ちょっと聞き漏らしたんやけど、申し訳ない。もう一遍答弁いただきたいんですが、この業務の完了はいつを予定しているというふうに答弁されたのか、もう一度。

○上村委員長　まちづくり推進課長。

○細川まちづくり推進課長　令和２年度から10か年計画となりますので、一旦令和11年度をもって終了となりますが、上牧町全体が終わるというわけではございません。またここから、令和12年度から改めて計画を立てていきたいと考えております。

○上村委員長　木内委員。

○木内委員　それで、南上牧とか緑ケ丘、五軒屋、新町等々、これは上牧町が担当をされる地

区になるんでしょうか。もしくは、不動産登記法第14条に伴って法務局がやられるようになるんでしょうか。

○上村委員長　まちづくり推進課長。

○細川まちづくり推進課長　上牧町のほうが今後、事業を進めていく考えでございます。

○上村委員長　木内委員。

○木内委員　息の長い事業ですが、これは大事な事業ですので、しっかりとお取り組みいただきますように求めておきたいと思います。

以上でございます。

○上村委員長　ほかにございませんか。

遠山副委員長。

○遠山副委員長　遠山です。議第20号　令和６年度上牧町一般会計補正予算（第９回）につきまして、時間の関係もありますので、要点を絞って質問をさせていただきたいと思いますので、適宜、回答をお願いしたいと思います。

説明書の６、７ページ、歳入の部分の款16の財産収入、節の物品売払収入です。事前の説明によりますと、パソコン、プリンター、サーバー等の売却収入ということで16万8,000円計上されています。こちらの売却の経緯、金額、売却先の決定経緯についての説明をお願いします。

続きまして、その下の寄附金です。節の１、一般寄附金ということで49万9,000円の増額計上、事前の説明によりますと50万円の寄附があったということです。こちらについては以前の広報紙にも掲載されていたと思いますので、内容の説明はできると思います。寄附者について、そしてこの50万円の今後の使途の予定について伺います。

続きまして、８、９ページです。款20の諸収入の部分の節１雑入です。災害派遣に伴う求償費ということで668万9,000円計上されています。こちらについて、どこからこの入があったのか、そしてその内容の内訳についての説明をお願いします。

続きまして出のほうです。10、11ページ、款２総務費のところの目３財産管理費、今回財源内訳の補正ということで32万6,000円の財源補正となっています。この内容についての説明をお願いします。

そして、続きまして18、19ページです。款７消防費のところの目４災害対策費、節17備品購入費です。さきの議員からのお話もありましたが、避難所生活環境改善事業費ということで計上されていますが、これは入の５ページのところに新しい地方経済生活環境創生交付金

1,670万円が主な財源となっていますが、こちらの交付金を使っての事業ということで、この交付金、ご案内のとおり昨年末の国の補正予算で計上されたものなんですが、いろんなメニューがありまして、災害だけではなくていろいろな地方創生に使えるということで、今回、災害の対策に充てようと思った理由、その辺りを伺いたいのと、あと設置場所、ご案内の説明でありましたのは避難所と指定されている学校というところで、上牧中学校は今工事中なのでしないんですが、特に二中は来年の３月で廃校が決定をしていますが、そこに防災倉庫を設定するということは、二中の今後の土地利用も含めて、防災拠点とするということについては変わりがないのかどうか、その辺りの確認をお願いしたいと思います。

以上です。

○上村委員長　総務課長。

○丸橋総務課長　それでは、補正予算書の７ページにございます物品売払収入の部分でございます。売却の経緯、決定という質問でございます。この内容につきましては、不要になったパソコン、プリンターなどがございました。その部分について廃棄処分をするための買取りの業務をさせていただいたという部分でございます。決定につきましては、この部分、見積り徴収をさせていただきまして、金額が高いところに決定をさせていただいたという部分でございます。

○上村委員長　遠山副委員長。

○遠山副委員長　ありがとうございます。こちらにつきましては４年前ですか、私、令和３年12月議会の一般質問で取上げをしまして、物品の売払収入というのは一般財源になるので自由に使えるお金ということで、不要なものを捨てたらごみだけども売ったらお金になるのでということを提案させてもらって、その一環というわけではないかもしれないんですが、先ほど説明がありましたパソコン、プリンター、サーバーも不要になったというところだけれども、相見積りを取って高いところに売却をしたと。入札経緯がなかったので、そうではなくて相見積りを取って高いところに売ったということで、これは大変評価をさせてもらいたいというふうに思いますので、これからも物品売払いについては、これ、要らない、捨てるんではなくて、売れるんじゃないかということをアンテナを張らせてやっていただきたいと思いますが、その辺りいかがでしょうか。

○上村委員長　総務課長。

○丸橋総務課長　そのような場合が出てきた場合につきましても、考えながらさせていただきたいというふうに思っております。

○上村委員長　遠山副委員長。

○遠山副委員長　ぜひお願いします。では、次お願いします。

○上村委員長　総務課長。

○丸橋総務課長　それでは、７ページの下段にございます一般寄附金の内容についてご説明をさせていただきます。

　この寄附金につきましては、上牧町内の住民の方からの寄附を受けたものでございます。寄附採納者の方につきましては、下牧に在住の方でございまして、芳倉清孝様からの寄附を受けたという部分でございます。

○上村委員長　遠山副委員長。

○遠山副委員長　今お名前を言っていただきました。広報紙に出ていたと思いますので、お名前の公表はできるかなと思います。改めまして、ここでお話をすることによって議会としても広報紙に載せるなりして、本当にお礼を申し上げたいということがあるんですが、寄附があった日、大体いつぐらいに寄附があったのか、そして使途の予定についての説明もお願いします。

○上村委員長　総務課長。

○丸橋総務課長　この寄附の申出でございますが、令和６年５月27日に申出がありまして、寄附の受託をさせていただきましたのは、令和６年６月１日に受託をさせていただいたという部分でございます。

　それと、使途の部分でございますが、今回、この寄附金でございますが、一般寄附金と受けさせていただいておりまして、町の一般財源、自主財源となりますので、自主財源の中で役立てていきたいというふうに考えているところでございます。

○上村委員長　遠山副委員長。

○遠山副委員長　ということで、寄附の方の思いをしっかりと受け止めていただいて、一般財源に入りましたので、基金に積み立てるというわけでもないので、来年度以降、しっかりとした事業の取組の中で活用していただきたいというふうに思います。ありがとうございます。

　次、お願いします。

○上村委員長　総務課長。

○丸橋総務課長　それでは、補正予算書９ページにございます雑入の中の災害派遣に伴う求償費でございます。どこからというご質問でございますが、この分につきましては石川県から求償の部分となっているところでございます。

○上村委員長　遠山副委員長。

○遠山副委員長　上牧町は石川県の穴水町に派遣をされたと思いますけども、それに対する求償費が石川県から納入をされたというふうに今説明を受けました。668万9,000円、この入ってきた金額の内訳といいますか、なぜこの額なのか。この辺りについての説明をお願いします。

○上村委員長　総務課長。

○丸橋総務課長　内容でございますが、この分につきましては令和５年度分、６年度分というくくりでございます。まず令和５年度分につきましては、避難所への設置分ということで支援物資、ガーゼなど、ニトリルグローブ、消毒用、あと、毛布、非常用の給水袋などの部分について512万9,000円ほど求償となっております。あわせて、炊き出し用の給与分といたしまして、飲料水、乾パン、あと、アルファ化米などの部分につきまして74万4,850円あります。あと、救助事務費といたしまして、避難運営に係る職員分ということで、事務費といたしまして、時間外勤務手当、旅費、燃料費、あと、自動車保険などの使用料及び賃借料の部分について41万7,023円の求償がありました。

あと、令和６年度分につきましては、求償事務費といたしまして事務費で、これも避難運営に係る職員分でございます。時間外勤務手当、旅費、燃料費、あと、自動車保険の使用料及び賃借料といたしまして39万8,646円の金額が求償というふうになっておるところでございます。

○上村委員長　遠山副委員長。

○遠山副委員長　今詳しい説明を頂きましたけれども、穴水町に行った災害派遣は大きく２種類あったんではないかと僕は思っていて、１個は、たしか総務部長が行かれたのかな、建物の調査の担当で行かれた。それと、あと、今説明のあった避難所の運営のほうで行かれた。その避難所運営に関する求償費が今回計上された。その内容としては主に消耗品の実費、そして人件費に相当する部分が求償費になったということだと思いますが、その辺りで解釈は間違いないでしょうか。

○上村委員長　総務課長。

○丸橋総務課長　そのとおりでございます。

○上村委員長　遠山副委員長。

○遠山副委員長　分かりました。求償費があることを想定して行ったわけではないと思いますけれども、国の支援が多分石川県に入って、それがこちらに回ってきたのかなと思うんです

が、いち早くといいますか、穴水町に我々職員の皆さんにご尽力いただいて派遣をした結果がこういう形で求償費に戻ってきたというところで、大変ありがたい入だというふうに思っています。

改めまして、災害派遣に行っていただいた職員の皆様に心から敬意を表しまして、この質問を終わりたいと思います。

次、お願いします。

○上村委員長　総務課長。

○丸橋総務課長　それでは、補正予算書11ページにございます財産管理の財源内訳の内容でございます。この部分につきましては、歳入のほうであります損害賠償保険の部分でございまして、資料の歳入ナンバー３を見ていただきたいというふうに思っております。その資料の中で、予算ということで、令和６年９月27日発生分と令和６年12月20日発生分の事故につきまして、財産管理から修繕という形で支出をさせていただきました。そのことで損害賠償保険が入として入ってきたということで、この財源に振り分けたという部分でございます。

○上村委員長　遠山副委員長。

○遠山副委員長　改めて確認です。雑入のところで損害賠償保険金が33万6,000円入っていまして、この内訳がタブレットの説明がありまして、３回分ですね、令和６年７月１日の物損事故、令和６年９月のトランク破損の修繕、令和６年10月の、これも車の修繕というところがあって、このうちの２番と３番の車の修繕費のところが、財産管理費で支出していたものが保険が入ってきたので財源が振替になったというふうな解釈ですけども、よろしいですか。

○上村委員長　総務課長。

○丸橋総務課長　そのとおりでございます。

○上村委員長　遠山副委員長。

○遠山副委員長　分かりました。これからのお願いですけども、入のところでタブレットの説明があるんですけども、ここに付記でも書いておいてもらえたら、出のほうの修繕費、これで財源を替えますというふうに書いてもらえたら、今の質問はしなくてよかったのかなと思いますので、入と出がリンクすることになると思うので、その辺の付記をお願いしたいと思いますけど、これは答弁結構なので、次の要望として申し上げておきます。

次、お願いします。

○上村委員長　総務課長。

○丸橋総務課長　それでは、補正予算書の19ページにございます、中段にございます避難所生

活環境改善事業費の中で、経緯の理由の質問でございます。今回、この整備に至った経緯でございますが、災害発生時の対策といたしまして、担当課といたしましては今まで非常用トイレのトイレ備品の備蓄、あと、パーティション、段ボールベッドといった資機材の整備を進めておりました。しかし、能登半島での災害派遣を通して、避難所における温かい食事の提供が被災者の食事確保だけでなく心のケアにもつながると感じまして、備蓄食料の整備ではなく､食事を作ることのできる環境整備につきましても重要であると考えておりましたが、今回の地震でトイレ環境が深刻な問題となっておりましたので、まずこの部分に整備をさせていただいておりました。そんな中、国から通知がありまして、交付金、町の財源としてはかなりいい財源でありましたので、この交付金を活用して整備したいという考えの下、予算の計上をさせていただいたという部分でございます。

○上村委員長　遠山副委員長。

○遠山副委員長　ご説明ありがとうございました。今ご案内のとおり、内容を見ますと、今回はイメージは温かい食事を提供するというものに重点を置いた補正予算だということは見るからに明らかだなというふうに感じました。今まで今課長が言われましたとおり、トイレとかそういうものの備蓄から、今回はそれプラス穴水町等の教訓も得まして、温かいものを提供するための補正を以前からやりたいとは思っていたと。思っていたけれどもなかなか財源が足りなかったところ、去年の年末の補正予算の計上の中で、新しい地方創生交付金が支給された。これでメニューが使えるということで今回補正予算を計上したと。というのは、大きい事業だと思うんです。交付金がありますけども、一般財源1,000万拠出しますんでね。なんですけども、じゃ、何で補正でやるのかということを考えると、今までやりたかった温かい食事の提供、ただ財源が手当てできなかったのに、この交付金が来たから、今回それで活用をしたという、そういう認識だと思いますが、改めてその形でよろしいですか。

○上村委員長　総務課長。

○丸橋総務課長　そのとおりでございます。

○上村委員長　遠山副委員長。

○遠山副委員長　災害被災者に寄り添う施策の一環として大変評価ができるというふうに思います。ありがとうございます。

　では、次に設置場所のところで４か所の学校が避難所になっているので、そこに備えるということなんですが、防災倉庫、多分３メートルぐらいのものなのかなというふうに思うんですが、大きさはともかくとしまして、それを設置するということで、先ほど話をしました

が、二中がこれから廃校になります。廃校になるけれども、あそこは防災拠点としての位置づけということで設置をする、そういう背景だと思うんですが、その辺りについての確認をお願いできますか。

○上村委員長　総務課長。

○丸橋総務課長　二中の跡地利用につきましては、防災拠点や生涯学習、社会体育関係やコミュニティーの場などの利活用というふうな形で町のほうで方針が決まっておりますので、上牧第二中学校のほうに､今回この整備をしたいというふうに考えているところでございます。

○上村委員長　遠山副委員長。

○遠山副委員長　今しっかり答弁いただくのが大変大きくて、二中の跡地利用についてはいろいろな議論といいますか、いろいろな熱といいますか、いろいろな思いといいますか、いろいろな考え方があって、いろんな提案がこれからも出てくると思うんですが、町の方針としては、率直に申し上げまして、今度新しい町長が誕生して新しい組織になったとしても、あの二中の跡地は少なくとも、今答弁いただきました防災拠点としての活用をするということについての位置づけの方針は変わりがないという形で今宣言をいただいたと思うんですが、その辺りだけいま一度確認したいんですが、いかがですか。

○上村委員長　総務課長。

○丸橋総務課長　そのとおりでございます。

○上村委員長　遠山副委員長。

○遠山副委員長　分かりました。その一環での今回、防災備蓄を二中のところにも設置をすると。旧二中と言ってはいけない。今の二中の生徒たちがまだいらっしゃいますのでね。そこで設置をするということで認識をしたので、こちらについては理解ができました。

以上です。ありがとうございました。

○上村委員長　ほかにございませんか。

（「なし」と言う者あり）

○上村委員長　これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

討論はございませんか。

（「討論なし」と言う者あり）

○上村委員長　討論なしと認めます。

これから採決いたします。

本案を原案のとおり可決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○上村委員長　ご異議なしと認めます。

したがって、本案は原案どおり可決すべきものと決定いたしました。

議第24号　令和６年度上牧町住宅新築資金等貸付事業特別会計補正予算（第２回）について、これを議題といたします。

提案理由の説明は終わっておりますので、これから質疑を行います。

質疑はございませんか。

（「質疑なし」と言う者あり）

○上村委員長　質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

討論はございませんか。

（「討論なし」と言う者あり）

○上村委員長　討論なしと認めます。

これから採決いたします。

本案を原案のとおり可決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○上村委員長　ご異議なしと認めます。

したがって、本案は原案どおり可決すべきものと決定いたしました。

以上で、本委員会に付託されました議案は全て終了いたしました。

理事者側より挨拶をお願いいたします。

今中町長。

○今中町長　全議案可決すべきものとご決定を頂き、ありがとうございます。また、本会議でも議決を頂きますようお願いを申し上げまして、お礼のご挨拶にさせていただきます。ありがとうございました。

○上村委員長　これをもちまして総務建設委員会を閉会いたします。皆様、ご苦労さまでした。

閉会　午前１１時４４分

上牧町議会委員会条例第２７条第１項の規定により署名する。

総務建設委員長　　上　村　哲　也

予算特別委員会会議録

１．日　　時　　令和７年３月６日（木）　午前１０時

１．場　　所　　３階委員会室

１．協議事項　　議第26号　令和７年度上牧町一般会計予算について

議第27号　令和７年度上牧町国民健康保険特別会計予算について

議第28号　令和７年度上牧町後期高齢者医療特別会計予算について

議第29号　令和７年度上牧町介護保険特別会計予算について

議第30号　令和７年度上牧町住宅新築資金等貸付事業特別会計予算について

議第31号　令和７年度上牧町下水道事業会計予算について

１．出席委員	委員長	服部　公英	副委員長	石丸　典子
	委員	氏原　賢一	竹中　亮造	安中　　和
		康村　昌史		
	議長	牧浦　秀俊		
１．理事者	町長	今中　富夫	教育長	松浦　教雄
	総務部長	中川　恵友	都市環境部長	吉川　昭仁
	住民生活部長	山下　純司	健康福祉部長	寺口万佐代
	教育部長	松井　良明	総務部理事	髙木　真之
	健康福祉部理事	林　　栄子	総務課長	丸橋　秀行
	企画財政課長	中本　義雄	企画財政課長補佐	土井　教晴
	まちづくり推進課長	細川　夏人	建設環境課長	武安　康至
	上下水道課長	南浦　伸介	住民保険課長	和田　　暁
	税務課長	山本　敏光	福祉課長	俵本　大輔
	福祉課長補佐	福井　謙三	生き活き対策課長	杉分　　太
	こども未来課長	木下　優子	教育総務課長	辻村　　純
	社会教育課長	吉川信一郎	文化振興課長	野﨑　威志
	会計管理者	松田　志穂		
１．事務局	局長	金﨑　恭彦	書記	森本香寿美
	書記	横田　大樹	書記	林　　大貴

開会　午前１０時００分

○服部委員長　おはようございます。予算特別委員長の服部公英です。よろしくお願いいたします。今期限りで退任される今中町長のもとで予算委員長を務めることは、誠に光栄であり、身の引き締まる思いです。今回、中身の濃い審議に努めてまいりますので、皆さんの協力をお願いいたします。

それでは、定足数に達しておりますので、これより予算特別委員会を開会いたします。

初めに、理事者側より挨拶をお願いいたします。

今中町長。

○今中町長　皆さん、おはようございます。予算特別委員会に付託をされました議第26号、令和７年度上牧町一般会計予算について、議第27号、令和７年度上牧町国民健康保険特別会計予算について、議第28号、令和７年度上牧町後期高齢者医療特別会計予算について、議第29号、令和７年度上牧町介護保険特別会計予算について、議第30号、令和７年度上牧町住宅新築資金等貸付事業特別会計予算について、議第31号、令和７年度上牧町下水道事業会計予算について、いずれも活発なご審議を頂き、全議案可決すべきものと決定いただきますようお願いを申し上げまして、冒頭でのご挨拶にさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○服部委員長　本委員会に付託されました議案は、お手元に配付の次第のとおりです。順次審議してまいりますが、本日から３日間予算審議を願うわけですけれども、理事者側より大量の資料が提出されております。審議をスムーズに行えるようにという趣旨で提出されておられますので、どうか委員各位におかれましてはこういったことを十分お酌み取りいただき、審議いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

議第26号、令和７年度上牧町一般会計予算について、これを議題といたします。提案理由の説明は終わっておりますので、これから質疑を行います。一般会計につきましては、例年どおりに総括、続いて歳入、歳出と、順に行っていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

続きまして、審議の進め方ですが、質問項目を通告していただき、ページ数、款項目を示していただき、質問項目ごとに質問の要旨、何を聞きたいのか付け加えていただくと明確な答弁を頂けますので、よろしくお願いいたします。

まずは、総括について質疑はございませんか。

竹中委員。

○竹中委員　３番、竹中です。よろしくお願いします。

総括についてですけれども、当初予算案の概要のほうで質問させていただいてよろしいでしょうか。

○服部委員長　はい。

○竹中委員　当初予算案の概要版でご質問します。

まず、１ページをお願いします。予算の規模なんですけれども、令和７年度、115億の当初予算が組まれています。この１ページの下のグラフを見ていただきますと明らかなように、令和４年ぐらいから、４、５、６、７年と、毎年のように予算規模が拡大している。次年度に関しましては伸び率が11.5％であると。もちろん、町で計画してきました大型事業が重なっているということは百も承知で申し上げています。必要なところに必要な予算を充てるという基本的な考え方は私も同意するものです。しかしながら、一方で、このまま拡大を続けていけば、やがて、かなり厳しくなってくるのではないかということで、拡大傾向が続く予算に関しまして、健全性、それから持続性、その観点から今後の見通し、７年度を含めた先の見通しはどうなのか、これがまず１点目です。

それから、それと関連するんですけれども、６ページです。これは当然そうなってくると思うんですけれども、やはり町債が拡大している、11.3％の拡大で、これも大型事業、県のクリーンセンターだとか中学校新築だとか、それから驚いたのは照明のＬＥＤ化なんかもすごく大きな費用がかかっていますし、久渡古墳群の整備などもあります。これら全て、長期に渡って使っていく､住民が利益を得ていくものですので､町債の発行はもちろん妥当だし、それ以外に方法はないと思うんですけれども、これもかなり増えてきていますので、やっぱりどこかで上げどめしていく必要もあるんじゃないかなというふうに思っています。

例えばですけれども、久渡古墳群、この整備に関しましては、僕は本当に楽しみにしているんです。来年１億7,000万円の予算が組まれていますし、そのうちの5,300万が町債でいくということで、それはそれでいいと思うんですけれども、この事業１つとっても、まだ序の口ですよね。これから費用はかさんでいくと思いますので、かなり難しい財政運営が待っていると思いますので、戻りますけれども、健全性と持続性に関して心配はないかということで、回答をお願いしたいと思います。

以上です。

○服部委員長　総務部長。

○中川総務部長　それではご回答させていただきます。

１つ目の今後の見通しという部分で、予算が今年117億ということで、前年度の11.5％伸び

ているということでございますが、５年、６年、７年ぐらいからは、臨時的な建設事業、大型事業があるということ、先ほど委員からもお話ししていただきましたように、５年、６年あたりは山辺の建設負担金があるということでございました。６、７年におきましても、上牧新中学校の建設費用ということで、今年骨格予算となるんですが、やはり学校の、当初予算の概要にも示させていただいておりますように、学校の建築費用が大きく伸びたことによって予算規模が膨らんでいるということでございまして、今後におきましては、例年、中長期財政計画の中で毎年議会のとおりに説明をさせていただいておるところではございますが、ここにおきましても適切な時期に財産計画をつくらせていただいて、ご説明等もさせていただきたいと思っておりますが、今後、大きな事業をどうしていくかという部分もございますので、現状の課題の中では小学校３校をどうするのかということは、令和７年度に再度検討すると。あと、認定こども園であったりとかいうようなことも、今後少しずつ、まだ課題としては残っておる部分もございますので、そういうことを踏まえますと、一定限度、予算についてもあるのかなと。ただ、115億ですか、これぐらいの予算規模には多分ならないのかなと。一定程度落ち着いてくるのかなと思っているんですけど、ただ、そういう課題があるということなんで、その辺は十分考えながら財政運営に当たっていきたいと思っているところでございます。

もう１つの起債の部分につきましても、増えている部分につきましては、昨年度におきましても山辺が､当初予算ベースでいうと17億ぐらい起債を上げさせていただいておりますし、今年度におきましても学校の分の起債の借入れということになりますと、やはりこの分、大型事業をしますとやっぱり単年度で、それを財政上、事業できるかというと、やっぱりできませんし、なおかつ将来的な、施設等もございますので、やっぱり起債等も活用しながら、将来への負担も少しお願いをしながらしていくというのが財政的な考え方の１つであるというふうに考えておりますので、その辺につきましても、大きい事業がございませんでした起債についても、一定程度、借入れについても圧縮していけるのかなというふうには考えているところでございます。

○服部委員長　竹中委員。

○竹中委員　お聞きしておきます。

もう１つ懸念があるんですけれども、今回、骨格予算ということで、骨格でありながら、かなり伸びていると。新町長の就任も決まっていますので、さらには、そこに肉付けというんですか、新町長の政策予算もきっと出てくると思うんです。それが５月の臨時会なのか、

６月なのか僕には分かりませんけれども、やはり、非常に意欲的な政策を示しておられます。相当額の予算も必要になってくると思うんですけれども、増えるのは確実だと思うんです。今のところ額的には予想はできるんでしょうか。

○服部委員長　総務部長。

○中川総務部長　新しい町長ということですので、就任が３月23日以降ということなので、それ以降の、今言うてる肉付け、どういう事業をするのかというところまでのお話は一切できておりませんので、着任された以降、随時、追って町長からも指示があって、その中でどういう事業をしていくのかということで打合せをさせていただくことになるのかなと思うんですけど、一定限度、一部、今後補正予算を計上するというふうなことで、少し、学校の、新中学校に伴う備品であったり引っ越し費用というのが一部、まだ学校との打合せであったりというのができてない部分もありますので、そういった事業については補正予算で対応するということで、今現在考えておるところでございますので、肉付けというよりも、それ以外においても、少し、補正予算的な形状はあるのかなというふうには考えております。

○服部委員長　竹中委員。

○竹中委員　よく分かりました。僕が言いたいのは、新町長の新しい政策含めて、今回の115億と含めて、実質的には７年度予算かなというふうに思いましたので、そのことで、かなり大きな予算になりますので、今後の財政運営、やっぱり厳しいと思うんですよ、そのハンドリング。ですから、いろいろと考慮いただかなあかんと思うんですけれども、とにかくよろしくお願いします。

以上です。

○服部委員長　それでは、総括についてほかに質疑ございますか。

氏原委員。

○氏原委員　氏原でございます。引き続き総括のほうで質問させていただきます。

当初予算案の概要の６ページのところ、町債依存度22.5％、今年度を見れば健全とは言い難いんですけども、この間、ごみ処理施設とか中学校の建設は、住民にとっては必要な費用であることは理解しております。そして、この間携わってこられた、また、携わっておられる職員には本当によく頑張っているということを、敬意を表したいと思っております。

地方債の発行は、既存の行政サービスを維持していくためには必要不可欠なのは分かっているんですけども、持続可能な事業の継続をしていくためにも、財源の確保というのは重要だと考えております。2000年にオープンした温泉施設、利用者も多く、地元に根づいた温泉

の１つであったし、地域コミュニティの一部として役割も担ってきておりました。また、他府県からも入浴に来られるほど反響があったと記憶しております。

今月リニューアルオープンする温泉施設の利用者から、何とか入湯税を頂くことができないかなという調査研究を進めていただけたらなと思っております。今現在、上牧町の税条例の第141条から第149条まで、入湯税の項目が載っております。しかし、これまでの温泉施設では、きっと入湯税は支払われない形になっていると思います。総務省は１人１日150円を標準としており、上牧町も同じように150円としております。入湯税という言葉についてはもう定着しているので、利用者の理解も得られやすいのではないかなというふうに思っていることと、150円が高いのであれば、町で条例の変更もできるので、安くしてできないかなということ、この入湯税について上牧町の考えをお伺いしたいと、お願いします。

○服部委員長　住民生活部長。

○山下住民生活部長　それでは、入湯税につきまして簡単に説明させていただきます。入湯税につきましては目的税でございます。その使途は環境衛生施設の整備、鉱泉源の保護、管理施設の整備、消防施設、その他消防活動に必要な施設の整備、観光の振興に要する費用に充てることとされております。今ご質問の、リニューアルされる温泉施設の利用者から入湯税を頂くということでございますが、上牧町税条例におきまして、日帰りで温泉浴場に、1,000円未満の利用料金で入湯する者に入湯税を課さないとしておるところでございますので、今後、上牧町といたしましてはオープンされる温泉施設が1,000円以上の利用料金、または宿泊施設であれば課税を判断していきたいと考えているところでございます。

○服部委員長　氏原委員。

○氏原委員　その部分がありますけども、ほかの市町村を見た場合に、１日1,000円というのを取っ払っているところもあるんですね。そういった部分も含めて、今後、当然支払うのは入浴入力される方なんですけども、温泉施設がそれを納税するという事務的な部分も出てきますので、当然、相手があってのことですので、丁寧に進めていっていただければいいかなと考えております。

以上です。

○服部委員長　ほかに総括の質疑ございませんか。

康村委員。

○康村委員　10番、康村昌史です。私は総括というよりも、予算書の１ページのことと７ページのことで質問します。

令和７年度上牧町一般会計予算書の１ページ目です。令和７年度上牧町一般会計予算と、この中の第４条で、地方自治法第235条の３第２項の規定による一時借入金の借入れの最高額は30億円と定めるとなっております。今までずっと20億という記憶がありましたので、令和７年度で30億と、いきなり1.5倍に上げている、その辺の説明をお願いしたいと思います。

次に７ページ、第２表、債務負担行為なんですけれども、この中の財務書類作成支援業務委託料、令和８年度から令和10年度まで、それと、その一番下の都市計画マスタープラン及び立地適正化計画策定業務委託料、これは令和７年度にも予算計上されておるんですが、債務負担行為で長期間にわたって、この支援業務をつくり上げるという、その辺の理由について。また、この財務書類作成支援業務委託料とは何なのか。また、都市計画マスタープラン及び立地適正化計画策定業務というのは一体どういうことなのかを詳しく説明していただきたいと思います。

以上です。

○服部委員長　会計管理者。

○松田会計管理者　予算書１ページの、一時借入金の限度額の30億円について説明させていただきます。山辺・県北西部の広域環境建設負担金で約18億円、学校建設費用について、６年度の残金、前払いの後の残金約４億円、７年度の工事代の前払金の９億円が一時期に支払いの予定となっております。それについて、一時的に資金がショートする可能性がありますので、20億円から30億円に上げさせていただきました。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　よく分かりました。大型予算の支払いのための準備金ということでよろしいですね。

○服部委員長　会計管理者。

○松田会計管理者　そのとおりでございます。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　ありがとうございます。よく分かりました。

それでは、次をお願いいたします。

○服部委員長　企画財政課長。

○中本企画財政課長　それでは、財務書類作成支援業務のことについてでございます。

これにつきましては、新地方公会計制度、これに基づき、現金主義であります単式簿記を特徴とする現在の地方自治法の会計制度に対しまして、発生主義であります複式簿記の企業

会計の手法を導入いたしまして財務書類の作成をするものというふうになってございます。平成27年１月に固定資産税台帳の整理と、複式簿記の導入を前提といたしました財務書類の作成に関する統一的な基準、これが総務省から示されまして、平成28年度決算年度より、当基準による財務書類を作成することというふうになってございます。

本町におきましては、平成27年度決算から財務書類を作成しておりまして、作成に際しまして固定資産税台帳の更新であったり、複式仕訳などの専門的な知識、これを要することで、引き続き業務支援をしていただくというふうなもので、委託料というふうになってございます。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　この財務書類作成ということで、今、下水道は公会計ですね。これは、一般会計に対して公会計を導入する準備書類を作成するという考えでよろしいんでしょうか。

○服部委員長　企画財政課長補佐。

○土井企画財政課長補佐　こちらの財務書類につきましては、ふだんの会計につきましては単式簿記で、これまでどおり決算書を作成しまして、決算認定を頂くという流れなんですが、あくまで決算の補助書類という形で、毎年度公表するようにということで、ホームページに資料として掲載しているものになります。このたび、債務負担行為を組んで令和８年から10年まで上げさせていただいておりますのは、調達の際に複数年をまとめて一括で調達することによって、コストメリットを出したいという考えのもとから、このような債務負担行為の計上となっております。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　ちょっと勉強不足で申し訳ないのですけれども、この予算委員会、こういうのは単式簿記でずっと出してくると、けども、補助簿として公会計を導入した書類をホームページで公表しているという解釈でいいんですか。

○服部委員長　企画財政課長補佐。

○土井企画財政課長補佐　おっしゃるとおりです。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　ということは、いずれ、例えば令和10年度まで債務負担行為をやるということは、令和11年度ぐらいからは一般会計も公会計を導入できるかもしれないということ、導入したい、しなければならない、その辺はどうなんですか。

○服部委員長　企画財政課長補佐。

○土井企画財政課長補佐　令和10年度までというのは、財務会計システムの更新時期と合わせておりまして、現在のシステムに合わせた調達をしたい形になっておりますので、令和10年度としております。普段の単式簿記での予算決算というものは、これまでどおり、令和10年度以降変わるというものはございませんでして、現時点では10年度まで調達を行った後には、また次の調達をさせていただくという予定をしております。ですので、これまでどおり、今の時点で変わるというような予定はございません。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　やっぱり一般会計という規模が大きい中で、それを公会計に移すというのは大変な仕事やし、そんな簡単にはできないと思っているんで、けど、総務省の言う公会計をいずれは導入する目的があるんですか。その辺はどうなんですか。

○服部委員長　企画財政課長補佐。

○土井企画財政課長補佐　これまで単式簿記では見られなかった資産の部分を把握するという意味で、総務省から資料として公会計の財務書類をつくってくださいということですので、あくまで、現時点では資料という取扱いとなっております。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　最後なんですけれども、ホームページに掲示をされている財産目録等は、当然簿価で出ているというふうに、僕はまだそれを見ていないんですけれども、そのような解釈でよろしいんでしょうか。

○服部委員長　企画財政課長補佐。

○土井企画財政課長補佐　毎年度財務書類を作成させていただきまして、内容として公表しておりますので、よかったらご覧いただけますと幸いです。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　分かりました。それでは次をお願いいたします。

○服部委員長　まちづくり推進課長。

○細川まちづくり推進課長　予算書７のページ、都市計画マスタープラン及び立地適正化計画策定業務委託料について、どういったものかというご質問であったかと思います。資料、歳出の133ページを御覧いただければと思います。よろしいでしょうか。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　この133というのは令和７年度のことを書かれているので、私はこの債務負担行為を、７、８、９、３年にわたってこれをつくるという、その辺の事情説明というんですか、

大まかなことをまず説明していただければ。また、個別については個別のほうで聞かせていただきたいと思っていますけれども。

○服部委員長　まちづくり推進課長。

○細川まちづくり推進課長　その資料で、令和７年度についてはこういったことを行いますということで、資料を説明させていただいております。債務負担行為を組んだというのですが、どうしても、計画を策定するに当たりまして、単年で作成するには時間が足りないということで、長期的なスパンになりますので、７、８、９と債務負担行為を組ませていただいた形になっております。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　この都市計画マスタープラン及び立地適正化計画というのは、大体どういった内容のことを、非常に分かりにくいのですけれども。

なぜかといいますと、上牧町いうのはコンパクトな町がもう出来上がっているというんですか、面積は僅か６平方キロメートルですので、その中で居住地域を決めるとか、その辺がちょっと分からなくて、説明をお願いしたいと思います。

○服部委員長　まちづくり推進課長。

○細川まちづくり推進課長　それについてなんですけれども、コンパクトシティということで、上牧町はすごくコンパクトなまちですので、それだけにとらわれずに、昨今頻発している、激甚化する自然災害に対応する都市全体の防災とか減災施設等の検討を行うという、こういったことも加味されております。立地適正化計画の中にはこういったことも加味されておりますので、これを作成するに至ったということです。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　よく分かりました。ありがとうございます。私の質問は以上です。

○服部委員長　では、ほかに総括については、ないですね。

（「なし」と言う者あり）

○服部委員長　続きまして、歳入について質疑を行ってまいります。

質疑のある方。

竹中委員。

○竹中委員　そしたら、具体的に質問させていただきます。

予算書の歳入、９ページの款12、項３教育費負担金、それから節が小学校費負担金、多分これは給食のことだと思うんですけれども、小学校費負担金、中学校費負担金、幼稚園費負

担金の、それぞれ給食負担金のことでご質問します。

この給食負担金、いわゆる給食費だと思うんですけれども、それぞれ、小学校は約4,400万円、中学校2,500万円、幼稚園280万円となっていますけれども、家庭事情だとか、あるいは所得で、実質、既に無償化している家庭もたくさんあると思うんです。実質の無償化している割合ですね、これを今教えていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。これが１点です。

次のページをお願いします。11ページの社会教育使用料、これは13－５－２、社会教育使用料の体育施設についてご質問します。体育施設の使用料、344万円という使用料が見込まれていますけれども、それぞれ、体育館、プール、テニスコート、グラウンド等の内訳、これを教えていただきたいと思います。

それから前後しますが、同じページの上の住宅使用料滞納繰越分、この督促はどのような形で行っているのでしょうか。これは979万5,000円ありますけれども、どのような形で督促をし、収納していくのか、その方法を教えてください。

最後、23ページの17寄附金、寄附によるまちづくり条例に基づく寄附、いわゆるふるさと納税だと思いますけれども、これ1,800万円見込みを立てておられますけれども、年々、少しずつ成長していっているというのがこの数字で分かるんですけれども、その達成は十分見込めるのか、可能性はあるのか。かなり意欲的いいますか、野心的な数字だと思うんですけれども、その見通しについて説明してください。

以上です。

○服部委員長　教育総務課長。

○辻村教育総務課長　それでは、当初予算書９ページの小学校給食負担金と中学校給食負担金の免除の割合についてお答えさせていただきます。

準要保護に認定された方は全額免除で、特別支援学級に在籍している方で要件を満たされた方への免除というのは半額となっておりますので、今回、準要保護と特別支援の認定された方の人数をお答えさせていただきます。

まず、小学校に関しましては教員の数も含めた935名で積算しているんですけども、そのうち準要に認定されている方の数は113名、特支の奨励費の方は46名となっております。同じく中学校ですけれども、教員の数を含めて503名中、準要に認定されている方は68名、特支の方は12名の想定でございます。

○服部委員長　竹中委員。

○竹中委員　分かりました。ありがとうございます。

大体20％弱ぐらいは、子どもさんがそういうのを受けているということですね。これに関してはそれで結構です。ありがとうございました。

○服部委員長　まちづくり推進課長。

○細川まちづくり推進課長　そうしましたら予算書11ページ、住宅使用料の滞納繰越分の督促をどのように行っているかという質問であったかと思います。督促については従来の納期限を過ぎて、およそ１か月弱だった時点で督促を一度送らせていただいております。督促については１回きりなんですけれども、その後、それでも納付されない方については、年に数度催告状という形で送っております。

以上です。

○服部委員長　竹中委員。

○竹中委員　分かりました。結局は手紙、文書での通知のみですね。

○服部委員長　まちづくり推進課長。

○細川まちづくり推進課長　積極的というわけではないのですが、当然、住宅の見回り等に行くこともございます。そのときにご本人とお会いすることがあれば、お声がけさせていただくということもございます。

○服部委員長　竹中委員。

○竹中委員　大変つらい仕事やと思うんです。といっても、これは町の大事な施設を使ってもらっているわけですから、使用料、もういいよとは言えないと思うんです。やはり、いつまでたっても払ってもらえない人には、何らか、もう少し厳しいやり方も必要なんじゃないかなというふうには、聞いていて感じます。例えば、何年も払わないままにおられるという、そういう方もいらっしゃるんでしょうか。

○服部委員長　まちづくり推進課長。

○細川まちづくり推進課長　実際にはいらっしゃいます。

○服部委員長　竹中委員。

○竹中委員　言いづらいことを聞いているとは思うんですけれども、これはやはり、何らかの形で払っていただけるように、引き続き努力していただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

これに関しては以上です。

○服部委員長　社会教育課長。

○吉川社会教育課長　款13使用料及び手数料、項１使用料、目５の教育使用料の右の説明欄の社会教育使用料の体育施設の344万6,000円の内訳ということだったと思います。

まず、議会資料としましては歳入ナンバー25でお示しをしております。ちょっと細かくなってしまいますが、詳細の説明をさせていただきます。

第一体育館については全面、半面貸しとさせていただいております。全面につきましては1,000円掛ける354時間の35万4,000円、半面、550円の480時間、26万4,000円。第二体育館、全面1,000円の462時間の46万2,000円、半面、550円の788時間、43万3,400円。第二体育館の多目的室、これが300円掛ける312時間、９万3,600円。多目的室の空調でございます、120円掛ける247時間、２万9,640円。同じく第二体育館の和室が200円掛ける58時間の１万1,600円、和室の空調でございますが、40円の41時間、1,640円。

続いて、テニスコートでございます。第一テニスコート、300円掛ける925時間の27万7,500円。第二テニスコート、300円掛ける1,366時間、40万9,800円。第３テニスコート、300円掛ける2,840時間の85万2,000円。

続いて、町民プールでございます。町民プールは、町内の方、大人100円の1,030人の10万3,000円でございます。子どもが、50円掛ける1,220人の６万1,000円、町外の方は大人300円掛ける190人で５万7,000円。町外の子どもさんは200円掛ける180人で３万6,000円、合計344万6,180円の予算を組ませていただきました。

○服部委員長　竹中委員。

○竹中委員　グラウンドの使用料は取っていないということですか。

○服部委員長　社会教育課長。

○吉川社会教育課長　グラウンドは取っておりません。

○服部委員長　竹中委員。

○竹中委員　分かりました。すごく細かく説明していただきましたけども、これ、いずれ見直しの時期が必要なんじゃないかなというふうに思いながら聞いているんです。空調もつけた以上、使ってもらうにこしたことはないですので、使ってもらい、適当な冷暖房費も、使っている期間は加えて払っていただく。あるいは、施設によっては町内の方、町外の方、プールはそうされているみたいですけれども、それも含めて見直しをするというふうな形で、こんなにたくさん、体育施設の利用者が多くて、意外なほど、340万という、ちょっと少ないようにも思うんです。たくさんとったらそれはそれで住民から不満が出てくるかもわかりませんけれども、合理的な説明ができるものに関しましては負担いただいて、少しでも増えるよ

うにしていただいたらどうかなと思いながら聞きました。どうでしょうか。

○服部委員長　社会教育課長。

○吉川社会教育課長　使用料の見直しの件ですが、これは体育施設の使用料も含めて、設置後一度も使用料の改定はしておりませんので、町全体でこの使用料については見直しを、検討はさせていただこうとは考えております。

○服部委員長　総務部長。

○中川総務部長　今、社会教育課長から見直しについてということでご回答させていただきましたが、令和７年度で、今言う体育施設以外の施設についての使用料金等も併せて見直しをさせていただきまして、その結果、令和８年度で改正すべきものについては改正していきたいというふうに考えているところでございます。

○服部委員長　竹中委員。

○竹中委員　住民が使うものですから、基本的には安く、そして遠慮なく使ってもらえるような範囲内で見直ししていただけたらいいかなというふうに。特に冷暖房の件ありますので、一度も見直ししていないということでしたら、ぜひ、そのことも含めまして適正な値段を検討いただけたらと思いますので、よろしくお願いします。

これに関しては以上です。

○服部委員長　企画財政課長。

○中本企画財政課長　それでは、予算書の22、23ページにございます、寄附によるまちづくり条例に基づく寄附金1,800万円についてでございます。

このふるさと納税の返礼品制度につきましては、令和４年８月より本町におきまして事業をスタートさせていただいておるところでございます。この寄附の額につきましては、令和４年のスタート時点で667万円程度。令和５年度決算におきましては1,055万3,000円。令和６年度、これは２月末時点の数字にはなってくるんですけれども、この２月末時点で、今1,370万程度の寄附を頂いておるところでございます。数字的には年々増加傾向にあるというふうになってございまして、来年度、この利用される運営のサイトをもう１サイト追加させていただきまして、この事業を進めていきたいと今のところ考えておるところでございます。ですので、来年度の予算については1,800万円の予算を見込ませていただいておるところでございます。

○服部委員長　竹中委員。

○竹中委員　サイトの増加はそれでいいかなというふうに。もちろんサイトを増やす費用もそ

れなりにかかるわけですよね。返礼品のバリエーションはその後順調に増えているんですか。

○服部委員長　企画財政課長。

○中本企画財政課長　当初スタートいたしました時点では58品目からスタートさせていただいております。令和５年度では106品目、令和６年度におきましては143品目というふうな形で、返礼品についても増加してきておるというような状況でございます。

○服部委員長　竹中委員。

○竹中委員　上牧町の、少ない特産品のＰＲ効果、これは大きいといいますか、なると思うんですよ。たしか１年ぐらい前に質問させてもらったときは、イチゴが一番売れているんだというふうに説明を受けましたけれども、その後はいかがですか。

○服部委員長　企画財政課長。

○中本企画財政課長　当然、イチゴは今も人気がある返礼品となってございます。それとキャンプグッズのほうもよく出ている商品というような形になってございます。

○服部委員長　竹中委員。

○竹中委員　返礼品、特産品開発といいますか、それについてもされていると思うんですけれども、支援といいますか、より拡充していただきまして、順調に育っていくことを願っていますので、よろしくお願いします。

○服部委員長　歳入について、ほかにございませんか。

安中委員。

○安中委員　安中です。お願いいたします。

予算書の５ページ、１つだけですので、これでお願いしたいんですけれども、森林環境譲与税についてです。この５ページの森林環境譲与税は去年も質問させていただいたんですけれども、事業の内容が小学校５年生のクラスの林間学校へということで、大変にいい企画を立てておられるんですけども、そのほかの残額がどんどん積み立っているんですが、その部分の使い道を今年において考えておられますかというのを伺いたいです。

○服部委員長　まちづくり推進課長。

○細川まちづくり推進課長　森林環境譲与税の使途ということのご質問であったかと思います。

これにつきましては、基金を利用して令和３年度に片岡城跡付近の森林の所有者調査を行いました。今年度の予算におきましても、その所有者調査を踏まえて、所有者に対しての意向調査を行っております。今後、片岡城跡以外の上牧町内の山林についても同様の調査、意向調査を行っていく予定としております。

○服部委員長　安中委員。

○安中委員　ありがとうございます。意向調査というのは大体どのぐらいかかりますか。

○服部委員長　まちづくり推進課長。

○細川まちづくり推進課長　今年度行っている分については数か月でいけますので、今後、所有者調査も行っていかなあかんと思いますので、そこについては時間がかかるかと考えております。

○服部委員長　安中委員。

○安中委員　時間とお金はいかほどかかりますか。

○服部委員長　まちづくり推進課長。

○細川まちづくり推進課長　規模にもよるかと思いますので、それはまた、事業を行うときに見積り聴取等は考えております。

○服部委員長　安中委員。

○安中委員　これ、基金残高959万4,000円、随分たまってきていまして、片岡城跡の遺構のほうも随分お金が、いろんな方がいらっしゃるので、かかってきて、町のものにしていって、何かをしたいという目的があってされているんだと思うんですけれども､もっと違うような、こういう森林､私たちは1,000円ずつ毎年税金で払っていて､このお金がこれだけ残っているということなので、もうちょっと住民に還元できるようなことはないのかなと去年からずっと考えていたんですけども、例えば、この小学校５年生の子たちに、こういうふうにするようなものを、もう少し考えても、これだけお金があったら考えてもいいのかなと思ったんですけども、そのことについてはいかがですか。

○服部委員長　総務部長。

○中川総務部長　安中議員のご質問の回答でございますが、令和７年度当初予算の概要の39ページ、一番後ろに森林環境譲与税の使途ということで、表と、使う目的というふうに書かせていただきまして、今年度におきましては15万円が森林環境教育の推進と、その他を受けまして、今担当課長から説明がありました、一旦基金に積立てをさせていただきまして、今度事業するときに事業化ということで予算を出させていただき、この基金を活用していきたいと考えておりますので、目的としましてはここ、今のところに、６ですか、これに定めておられますので、今後また、今頂いたご意見等も踏まえまして、どういう事業ができるのかというのも考えていきたいとは思っているところでございます。

○服部委員長　安中委員。

○安中委員　分かりました。来年も同じことを質問しちゃうかもしれませんので、よろしくお願いいたします。ありがとうございます。

以上です。

○服部委員長　それでは、歳入において、ほかに質疑ございませんか。

康村委員。

○康村委員　10番、康村昌史です。さっきの安中議員の質問の、５ページの森林環境譲与税なんですけれども、片岡城跡、その辺を調べているということなんですけれども、聞きたいのはセブンの森という、王寺町も上牧町も協力してやるという、あの辺でこの森林環境譲与税を使うんじゃないかなと思って見ていたんですけれども、これに関してはどこで質問をしたらいいか分かりませんので、その辺のことを分かる範囲で教えていただければありがたいのですけれども。非常に里山は大事なことで、楽しみにしておるんですけれども、分かる範囲で結構ですけれども、お願いいたします。

○服部委員長　都市環境部長。

○吉川都市環境部長　今の質問でございますが、セブンの森の事業につきましては、ご存じのようにセブンーイレブン、上牧町、谷林業さんとか、いろいろなところと協働してあの山を整備していこうという事業でございます。今、森林環境譲与税と混乱しがちなんですが、これは別途整備していくという考えなので、一緒ではないと理解していただいたらいいと思います。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　分かりました。ありがとうございます。

○服部委員長　それでは、歳入について、ほかに質疑ございませんか。

石丸委員。

○石丸副委員長　おはようございます。石丸です。よろしくお願いいたします。

思いのほか早く回ってまいりました。それでは、令和７年度上牧町一般会計予算の質疑を行います。歳入から行います。

まず初めに、既に、さきの委員もおっしゃられましたけれども、令和７年度の当初予算は、一般会計予算の総額が約115億ということで、100億を超えるのは令和５年、６年、７年と、これで３回目になります。令和５年度におきましては第三セクター借換債がありましたので20億ほど上積みしていますけれども、骨格予算とはいえ、本当に大型予算です。

特徴は、大きな事業が、特に令和７年度においては新上牧中学校建設ということで、23億

というふうな事業が組まれており、大きな影響となっております。そのほかに特徴的なところは、普通建設事業が全体として多かったというところが大変特徴に見られます。

それと、今回の令和７年度の予算においては、政府においては、令和６年度の補正予算と一体的に経済財政運営を推進しているとされています。上牧町におきましても一般会計補正予算（第８回）、１月臨時議会で地方交付税の追加交付がありまして、地方交付税が約１億3,000万円増額されました。使途については、上牧町では財政調整基金に5,000万円、減債基金に約3,000万円ということで、基金に8,000万円積み立てられたというふうな特徴があります。それで、これらも含めて令和７年度予算がどのように使われたということでお聞きをしたいと思いますけれども、私は特に、今回骨格予算でありますけれども、令和７年度から新たに始まります県広域水道の関係の予算、それと山辺のところで行われるごみ処理の広域化に関する、この２点を特に重点的に、歳入歳出含めて、特にその辺を中心に聞きたいと思っております。よろしくお願いいたします。

それでは中身に入ります。予算書の中身ですけれども、歳入です。町税のところで、予算書４、５ページのところですけれども、町税の個人分、現年課税分においては、所得割で、令和６年度の予算に比べて約１億1,000万円の増額計上となっております。これの主な要因について説明をお願いしたいと思います。

それと２つ目は、町税４税における滞納繰越分です。町税、個人分、法人分、固定資産税、軽自動車税において、それぞれ滞納繰越分が計上されております。予算資料としてはナンバー９で示されておりますけれども、この滞納繰越分の収納率について、令和６年度決算に見込んでかなり低い率で見込まれておりますけれども、この根拠について説明をお願いしたいと思います。

次は、予算書８、９ページで、款13使用料及び手数料のところで、節が２文化センター使用料で678万8,000円の予算です。資料もナンバー15で出していただいているんですけれども、令和６年度の決算見込みの額がそのまま予算とされていますけれども、同額とした根拠について説明をお願いいたします。

次の項目です。10、11ページの同じく使用料及び手数料のところの、10ページの教育使用料のところで、体育施設の使用料で、先ほど竹中委員も質疑されましたけれども、予算額、体育施設使用料として344万6,000円ということで計上ですけれども、令和６年度より減額で見込まれていますけれども、町民体育館エアコン整備工事による影響等で、このような見積りでしょうか。工事の期間も合わせて予定をお聞かせください。

次は12、13ページですけれども、同じく手数料のところの清掃手数料です。13ページの一番上の清掃手数料ですけれども、家庭系一般廃棄物処理手数料のところですけれども、資料27のところで、義務外品引取手数料ということで新たに計上されているんですけれども、この内容の説明をお願いいたします。

その下ですけれども、事業系一般廃棄物処理手数料ということで、資料は歳入の28で出していただいておりますけれども、これ、予算計上は令和６年度とほぼ同じ予算額なんですけれども、注釈のところで、事業系一般廃棄物減量推定量を見込んでいるとされていますけれども、この根拠ですね、どのような減量が行われようとしているのかの説明をお願いいたします。

次は22、23ページの繰入金です。款18繰入金、繰入金の中の減債基金繰入金。3,298万9,000円ということで、これ、冒頭で言いましたように、１月の臨時議会で3,000万円積み立てられましたけれども、今回これを繰り入れるということですけれども、ちょっと出に関係してくるかと思いますけれども、この使途について説明をお願いいたします。

次のページにまたがりまして、第三セクター等改革推進債償還基金繰入金ということで、これも出に関係してきますが、併せて使途についての説明をお願いいたします。これで第三セクター等改革推進債、償還のための基金残高はなくなることになりますけれども、これらについても説明をお願いいたします。

次、28、29ページの雑入についてお聞きをいたします。雑入のところの29ページの説明欄の下から２番目です。奈良県広域水道企業団派遣職員給与負担金3,297万2,000円の説明をお願いいたします。

次は30、31ページのところですが、臨時財政対策債ということで、廃目となって令和７年度はゼロということになっております。この臨時財政対策債は地方交付税の代替措置ということで、地方交付税が、令和７年度は十分措置されているというふうな理解をしていいかと思いますけれども、この臨時財政対策債がゼロとなったのは、2001年にこの制度が創設以来初めてとなります。この状況について、地方交付税が十分措置されているというふうな理解でいいのかどうかを確認したいと思います。

以上の項目です。よろしくお願いいたします。

○服部委員長　石丸委員の通告が終わりましたが、ここで15分休憩を取りたいと思います。25分再開でお願いいたします。

休憩　午前１１時１０分

再開　午前１１時２５分

○服部委員長　それでは再開いたします。

税務課長。

○山本税務課長　それでは、予算書５ページ、款１町税、項１町民税、１個人分。個人町民税の現年度課税分の所得割の増額についてのご質問やったと思います。所得割の増額につきましては、昨年度、令和６年度当初予算に、定額減税の減収分9,000万円を含んでおりました。今年度につきましてはその分が入っておりませんので、9,000万円分が増額となったことが増の要因でございます。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　個人分、現年課税分の所得割が増額の要因となっているのは、令和６年度において定額減税があったためにこういう増額になっていると、主なものはそういうことですということですね。

○服部委員長　税務課長。

○山本税務課長　主な要因としましては、定額減税の9,000万円分が今年度につきましてはないということなので、9,000万円分が乗ったということが増の要因となっております。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　そのほかに、少し所得割が増えているということの理解をさせていただきます。ありがとうございます。

では、続いてお願いいたします。

○服部委員長　税務課長。

○山本税務課長　それでは、予算書５ページの滞納額の徴収、収納率の低下ということでのご質問やったと思います。資料が、歳入ナンバーの９ページに載っております。上から順次説明させていただきます。

町民税の個人分につきましては、令和７年度当初予算が532万9,000円に対しまして、対前年度と比較しまして148万8,000円の減となっております。率で21.8％の減となりました。調定額が2,131万8,224円、対前年度と比較して56万2,287円の減、率で2.6％の減となっております。収納率に関しては25％を見込んでおりました。

収納率の低下の原因といたしましては、大型滞納者が関係しておりまして、当初は国税に差し押えされていた方の分が、今年度につきましては入る予定やったんですが、そのまま国税に回されたというのが要因でございまして、その分の徴収率が低下したというのが主な要

因でございます。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　続いて、一通りお願いいたします。全体に全部下がっていますので、その要因についてお願いいたします。

○服部委員長　税務課長。

○山本税務課長　次に、町民税の法人分の滞納につきまして、令和７年度当初予算が10万円、対前年度と比較しまして５万円の減で、率としまして１％の減となりました。調定額が20万円、対前年度と比較して３万円の減、率で13％減となっております。収納率に関しては50％を見込んでおりました。これも28.3％の減となっておりますが、法人分に関しましては滞納額自体が低いもので、年度内には回収できる額やと思っているので、収納率が低くなっても徴収は可能な案件であると考えております。

固定資産税につきましては、令和７年度の当初予算が303万6,000円となっております。対前年度と比較いたしまして2,735万6,000円の減で、率で90％の減となりました。調定額が１億7,862万2,996円、対前年度と比較いたしまして2,579万5,091円の減で、率で12.6％の減となっております。収納率に関しては1.7％程度を見込んでおります。1.7％を見込んでおる要因といたしましては服部台の大型店舗、Ａ社、Ｂ社とあったんですが、Ａ社は昨年度、破産宣告の事件が解決、終了いたしましたので、その部分に関しましては解決いたしました。もう１つのＢ社の債権が残っている分が調定額に上がっておりますので､収納率としては1.7％と低くなったのが原因でございます。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　そこの大型店舗のＢ社の調定額というのは分かりますか。公表してよろしいですか。

○服部委員長　税務課長。

○山本税務課長　税額につきましては１億6,804万2,000円です。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　ありがとうございました。次、お願いいたします。

○服部委員長　税務課長。

○山本税務課長　続きまして軽自動車税の滞納にいかせていただきます。令和７年度の当初予算額は16万7,000円、対前年度と比較しまして12万5,000円の減で、率で42.8％の減となりました。調定額が111万5,800円、対前年度と比較して10万9,300円の増で、率で10.9％の増とな

っております。収納率に関しましては15％を見込んでおります。これも昨年度と比較しまして0.1％の増になっておりますが、いかんせん低いので、この理由といたしましては徴収困難事例の案件となっております。ざっくり言いますと、軽自動車とかを無車検で乗ってはるという形で、普通、２年に１回お支払いいただくんですが、今年度についてはそのまま長期にわたって乗っている方とか、原付もそうなんですが、ナンバープレートを外されたまま処理されたりとか、そういう部分で、滞納だけ残って現物がないとか、そういう部分で、かなり徴収困難事例に当たって収納率が低くなっているというのが要因ではないかと考えております。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　最後のところの軽自動車税のところだけお聞きするんですけども、町としての対応、どのような対応をされていますか。

○服部委員長　税務課長。

○山本税務課長　町といたしましては督促、催告、それを送らせていただいて、戸別訪問等に行かせていただいて、近隣でしたらご自宅の近くまで行って、実際に車等があるのかないのかという確認をさせていただいた上で、なければ本人さんに、原付でもなければ、本人に廃車届、盗難届等を出してくださいという啓発、それをさせていただいたり、軽自動車については本当に悪質な方もおられるので、車検を受けないで乗って、僕らとしては事故したときとかどうなるのかなというのが、はっきり言って怖いと思っているんですけども、そういう方が多々おられます。その方についても戸別訪問とかさせていただいて、あるかないかの調査はさせていただくようには努めさせていただきますが、いかんせん車は乗って出ていってはる方も多いんで、その辺も分からないというのも何件かはあるんで、できるだけ調査はさせていただいた上での啓発はさせていただいております。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　いろいろご苦労さまです。いろいろされていても率が上がってきてないというのは、相当大変なところが多いというふうな理解をさせていただいてよろしいですか。

○服部委員長　税務課長。

○山本税務課長　そのとおりでございます。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　分かりました。結構です。

次、お願いいたします。

○服部委員長　文化振興課長。

○野﨑文化振興課長　それでは、款13使用料及び手数料、項１使用料、目１総務使用料、節１文化センター使用料について説明させていただきます。資料は歳入ナンバーの15となっております。

委員の質問で、６年度の見込みと増額の根拠ということなんですけども、今現在、６年度の見込みからの分として、新規の分で相談等を受けてないので、見込みとして６年度の見込みと同額という形で計上しているところでございます。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　分かりました。使用者が増えてきているような傾向と理解していたんですけれども、令和５年度と比べると、使用料免除、町の事業等、免除が行われたのが令和６年度からですかね。

○服部委員長　文化振興課長。

○野﨑文化振興課長　６年度からでございます。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　また、今後の動向を見たいと思います。ありがとうございます。

○服部委員長　社会教育課長。

○吉川社会教育課長　予算書10、11ページでございます。款13使用料及び手数料、項、使用料、目５の教育使用料の節、社会教育使用料の説明事項の体育施設の使用料についてでございます。去年の当初予算の金額と、減った理由と、それと工事の完成見込みという質問であったと思います。

まず、去年の当初予算から減らしました部分については、議員おっしゃいました、出のほうでも当初のほうに上げさせていただいています､体育館の空調設備工事に伴う第一体育館、第二体育館を減らさせていただいたということで、見込みでさせていただいております。工事の終了につきましては、できるだけ早く工事の着手は予定をしておりますので、熱中症の危険な暑さになるまでには工事は完了させていただきたいと計画をしております。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　分かりました。ありがとうございます。

次、お願いいたします。

○服部委員長　建設環境課長。

○武安建設環境課長　それでは、予算書13ページ、議会資料歳入ナンバー27、ごみ処理手数料

のところの義務外費引取手数料の件でございますが、これにつきましては町で収集できないごみ。いわゆる家電４品目、特定家庭用機器でございますが、それにつきまして町で運搬を依頼された方に対して、運搬手数料として3,000円が必要になってきますので、その分の予算見積りをしているところでございます。基本的に家電４品目につきましては個人から小売店などで引き取っていただくようにお願いしているところでございますが、ただ、購入した小売業者が廃業であったりとか、小売店を利用できない場合、町のほうに運搬を依頼されるケースもあるかなと思いますので、そのために予算を組ませていただいております。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　これ１件としたのは、はっきり言って枠取り的なあれですね。言ったら引き取っていただけるというのではなくって、どうしてもない方のために、この手数料というのを１件3,000円ということで、枠取り的な感じで計上されているというふうな理解でよろしいですね。

○服部委員長　建設環境課長。

○武安建設環境課長　そのとおりでございます。実際のところ、実績としてはございませんので、一応の枠取りとして計上させていただいております。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　分かりました。ありがとうございます。

では次、資料28のところの手数料のところでお願いいたします。

○服部委員長　建設環境課長。

○武安建設環境課長　手数料の部分で、業者からの搬入量、減少分を差し引いて算出しているというところでございますが、事業系の予算の算出に当たりましては、過年度、過去３か年の平均値を基に算出させていただいているところなんですけども、ここの表に記載させていただいております令和３年、４年度まで、町内の排出業者が一般廃棄物として出しておられたんですけども、令和５年から自社で処分されるようになったというところから、今後この処理に関しては見込むことができないので、その分を差し引いた額で予算の算出をしているということでございます。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　事業系一般廃棄物を自社処理というのは、町に持込みではないということなんですね。他の施設で処理されるという理解でよろしいですか。

○服部委員長　建設環境課長。

○武安建設環境課長　そのとおりでございます。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　分かりました。ありがとうございます。

○服部委員長　企画財政課長。

○中本企画財政課長　それでは、予算書22、23ページにございます減債基金繰入金、それと24、25ページにございます第三セクター等改革推進債償還基金繰入金、こちらなんですけども、関連になってきますので、歳出の152、153ページの説明欄、元金のところにございます繰上償還元金、こちらでご説明させていただいたほうが分かりやすいかなと思いますので、そういった形でご説明させていただいてよろしいでしょうか。

○石丸副委員長　お願いいたします。

○中本企画財政課長　それではご説明させていただきます。

まず議会資料、出のナンバー201をご参照ください。今回、繰上償還の元金といたしまして3,360万円、こちらを計上させていただいております。これにつきましては繰上償還の第三セクター等改革推進債の繰上償還の分の予算計上となってございます。この財源といたしまして、令和６年度に減債基金に積立てを行いました普通交付税の再算定に伴う追加交付分、この分が3,189万円、それと旧土地開発公社からの引継ぎ土地の売却収入分、こちらが138万5,000円、これらを活用いたしまして繰上償還の分に活用させていただくというような形になってございます。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　歳出にわたって説明ありがとうございます。歳出の予算書のページは152、153のところで、繰上償還金ということで出されております。併せて見させていただきました。今後の財政運営について大変危惧しているところですけれども、議員懇談会等の中長期財政計画の中でも、今後、繰上償還等も考慮して財政運営を考えますということをおっしゃられていましたので、令和７年度において、こういう形で繰上償還が行われると。資料の歳出のナンバー201のところでは、事業の効果として、今の利率で仮定した場合の、残り13年６か月間の利子圧縮額合計が226万3,000円と書かれておりまして、令和８年度から令和20年度の元金への影響はマイナス248万8,000円というのが年額、令和20年度まで元金への影響ということで、こういう形でされるということで、しっかり対応されているんだなということが資料から見てとれました。説明ありがとうございました。

ただ、地方交付税で入ってきたものを減債基金に積み立てたということに関しては、地方

交付税は一般財源ですので、何にでも使える形を、財政調整基金であれば何でも使えるというところで、基金の中でもそうなんですけど、こういう形でせざるを得なかったというふうな理解をさせていただいてよろしいですか。

○服部委員長　企画財政課長。

○中本企画財政課長　前回と申しますか、この間の補正予算で計上させていただいた交付税の追加交付分に関しましてですけれども、これの、入ってくる財源といいますか、それを示させていただいておったんですけれども、その中で、臨時財政対策債と償還基金費として入ってくる部分がございます。それが3,189万円と。これにつきましては、令和７年度及び令和８年度の普通交付税から控除される、もう入ってこないという形になりますので、ですので減債基金に積ませていただいて、繰上償還の財源に活用させていただいておると。そのほかの部分は一般財源として基金に積立てをさせていただいたということになってございます。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　お聞きをしておきます。ありがとうございます。

それで、この基金が特に、第三セクター等改革推進債の償還基金というのはこれで使い果たすことになりますね。今後、土地を売却できたらここに積み上げるというものなんですけれども、これに対しての今後の見込み等はどうですか。

○服部委員長　企画財政課長。

○中本企画財政課長　今委員おっしゃいましたように、これについては旧土地開発公社の土地が売却された分をここに積み立てて、今後、繰上償還の財源として活用させていただくというものになってございます。引き続き土地の売却があった際には、ここの基金に積み立てをさせていただいて、また、繰上償還の財源として今後も活用させていただくというような形で進めてまいりたいと考えておるところでございます。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　分かりました。お聞きをしておきます。ありがとうございます。ここの部分は歳出のほうもお聞きしましたので、分かりました。

次、お願いいたします。雑入のところです。

○服部委員長　総務部理事。

○髙木総務部理事　それでは予算書29ページ、款20諸収入、項３雑入、目３雑入、節１雑入の奈良県広域水道企業団派遣職員給与負担金につきましてのご質問でございますけれども、これは職員の人数を述べさせていただいてよろしいでしょうか。派遣職員につきましては、職

員５名、会計年度任用職員１名の分でございます。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　合計で６人分。５人と１人、２人ですか。

○服部委員長　総務部理事。

○髙木総務部理事　合計６人分でございます。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　失礼いたしました。令和７年度から、今回の予算もそうですけれども、水道事業会計が廃止をされました。令和６年度予算においては水道事業における一般職の職員が11人､その中に会計年度任用職員２名を含むというふうな､令和６年度の予算はそうでした。そのほかの職員の給与についてはどこで対応されていますか。

○服部委員長　総務部理事。

○髙木総務部理事　今お尋ねの、そのほかの職員の給与につきましては下水道事業会計で対応させていただいております。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　これ、水道事業全般のとこになってきますので、担当が代わるかもわかりませんけれども、再質問のところでどうしても触れておきたい項目がありますので、質疑をさせいただきます。今回の議会で、文教厚生委員会で、議第２号で奈良県広域水道企業団への統合に伴う関係条例の整理に関する条例についてということで、上牧町職員定数条例の一部改正などを含む８本の条例の変更がありました。改正と廃止等があったんですけれども、この中で、私は今後、上牧町における水道事業に携わる職員の身分と職員数がどうなるかというのが大変疑問に思っているところです。水道事業企業団の方針では、標準化、効率化を図り、適正な規模を目指すとして、令和16年度までにエリアを５エリアに集約化するなどと言われておりますので、上牧町の水道事業を担う職員が今後どうなるかというところを大変心配します。それでまず、職員の身分と職員数は今後どうなるのかということをまずお聞きします。今の企業団からの派遣職員の給与費については６人分が入ってくるということですけれども、この身分と職員数について、分かっている状況でお知らせをしていただきたいと思います。

２つ目は、上牧町の水道事業給水条例も廃止となりました。もともとあったこの給水条例には届出の義務として、使用の開始であるとか変更などの届出が必要であるというふうになっています。この辺で、どうなるのか大変心配されるところですけれども、その点はいかが

ですか。

○服部委員長　上下水道課長。

○南浦上下水道課長　まず、職員の身分なんですけれども、当町の職員が企業団に派遣という形になりますので、身分については町の職員という形になってまいります。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　職員数はどうですか。当面、令和７年度はどうなりますか。

○服部委員長　上下水道課長。

○南浦上下水道課長　先ほど秘書人事から申し上げました、職員５名と会計任用１名の６人体制でスタートという形になってまいります。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　そうしたら６人が派遣されるということですか。４月からすぐ派遣されるわけですか。

○服部委員長　上下水道課長。

○南浦上下水道課長　従来の今の形はそのまま、事務所も今ある事務所で業務を行っていきます。その中で１名が本部に行く形になってまいります。町の職員が企業団に派遣という形になってまいりますので、業務の内容は今までどおり変わらないです。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　そうしたら、４月からは１名が本部に行かれるということで、実際の数は１人減ってくるという理解でよろしいですか。事務所というか、上下水道の建物はそのまま残るけれども、これは当面ですね。今後10年ぐらいは今のままでされると。その後、幾つかのエリアに集約化もあるというぐらいの、その辺の理解でよろしいですか。

○服部委員長　上下水道課長。

○南浦上下水道課長　そのとおりでございます。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　どちらにしても職員が１人減ると、上牧町での業務員が１人減るということなんですけれども、今でさえ職員が足りないというのはよく言われています。専門職が足りなくて、広域化で賄うということなんですけれども、もともと足りない同士が広域になっても技術者が不足しているということが言われていますけれども、上牧町では、やはり、町民の方や地域の実情をよく知っておられる職員が、これまで、いろんな水道施設に対する対応であるとか、漏水の対応をされてきたんですけれども、広域になるんですけれども、地元で

そういう対応ができる職員がいなくなるということに対しては大変心配でありますけれども、特に災害時の対応等も心配ですけれども、その辺は抜かりなくしていただけますか。当面、令和16年度までは今の状態でという計画なんですけど、それは、その分でよろしいですか。職員の補充等はないわけですね。

○服部委員長　上下水道課長。

○南浦上下水道課長　今の段階では、補充等は企業団も考えておられないと思います。当面、今の町の職員が残って住民対応を行っていきますので、今言われている、ほかの市町村の人が来るんではなしに、今の町の職員がそのまま残って業務に入りますので、その辺の対応は心配ないのかなと考えております。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　それでも１人減るということは事実ですよね。その分の業務がしっかりできるのかどうかというのは大変心配ですし、24時間体制で必要な業務だと思いますので、その辺は大変心配するところであります。ここの負担金のところで、入ってくるところで長々言いましたけれども、先日の文教の議案で質疑がなかったことに対して、今回ここで質疑させていただきました。

本当に、災害での３分・３日・３週間というふうな法則があるというのを先日見まして、酸素なしで耐えられるのが３分、水なしで耐えられるのが３日、食料なしで耐えられるのが３週間と言われていますので、本当に命を守る水と言われるところですけど、それはやっぱり、行政の仕事として一番大事なところですので、身近な自治体、上牧町がしっかり役割をせるように十分努めていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

長くなりましたけれども、この項目はこれで結構です。

○服部委員長　石丸委員の質疑中ですが、ここで休憩とし、再開は13時といたします。

休憩　午後　０時００分

再開　午後　１時００分

○服部委員長　それでは再開いたします。

午前に引き続きまして、石丸副委員長の質疑から行いたいと思います。

石丸委員。

○石丸副委員長　石丸です。午前に引き続いて、一般会計の歳入についての質疑ですけれども、最後に１項目通告したのが残っておりますので、再度質問の内容を述べさせていただきます。

予算書は30、31ページのところの、町債の中の臨時財政対策債についてです。今回、臨時

財政対策債はゼロということで、廃目というふうな説明であります。この臨時財政対策債は2001年に制度ができましたけれども、今回のように新規発行額がゼロというのは初めてです。これは、地方交付税の代替措置ということで、地方交付税の足らず分を臨時財政対策債という形で、これまで発行されてきました。令和７年度においては、地方交付税が十分措置されたというふうな理解をさせていただいたところですが、それの考え方でよろしいですか。

○服部委員長　企画財政課長。

○中本企画財政課長　今、石丸委員おっしゃいましたように、この臨時財政対策債につきましては、国のほうで地方公共団体に交付する地方交付税、こちらの財源不足に対処するために、その不足分の金額の一部を、一旦、地方公共団体で借入れを行い、賄うものとなっております。

今回、令和７年度地方財政計画におきまして、この臨時財政対策債につきましてはゼロというようなことが示されておるところでございます。ですので、委員おっしゃいましたように、この臨時財政対策債を発行しなくても、交付税で財源が賄われておるというようなことでございます。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　よく分かりました。お聞きをしておきます。ありがとうございました。

これで私の歳入に対する質疑は終わります。

○服部委員長　それでは、歳入についての質疑が終わりましたので、続いて歳出についての質疑を行います。歳出について質疑のある方。

竹中委員。

○竹中委員　予算書の59ページをお願いします。59ページの中ほど、諸証明書コンビニ交付事業費、住民保健課の分です。968万9,000円についての質問です。

まず、コンビニで証明書を発行するという事業、このサービスですけれども、大体、年間どれぐらいの方が利用しているのでしょうか。何件で何名ぐらいの方が使っているのか。そういうのが分かりませんのでね、それで、なぜ聞くかと言いましたら、上牧町、何度も出ていますようにコンパクトシティで、約６平方キロしかないと。役場か、あるいは出張所２か所でそのサービス、サービスというか当たり前のことですけれども、やっていますので、利用者が本当に少なかったらコンビニでやる必要があるのかどうか。これ、いいサービスやと思うんですよ。地域によってはね、広い場所だとか。だけれども、上牧町の場合は車で５分以内ぐらい、２か所の場所で発行を受けられますので、予算を考えていく場合、かなり大き

くなっています。丁寧なサービスということで足し算ばかり増やしていきますと、やがて大きなことになってしまいますけれども、どこかで、その必要性が低かったら引き算も考えなければならないんじゃないかなという、そういう気持ちで利用の様子を聞きます。

２つ目、同じページの一番下、59ページ、選挙啓発費。これは僕、逆にね、これ８万4,000円しか予算計上されていませんけれども、まるでスズメの涙で、投票率の非常に低い現実を考えましたら、もっと予算を取り、そして選挙に対する啓発を進めるべきではないかなというふうに、これについてはそう感じていますが、ご意見を求めたいと思います。

それから、続いて75ページをお願いします。これは、今までも何度か出てきたと思うんですけども、病児・病後児保育事業費です。これは2,600万円ぐらいの、相当額のお金を使っていますけれども、現在ケアを受けている方は何人おられるのか。かなりの金額がかかっていますので、サービスの水準を下げずに、ほかのやり方で節約できるところは節約するという発想はないものか、これもお答えいただきたいと思います。

続きまして99ページ。上の葛城地区清掃事務組合費2,347万9,000円の分ですけれども、私、この組合議員をしているんですけれども、これに関しましては相当額の町の負担がある。上牧町の水洗化率が既に97％ぐらいだというふうに聞いておりますので、そろそろ、水洗化率100％を目指して、可能ならここから抜けるということも考えてはどうかということでお聞きします。

続きまして109ページ。上の道路冠水防止対策事業8,500万円。これは、ついせんだっての大雨のときにちょっと見に行きました、服部台明星線の新しくできた交差点のあたり、水が膝ぐらいの高さまでたまっていました。一気に雨が降ったときです、以前から、今日傍聴の上村議員もよく言われていたことですけれども、ここは雨がきついときにはかなり深刻な状態になっていますので、実際にはどんな、こうやって予算を上げてもらっていますので、どんな事業を考えているか、プランがあるのでしたら教えてください。

それから121ページの一番下。このＧＩＧＡ構想の備品購入費、7,755万円ですか。これ多分、５年で更新の子どものタブレットだと思うんですけれども、これ自体はいいと思うんですよ。使い終わった、今まで子どもたちが使っていた分ですね、これをどうするのか。購入の際、下取りしてもらうのか。車なんかでしたら、新車買うとき中古車で下取りしてもらいますよね。下取りしてもらってこの額なんか、それともそれは入ってへんのかどうか、あるいは違う形で売却を検討しているのか、まだまだ、パソコンでもタブレットでも５年使ったぐらいではまだ使えると思うんです。この処置の方法を教えてください。

それから123ページ、フリースクール事業です。これは子どもたちの現状を考えますと、不登校の子どもたちが、やはり驚くほどの勢いで増えているんですね。そういう中での先進的取組として上牧町があるわけですけれども、これは引き続き頑張っていただきたいということで、今、何度か質問をさせてもらいましたけれども、最新の子どもさんの利用状況ですね。人数、これをお聞かせいただけたらと思います。要するに、不登校の子どもさんの数、そしてその中で、このフリースクールに通っている、利用している子どもさんの数、これを聞かせていただけたらと思います。

それから最後、153ページの公債費です。借金が、現実には非常に大きくなっていますので、元金もこれは10億ですか。それから利子負担も相当増えていると思います。このとおり8,000万ぐらいの利子負担があるわけですけれども、今後、金利の上昇ということも考えられますので、利子の負担ということは考慮されているのか、考慮されているのでしたらどのように考えているのか、町の考えをお聞かせいただけたらと思います。

以上です。

○服部委員長　住民保健課長。

○和田住民保険課長　それでは、ご質問いただきました諸証明書のコンビニ交付事業につきましてご説明させていただきたいと思います。こちら、資料で言いますと歳入の26番、開いていただいてよろしいでしょうか。

それでは、先ほど歳出でご質問いただきました費用につきまして、こちら、おっしゃっていただいたように、コンビニにあります機械から、マイナンバーカードを用いて、住民票及び印鑑証明書を取り出す仕組みを維持するための費用となっております。そして、ご質問にあります件数につきまして、歳入の各種証明書手数料収入で示させていただいております。こちらの住民課分の中で、戸籍住民票、印鑑証明、印鑑カード、そして最後にコンビニ交付とあるんですけれども、こちらが実際にコンビニで取られた方々の件数と費用を挙げさせていただいております。分析といいますか内容を申しますと、令和４年の時点では2,993件であったのが、令和５年で3,937件に増えております。そしてその後、これは決算見込みですけれども、要は６年度もほぼ同数3,900件程度を見込んでおります。

といいますのも、やはりマイナンバーカード取得のためのポイント事業がありました。やはりこの４年、５年を皮切りにマイナンバーカードを取得された方がたくさん増えまして、そして、逆にこれを見ていただくと左から２番目の住民票、これは住民課窓口で発行している件数なんですけども、こちらが6,069から5,182、5,215と減ってきておりますので、役場の

窓口へ行くよりもコンビニへ行ったほうが時間的にも、夜でも行けますし、金額も100円お安くさせていただいておりますので、当町としましてはコンビニ交付の利用につきましては、今後も伸びていくといいますか、維持する必要があるかなと考えております。

○服部委員長　竹中委員。

○竹中委員　よく分かりました。機能しているみたいですので、引き続きお願いします。また検討の時期があれば、また検討してください。

以上です。

○服部委員長　総務課長。

○丸橋総務課長　それでは、予算書59ページにございます選挙啓発費の中で、もっと啓発を進めてはどうかという質問でございます。選挙管理委員会では啓発ということで、政治や選挙の関心の低さを向上する目的といたしまして、小学生、中学生の児童、生徒の方々に、夏休みの課題といたしまして選挙の啓発ポスター等を作成させていただいて、小さい頃から関心を持っていただこうというふうに啓発をさせていただいております。そこに、今年度からなんですけれども、イベント、ペガサスフェスタでのことなんですけれども、小さな子どもさんに模擬投票所というのを設けさせていただきまして、そこでもまた小さいお子様方に関心を持っていただこうと考えて取り組んだところでございます。

○服部委員長　竹中委員。

○竹中委員　努力していただいている点はお聞きしておきます。ただ現実は、たしか２年前、僕らが初めて選挙を経験させてもらったときの投票率は48％ぐらいやったと思います。やはりどんなに少なくとも、半分以上の人が選挙に来てもらえるようにせなあかんのじゃないかなというふうに、50％は大きなデッドラインではないかなと僕は思うんです。していただいていることはよく分かりますけれども、さらに啓発をして、やはり、投票率のターゲットとなるようなパーセンテージも内々に持っていただいて、上がるように、上げるようにという取組をやっていただけたらと思いますので、よろしくお願いします。

○服部委員長　総務課長。

○丸橋総務課長　選挙管理委員会でも、投票率が悪い世代も研究をさせていただきまして、ファミリー層が若干、投票率が低いというふうに見受けられておりますので、ファミリー層の投票率向上をどうにかしていきたいというふうに研究もしながら、どういうのがいいかというのも取り組んでいるところです。

そこで、もう少し投票率を上げるということで、施設に入所されている方々の投票率も少

し低いということもございますので、まずは、この施設に入所されているところの投票率も上げるという取組も今考えているところでございます。

○服部委員長　竹中委員。

○竹中委員　それはそれでやっていただいたらと思います。あらゆる層に対して、年齢の高い人だとか若い人を含めまして、投票率が全般的に上がりますように、啓発事業、どうぞよろしくお願いします。

以上です。

○服部委員長　こども未来課長。

○木下こども未来課長　予算書75ページ、説明欄の病児・病後児保育事業についてでございます。資料は歳出のナンバー90でお出ししております。

まず、現在利用されているのが何人かということでございますが、「いちごルーム」と「ぞうさんのおうち」と「ぽっぽ」と３か所ございまして、いちごルームが１月末で２人、ぞうさんのおうちが１月末で12人、ぽっぽが１月末で111人でございます。

○服部委員長　竹中委員。

○竹中委員　その数字はこれに載っていますので、分かりました。何とかこの予算を縮減するような、そういうふうなお考えはないでしょうか。

○服部委員長　こども未来課長。

○木下こども未来課長　今年度の予算の2,655万2,000円のうち、いちごルームの負担金が2,544万5,000円で、それ以外のぞうさんのおうちとぽっぽが、合計で110万7,000円ということで、縮減というと、いちごルームの負担金のことかなと思うんですが、これが５町で連携して協定を結んで運営しているものでございますので、担当課の一存でここから抜けるとかいうのは難しいことになります。このことを含めて、今後考えていけたらなと思っております。

○服部委員長　竹中委員。

○竹中委員　たしか、ほかの方が聞かれた時も同じような説明だったと思うんです。いちごルームにお２人の利用者がおられて、かなり町の負担にもなっているということで、これはやはり課題やと思うんです。今後とも、何らかのいい方法を見つけてもらえますように検討していってください。もし何かありましたら言ってください。

○服部委員長　こども未来課長。

○木下こども未来課長　しっかり検討していきたいと思います。

○竹中委員　分かりました。聞いておきます。

次行ってください。

○服部委員長　建設環境課長。

○武安建設環境課長　それでは議会資料108－１、葛城地区清掃事務組合分担金の件についてでございます。先ほど議員ご指摘のとおり、水洗化率というものはかなり進んできているわけでございますが、しかしながら、やはり一定数、し尿の処理という部分も現状としては必要となっておりますので、現在のところは、やはり組合に入って処理していく方向で続けていかなければならないと考えております。水洗化率によって、また今後変わっていくという部分もあるとは思うんですけども、現状としてはそういう形で進めていきたいと考えております。

○服部委員長　竹中委員。

○竹中委員　現状がそうなんだというのは百も承知なんですけれども､最後残りました２.何%、その部分の水洗化というのはかなり、それだけ難しいんでしょうか、これをお願いします。

○服部委員長　建設環境課長。

○武安建設環境課長　その部分につきましては、下水道の普及の部分になってくると思いますので、申し訳ございません。私から回答はしにくい分野でございますので、また確認させていただきたいと思います。

○服部委員長　竹中委員。

○竹中委員　今答えてもらえる担当課の人はいてないんでしょうか。

○服部委員長　上下水道課長。

○南浦上下水道課長　水洗化率のことなんですが、現在、普及率が97.8%、水洗化率が94.88%という形になっています。啓発活動もホームページに載せたり、職員が接続されてない自宅に行って啓発活動をやっているんですが、資金が要ることなので、なかなか進んでいない状態があるのかなと考えます。

○服部委員長　竹中委員。

○竹中委員　水洗化をする場合、要するに自己負担分も大分要るということですか。

○服部委員長　上下水道課長。

○南浦上下水道課長　そのとおりでございます。

○服部委員長　竹中委員。

○竹中委員　難しい事情があるのは分かっています。さらに、もうここまで来たんだから、あと数%、水洗化が進みますように願っています。また、町の課題としまして取り組んでいた

だけたらと思いますので、よろしくお願いします。

○服部委員長　上下水道課長。

○南浦上下水道課長　少しでも水洗化率が上がるように取り組んでまいります。

○服部委員長　竹中委員。

○竹中委員　結構です。

○服部委員長　建設環境課長。

○武安建設環境課長　それでは、道路冠水防止対策工事でございます。歳出ナンバー129－１でございますが、今回、この工事に関しましては、既存の管の管渠の更生工事となっておりまして、服部台明星線の冠水対策工事とはまた違う内容になっておりますので、冠水対策については別の課で今検討していただいている中で、このルートの、この配水ルートも生かしていかなければならないというところで、検査の結果、この管がかなり老朽化しているということが分かりましたので、３か年かけて管渠の更生工事を実施するものでございます。

○服部委員長　竹中委員。

○竹中委員　そしたら、３年かけて工事をしましたら、当然大雨になったときの状況はもう把握してはると思うんですけれども、あれはかなり改善されるということですか。

○服部委員長　建設環境課長。

○武安建設環境課長　冠水の改善という部分ではなく、この改修工事につきましては、既存の管の、老朽化して、そういった陥没等、過去にこの付近でございましたので、それに対する管の更生工事となっております。この冠水の対策の改善については今別の課で検討していただいておりますので、その辺はまた違う形で考えていっていただいているところでございます。

○服部委員長　竹中委員。

○竹中委員　あの状況を見ましたら、かなりの喫緊の課題だと思うんですよ。車も現実には大雨であそこは通れなくなるという、あれ以上の雨が降るということもなきにしもあらずだと思いますので、他の課と言われましたけれども、一緒に課題解決してもらいますようにやってもらえたらと思いますので、よろしくお願いします。

○服部委員長　教育総務課長。

○辻村教育総務課長　それでは、予算書121ページの備品購入費の、ＧＩＧＡ第２期端末についてでございます。こちらは１人１台端末の５年の更新時期になりましたので更新するものでございますが、古い端末に関しましては、この県の共同調達の仕様書の中には回収も可能と

はなっておりますので、回収するのか、また、数台は予備機として残すということもあり得ると思うんですけれども、売却できるものは売却するというような、事例を調べながら進めてまいりたいと考えております。

○服部委員長　竹中委員。

○竹中委員　これ、相当数の数ですし、多分、５年前も7,000万、8,000万かかっていると思うんです。それをそのままフルに置いていても無駄を抱えているだけのことですから、できるだけ売却なり何なりをして、貴重な１つの財源にもなると思いますので、10分の１でも返ってきたらやっぱり大きいと思いますので、できるだけこれも意気に使っていただけたらと思いますので、どうでしょうか。

○服部委員長　教育総務課長。

○辻村教育総務課長　そのように進めてまいります。

○服部委員長　竹中委員。

○竹中委員　ぜひ、そのように取り組んでください。よろしくお願いします。

○服部委員長　教育総務課長。

○辻村教育総務課長　それでは、予算書123ページのフリースクールについてでございます。現在の不登校児童、生徒数でございますが、令和７年１月31日付で小学校は26名、中学校は36名でございます。30日以上の長期欠席者でございます。

○服部委員長　竹中委員。

○竹中委員　そのうち、フリースクールを利用している子どもさんの数をお願いします。

○服部委員長　教育総務課長。

○辻村教育総務課長　登録者数は11名ですけれども、皆さんが毎回来ているわけではないので、人によって利用頻度は変わってきますが、登録は11名でございます。

○服部委員長　竹中委員。

○竹中委員　11というのは小学校・中学校の合計ということですね。私もあそこへ勤めていたものですから、よく分かるんですけれども、小学校の子どもさん、中学校の子どもさんで学校へ行けなくなった子どもが、そしたらフリースクールやったら行けるわというのが、これが100％なわけないというのはもう本当によく分かります。ただ、そのうち、合計これ、どれぐらいですか、60人あまりの中の11人が登録をしている。これもすごく大事な数字やと思うんですよ。ぜひ、今後もこの事業を、末永く取り組んでいただきまして、できましたら、今は週３日でしたか、４日にしたりだとか、時間を増やしたりだとかいう形で定着してもらっ

たらというふうに思っていますので、よろしくお願いします。

そしたら、これは結構です。

○服部委員長　企画財政課長。

○中本企画財政課長　それでは、予算書152、153ページ。利子のところで、今後の金利の動向についてというようなご質問であったかと思います。この金利につきましては、昨今ニュースでも、金利上昇の流れが取り上げられているところでございまして、10年物の国債、これの金利を見ましても1.5％前後というふうなところにきておるという認識を持っておるところでございます。令和７年度予算では、借入れ条件にもよりますが、高いもので1.5％から1.8％程度の金利を見込んでおるところでございます。今後につきましては金利の動向、財政担当課としても非常に注視をしていく必要があるというふうな認識を持っておりますので、この金利の動向について、今後も注視をしながら財政運営を進めてまいりたいと考えているところではございます。

○服部委員長　竹中委員。

○竹中委員　今のところ、２％弱ぐらいということですよね。ニュースなんかでは、欧米では5、6％がもう当たり前で、多分、だんだん接近してくるというふうに、普通に考えたら予測されるんですけれども、仮に、金利が２倍になったりとか2.5倍になったりというふうになったら、負担も２倍なり2.5倍になるわけですから、ここは注視するというか用心しなければ、今予想している負担よりも、将来増えていく可能性があるわけですので、そちらの財政当局のほうがそれはもう考えておられることだと思うんですけれども、この利子の負担増については今後も考慮に入れて、財政運営を考えてもらえたらと思いますので、それについてはどうでしょうか。

○服部委員長　企画財政課長。

○中本企画財政課長　利子の負担分、今竹中委員おっしゃいましたとおりでございます。先ほど石丸委員の中で、そういう関連の、三セクの所管のところでも利子の削減というお話が出ておったかと思うんですけれども、先ほど答弁させていただきましたように、今後におきましても、そのときの売却と、あと剰余金等発生した場合、繰上償還を引き続き実施させていただき、あと可能な限りではございますが、償還期間及び据置期間、これを先延ばしにするのではなく、なるべくこれを縮減して、利子のさらなる斡旋に努めていきたいというふうに考えておるところでございます。

○服部委員長　竹中委員。

○竹中委員　そうですね。利子の利率の情勢もそうですし、元金の部分の、無限に大きくなっていっても負担ばかりになっていきますので、ぜひ、ここに関しましてはしっかり注視して、適切な対策を取ってもらったらというというふうに願っていますので、よろしくお願いします。

以上です。

○服部委員長　それでは、竹中委員の歳出の質疑は終わりましたので、ほかの議員で歳出の質疑のある方。

安中委員。

○安中委員　お願いします。予算書47ページのふるさと納税についてなんですけれども、このふるさと納税の令和６年分と７年分のかけ方というか、ちょっと私も分かりませんので、この内容の説明と、ふるさと納税業務委託料の内容の説明、それと去年と今年の金額の大きな違い、これを教えてください。よろしくお願いします。

２番目は、予算書53ページの諸費のところ、下の自治会振興費の７報償費、自治会長退職記念品代というのが4万4,000円計上していますけれども、これは一体何のことでしょうか、教えてください。

３番目は、予算書101ページ、有害鳥獣被害防除事業費の中で、この報償費とかいうところの内容なんですけど、タブレットの中にも書いてあるものの説明をお願いしたいんです。その中で１回3,000円という報償費があるんですけれども、このことについて伺いたいと思いますので、お願いいたします。

以上です。

○服部委員長　企画財政課長。

○中本企画財政課長　それでは、予算書46、47ページにございます、ふるさと納税推進事業費の委託料の増額、去年と比べて、予算額が増えておる理由についてというご質問でございます。

これにつきましては、昨年度、ふるさと納税の返礼品を報償費という形で組ませていただいておったんですけれども、今年度、この部分につきまして、委託料の中に、これはサイトの運営会社から請求が１つで来るということもございまして、委託料の中に返礼品の部分も含ませていただきましたので、その分に関して増えておるというようなことが主な要因でございます。

○服部委員長　安中委員。

○安中委員　このふるさと納税業務委託料の中身を教えていただけますか。

○服部委員長　企画財政課長。

○中本企画財政課長　まず、返礼品の調達、それと、その返礼品を発送させていただく送料、それと寄附を頂いた方に対しまして、寄附金受領証明書というものを発行させていただきます。その発行の料金、あとサイトの運営の部分、そういったものがこの委託料の中に含まれておるところでございます。

○服部委員長　安中委員。

○安中委員　分かりました。ありがとうございます。随分大きな金額だったので、教えていただいてありがとうございます。結構です。

○服部委員長　総務部理事。

○髙木総務部理事　予算書53ページの負担金補助及び交付金の自治会振興費の報償費についてのご質問でございます。これは各地区の自治会長、５年以上続けていただいた方に対して、その方が退任されるときに、記念品というか、そういった形で、ある一定の品物でございますが、感謝の気持ちも込めてお送りをさせていただいているものでございます。

○服部委員長　安中委員。

○安中委員　分かりました。知りませんでした。今まで、かつて何人かいらっしゃいますか。

○服部委員長　総務部理事。

○髙木総務部理事　昨年の例をとらせていただきましたら、２名の方が。

○服部委員長　安中委員。

○安中委員　分かりました。ありがとうございます。

○服部委員長　まちづくり推進課長。

○細川まちづくり推進課長　予算書101ページ、有害鳥獣被害防除事業費の報償費についてということで、１回3,000円ということですけども。これについては近隣の市町村の状況も踏まえながら、この金額を設定させていただいております。

○服部委員長　安中委員。

○安中委員　この3,000円というのは、一律、委員会なんかに出席するときに3,000円、皆さんにお支払いしているので､そのレベルで考えていらっしゃるのかなと思ったんですけれども、例えばイノシシを撃つとか云々かんぬんで、仕留めてしまうのには物すごく心労も、体力的にもあるのを身近で見ていますけれども、かなりすごいですよね。朝早くから行って、雪の中、道の足跡を見て、ウサギか何かを分別して、何頭いるかとか、そういうのをずっとやっ

て、わなを仕掛けて、わなの中の見回りをして、その中で仕留めたらいいけれども、仕留めたとしても、その方々とお話ししていたときに、やはり心労が結構あって、毎回高野山にお参りに行くんやとか、いろんなことが積み重なっているところはもっとご理解いただければなと思って、それを言わせていただきたかったのと、近隣と合わせて3,000円なら、仕方がないのかなと。これは上下しますし、皆さん、話合いの中でやっていることなので。でも、その中の話合いの中でも少しそういうところも考えていただければなと、今後のところでお願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

以上です。

○服部委員長　まちづくり推進課長。

○細川まちづくり推進課長　委員おっしゃる提案のとおり、そこは先進事例も参考にしながら検討させていただけたらと思います。

○安中委員　ありがとうございます。お願いします。

私からは以上です。

○服部委員長　ほかにございませんか。

氏原委員。

○氏原委員　私からは予算書91ページ、款、衛生費、項、保健衛生費、そして健康増進事業費の委託料、各種検査委託料、タブレットナンバー102の予算の積算についてがまず１点目。

もう１点目が、予算書の141ページ、款、教育費、項、社会教育費、そして目が公民館費の分で、タブレットナンバー191の、公民館等集会施設補修補助金についてのお金の流れについてお聞きしたいと思います。以上の２点でございます。

91ページの、委託料の各種検査委託料なんですけども、タブレットナンバー102に掲載されております、令和６年度の委託料見込みに対して令和７年度委託料が、当然、倍以上にはなっているんですけども、令和６年度の委託料と比べても、ちょっと差が目立ちますので、積算根拠を教えていただければと思って質問しました。

○服部委員長　健康福祉部理事。

○林健康福祉部理事　予算書91ページの各種検診委託料についてお答えさせていただきます。

上から順番に健康診査費、歯周疾患検診、肝炎ウイルス検診、骨密度検診とあるんですが、健康診査費というのは特定健診に代わるもので、保険のない方の部分でございます。この方は、今年度の見込みより倍ぐらいには取らせていただいたんですが、まず、保険のない方々は自分の健康問題を結構置き去りにされている方が多いので、そういう方々にきっちり健診

を受けていただいて、生活習慣なりを見直していただきたいと思っておりますので、今年よりも強めに呼びかけをさせていただけたらなと思っております。

次の歯周疾患検診でございますが、歯周疾患検診は平成８年からずっとやらせていただいているんですが、すごく少なく推移をしてきておりました。ただ今年、先生方、各医院に任せておりますが、先生方がすごく頑張っていらっしゃいますので、ちょっと予算的にも冷や冷やする部分がございました。そういうことがありましたので、倍ぐらいの増額を考えております。

肝炎ウイルスにつきましては､対象者はだんだん減ってきているんですが､やはりこれも、ＣＭで流れていますとおり大変大事な部分でございます。啓発をまた頑張っていきたいと思っております。

それと最後に、一番額の乖離しているのが骨密度検診でございますが、骨密度検診につきましては現在、集団検診、ペガサスフェスタ等で、昔は集団検診をやっておりまして、今年は別立てで集団検診をやっていたんですが、超音波の検診でございます。やはり超音波の検査よりもＤＥＸＡ法といいまして、レントゲン検査で骨密度と骨質をきっちり見ていただきたいということで、検診のやり方を変えさせていただきたいと思っております。そこで、個別に個別健診に切り替えたくてこの検診代になったところでございます。

以上でございます。

○服部委員長　氏原委員。

○氏原委員　手厚く住民を守っていただきありがとうございます。よく分かりました。ありがとうございます。

それでは続きまして、公民館の補修に関してのお金の流れ、自治会と上牧町とで、順番に言ってもらえればありがたいです。

○服部委員長　文化振興課長。

○野﨑文化振興課長　それではお金の流れ、説明させてもらいます。まず今、予算計上しておりますので、新年度になりまして、補助金の交付申請というのをまず出していただきます。出していただいたら、今度交付決定というのを町から出させていただきます。その後工事をされて、事業報告書というのを頂いて、補助金の確定通知というのを出させていただいて、請求書の通知を出させていただいて、口座に振り込ませてもらうという流れになります。

○服部委員長　氏原委員。

○氏原委員　そうしましたら今回､２つの公民館ございますけども､いずれも100万円ですので、

100万円の請求書を上牧町に、自治会は請求したらその100万円が入ってくると。いわば、自治会はかかった費用を業者に支払うのが先なのか後なのか、立替え払いなのか。それはまた、いろいろ違うということですかね。

○服部委員長　文化振興課長。

○野﨑文化振興課長　お金につきましては、一旦自治会で支払っていただいて、その後、今の分で補助金が100万円とか95万5,000円とかってあるんですけども、補助対象経費の、実際かかった分の金額を出していただいて、それに対しての100分の75ということで、補助額を支払わせてもらうという流れになります。

○服部委員長　氏原委員。

○氏原委員　そうしましたら、例えば、ここにある米山台自治会が、実際金額大きいですけども、実際に100万で収まったという領収書だったら75万円になるという理解でよろしいんでしょうか。

○服部委員長　文化振興課長。

○野﨑文化振興課長　そのようなケースというのはほとんどないと思うんですけど、減額になった場合については、実際の支払いに対しての部分になります。超えた分に関しては上限という形での決定をさせてもらっているので、そこから超えた部分に関しては自治会の負担ということになります。

○服部委員長　氏原委員。

○氏原委員　よく分かりました。ありがとうございます。

私からは以上でございます。

○服部委員長　ほかにございませんか。

康村委員。

○康村委員　10番、康村昌史です。令和７年度上牧町一般会計予算の歳出について質問させていただきます。

款２総務費、項１総務管理費、目１一般管理費、予算書の37ページの12委託料、上の委託料の採用試験問題委託料84万5,000円、それと高ストレス者等面接指導委託料５万円、ストレスチェック業務委託料、この辺について少し説明をお願いしたいと思います。

次に39ページです。款２総務費、項１総務管理費、目１一般管理費の一番上の委託料、財務書類作成支援業務委託料95万5,000円、午前中に質問した分の、今年度、７年度で行われる支援業務委託料、どういった内容なのかを教えていただきたいと思います。それからその下

の目３財産管理費の需用費の修繕料581万7,000円、これの説明をお願いします。

次に41ページです。目３、財産管理費の説明14の工事請負費です。ここの町有地管理工事250万円なんですが、資料、出の12なんですけれども、どんな工事を行うのかが書かれていないので、その辺を教えていただきたいと思います。それからその下の、18負担金補助及び交付金です。防火管理者資格取得支援助成金、ここでは１万6,000円なのですが、いろいろなところでこの防火管理者資格取得支援助成金が出ているんですけれども、この防火管理者というのは必ず必要なんですね、法律上。その辺がよく分からなくて、教えていただきたいと思います。

次に、47ページです。款２総務費、項１総務管理費、目４企画費です。そこの説明のふるさと納税推進事業費、先ほど安中委員が質問されたんですけれども、このふるさと納税推進事業費が、今年度寄附額の見込額のちょうど半分、900万円になっているんですが、この辺の説明をお願いしたいと思います。さきの安中委員のときの説明で、ふるさと納税業務委託料に報償費が振り替わったというのは分かりました。この900万円の根拠というんですか、その辺を詳しく教えていただきたいと思います。

次に53ページです。款２総務費、項１総務管理費、目９の11諸費、ここの説明欄の自治会振興費、この18番の自治会振興費助成金、資料は出の41、563万6,000円、これの説明をお願いしたいと思います。

次に65ページです。款３民生費、項１社会福祉費、目１社会福祉総務費の説明欄12の委託料。ここのほほ笑みサロン片岡管理業務委託料85万1,000円なんですけれども、資料出の45で、これの説明をお願いしたいと思います。

次に、71ページ、款３民生費です。項１社会福祉費、目３障害福祉費の委託料12、コミュニケーション支援事業委託料150万円、手話養成講座委託料40万円。これ資料が出ているんですけれども、71、72ですが、その資料を基に詳しく説明をお願いしたいと思います。

次に、その下の保健福祉センター運営費です。目４保健福祉センター運営費の保健福祉センター運営費需用費の修繕料184万5,000円、これの説明をお願いしたいと思います。

次に97ページ、款４衛生費、項２清掃費です。目２塵芥処理費の説明欄、再生資源集団回収事業費、建設環境課なんですけれども、再生資源集団回収助成金、この75万円、これは去年と同じだったと思うんですが、この辺の説明をお願いいたします。

次に98、99ページの款４衛生費、項２清掃費、目５農林商工業費、説明欄の一番最後の款５農林商工業費、目１農業委員会費です。説明欄の、農業委員会による情報収集等業務効率

化支援事業費20万9,000円、この辺の説明をお願いしたいと思います。目的等、それと一番下にありますデータ管理システムＭＤＭ利用料、この辺のことを教えていただきたいと思います。

次に、101ページです。款５農林商工業費、項１農業費、目３農業振興費です。説明欄の農業振興費、報償費の農政関係調査及び生産調整実施計画書作成等謝礼、これはどういったことをやるのか教えていただきたいと思います。

次に108、109ページ、款６土木費です。項２道路橋梁費、目１道路橋梁費です。その中の説明欄、道路環境改善事業費6,000万、この中の、その下委託料、道路照明詳細設計業務委託料700万円、それの工事請負費が5,300万円と、資料は130ページなんですけれども、資料を見ますと片岡台６号線いうんですか、工事が全然入っていないんですけれども、その辺の理由を教えていただきたいと思います。片岡台６号線という名前やったと思うんですが、資料の、ちょうど東西を走っている大きい道路なんですけれども、この辺、工事の対象外になっているようなので、その辺を教えていただきたいと思います。

次に111ページ、款６土木費、項３都市計画費、目１の都市計画総務費の都市計画等策定事業費、説明欄の都市計画等策定事業費、この委託料です。午前中の質問の債務負担行為のところで聞きましたが、今年度1,164万9,000円の委託料で、一体どのようなことをされるのか教えていただきたいと思います。

次に114、115ページです。款６土木費、項４住宅費の目２住宅対策費です。ここの説明欄の空家等対策事業費、12委託料の空き家相談窓口、空き家バンク支援業務委託料、この辺について、令和７年度ではどのように考えられているのかを教えていただきたいと思います。現在空き家は何件ほどあるのかも教えていただきたいと思います。

次に122ページ、123ページです。款８教育費、項１教育総務費の目２事務局費。さきの竹中議員が質問されたんですけれども、フリースクール事業費、その中の委託料、フリースクール運営委託料が前年度より88万2,000円の増となっていますが、その辺の説明をお願いしたいと思います。

最後です。144ページ、145ページの款８教育費、項５社会教育費、目６青少年健全育成推進事業費の説明欄です。学校地域パートナーシップ事業費、この中の報償費です。学校地域パートナーシップ事業コーディネーター謝礼、これが69万2,000円と、この辺の説明を詳しくお願いしたいと思います。

以上です。

○服部委員長　康村委員の通告が終わりました。

ここで休憩とし、再開は２時20分でお願いします。

休憩　午後　２時０５分

再開　午後　２時２０分

○服部委員長　それでは再開いたします。

康村委員。

○康村委員　それでは、まず採用試験問題委託料について説明をお願いいたします。

○服部委員長　総務部理事。

○髙木総務部理事　それでは、予算書37ページの採用試験問題委託料84万5,000円につきましてのご説明をさせていただきます。これは正規職員の新規採用職員の試験問題の業務を業者に委託をしておりますので、それの委託料ということでございます。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　ということは、業者が試験を受け持ってやっていただけるということで、その試験の内容というのは一体どういった内容の問題になるんですか。

○服部委員長　総務部理事。

○髙木総務部理事　受験される方の、初級、中級、上級という形で３つのランクに分かれておりまして、初級は高校卒、また高校卒見込み、そして中級は短大卒、短大卒見込み、上級は４年大学の卒業見込み､また卒業された方というふうに３つに分かれているんですけれども、その中で、おのおの試験会場に赴いていただきまして、パソコンで試験を受けていただくという仕組みになっております。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　詳しく聞きたいんですけれども、どういった試験内容なのかというのを住民から聞かれて、私が知らんので答えようがなくて。初級、中級、上級は分かりました。その試験というのは民間が委託されてやっているので、それは上牧町だけで開催されるんですか。あるいはほかの町も一緒にその試験を受けているんですか。その辺はどうなのか。

○服部委員長　総務部理事。

○髙木総務部理事　これは何か所かの試験会場がありまして、そこに赴いていただいて、ある一定期間の中で、希望する日、行ける日を選んでいただいて、その日に受けていただくという形になります。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　ということは複数の市町村の受験者が混じっているという理解でよろしいんですか。

○服部委員長　総務部理事。

○高木総務部理事　その可能性はもちろんございます。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　パソコンで受けると、本当にびっくりしました。紙ベースやと思っていたんですけれども、我々の世代では考えられないような時代なんですけれども。最後にお聞きしたいんですけれども、その受験資格というんですか、受験年齢というのはそれぞれ何歳とかを上牧町は決めてはるんですか。

○服部委員長　総務部理事。

○高木総務部理事　まず上級からでございますが、1992年、平成４年４月２日以降に生まれた方、そして中級ですが、1994年、平成６年４月２日以降に生まれた方。初級は1996年、平成８年４月２日以降に生まれた方と、受験の資格を設けております。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　ということは、もう上級に絞って、1992年４月以降に生まれた方ということ。

○服部委員長　総務部理事。

○高木総務部理事　上級の場合ですか。

○康村委員　はい。

○高木総務部理事　今申し上げましたように1992年４月２日以降に生まれた方。

○康村委員　1992年４月以降ということは分かりました。上限はあるんですか、ないんですか。例えば40歳までとか45歳、その辺を教えていただきたいと思います。

○服部委員長　総務部理事。

○高木総務部理事　例えば上級の場合でしたら、計算させていただきましたら34歳。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　中級と初級、ついでに教えていただきたいと思います。

○服部委員長　総務部理事。

○高木総務部理事　失礼いたしました。先ほどの上級は32歳です、訂正させていただきます。中級が30歳、そして初級が28歳です。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　よく分かりました。そこで昨今、人手不足で人材も不足しているという中で、こ

の間ですか、中国の若者の就職難のを見たんですけれども、日本もやはり人材の取り合いというんですか、それからこの上限というのが非常に厳しい年代になっていますねんけれど、上級が32歳までとか、これ、もっと上まで上げないと人材の確保いうのは難しいんじゃないかなと思うんですけど、その辺のことは全然、上牧町は考えていないのかというのだけ教えていただければ結構でございます。

○服部委員長　総務部理事。

○高木総務部理事　この募集の年齢を設定させていただくのには、やっぱり今現在の職員の、この年齢層が少ないとか多いとか、そういうことも換算させていただいて、長いスパンで考えなければいけませんので、だから、そういうことも考えつつこの年齢を設定させていただいているのが、１つの要件でございます。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　よく分かりました。ありがとうございます。この質問は終わります。

次に、高ストレス者等面接指導委託料、ストレスチェック業務委託料、これ、去年牧浦議長も質問されたと思うんですけれども、昨今、本当に休んでいる方も多いような感じするんですけれども、その辺のことも加味して説明だけお願いいたします。

○服部委員長　総務部理事。

○高木総務部理事　そうしたら、高ストレス者等面接指導委託料となっていますが、先にその下のストレスチェック業務委託料、こちらから先にご説明をさせていただきます。順を追って説明させていただきます。

まず、ストレスチェック業務委託料につきましては、職員の日常の業務に係るストレスの状況を確認するために50項目に及ぶ設問を、これをパソコンで回答していただくという形になっておりまして、その集約された結果をストレスの１つの判断の材料として、資料として送られてくるという形になっております。それの設問、そして集約、まとめの業務の委託をしております。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　分かりました。

○服部委員長　総務部理事。

○高木総務部理事　そうしたら、次の高ストレス者等面接指導委託料のご説明でございますけども、これは先ほどのストレス業務の結果が送られてきます。ストレスを感じられるという回答というか、結果がまいります。その中から何人という形で、うちから個別の面談を産業

医に受けていただくように推奨するわけでございます、皆さんが受けられるとは限っておりません。もちろんご自分のかかりつけのお医者さんもいらっしゃるでしょうし、そういった方に受けられる方もいらっしゃいますでしょうし、皆さんが皆さん受けられるとは限っていませんが、そのときの面談の指導委託料、産業医の委託料として５万円を計上させていただいております。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　よく分かりました。これは受ける場合、職員は全て無料でいけるんですね。

○服部委員長　総務部理事。

○髙木総務部理事　職員は無料でございます。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　分かりました。

○服部委員長　総務部理事。

○髙木総務部理事　康村委員、無料というのは職員個人のことですね。

○康村委員　そうです。

○髙木総務部理事　個人は無料でございます。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　ありがとうございます。よく分かりました。

それでは、次をお願いいたします。39ページの委託料、財務書類作成支援業務委託料です。

○服部委員長　企画財政課長。

○中本企画財政課長　それではご説明させていただきます。この委託料の委託内容についてというご質問であったかと思います。この委託の内容につきましては、まず、固定資産台帳の確認作業、それと決算整理仕分けの確認及び作成の作業、あと、連結団体を含む財務書類の作成、あと伝票データの確認作業というようなものが主な委託内容ということになっております。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　よく分かりました。それでは、次をお願いいたします。

○服部委員長　総務課長。

○丸橋総務課長　それでは予算書39ページにございます財産管理費の修繕料の内容でございます。資料につきましては歳出のナンバー９のほうで、内訳等をお示しさせていただいております。内容につきましては公用車の修理、備品の修理、維持補修などの修繕費でございます。

この部分につきましては優先順位をつけて計画的に行っております。運営などに支障のおそれのある部分などを主に修繕をするということで予算組みをさせていただいているというところでございます。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　分かりました。それでは、次をお願いいたします。

○服部委員長　総務課長。

○丸橋総務課長　それでは、続いて41ページにございます工事請負費の町有地管理工事の内容でございます。資料といたしましては歳出のナンバー12でお示しをさせていただいております。この部分につきましても町有地の適正な維持管理を継続するために実施するものでございまして、その部分で梅ヶ丘から金富へ向かう道路の斜面の樹木の伐採や草刈りなどをする予定の予算でございます。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　場所も分かりまして､仕事の内容も草刈りとか伐採ということでよろしいですね。

○服部委員長　総務課長。

○丸橋総務課長　そのとおりでございます。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　よく分かりました。それでは、次の防火管理者資格取得支援助成金というのがいろいろなところで出てくるんですけれども、この防火管理者というのが、法律で決まっているので私は必要だと思うんですけれども、必要じゃないと、公民館の管理上要らないとかいうような話も聞くので、その辺だけはっきりしていただきたいと思っているんですが、よろしくお願いします。

○服部委員長　総務課長。

○丸橋総務課長　この部分につきましては、消防法等で防火対象物の定義という部分がございます。その中で、集会室等でありましたら必要だという部分がございます。

委員がおっしゃっているように要らない施設もございます。その場合は定義の中で、収容人数とかをクリアしている施設につきましては、防火管理者等は設ける必要はないという部分がございます。今回、総務課の部分につきましては、収容人数が定義にはまりますので防火管理者が必要という部分でございます。

今回、この予算につきましては、総務課が担当している公民館、ゆりが丘コミュニティセンターなどの部分で自治会長様が防火管理者を取得されております。毎年代わられるという

部分がありますので、代わられた時に受講していただくための助成金という部分でございます。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　よく分かりました。ということは公民館、あるいは老人憩いの家等も含めて、集会施設で防火管理者が要るところと要らないところがあるという判断でよろしいんですか。

○服部委員長　総務課長。

○丸橋総務課長　そのとおりでございます。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　それを具体的に教えていただけるんですか。二十何件ほどの集会所があったと思うんですが、数が多いので、後で教えていただければいいです。すぐに言えますか。多過ぎますか。

○服部委員長　総務課長。

○丸橋総務課長　29施設ほどございますので、後で資料等をお示しさせていただければと思うんですが、どうでしょうか。

○服部委員長　分かりました。後で資料をお願いします。

総務課長。

○丸橋総務課長　それでは、後で資料を提出させていただきます。

○康村委員　それでは次です。47ページのふるさと納税推進事業費、これが900万と。予定の寄附額の半分にしているという、その辺のことを教えていただければと思います。

○服部委員長　企画財政課長。

○中本企画財政課長　これにつきましては、歳入で、寄附によるまちづくり条例に基づくということで1,800万、今回予算のほう計上させていただいております。この部分につきましては、ふるさと納税の事業を行うための必要経費というような形になっておりまして、この経費については、寄附額の５割以内というようなことが総務省から定められておりますので、そういったことで、寄附額1,800万に対しての半額の900万円を計上させていただいておるというところでございます。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　５割以内ということは分かりました。そして、返礼品の出している業者には寄附額の３割以内ということでよろしいんですか。

○服部委員長　企画財政課長。

○中本企画財政課長　返礼品についても、今委員おっしゃいましたとおり、寄附額の３割以内の範囲でということが定められております。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　ということは、いろんな必要な経費がかかる、それを寄附額に上乗せしなければならないという解釈でいいんですね。上乗せというのか、配送代とか、いろいろかかるのは、結局、返礼品をもらう方の負担になるという考えでよろしいんですか。

○服部委員長　企画財政課長。

○中本企画財政課長　この返礼品に係る、返礼品も含めまして、全ての経費について寄附額の５割以内に抑えなさいということでございます。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　よく分かりました。この質問はこれで終わります。

それでは、53ページの自治会振興費助成金563万6,000円、これの説明をお願いいたします。

○服部委員長　総務部理事。

○高木総務部理事　それでは予算書53ページ、負担金補助及び交付金の自治会振興費の中の、自治会振興費助成金563万6,000円についてのご説明をさせていただきます。昨年度の予算書から比較していただいて、今回増額になっておりますということで、ちょっと疑問に思われるところもあったと思いますけれども、これまで総務課が所管しておりました自治会防災事業の補助金というのがございまして、この補助金、１自治会につき10万円を最高限度に支給していた分なんですが、この補助金が令和７年度から、この所管が自治会担当の秘書人事課に移管いたしまして、その分がこの自治会振興費助成金という、これまでのところに上乗せになっているということでございます。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　よく分かりました。それではこの資料の、出の41なんですけれども、この41の事業概要を見させてもらったんですけれども、以前、10万円、総務課が担当していたときは防災備蓄品に限定されていたんですけれども、ここの事業概要、目的を見ますと、これは自治会で自由に使えると解釈してよろしいんですか。防災備蓄品に限定されないというふうに僕はとったんですけど、その辺はどうなるんですか。

○服部委員長　総務部理事。

○高木総務部理事　限定されないというのが正直なところでございます。ただ、限定されませんが、これまでの10万円以上になる。これまで、総務課の所管のときは10万円と決められて

いましたが、仮に、この資材を購入したいから15万円かかるということになったとします。そうしたらその中で、自治会振興費の中で10万円を超える分は、これまでの自治会の振興費、コミュニティに使っていただいていた分を、それにも充当していただけるという形で、幅は広くなったということの考え方も１つでございます。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　よく分かりました。縛りがあって使い勝手が悪いというふうな意見があったんで、それでこういうふうに対応されたというふうに認識してよろしいんですね。

○服部委員長　総務部理事。

○髙木総務部理事　縛りがあったというか、10万円を超える部分も、これからいろいろな資機材もそろえていかなきゃならないし、また自助・共助という形で、これから取組をしていただく中でいろいろ負担も出てくると思いますので、そういうことにもいろいろ、多種に使っていただけると、防災についてはということで、門戸が広くなったという形で考えていただいたらいいかなと思います。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　よく分かりました。というと、今までこの自治会振興費の助成金はいつも、何でしたか、予定の何かを提出していましたやんか、事業実績を最後に出して、振り込まれていたと。同じ手続でこの金額が振り込まれるということでよろしいんですな。

○服部委員長　総務部理事。

○髙木総務部理事　まず、これまで見積りみたいな計画書を出していただいて、それを一旦立て替えていただくという形になると思います。それで、後で清算をさせていただくと、実績に応じて清算をさせていただくという形になりますと思います。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　よく分かりました。それでは、次をお願いします。

○服部委員長　福祉課長。

○俵本福祉課長　65ページ、ほほ笑みサロン片岡管理業務委託料でございます。本業務は、ほほ笑みサロン片岡の屋外から入ることのできる休憩スペース及びトイレの開閉業務、そして、その開閉業務の前後に清掃、状況確認を行う業務でございまして、シルバー人材センターに業務委託を行っているものでございます。

１回の金額が1,040円、これは１時間の単価でもあります。それを朝、夜２回、年間365日業務を行っていただくもので、事務費として12％を含んだ委託料でございます。

以上でございます。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　資料の出の45ですね。この出の資料を見ていたんですけれども、これでよく分かりましたけれども、つまり、シルバー人材センターは、清掃及びドアの開閉をやっているんです。この時間内にやるということでよろしいんですか。

○服部委員長　福祉課長。

○俵本福祉課長　資料にお示ししている時間で業務をやっていただいているものでございます。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　ということは、これは一切ほほ笑みサロンの運営とかには関わっていない。あくまでもドアの開閉と清掃業務のみというふうに理解してよろしいんですか。

○服部委員長　福祉課長。

○俵本福祉課長　そのとおりでございます。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　それで、時給が1,040円で730時間、年間で85万304円という計算でよろしいんですね。

○服部委員長　福祉課長。

○俵本福祉課長　そのとおりでございます。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　ありがとうございます。これはほぼ毎日同じような方が、シルバー人材の方が行かれて、開けては掃除するというふうに理解していいんですね。

○服部委員長　福祉課長。

○俵本福祉課長　そのとおりです。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　ありがとうございます。よく分かりました。

それでは次、71ページのコミュニケーション支援事業委託料と手話養成講座委託料、この辺のことをよろしくお願いいたします。

○服部委員長　福祉課長。

○俵本福祉課長　71ページ、コミュニケーション支援事業委託料、また、手話養成講座委託料、出の資料72でございます。

コミュニケーション支援事業でございますけれども、耳が不自由な方であったりとか、言

語機能、音声機能の意思疎通を図ることに支障がある方に対する手話通訳者の派遣であったり、要約筆記者の派遣をする事業でございます。こちらにつきましては、奈良県聴覚障害者協会に、申請者から申出がありましたらお願いしている委託事業でございます。

それで、コミュニケーション支援事業の中に手話通訳手窓口設置事業というのがございまして、こちらにつきましては手話通訳者を保健福祉センターに設置して、聴覚障害者の方が日常生活上の各種相談、例えば、どこかから通知のはがきが来たけれども、聴覚障害者の方って、字を読むのが苦手な方もいらっしゃいますので、そういうはがきが来たときに、どういうことなのかという相談をしたりとか、身の回りの相談、また、福祉サービス利用のとき、一緒に説明を聞きたいときとか、通知があった場合に相談をしていただいたりする支援を週２回、社会福祉協議会に委託して実施している事業でございます。

あと、手話養成講座委託料、こちらの事業につきましては、手話の経験がない上牧町在住・在勤者を対象にして、入門編と基礎編を１年交互に開催して手話を覚えてもらう講座でございます。こちらにつきましては、令和７年度につきましては、令和６年度に入門編を10名受講されておりますので、こちらのほう、次の基礎編にその10名が、またステップアップして受講していただく形で、今検討しております。講座の運営につきましては社会福祉協議会に委託しているものでございます。

以上でございます。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　よく分かりました。このコミュニケーション支援事業委託料150万円、これは十分足りているんですか。お金がないから150万にしているのか、その辺だけ教えていただきたいと思います。

○服部委員長　福祉課長。

○俵本福祉課長　こちらの手話派遣につきましては、聾唖者の方が申込みされた分だけ予算として執行いたしますので、もし足らなければ補正予算でも組んで支障がないようにさせていただく予定にしておりますので、十分な支援ができると考えております。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　よく分かりました。次に、この手話養成講座委託料、初級と基礎編というふうに、それで40万円。これは10人に限定されていますけれども、これは予算の関係ですか。もっと申込者が多いとか、そういうのはどうなんですか。やはり手話言語条例が制定されて、住民の方も手話ということに対して、やはり理解を深めてもらわなければあかんと思うんですけ

れども、その辺だけ教えてください。

○服部委員長　福祉課長補佐。

○福井福祉課長補佐　この手話養成講座の定員なんですけども、以前は20名としておりましたが、手話養成講座の先生等の意見から、やはり10名ぐらいが一番教えやすく習得もいいというご意見も頂きながら、また、毎年10名以上の申し込みがなかったので、定員としては10名とさせていただいているんですが、今のところ10名以上を超える申し込みがあったことはございません。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　よく分かりました。では、次お願いします。

次は71ページ、その下の保険福祉センター運営費の需用費の中の修繕料184万5,000円なんですけど、これの説明を。

○服部委員長　福祉課長。

○俵本福祉課長　この修繕料でございますけれども、例えば保健福祉センターのトイレが故障したりとかいう部分の修繕料として毎年150万円、基礎的に組ませていただいている分に合わせて、令和７年度につきましては、貯水槽という水をためるところが、バルブが傷んでおりまして、業者からの指摘でその部分の修繕料34万5,000円を足した184万5,000円を予算計上させていただいておるところございます。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　この修繕料、トイレの修繕に150万円を充てている残りが貯水槽の分という、よく分かりましたんですけれども、１点。お聞きしたいんですけれども、この2000年会館、通称2000年会館、保健福祉センターですね。なぜ一般のトイレに温水洗浄便座がついてないのかというのが非常に不思議でならないんですけれども、庁舎のほとんどのところには今ついていますね。なぜ肝腎の保健福祉センターの一般のトイレに温水洗浄便座がないのか。非常に違和感を感じるといいますか、お尻に病を持っている方にとっては、本当に温水洗浄便座というのは大事なんですけれども、温水洗浄便座は汚いというのを、それは分かりますけど、必要な方には､使う方は使うんで､なぜつけないのかというのをお答え願いたいと思います。あるいは来年度にはつけていただけるかなという、その辺いかがですか。

○服部委員長　福祉課長。

○俵本福祉課長　今のところ、住民からの要望というのは聞いておりませんので、また要望がございましたら、今後検討したいと考えているところでございます。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　分かりました。それでは次をお願いいたします。

○服部委員長　建設環境課長。

○武安建設環境課長　それでは、予算書97ページ。議会資料歳出ナンバー106、再生資源集団回収助成金についてでございます。この助成金につきましては、再生資源集団回収を行った各種団体に支払うものであり、新聞、雑紙、段ボール等の再生資源に対して、廃品回収として出すことにより、ごみの減量化につながるため協力を頂いている各種団体の方々に対しまして、助成金を交付させていただいているものでございます。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　これは去年と同額の助成金ですか。

○服部委員長　建設環境課長。

○武安建設環境課長　前年度の予算額につきましては80万円予算計上させていただいているところでございますが、今回、予算計上させていただいているのが75万円となっております。理由としましては、年々、回収量のほうが少しずつ減ってきている現状がございますので、今回の予算計上となっております。減ってきている理由についてですが、１つとして考えられるのが､現在､古紙のドライブスルーなどが多く設置されているところもございますので、そちらに持っていっていただいている方々もいらっしゃるのではないかと考えております。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　ドライブスルーですか、よく分かりました。僕は逆に、この助成金が少な過ぎるんじゃないかなと思っているんですけど、その辺はいかがですか。この助成金、自治会活動の原資にもなるので、自治会としては当然、積極的に集めようとしておるんですけれども、いかんせん金額が低過ぎて、物価高騰の中で、なぜこの助成金が全然上がらないのかなという、その辺いかがですか。

○服部委員長　建設環境課長。

○武安建設環境課長　助成金に関しましては、現在、キロ１円という形で交付させていただいているところでございますが、なかなか、金額を上げるという部分に関しましては、今後また協議も必要になってくるのかなと。ただ、現在減少傾向にあるという部分もございますので、町としましては雑がみ等の啓発にも引き続き積極的に行いまして、回収増を目指していきたいと考えているところでございます。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　やはりモチベーションを上げるためにも、やはりこの助成金を増やしてもらった方が、自治会としても言いやすいと思います。モチベーションを上げるためにも、ごみの減量化等も考えれば、かえっていいんじゃないかなと思いますので、また検討のほう、よろしくお願いいたします。

それでは、次をお願いします。

○服部委員長　まちづくり推進課長。

○細川まちづくり推進課長　予算書99ページ、説明欄、農業委員会による情報収集と業務効率化支援事業費についてご説明させていただきます。

目的といたしましては、農業委員会が農地等の出し手、受け手の意向等を効率的に把握し、関係機関と情報共有するために、タブレットを利用し、農業委員会による情報収集等の業務効率化を図ることを目的としています。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　その情報収集で業務効率化を図ると。その情報収集、一体どのような内容の情報収集をされるんですか。お願いします。

○服部委員長　まちづくり推進課長。

○細川まちづくり推進課長　例えば農地の出し手、受け手の方の年齢とか耕作状況、後継者の有無、リタイアの状況、規模、集約化の意向、こういった情報をタブレットに入れて、精度の高い情報をつくっていくことを目的としています。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　つまり、そういった情報を収集することによって、今、後継者が足らないというのに対応していくための布石ですか。

○服部委員長　まちづくり推進課長。

○細川まちづくり推進課長　そのとおりでございます。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　よく分かりました。頑張ってください。

それでは、次お願いします。101ページの農業振興費です。

○服部委員長　まちづくり推進課長。

○細川まちづくり推進課長　予算書101ページ、説明欄の農業振興費の農政関係調査及び生産調整実施計画書作成等謝礼について、どういったことを目的としているかということですが、これについては、農地の作付状況の確認の協力や、関係機関への交付申請書、営農計画書等

の配布並びに会議の参加に対しての、農業支部の委員に対する報酬になっております。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　よく分かりました。次をお願いします。

○服部委員長　建設環境課長。

○武安建設環境課長　予算書109ページ、議会資料、歳出の130と131、道路照明に係る委託業務並びに工事の件でございます。先ほど質問のございました片岡台６号線の部分でございますが、この部分に関しましては現在委託業務ほうが完了しておりまして、今後また計画的に工事は進めていきたいと考えているところでございます。令和７年度に関しましては下牧高田線の工事に着手させていただきたいと、その後、令和８年度以降に進めていきたいと考えているところでございます。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　この資料、出の130ですね。この出の130を見たんですけれども、この赤い線が入っているところはもう工事に入ると。あくまでも設計業務だけですか。

○服部委員長　建設環境課長。

○武安建設環境課長　130に関しましては、今後工事を行うに当たって、一連の詳細設計業務ということでございますので、来年度の工事に関しましては下牧高田線、来年度の工事に着手するに当たっての詳細設計業務を130のほうでお示しさせていただいております。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　よく分かりました。僕はこの下の道路照明整備工事5,300万、これを使って赤線のとこをやると思ったんですが、そうじゃなくて、既に業務設計委託が終わっているところの工事に入ると。それが下牧高田線ということですか。

○服部委員長　建設環境課長。

○武安建設環境課長　その5,300万円が下牧高田線の設置に関する工事費用でございます。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　よく分かりました。次、お願いします。

○服部委員長　まちづくり推進課長。

○細川まちづくり推進課長　予算書111ページ、説明欄都市計画等策定事業費、都市計画マスタープラン並びに立地適正化計画策定業務委託料で、令和７年度はどのようなことを行うかというご質問だったと思います。資料の歳出133をご覧ください。資料の３番にお示しさせていただいているとおり、令和７年度では基礎調査及び基本方針の検討を行うこととしておりま

す。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　午前中にも言うたんですけれども、コンパクトシティ上牧やということで、そのときの課長の答弁が、減災・防災等も加味した都市計画マスタープランをつくっていかなければあかんという説明やったんですが、それはそのとおりでよろしいんでしょうか。

○服部委員長　まちづくり推進課長。

○細川まちづくり推進課長　防災・減災については、マスタープランというよりかは立地適正化計画に傾いているという形で考えていただけたらと思います。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　よく分かりました。都市計画マスタープラン、それと立地適正化計画策定業務、これは非常に大事な業務だと思っていますので、おいおい、要望があれば担当課に言おうかなと思っていますので、その辺はよろしいんでしょうか。あくまでも要望です。

○服部委員長　まちづくり推進課長。

○細川まちづくり推進課長　令和８年度以降、アンケート等も実施いたしますので、そのときに、一住民として要望していただけたらと思います。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　よく分かりました。それでは、次お願いします。

○服部委員長　まちづくり推進課長。

○細川まちづくり推進課長　予算書115ページ､説明欄です｡空き家等対策事業費の中の委託料、空き家相談窓口、空き家バンク支援業務委託料、７年度の内容というご質問だったかと思います。７年度につきましては、空き家の所有者や、その空き家への移住者に対する支援業務とか、あとは特定空家の立入調査の補助とかを行ってもらう内容としております。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　今現在、上牧町の空き家は増えているんですか。今現在何件あるんですか。

○服部委員長　まちづくり推進課長。

○細川まちづくり推進課長　担当課といたしましては令和３年度に空き家の調査を行いまして、そのときに64件ということで出ております。それ以降調査は行っておりませんので、今の段階ではこの数字でお答えさせていただけたらと思います。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　その64件というのはほとんど変わらず、そのまま空き家という解釈ですか。

○服部委員長　まちづくり推進課長。

○細川まちづくり推進課長　空家バンク通さずとも売れたりとかいうこともありますので、多少の増減はあるかと思います。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　その空き家の中で、特定空家に入っているのは何件あるんですか。

○服部委員長　まちづくり推進課長。

○細川まちづくり推進課長　今のところ２件でございます。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　その空き家の中で近隣に迷惑をかけているような物件は、特定空家以外にあるんですか。あれば教えてください。

○服部委員長　まちづくり推進課長。

○細川まちづくり推進課長　近隣の住民から草木が繁茂して迷惑を被っているというご相談はあります。そういった場合については所有者に対して適宜指導は行っておる次第でございます。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　よく分かりました。では、次お願いします。

○服部委員長　教育総務課長。

○辻村教育総務課長　それでは、予算書123ページのフリースクール事業費の運営委託料について説明させていただきます。令和６年度からの増額についてでございますが、主な要因は、運営スタッフの時給が上がったということでございます。

○康村委員　よく分かりました。それでは、次お願いします。

○服部委員長　社会教育課長。

○吉川社会教育課長　予算書144、145ページでございます。教育費、社会教育費の青少年健全育成推進事業費の右側、学校地域パートナーシップ事業費の報償費の学校地域パートナーシップ事業コーディネーター謝礼についてのご説明でございます。

　こちらについては、コーディネーターは各小・中学校、幼稚園におられる学校支援ボランティアの地域の方々と、学校との調整をしていただく方なんですけども、この方の時給1,200円に関して576時間働いていただくということで、69万2,000円でございます。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　ということは、小学校、中学校で今５件、幼稚園を入れて６件ですね。時給が1,200

円と。576時間というのは、この６件で終わるということですか。

○服部委員長　社会教育課長。

○吉川社会教育課長　まず、コーディネーターは小・中学校、幼稚園と、あと統括コーディネーターという方が経験の豊富な方がおられまして、その方々の各それぞれの時間。例えば小学校でありましたら96時間とかという試算をさせていただいた時給の合計でございます。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　ということは、例えば上小のコーディネーターは96時間掛ける1,200円、それを渡すだけですか。

○服部委員長　社会教育課長。

○吉川社会教育課長　これは、あくまでも去年の実績を踏まえて、96時間全て渡すのではなくて、働いていただいた分だけ、時給1,200円を掛けてお支払いをさせてもらいます。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　よく分かりました。この学校地域パートナーシップ事業、このコーディネーター、見ていましたら本当に学校支援ボランティア、高齢者の方が多いんですけれども、それと学校の板挟みになっているのが、見ていてかわいそうになるぐらい気を遣ってはるというか、本当によう頑張ってくれているなと思って、その割には時給も上がらないし、安いなと思っているんですけど、その辺いかがですか。

○服部委員長　社会教育課長。

○吉川社会教育課長　過去の経緯としましては、教育委員会で、県の要綱等を勘案しながら出した時給、1,200円ということで、今現在、その1,200円が安いのか高いのかということでは、ニーズもない状態ですので、確かに委員おっしゃっておられる、板挟みになったりすることで、かなり労力が重たいお仕事をされていますので、この辺についても、もしニーズ等があれば検討させていただきたいと思います。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　分かりました。ちなみにこの1,200円というのは、ずっと1,200円ですか。

○服部委員長　社会教育課長。

○吉川社会教育課長　そうです。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　よく分かりました。何とか検討していただきたいと。あくまでも要望ですので、よろしくお願いいたします。

これで私の質問を終わります。

○服部委員長　それでは、ほかにございませんか。

石丸委員。

○石丸副委員長　石丸典子です。歳出の質疑の通告をさせていただきます。そんなに山ほど、１時間も通告するような分量ではありません。厳選しておりますので、よろしくお願いいたします。

歳出ですけれども、40、41ページの款２総務費、目３財産管理費のところですけれども、41ページの説明の上から２段目のところですが、庁舎の周辺の樹木管理委託料で、ナンバー10で資料を出されているんですけれども、この下にある坂口池の周辺の樹木伐採、消毒等が書かれているんですけれども、これに関連したところで、111ページで公有地の樹木の伐採、消毒というのがありまして、この中には外来種の害虫でありますクビアカツヤカミキリムシの影響で伐採する、桜の植替えをするというのがありまして、これ、関連があるのかどうか、この頃、植木は剪定とかよくされていて、伐採されたりするところが多いんですけれども、確かに植木がないと手入れが簡単で、落ち葉等の後片づけ等、いろいろ経費もかかってまいりますので、本当にすっきりするなというのは感じるんですけれども、長年の間大きくなっているところで、こういう対応がされていると感じましたけれども、資料ナンバー10に関して説明をお願いいたします。

次は45ページで、平和祈念資料展開催費ということで、資料を出していただいておりまして、令和７年度も、資料展並びに朗読劇等を予定されているということで大変、職員の皆さんにはご苦労をおかけし、本当にありがとうございます。よろしくお願いしたいところですけれども、この中で、令和７年度は特に子役オーディション審査員謝礼ということで、オーディションをされるというところが資料からも分かるんですけれども、簡単に説明をお願いしたいと思います。

次は49ページのところですけれども、電子計算費の委託料のところで、４つ目のところ、地方公共団体情報システム標準化構築委託料ということで、大きく伸びているんですけれども、この内容の説明をお願いいたします。既におっしゃっていた項目だったか、うまく整理できてないんですけれども、よく似た内容があったと思いますけれども。

引き続きまして53ページのところですが、主要施策にも入っております文化センター及び庁舎西館照明器具ＬＥＤ化更新事業費ということで、大きな事業なんですけれども、資料を見ますと文化センター及び庁舎西館で、ＬＥＤ化でない部署というふうな説明でありました

けれども、具体的な箇所をお聞きしたいと思います。併せて、公共施設においてＬＥＤ化はどこまで進んでいるのか。まだのところは具体的にどこかというのをお聞かせ願いたいと思います。

次は、71ページのところです。款３民生費の障害福祉費、71ページの真ん中より少し上のあたりに重度心身障害者・児福祉タクシー助成事業費、扶助費のところで福祉タクシー助成事業費ということで、令和６年度予算に比べると少し額が上がっているんですけれども、この中のナンバー81で資料を出していただいているんですけれども、これ、400円のチケットを１人40枚という事業だと認識しているところですけれども、資料には枚数が20枚という形で扶助費が上がっています。その差について説明をお願いいたします。

次は92、93ページの、款４衛生費の中の上水道費ということで、で、93ページの下で上水道事業費負担金補助及び交付金、奈良県広域水道企業団負担金12万円の内容説明をお願いいたします。

次は、款４衛生費で、94、95ページです。塵芥処理費、95ページの下に塵芥処理費ということで、ここでは委託料として焼却場跡地の草刈り委託料の予算組みなんですけれども、令和５年から令和６年に実施されました塵芥焼却場跡地の土壌調査の結果がどうであったか。今回、これに係る予算は出ていませんけれども、土壌調査結果について説明ください。

次のページになりますが、97ページです。塵芥処理費の一般廃棄物処理事業費の委託料ですけれども、ここでは４月から山辺・県北西部におけるごみ処理施設が稼働するということで、現在試運転されているということですけれども、本格始動、本格稼働に向けての説明をお願いします。

それと、ここの項目で２つ目は委託料において、一般廃棄物運搬委託料など、この委託料全体で約１億1,000万円の減額となっています。これは新しい施設に搬入するということでの減額だと思いますけれども、ここの部分については、資料の出のナンバー105に基づいて、要因を説明していただきたいと思います。

次のページです。99ページのところでは、塵芥車両更新事業費ということで2,379万1,000円。塵芥車両ということで令和７年度も購入という予算計上です。令和６年度第９回の補正、先日の補正でも２トンリサイクルカーを購入するという計画ですけれども、全体の車両更新計画をお聞きしたいと思います。この塵芥車両の内容についても説明をお願いします。

次は108、109ページですけれども、款６土木費の道路橋梁費の中の交通安全対策事業費ということで、今回の予算では交通安全対策工事ということで片岡台１丁目のところで施策が

講じられるということなんですけれども、ちょっと、ここの項目が正しいのかどうか自信がありませんけれども、上牧町内ではこれまで交差点の安全対策として、交差点にポールの設置を、ここ数年間、順次設置をする事業が進んできておりますけれども、これは今後、まだ残っている交差点があるのではないかと思われます。例えば南都銀行前の交差点です。そこはコンビニがあって、かなりフラットなところで、車は大変危ないところを、私も１回目撃したことがありますので、あそこ、ポールの設置が必要ではないかと思いますけれども、その計画と、今後の予定等はどうなのかということで、お聞きしたいと思います。

次のページです。110、111の都市計画総務費の中の111の一番上の、先ほど康村委員が質問されました都市計画等策定事業費で、委託料で、都市計画マスタープラン及び立地適正化計画策定業務委託料ということで、ここの部分で特に立地適正化計画策定業務というのが、これまでない形の業務がセットになってきておりますけれども、この業務策定は義務ではないというふうに考えているところですけれども、この立地適正化計画があるかないかで、交付金に格差がつくというようなことはありませんか。そのために、交付金を上乗せするための業務計画ではないかと思われますが、この点はいかがですか。

同じページの公園管理費ですけれども、14、工事請負費で公用地樹木植栽工事、先ほど役場の下の池のところで事業を言いましたけれども、桜の枯死についてですけれども、これにつきましては令和６年６月議会の一般質問で、桜にクビアカツヤカミキリムシが住みついて枯れている状況があるということで、上牧町でもボランティアの方が調査をされているということで質問をしたところですが、調査の状況の説明をお願いいたします。今回、桜の植替えが26本ということで資料で示されているんですけれども、庁内を見ますと、桜の木に薄い緑色のビニールテープを巻いたり番号を打ったりしているのが見受けられたり、あるんですけども、そういう形で既に調査をされているのではないかと思われますけれども、調査の状況の説明をお願いしたいと思います。

次は、款８教育費、120、121ページで、会計年度任用職員人件費ということで、121ページの一番上ですけれども、臨時教員等報酬、これは令和６年度の予算に比べて約1,000万円の増額です。同時に県費でも増えてきているんですけれども、158の資料に基づいて、どのところで増員となっているのか説明をお願いしたいと思います。それと、同じページの下の委託料で、校務支援システム導入及び運用支援業務委託料ということで資料が出されています。これは教員の業務を減らす、子どもたちにゆっくり向き合えるというふうな説明も聞いておりますけれども、資料に基づいて、改めてもう一度説明をお願いしたいと思います。同じペー

ジのところの備品購入費、ＧＩＧＡ第２期端末ということで、令和８年４月更新に向けて、令和７年度においては、端末を教師分も合わせて1,410台購入というものですけれども、現在の小・中学校においてどのような活用がされているのか、状況をお聞かせいただきたいと思います。

次は134、135の教育費の中で、幼稚園、小学校、中学校のそれぞれの給食費の賄い材料費のところでお聞きをしたいと思いますけれども、先日の補正予算でも少し伺ったんですけれども、町として賄い材料費に10万円補助をされているという説明がありました。135の幼稚園給食事業費においては、賄い材料費は令和６年度の予算に比べて少し減っている状況です。物価高騰でそれぞれ、材料費の調達等大変だと思われますけれども、それぞれの予算において、どのような工夫等をされているのかをご説明ください。幼稚園と小学校、一連でお願いしたいと思います。

それと、次は146、147です。文化財保護費です。委託料で３番目に、上牧銅鐸復元及び鋳造体験シリコン型製作委託料ということで、資料192で出していただいております。これも、議会の一般質問で、上牧銅鐸でまちおこしはどうでしょうかということで提案をさせていただいたんですけれども、それに似た形の委託事業なんですけれども、これは住民の方々が直接体験できるのかどうか。委託料になっているんですけど、この委託内容について説明をお願いしたいと思います。

続きまして、その下の、史跡上牧久渡古墳群整備事業費ということで、１億7,000万という大きな事業なんですけれども、今年10月で国の史跡指定から10年たつ大きな事業です。令和５年から工事が進められて、令和７年度は第３期整備工事ということで資料を見させていただきました。令和６年度の予算委員会時には、この上牧久渡古墳群整備と一体に、片岡城跡活用も検討していくということで、令和６年度予算には検討委員会で検討される事業費も組まれまして、１月27日にはこの検討委員会からの答申も受けていらっしゃるところです。今後、何らかの予算措置等もここのところで必要ではないかと考えているところですけども、計画予定等があればお願いしたいと思います。検討委員会で答申を受けていますので、継続的な事業ということで、新規の事業ではないはずなんですけど、新町長の施策にも関わってくるかもわかりませんけれども、現町政の下での方針ですね。予算措置等、これから必要になるのではないかと思われますけれども、これについてお願いいたします。

次は150、151ページです。体育施設費の10需用費の中の修繕料、資料は195番です。この中で第二体育館の車止め舗装とありますけれども、第二体育館の駐車場整備は令和６年度予算

で行われるべきところなので、ここは修繕費という形は疑問を感じるところですが、令和６年度の第二体育館の駐車場整備はどこまで進んで、これで全て完了ということだったのか、説明をお願いいたします。

項目は以上の項目ですので、よろしくお願いいたします。

○服部委員長　まだ時間が早いので、10分休憩します。

念には念を入れて、しっかりと聞けるように、休憩を入れて質疑をしていきたいと思いますので、10分間休憩します。45分から再開いたします。

休憩　午後　３時３５分

再開　午後　３時４５分

○服部委員長　それでは再開いたします。

総務課長。

○丸橋総務課長　それでは、予算書41ページにございます植木管理委託料で、クビアカツヤカミキリの関連ということでございますが、この部分につきましても、総務課が担当させていただいております庁舎周りの樹木についても、やはりクビアカツヤカミキリの影響がございます。その部分につきましては、資料で消毒と伐採、桜が７本、伐採については４本という形で、今回予算を計上させていただいたという部分でございます。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　分かりました。調査等については、後のところでお聞きしますので、この池のところは分かりました。伐採だけで植替えというところまではいってないんですね。

○服部委員長　総務課長。

○丸橋総務課長　このクビアカツヤカミキリの影響の部分につきましては、伐採と消毒というふうに考えているところでございます。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　分かりました。ありがとうございます。結構です。

次をお願いいたします。

○服部委員長　総務部理事。

○髙木総務部理事　それでは、予算書45ページの一番上、平和祈念資料展開催費についての、この中の子役オーディションの審査員の謝礼についてのお尋ねでございます。昨年、大阪大空襲を取り上げさせていただいたときには、この子役は出演しておりましたけれども、こういう予算の計上はなかったんですけれども、というのは急遽、構成上子役が必要ということ

になりましたので、公演していただいた団体にお願いをいたしまして、急遽２人の子役に出演していただいたという次第でございます。その後、この事業が終わった後に、もし次回、こういう形で計画をされるのであれば、ぜひ子どもを出演させたいとかいうようなご希望も二、三お伺いしておりまして、ということになれば、オーディションという形で選ばせていただくことにするのが一番公平になるのではないかというふうに思っておりまして、今回、こういう形で審査をさせていただきたいと思っておりまして、計上させていただいております。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　ありがとうございます。昨年も子役の演技が大変好評でよかったと思います。昨年２人だったかと、今説明ありましたけれども、これ、令和７年度も２人ということのオーディションでしょうか。人数は決まっていますか。

○服部委員長　総務部理事。

○髙木総務部理事　今のところ本ができておりませんので、まだ人数は確定しておりません。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　分かりました。また、いろいろと職員の皆さん、お忙しいところ大変だと思われますけれども、ご苦労さまです。よろしくお願いいたします。

　この項目は結構です。ありがとうございます。次、お願いいたします。

○服部委員長　総務課長。

○丸橋総務課長　それでは、補正予算書49ページにございます電子計算費の委託料、地方公共団体情報システム標準化構築委託料の内容でございます。この部分につきましては、国のほうで、地方公共団体に対しまして、令和７年度末までに住民情報系のシステムを標準化するように求めている部分でございます。その部分で、２か年目の７年度の部分の予算というふうになっているところでございます。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　２か年目で既にされているところということですか。分かりました。ありがとうございます。結構です。

○服部委員長　文化振興課長。

○野﨑文化振興課長　それでは、53ページの文化センター及び庁舎西館の照明器具のＬＥＤ化更新事業費について、具体的な場所ということなんですけども、文化センターについてはペガサスホールの舞台照明を除くという部分、庁舎西館につきましては、平成29年度に耐震化

で一部ＬＥＤ化をしているところがございますので、それ以外の場所のＬＥＤ化ということで、主には３階の集会室であったりとか、１階のロビーであったりという形で考えているところでございます。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　分かりました。これで公共施設のＬＥＤ化はどこまで進みますか。ほぼできますか。全体の。

○服部委員長　総務部長。

○中川総務部長　今ご質問のＬＥＤ化の進捗状況ということでございますが、おおむね、大きな公共施設等は終わっておりますが、一部、小学校のＬＥＤ化であったり、上牧中学校の体育館のＬＥＤ化、それと各自治会でお願いしております公民館、老人憩いの家等の部分が、現状まだというところでございます。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　分かりました。主なところは終わっているということで理解いたしました。結構です。次、お願いいたします。

○服部委員長　福祉課長。

○俵本福祉課長　71ページ、重度心身障害者・児福祉タクシー助成事業費でございます。資料は、歳出81でございます。こちらでございますが、令和４年９月議会におきまして石丸委員から一般質問でご提案いただいた事業でございます。令和５年度から始めさせていただきました。ご質問ですが、福祉タクシー助成事業、配っている枚数は40枚だけれども予算計上は20枚、どうしてかというご質問でございました。こちらにつきましては、実績に即した形での枚数、利用された枚数を予算計上として計上させていただいたものでございます。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　なかなか、対象者であっても使われない方もあるということで理解いたしました。結構です。ありがとうございます。次、お願いいたします。

○服部委員長　企画財政課長。

○中本企画財政課長　それでは、予算書92、93ページにございます。上水道事業費の負担金の12万円の内容についてでございます。これにつきましては、上牧町から水道企業団に派遣されます職員の児童手当に係る部分、12万円となっております。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　これは午前中にお聞きしましたが、派遣職員６人分のうちの児童手当対象者

分という理解でいいですね。

○服部委員長　企画財政課長。

○中本企画財政課長　そのとおりでございます。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　理解いたしました。次、お願いいたします。

○服部委員長　建設環境課長。

○武安建設環境課長　それでは、ご質問のございました焼却場跡地の土壌調査の状況についてでございます。現在、令和５年、令和６年度にまたがって各種調査業務をしておるところでございますが、現在、令和６年度で深度調査を発注しており、その結果が３月末に上がってくることとなっております。ですので、土砂の撤去工事に関しましてはまだ予算計上させていただくことができないんですけども、今後、調査結果が上がってき次第、それに基づき積算作業を行い、今後の工事に要する費用、補正になると思うんですけども、そのタイミングで予算計上をさせていただきたいと考えているところでございます。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　結果に関わらず土砂の搬出は必ず必要になってくるということですか。結果いかんでは土砂の撤去もあると、このままではあることはないと、どちらですか。

○服部委員長　建設環境課長。

○武安建設環境課長　前回の調査、表層調査でございますが、そのタイミングで汚染土は一部確認をされております。それと、今回行っている深度調査で、その汚染がどの深さまで達しているのかというところを今現在調査しており、結果待ちの状態ですので、その深さが判明次第、搬出できる土量の数字も分かってきますので、それをもって積算作業に移行していきたいと考えております。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　分かりました。調査はなかなか、かかりますね。分かりました。次お願いいたします。

○服部委員長　建設環境課長。

○武安建設環境課長　それでは、予算書97ページ、議会資料歳出のナンバー105、山辺稼働後の運搬の関連についての説明でございます。

まず、令和６年度に関しましては、可燃ごみ、不燃ごみつきましては、運搬処分という形で予算計上させていただいておるところでございます。令和７年度より山辺が稼働すること

により、次は運搬のみの予算計上とさせていただいているところでございますので、予算項目が一般廃棄物処理、一般廃棄物運搬委託料という形で上げさせていただいております。この委託料に関しましては、可燃及び不燃の運搬に関する費用となっております。ただ、一部可燃ごみの運搬処理も必要になってくる部分もございますので、それについても一部予算計上させていただいております。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　表で大体確認いたしましたけれども、本格稼働は５月からですね。４月までと５月からと、処理の方法は差があるんですか。

○服部委員長　建設環境課長。

○武安建設環境課長　現在、１月から試験稼働をさせていただいておるところの中で、既に運搬のみの費用となっておりますので、令和７年度の４月から、引き続き５月から本格稼働になるんですけれども、４月からは運搬のみの予算計上とさせていただいております。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　分かりました。この項目、なかなかややこしいというか、運搬委託料に一括になると、あとの処理量は組合費の分担金の中に入ってくるのでという理解ですね、分かりました。この委託料の中で、リサイクル推進事業のところで、草木リサイクル委託料というのが大きくなっているんですけど、これは何か、桜の木の伐採とか、樹木の伐採とかの影響ですか。

○服部委員長　建設環境課長。

○武安建設環境課長　草木の処理に関する委託料なんですけども、これにつきましては、今まで町が所有しておりました10トンコンテナ車で、町の職員が運搬しておったところでございますが、10トンコンテナ車が導入から30年経過しており、10トンがもう令和７年度で処分する形となります。そのため運搬に要する費用が発生してくるので、業者に運搬していただかなあかんようになってきますので､その分の費用が増加しているというところでございます。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　業者への運搬委託料を含んでいるということですね。

○服部委員長　建設環境課長。

○武安建設環境課長　そのとおりでございます。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　分かりました。それで、既に山辺のほうに運ばれているということなんです

けれども、聞くところによりますと河合町の清掃工場の停止が、本格始動の５月に停止ではなく、半年ぐらいおくれるという情報を聞いているんですけれども、それは本当ですか。連日のように、はっきり言いまして黒煙が上がっているんです。４月から天理で処理しますからということで、多分ご存じの方はご存じで、しばらく我慢すればいいのかなと思ってらっしゃると思うんですけれども、うまく中継地が、安堵と河合で中継地を建設するところで、中継をして天理へ運ばれると思うんですけど、その建設が遅れているというふうな情報があるんですけど、それは本当ですか。

○服部委員長　建設環境課長。

○武安建設環境課長　河合町に関しましては、安堵町と広陵町の３町でまほろば組合というところで中継施設の建設されているんですけれども、現在、隣接する箇所で国交省による河川の改修工事が発生しておりまして、それは完了しているんですけども、それに伴って建築工事が遅れているという話はお伺いしております。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　また苦情等出るかもわかりませんけども、それはまた、自治会の連合会等からでも説明は頂けますか。

○服部委員長　建設環境課長。

○武安建設環境課長　河合町にも、上牧町からお伺いして、改善のお願いをしているところでございますが、この前河合町にお伺いしたときに、まだ焼却施設が、やはり中継施設の遅れでもうちょっと稼働しなければならないと、その中で、令和７年度中には何とか稼働を終えることができるという話もお伺いはしているんですけれども、黒煙が上がっているという部分に関しても、我々は確認させてもらっております。その都度改善のお願いはしているところでございますが、まだ上がっているタイミングというのもございますので、再度河合町に要望していきたいと考えております。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　よろしくお願いいたします。ありがとうございます、結構です。次の項目をお願いいたします。

○服部委員長　建設環境課長。

○武安建設環境課長　それでは、塵芥車両の分でございますが、今回予算計上させていただいております塵芥車両ですが、３トンパッカー車の購入に当たる費用でございます。これにつきましては、令和６年度に債務負担という形で承認を頂きまして、納期待ちの状態が現在続

いているところでございますが、令和７年度の納入がおおむね８月頃という情報が入ってきましたので、予算計上させていただいているところでございます。今後、パッカー車は今回、２台予算計上をさせていただいているんですけども、債務負担行為におきまして、残りの３トンパッカー車と２トンパッカー車についても、更新を予定しております。今回のパッカー車の更新が完了したら、当面、車両の更新というのはないものでございます。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　分かりました、お聞きをします。山辺にごみ処理をするに当たって、先日の臨時議会でしたか、スプレー缶等の分別について質問させていただいたところ、早速今日も、庁舎の入口のガラスの扉に大きなポスターを貼っていただいたり、ホームページで詳しい説明を載せていただいたり、早速対応していただきまして。ありがとうございました。ご苦労さまです。

では、次の項目をお願いいたします。

○服部委員長　建設環境課長。

○武安建設環境課長　次に、予算書109ページ、議会資料、歳出ナンバー132、交通安全対策工事の件でございます。今回、令和７年度で予算計上させていただいているのは、新たに通学路となった片岡第10号線及び片岡第13号線の一部における路側帯のグリーン化に要する費用でございます。先ほどご質問のございました交差点の車止めの設置工事に関しましては、通学路の部分に関しましては完了しております。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　そしたら、調査されて、通学路を重点的に調査されて全て完了したということですか。

○服部委員長　建設環境課長。

○武安建設環境課長　そのとおりでございます。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　先ほど私が言いました、上牧の南都銀行前の大きな交差点で、あれ、かなり歩道にまで車が出入りしたりするお店があったりとかしているんですけども、あそここそ何らかの対応が要るところだと思いますけれども、それはこの通学路に入っていなかったということで、対象ではなかったということですか。一度、点検と調査等をしていただきたいところです。大変危ない箇所で交通量も多く、コンビニにすっとは入れますので、車と歩行者と衝突するという危険も大変感じられます。高齢の、男性の方が当たりそうになっているの

を、前回出くわしましたので、危ないところだなと感じましたので、また調査等もしていただきますよう、そして必要であれば対応していただけたらと思いますので、よろしくお願いしておきます。

○服部委員長　建設環境課長。

○武安建設環境課長　交差点の安全対策につきましては、通学路の部分、完了しているところでございますが、今ご指摘のとおり、交差点につきましても現地を確認した上で、しかるべき対応をさせていただきたいと考えております。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　よろしくお願いいたします。次、お願いいたします。

○服部委員長　まちづくり推進課長。

○細川まちづくり推進課長　予算書111ページ、説明、都市計画等策定事業費について、立地適正化計画について、これがあるので交付金が受けられるかどうかというご質問であったかと思います。

まず、都市計画マスタープランについてなんですが、これは平成21年に上牧町で策定いたしまして、令和10年度までを年次目標としていることから、改定の必要があります。これを改定するに当たりましての財源というのがございませんでして、立地適正化計画を作成するに当たっては、都市計画マスタープランと内容が似ているところがございますので、併せて計画を策定・改定したいと考えております。

都市計画マスタープランの中では防災指針や、持続可能な都市としての、どのような姿を目指すのか。また、低未利用地等の既存ストックの活用といったことと明記されておりませんので、こういった部分を立地適正化計画に載せつつ、補助金も活用していけたらと考えております。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　この立地適正化計画を策定すれば、交付金の対象になるということで、併せて委託料として上げるという理解でよろしいですね。

○服部委員長　まちづくり推進課長。

○細川まちづくり推進課長　委員のおっしゃるとおりでございます。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　分かりました。お聞きをしておきます。

次の項目をお願いいたします。

○服部委員長　建設環境課長。

○武安建設環境課長　それでは、先ほどご質問のございました、樹木、植栽に関連する調査状況というところでございます。

まず調査状況ついてでございますが、これにつきましては、議会資料の歳出ナンバー135をご覧ください。ナンバー135の資料の真ん中にございます、②特定外来生物防除対策業務というところがございますが、ここへ令和６年度に実施いたしました被害木の調査の本数について記載させていただいております。

被害木の調査の結果、消毒が必要な本数が277本、危険木の伐採については146本となっております。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　資料を出していただいていたんですね。真ん中のところをよく見ていませんでして、失礼いたしました。委託料で調査をされているということですね。分かりました。これ、植替えも入っていましたよね。桜の木そのものを植え替えるというのは、139で植樹。

○服部委員長　建設環境課長。

○武安建設環境課長　議会資料の139で植栽工事として予算計上させていただいておりますが、これにつきましては、議員ご指摘のとおり伐採に伴い植樹するものでございます。この植樹の本数26本となっているんでけども、この植樹に関しましては、公園内で伐採を行ったところ、連続して伐採を行うところもございますので、そういった箇所については著しく景観が変わるという部分もございますので、そういった部分に新たに植樹させていただくための予算となっております。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　既に何かテープで巻かれているというのは､その対象の木ということですか。

○服部委員長　建設環境課長。

○武安建設環境課長　テープで巻かせていただいておるのは、伐採及び消毒に関する樹木について目印でまかせていただいていると。今後、伐採に関しても食事に関しましても、地元の自治会とまた協議を行っていかなければならないので、現場立会いしたときに、どの木が対象となっているのかというところを分かりやすくするために印はさせていただいております。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　危険なのは伐採して新しいのに植替えが必要だと思いますけども、なかなか中には、桜の木を切られるのは残念がられる方もありまして、切ったら切ったで、またいろ

いろ意見も言われる方もありますので、その辺は地域の方にしっかり説明いただいて対処いただきますようによろしくお願いいたします。

ありがとうございます。結構です。

○服部委員長　石丸議員の質疑の最中ですが、長時間にわたっておりますので、本日はここで休憩とし、あす10時から再開します。

散会　午後　４時１４分

予算特別委員会会議録

１．日　　時　　令和７年３月７日（金）　午前１０時

１．場　　所　　３階委員会室

１．協議事項　　議第26号　令和７年度上牧町一般会計予算について

議第27号　令和７年度上牧町国民健康保険特別会計予算について

議第28号　令和７年度上牧町後期高齢者医療特別会計予算について

議第29号　令和７年度上牧町介護保険特別会計予算について

議第30号　令和７年度上牧町住宅新築資金等貸付事業特別会計予算について

議第31号　令和７年度上牧町下水道事業会計予算について

１．出席委員	委員長	服部　公英	副委員長	石丸　典子
	委員	氏原　賢一	竹中　亮造	安中　　和
		康村　昌史		
	議長	牧浦　秀俊		
１．理事者	町長	今中　富夫	教育長	松浦　教雄
	総務部長	中川　恵友	都市環境部長	吉川　昭仁
	住民生活部長	山下　純司	健康福祉部長	寺口万佐代
	教育部長	松井　良明	総務部理事	髙木　真之
	健康福祉部理事	林　　栄子	総務課長	丸橋　秀行
	企画財政課長	中本　義雄	まちづくり推進課長	細川　夏人
	建設環境課長	武安　康至	上下水道課長	南浦　伸介
	住民保険課長	和田　　暁	税務課長	山本　敏光
	福祉課長	俵本　大輔	生き活き対策課長	杉分　　太
	こども未来課長	木下　優子	教育総務課長	辻村　　純
	社会教育課長	吉川信一郎	文化振興課長	野﨑　威志
	会計管理者	松田　志穂		
１．事務局	局長	金﨑　恭彦	書記	森本香寿美
	書記	横田　大樹	書記	林　　大貴

開会　午前１０時００分

○服部委員長　おはようございます。予算特別委員長の服部公英です。昨日に続きまして、よろしくお願いいたします。

それでは、昨日に続きまして、令和７年度上牧町一般会計予算について、歳出の石丸委員の質疑から続けてまいりますので、よろしくお願いいたします。

石丸委員。

○石丸副委員長　皆さん、おはようございます。石丸典子です。昨日に続きまして、一般会計予算の歳出についての質疑を行わせていただきます。

本日は、款８教育費のところからです。昨日通告させていただきましたのは、教育費のところの121ページ、会計年度任用職員人件費に関してです。昨年度の予算に対して約1,000万円の増額となっておりまして、資料の158で人員等出していただいているんですけれども、要因について説明をお願いしますというところからですので、よろしくお願いいたします。

そして、１つ訂正と言いますが、幼稚園の給食事業費のところで、135ページということで通告させていただいたんですけれども、あわせて、小学校においての給食事業費は127ページ、中学校においては131ページに出ておりますけれども、昨日の通告の内容が少し乱暴で、幼稚園のところだけをページ数を申し上げて言いましたので、併せて一緒にお伺いするものです。よろしくお願いいたします。

それでは、順次よろしくお願いいたします。

○服部委員長　教育総務課長。

○辻村教育総務課長　それでは、予算書121ページの臨時教員等の報酬についてでございます。こちらは令和６年度の予算案に比べまして1,000万円程度の増額となっておりますが、内訳といたしまして、主な要因といたしましては人勧による差で500万程度、人員の増減による差で500万程度となっております。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　資料を出していただいているんですけれども、どの分野で増えていますでしょうか。

○服部委員長　教育総務課長。

○辻村教育総務課長　それでは、資料歳出、ナンバー158に沿いまして、職種ごとに増減をお答えさせていただきます。一番上の特別支援スタッフは３名の増員でございます。通級指導員は同じ１名です。日本語指導スタッフはマイナス３名でございます。非常勤講師はマイナス

３名です。個別対応の非常勤講師はプラス２名でございます。教員業務支援員プラス２名で、トータルで１名の増員となっております。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　ありがとうございます。具体的に、各学校ごとはお願いできますか。

○服部委員長　教育総務課長。

○辻村教育総務課長　上牧小学校では、全て職種合わせましてプラス３名となっております。上牧第二小学校ではマイナス１名、上牧第三小学校でプラス３名、上牧中学校は同じでございます。14名です。上牧第二中学校ではマイナス３名、上牧幼稚園ではマイナス１名となっております。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　分かりました。合計で全体として１人の増ということと、人勧による増額ということですね。

この財源においては、県費のほうでそれぞれ学校教育活動支援事業補助金と教員業務支援員配置促進事業費補助金ということで使われている、約900万円の支出金があり、それを充てているということで分かりました。ありがとうございます。結構です。

では、次、お願いいたします。

○服部委員長　教育総務課長。

○辻村教育総務課長　同じく予算書121ページの校務支援システム導入及び運用支援業務委託料ということで、内容についての説明でございます。こちらに関しましては、現在学校では手書きの書類や紙で管理しているものがあるんですけれども、それらを電子化して一元管理するということで、煩雑な校務から解放して、児童生徒と向き合う時間を増やして、働き方の一環とも考えられているシステムの導入でございます。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　資料でも出していただいていまして、債務負担行為で昨年から取り組まれているということなんですけれども、利用開始は令和７年９月を予定されているということなんですけれども、教職員が行う業務の効率化、負担軽減で子どもたちと向き合う時間が増えるとかいうところが特徴のように見えます。確かにその部分もあると思いますけれども、これに少し関連することで、私、今回一般質問で、教員の働き方、勤務状態、残業の形態をお聞きしているところですけれども、これにより軽減はされるけれども、残業等の過大な負担が大幅に削減されるというものではないと思いますけれども、その辺はいかがですか。

○服部委員長　教育総務課長。

○辻村教育総務課長　この校務支援を使用することによりまして、年間100時間から200時間の勤務時間は削減できるだろうというふうには言われております。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　分かりました。確かに電子化すると便利な部分はございました。結構です。

次、お願いいたします。

○服部委員長　教育総務課長。

○辻村教育総務課長　同じく予算書121ページの一番下でございます。２が第２期端末の備品購入費に関しまして、学校での端末の活用状況ということでございます。学校では様々な授業で活用されているんですけれども、具体的に申し上げますと、動画は理科の実験であったり体育の授業で動画を見たりで、自分の行動も撮って後から見返すということもできますので、そういったことに活用したり、また、あと授業ではＡＩドリルを活用したり、ロイロ・ノートとかで、そこで発表を共有できたりするので、そういった場面で活用したりしています。あと、アンケートもクローム端末で回答ができるというふうには聞いております。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　利用をすれば大変利用価値があるというか、効果があると思うんですけれども、この部分においては大変私は子供たちの個人差が出てくると思うんです。なかなか自ら調べたりすることが得意でない子であったり、興味がない子供たちに対しては、やっぱり教員が直接１対１で指導する、やっぱりきめ細かなところがどうしても必要となりますので、その辺でますます学力の差が広がるのではないかということを大変心配するところです。便利な分は活用すればするほど便利で、伸びる子供たちは伸びるし、いろんな知識を得られるというところではプラスだと思うんですけれども、それと、もう１つ心配なのは健康面で、長時間画面を見ることによって視力が低下するであるとか、姿勢が悪くなるということも言われております。これは大人にも言えることですけれども、その辺でＧＩＧＡスクール構想だけでなくて、やっぱりきめ細かな一人一人の学力を伸ばすという取組が必要で、特に上牧町ではまきっこ塾等もずっと継続しておられますけれども、すごく差が出てくるのではないかなと思いますが、その辺の見解いかがですか。これ、５年ごとに更新ということで、すごい費用かかりますね。県の補助か何かが、国の補助でしたか、出るのは出るんですけど、言ったらこのタブレットの業者がもうかるような仕組みみたいな、そういうふうにもなりかねませんので、その辺はしっかり注意して、便利なものが使えるのはいいんですけれども、そ

こから取り残される方への対応が大変だったと思いますので、上牧町として全体の学力を引き上げるというところでもやっぱり大事なことだと思います。その辺はいかがお考えでしょうか。

○服部委員長　教育総務課長。

○辻村教育総務課長　学校では、もちろんＩＣＴを活用しながら読み書きの指導も大事になってくると思いますので、両方指導していくということで、まず先生方の指導という面ではやはり得意な方、不得意な方いらっしゃる中で、先生の中で情報共有しながら、教え合いながら、不公平、格差がないようにというところで指導していってもらうようにも教育長からもお話もしてありますので、また、そういった面で格差が出ないような指導を指導していくということになるかと思います。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　ありがとうございます。大変難しい問題だと思います。教師１人の責任にもできませんし、やっぱり町としてもしっかり対応できるようによろしくお願いしたいと思います。この件は結構です。ありがとうございます。

○服部委員長　教育総務課長。

○辻村教育総務課長　それでは、予算書127ページから始まります小学校、中学校、幼稚園の給食費についての説明でございます。基本的には、給食費は保護者の方から頂く給食費を充てて、賄い材料費に支出で充てていっていますので、児童生徒数が減ってきますと、基本的には支出も減っていくということになってその分減額することになるんですけれども、それでは物価高騰には対応できませんので、令和６年度は町から10％の補助を上乗せしていたんですが、令和７年度は15％の補助ということで計上させていただいております。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　ということは、賄い材料費であったり米飯の委託料であったりが大体15％ぐらいの値上がりというふうに捉えたらいいんですか。

○服部委員長　教育総務課長。

○辻村教育総務課長　そのとおりでございます。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　昨年の予算のときには、賄い材料費と給食加工委託料で、総合的に相殺といいますか、やり取りがあってというのがあったんですけど、令和７年度はどうですか。お米もかなり値上がりしていまして、米飯給食のところについては、河合町のパン屋さん、委託

されているんですけれども、お米値上がりに対する影響はどうですか。

○服部委員長　教育総務課長。

○辻村教育総務課長　お米自体も値上がりしているんですけれども､加工賃といたしましても、来年度からは一月30円程度値上がりというふうに聞いております。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　分かりました。町が保護者の負担にならないようにということで持ち出しというか、その分を負担されているということで分かりました。15％ですね。結構です。分かりました。

次、お願いいたします。

○服部委員長　社会教育課長。

○吉川社会教育課長　それでは、予算書146、147ページでございます。教育費、項社会教育費でございます。右の説明欄の文化財保護費の中の12委託料の上牧銅鐸復元及び鋳造体験シリコン型制作委託料について、委託内容の説明と住民が体験できるのかというご質問だったと思います。議会資料、説明資料は歳出ナンバー192をご覧いただきたいと思います。

まず、今回、一般質問の中で石丸議員から上牧銅鐸でまちおこしという提案も関連して今回の計上をさせていただいた次第でございます。内容につきましては、上牧銅鐸について復元銅鐸、実物の大きさのものを、原寸大は29センチなんですけども、そちらの復元の銅鐸を作成させてもらいます。それと、鋳造体験シリコン型ということで、銅鐸のミニチュアのものを住民の方に作っていただくための型等を委託する事業でございます。体験につきましては､今まで文化財に触れてみようということで､今日お持ちさせていただいたんですけども、久渡古墳から出土しています画文帯環状乳神獣鏡があるんですけども、こちらを今ペガサスフェスタであるとか桜まつりとかで文化財に触れてみようということで住民の方にさわっていただいているものを、上牧銅鐸でも同じものを作ってさわっていただこうということで、復元を今回作らせていただく内容でございます。それと、鋳造体験につきましても、今持ってこさせていただきました、これは田原本町の銅鐸になるんですけども、上牧銅鐸のミニチュア版の型を作りまして住民に体験していただくという委託料でございます。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　早速取り入れてくださって、まちおこしにつながればと思います。議会としても静岡県の登呂博物館にも見に行かせていただきまして、総務建設委員会で実物も見てまいりましたけれども、登呂博物館の入り口のすぐ入ったところに上牧の銅鐸がありました。

思ったより小さいという感じであったんですけれども、しっかり鎮座しておりました。大変明るい話題といいますか、まちおこしで上牧のことを知っていただくということにもつながり、町内の子供たちも関心を持っていただくということでは大変いい取組になるのではないかと期待しているところです。本当に期待しております。ありがとうございます。

それと、少し町のホームページで銅鐸に関しての何か取組ありましたか。募集されていて、抽選で何とかという項目があったのを覚えておるんですけれども、定員にならず抽選はありませんという項目がこの関係ではなかったかと思うんですが、それは全然違う取組でしたか。

○服部委員長　社会教育課長。

○吉川社会教育課長　今回、子供体験学習ということで募集させてもらって、満タンにはならなかったんですけども、実施は先日させていただきました。今言いましたように、田原本町に今回お借りをさせていただいて、田原本町の職員の協力を得て体験学習をさせていただいた次第でございます。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　ちなみに、何名参加されました。定員が20名とか何か。

○服部委員長　社会教育課長。

○吉川社会教育課長　４組でございます。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　分かりました。いろいろな取組、どうもご苦労さまです。よろしくお願いします。よく分かりました。

次、お願いいたします。

○服部委員長　社会教育課長。

○吉川社会教育課長　続きまして、先日、上牧町の片岡城跡活用検討委員会から、片岡城跡についての答申が町長に先日１月27日に答申をしていただきました。それにつきまして、現町政の下での方針と予算措置が必要になるのではというご質問だったと思います。まず、先日、議員の皆様にも検討委員会の答申は周知をさせていただきまして、ご覧いただいたと思いますが、この答申につきましては活用検討委員会の中で、具体的には発掘調査及び文献調査の実施、眺望の整備、維持管理、地籍調査、活用と、大きな項目で答申を掲げられた次第でございます。町としましては、片岡城がどうなっていくのかということで、今回、片岡城跡の検討委員会で方向性を検討委員会の方で示していただきましたので、まず今のところスタートラインに立ちましたので、今後新しい町長の施策も考えますので、また今後その活用、こ

の検討委員会の後の答申については、準備でき次第また議会にお示しをさせていただいて、この答申のことをしっかりと進めてまいりたいと考えております。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　調査も項目出てきておりますと、かなり費用もかかるだろうと思われますので、単に草刈り等だけで済む問題ではありませんので、住民の方も関わっておられるというふうには認識しているところですけれども、本格的な活用となれば調査費等かなりの予算もかかりますので、すぐには予算化できるものではないということを理解いたしました。ありがとうございます。

次、お願いいたします。

○服部委員長　社会教育課長。

○吉川社会教育課長　151ページでございます。款８教育費、６社会体育費の体育施設費でございます。右の説明欄の体育施設費の中の10番需用費、修繕費の297万6,000円の中の第２体育館の車どめ修繕について、令和６年度の第２体育館の駐車場整備はどこまで進んでいるのか、全て完了だったのですかという質問だったと思います。議会資料につきましては、195番の資料をご覧いただきたいと思います。

まず、６年度の当初予算で組ませていただいた第２体育館の整備工事につきましては、10月に完了させていただいております。今回、７年度に上げさせていただいた理由としましては、整備させていただいた後に、住民の方から車どめを設置してほしいという要望もありまして、検討させていただきまして、補正ということも考えたんですけども、したばかりでまた住民の利用者の方にご迷惑かけてはということもありまして、７年度の空調設備の工事でとめるときがありますので、そのうちに車どめの修繕をさせていただこうと考えております。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　分かりました。お聞きをしましたけれど、修繕料のところで上がってくるのが疑問を感じたところなんですね。それで、令和６年度の当初予算250万の工事費の内訳、資料等では樹木の伐採、抜根し整地をする、アスファルトの舗装と周りをブロックで囲うのも説明で聞いていたんですけど、現状では三角コーンで住宅から、１面からは入れないようにということで区切っているんですけれども、この部分は特に囲いはないわけですか。

○服部委員長　社会教育課長。

○吉川社会教育課長　出入りの関係もあって、ブロックをするのも思案したんですけども、行き来の出やすいことを考えてブロックは変更させてもらったんです。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　駐車場の形が三角形みたいになっていますので、出入りが大変しにくいと。近隣の方も、大変その辺は困られる部分、囲ってほしいというところと、利用者側からすると出入りがしにくいのがあると思うんですけど、三角コーンはそのままにしておくと。非常時に囲っていないほうがいいのと、私は、エアコンの整備をするのでそれまではあの形で三角コーンがされているのかなというふうに思ったんですが、ずっと今後あの形で利用していただくということですか。

○服部委員長　社会教育課長。

○吉川社会教育課長　そのとおりでございます。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　細かいことを言いますけど、車の入れ方が利用者によって様々で、車どめは車をとめる方向がしっかり分かるような､線で区切るようなものを含めた車どめでしょうか。

○服部委員長　社会教育課長。

○吉川社会教育課長　今回の当初予算で上げさせていただいた13万については、建物側のほうの部分の車どめと、車線、車をとめる枠の部分は入っております。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　合計で何台とめられる見込みですか。

○服部委員長　社会教育課長。

○吉川社会教育課長　６台でございます。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　よく分かりました。車をとめやすい形でしっかりしないと、最初にとめた車のとめ方で後の方が出にくいし、効率よくとめられないこともないように、対応をよろしくお願いいたします。ありがとうございます。

　これで全部終了いたしました。歳出における質疑はこれで終わらせていただきます。細かいところまで丁寧に説明いただき、ありがとうございました。

○服部委員長　これで歳出における質疑は全員終わったと思いますので、これから討論を行います。

　討論はございませんか。

（「討論なし」と言う者あり）

○服部委員長　討論なしと認めます。

これから採決いたします。

本案を原案のとおり可決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○服部委員長　ご異議なしと認めます。したがって、本案は原案どおり可決するものと決定いたしました。

ここで休憩を取ります。45分再開でお願いいたします。

休憩　午前１０時２７分

再開　午前１０時４５分

○服部委員長　再開いたします。

議第27号　令和７年度上牧町国民健康保険特別会計予算について、これを議題といたします。

提案理由の説明は終わっておりますので、これから質疑を行います。

質疑はございませんか。

竹中委員。

○竹中委員　３番、竹中です。よろしくお願いします。

では、具体的な質問をさせていただきます。この予算書には出てこないんですけれども、まず１つ目、公的な保険が市町村では国民健康保険、制度化しているわけですけれども、公的な保険に未加入の方の人数、これは町で把握されているんでしょうか。それ、まずお願いします。

○服部委員長　住民保険課長。

○和田住民保険課長　それでは、今ご質問いただきました公的な、国民健康保険ということでよろしいでしょうかね、に未加入の方の人数ということなんですけれども、基本的に日本では皆国民保険制度となっておりますので、何かしらの医療保険に入らないといけないということになっておりまして、私ども当然、出生時、届け出来られましたら医療保険について聞かせていただいて、必要であれば国保加入の手続をさせていただいておりますし、転入、転出の際にも同じようなアナウンスはさせていただいております。ですので、私どもでつかみ得る範囲は、基本的には未加入の方はいてないというような、理論上そういう認識になっております。ただ、委員ご質問いただいておりますような、何というんですかね、未加入状態の方を指すと、そういう方が実際にいらっしゃらないかどうかというとやっぱりいらっしゃるのかなとも正直は思うんです。そういった方々に対しまして、上牧町としては、民生委員

とか人権擁護委員とかそういった方々も、無戸籍の方に対する手当とか、法務局も併せて動いておられますので、何がしか困った方がございましたら、そういった方を通じてでも結構ですし、直接窓口に来ていただいて、対応はとらせていただきたいと思いますので、ご質問いただいた人数は現時点ではつかめていない、以上になっています。

○服部委員長　竹中委員。

○竹中委員　多分そうかなというふうには思っていたんですけれども、現実には個人の判断で入っておられない方だとか経済的な理由で入れないという方もおられると思いますので、大切な制度ですので、建前かも分かりませんけれども、皆さんに入っていただきますように、引き続き取り組んでください。

続けて、13ページ、中ほどの一般被保険者高額療養費に関する質問ですね。それから、15ページ、出産育児一時金と葬祭費の人数見込みに関する質問。それから、17ページ、人間ドック等助成事業費、これは現在、７年度は410人見込みで予算を組んでもらっていますけれども、近年の状況、今後の見込み、教えてもらえたらと思います。それから、同じページ一番下、一般被保険者保険税還付金、ちょっとこれは基本的な質問になりますけども、どんなケースがあるのかという、税の払い過ぎなんかでしたら確定申告で戻ってきたりというのはあるんですけれども､保険もこんなんあるのかいなという本当に単純な質問なんですけれども、実際に230万の予算が組まれていますので、その説明をお願いしたいと思います。

そしたら、高額療養費の件ですけれども、先に質問させてもらいます。出していただいています資料を見ましたら、ここ数年来、一般の被保険者療養給付費が漸減してきて、それに合わせるように高額療養費がこのところ増えてきているという状況が近年の動向かなというふうに思うんです。今、国会でもこの問題が非常に大きな問題として取り上げられていますけれども、上牧町の状況と見通し、説明いただけたらと思います。

○服部委員長　住民保険課長。

○和田住民保険課長　それでは、ご質問いただきました高額療養費を捉えてご質問なんですけれども、上牧町の医療費の状況と見通しということで、全体の流れをご説明させていただいてよろしいでしょうか。

まず、資料のナンバー２をご覧いただけますでしょうか。まず上牧町、これまでもご説明させていただいておりますように、人口は減少傾向にございます。当然、それに比例しまして国民健康保険でも加入世帯であったり被保険者数の数が年を追うごとに減っていっております。そこで、令和６年度からは税率の県統一化も始まっておるんですけども、その下には

今回の算定させていただいた税率を示させていただいているんですけども、当面この税率算定には先ほどご質問いただいております医療費、こちらが非常に深く関わってくることになります。上牧町の医療保険の状況を見たいと思います。資料のナンバー５になります。こちらが通常支払われております医療費、一般被保険者療養給付費とさせていただいております。こちらの金額についてなんですが、医療費自体、給付費自体は年々微減、僅かであるが減ってきている状況であります。ただ、先ほど申しました被保険者の数が減っておりますので、ここは下がって当然なんですね。減ってきてはいるけども、ここが減とならなきゃいけないところが微減で収まっているというような状況が見受けられます。ページ変わりまして、ナンバー６ですね。こちらは療養費といいまして、県外に行かれた際とか、被保険者がその場で出されずに後で立て替えされた方の療養給付費になるんですけども、それにつきましても同じ傾向が見られている。そして、今委員おっしゃっていただいておりますナンバー７の高額療養費についてでございます。こちらが被保険者が減っているのに金額が上がっているということで、明らかに医療の高度化ということも資料には書かせていただいておるんですけども、１人当たりにかかる医療費が年々増加している傾向であると。そして、県統一化が始まっておりますので、奈良県の資料になるんですけども、奈良県でも被保険者の数が令和４年28万1,637名、令和５年26万6,613名、令和６年の見込み値では25万3,388名、令和７年の保険料算定をされた時点の試算値でいいますと24万2,175名と奈良県全体においても減ってきている状況であります。それに対しまして、１人当たりの医療費が、奈良県の令和４年実績で43万9,602円、令和５年では41万9,213円、令和６年は見込みでございますが、42万6,284円、令和７年の本算定数値では44万2,814円という見込みを出されておりますので、やはり被保険者数が減っております医療費自体は減っているが、少し微減であるという状況であるので、正直なところ申しますと、やっぱり令和６年度と同じ保険料をお支払いいただいておいても、被保険者が減り１人当たりの医療費が増えていく状況では不足が出るんです。それで、実際、令和７年奈良県国保で試算された数字によりますと、国からの予算注入があったことも差し引いた上でも、やはり１人当たり7,500円程度の不足が生じるという試算となりました。そこで、奈良県全体でどういう動きをしたかといいますと、県が保有しております国保の財政調整基金が44.1億円、令和６年度末現在あったんですけれども、この中から18.2億円を保険料抑制として注入いただいております。それをもちまして、令和７年度においては令和６年度と同率の保険税率とさせていただきました。ただ、付加限度額に関しましては、その算定時点での税条例、保険料条例に合わせた数値を用いるということで改正はさせていただいたん

ですけども、そういう現状があります。それに対しまして、ご指摘いただいておりますように、高額療養費がすごく上がってきておりまして、今国会でもいろいろ話合いを持たれておるわけなんですけれども、この高額療養費制度の限度の額を見直すというようなお話が出ております。それで、やっぱり、結構報道等では首相の発言を取って、ああやこうやというようなメディアの発言もいろいろあるんですけども、国から送られてきております方針しか正直私どももまだそんな詳細データはもらっておりませんで、皆様と同じような知識しかないんですけども、国からの資料を見ておりますと、やはりこちらの制度はこの高額療養費という本当に困っている方々を救わなきゃいけない、このセーフティーネットを継続維持するためには限度額の見直しを行わないと破綻が起きると。逆に、ここを限度額をそのままの現状でいきますと、保険料を上げるしかなくなるんですよね。そこで、やはり高額療養が必要な方々にとっては厳しい状況とはなるんですけども、国保全体で考えますと、限度額を引きとどめると、全体とか中間所得者層というところが非常に割を食うといいますか、負担が増えるような状況が見込まれますので、今回こういうような話合いの下、国も新たな基準を言っているのかなというようなことは思いますので、上牧町の見通しとしましては、国が示されたものに対しまして事務的な準備を進めていきたいと考えている状況でございます。

○服部委員長　竹中委員。

○竹中委員　詳しい解説ありがとうございます。基本的には、高額医療に関しましても、補助率100％で国から出るものです。町としての国保の会計が健全性と持続性ですよね。これが保たれていたらそれでいいかなというふうに思いますので、いろいろ難しいとは思いますけれども、今後ともよろしくお願いします。

それじゃ、次お願いします。

○服部委員長　住民保険課長。

○和田住民保険課長　出産育児一時金及び葬祭費の件数ということですけれども、こちら国保ナンバー４の資料に件数お示しいたしておりますので。ご確認ください。お願いします。

○服部委員長　竹中委員。

○竹中委員　その数字によりますと、出産育児金が10人の見込み、50万円の10人、それから葬祭費が３万円の30人ということですけれども、これは今後の子供の出生状況だとか高齢者の数なんか見ましたら、出産育児金は減っていく、葬祭費は増えていく、そんなふうに考えたらいいんでしょうか。

○服部委員長　住民保険課長。

○和田住民保険課長　ご質問の件につきましてですが、あくまでこちら国保に加入されている方々の数値となります。ですので、高齢者は増えておりますけども、やはり死亡される方は国保ではなくもう後期に移られた後であったりとか、若くしてお亡くなりになられたらこの葬祭費が適用されるので、非常に私どもこの予算の試算はすごく悩ましいところではございます。正直、修正につきましても、今回も２月の段階で、もうすぐ予定日やねんという方が転入してこられたりとか、当初予算ではなかなか把握できていない部分もあります。ただ、こども未来課とかと、母子健康手帳の発送の状況とか、そういったものを突合させていただいた上で、見込みとして今回のこの数値を上げさせていただいております。

○服部委員長　竹中委員。

○竹中委員　難しいと思いますね。亡くなる人の数を読むなんというのは僕、すごいやりにくいことやとも思いますし、この数字になってくるんだろうなというふうに思っているんですけれども、過去３年ぐらいの数値を上げてもらっていますので、そういう傾向なんじゃないかなということで質問させてもらいました。

次、お願いします。

○服部委員長　住民保険課長。

○和田住民保険課長　それでは、人間ドックの助成状況ということになります。こちら、資料はナンバー10で上げさせていただいておりますけれども、事業の内容と今年度の予算の積算のみとなっております。こちら、令和５年度決算時点となるんですけれども、人間ドックの受診者数は令和３年度で309名、令和４年度で341名、令和５年度で354名、また、脳ドックでは令和３年が113名、令和４年が109名、令和５年度が72名の方、受診されまして、そちらの助成を行っております。

○服部委員長　竹中委員。

○竹中委員　ということは、人間ドックと脳ドックを加算した数で見込みを立てている、そういうことですね、その数が410と。例えば、令和５年でしたら、数354と72足したら426人になりますよね。今年はその数値を見て410、これ令和４年でしたら341と109やから450人ですよね。410で大丈夫なんですか。

○服部委員長　住民保険課長。

○和田住民保険課長　傾向としまして、450から426と若干減少傾向にもございますし、そういったものを見込みまして、予算としては410名計上させていただいております。

○服部委員長　竹中委員。

○竹中委員　それだけたくさんの方が町の助成制度を利用しているのは僕はすごく喜ばしいことやと思うんですよ。早期発見して、国保の予算もそれだけ使わなく、軽く済む。今言いました高額医療にならなくても済むということにつながると思いますので、いいかなと思いますので、引き続きよろしくお願いします。

１人４万円も助成しているのは、僕、他市町村は知りませんけれども、それ自体はやっぱりすごいなというふうに思っていますので、厳しい財政の中とは思いますけれども、今後ともよろしくお願いします。

次、お願いします。

○服部委員長　住民保険課長。

○和田住民保険課長　それでは、同じページの保険税の還付金について、こちらの内容ということですので、こちらにつきましては歳出の予算ということになりまして、ご質問いただきましたように保険税を頂いておりますので、その当該年度中でありましたら歳入予算の中から還付をさせていただいております。ただ、役所ですので、年度ごとで会計を切りますので、ここに上がっているのは過年度分ですね、令和５年であったり４年であったり、そういう課税を掛けたものに対し所得の修正申告とかそういったことがなされた場合には差額が出ますので、ただ、もう４年、５年の会計は締まっちゃっていますので、過年度分として歳出の還付金のほうからお返しさせていただいている、そういうような項目になります。

○服部委員長　竹中委員。

○竹中委員　毎年この200万とかそれぐらいの近辺の数が還付されているということなんですか。

○服部委員長　住民保険課長。

○和田住民保険課長　こちらも読めない状況でございますので、実際の支出した結果を基に算出して、200万を上げさせていただいております。

○服部委員長　竹中委員。

○竹中委員　ありがとうございます。私の質問はこれで終わります。

○服部委員長　ほかに質疑ございませんか。

氏原委員。

○氏原委員　氏原賢一でございます。私からは、17ページ、款４保健事業費、１保健事業、項１保健事業費、目１保健事業費の特定健康診査事業費の件でお聞きさせていただきます。

昨年度は自宅に受診勧奨に来られたんですけども、今年度はなかったんですけども、何か

あったんかなと思いまして、質問させていただきました。

○服部委員長　住民保険課長。

○和田住民保険課長　こちらも制度といいますか、私どものやっております事業の内容についてご説明させていただきます。

今、受診の勧奨ということですけれども、少し下にあります国保ヘルスアップ事業がございます。こちらにつきましては、特定健診の未受診者の方であったり特定保健指導の未利用者の方に対して対応いただくような委託料となっておりまして、それとまた、今おっしゃっていただいております、委託料部分では特定健診であったり保健指導の委託料を計上させていただいております。どちらかといえば、その方がどういうケースかは特定できないんですけども、流れとしましては、このヘルスアップ事業が、特定健診をこれまで受けておられない方に対して通知を送ったり、訪問することで受診勧奨を行っております。そして、その後特定健診受けていただいて、必要な方に対しましては特定保健指導ということをさせていただきます。こちらも内容を業者に委託しておりまして、専門の方々で、動機づけとかいろいろ細かい内容がございますけれども、ちゃんと見合った正しい保健指導を行われまして、そのケースが完了した時点で１つの区切りとなりますので、保健指導が例えば１月から始めるとなってフォローアップ等もされますので､当然年度をまたがることも多々ございますので、何というか、おととし、去年にかけて来ていただいていた、今年、何でないんやろうといってもそれは１つの区切りとしてもそのケースは済んでいるということかなと思いますので、毎年の特定健診を受けていただいて、何か気になることがあればかかりつけのお医者様と相談されていただくような形が基本的な流れかなと。これでよろしいでしょうか。

○服部委員長　氏原委員。

○氏原委員　たまたま訪問した先で、その方も国民健康保険なので、もう特定健康診断に行ったかといったら、いつも受けてなかったら来てくれる、今年来うへんだけども、まあ氏原さん来たんやから行ってくるわというのがあったので、来うへんだというのは気になって質問させていただいた次第です。ありがとうございます。以上です。

○服部委員長　ほかに質疑ございませんか。

康村委員。

○康村委員　10番、康村昌史です。２点だけ質問させていただきます。

予算書の６、７ページの款８諸収入、項１療養費等指定公費返還金、目１療養費等指定公費返還金と。これに対して、また18、19ページの説明欄の療養費等指定被立替金というふう

に枠取りされているんですけれども、この辺よく分からなくて、説明をお願いしたいと思います。

２点目ですが、予算書の16、17ページの款４保健事業費、項１保健事業費、目１保健事業費の説明欄の最後の国保ヘルスアップ事業費、この委託料なんですけれども、特定健診未受診者、特定保健指導未利用者対策委託料568万円と、これは毎年計上されているんですけれども、大体利用者等は何人ぐらいを見込んではるのか、その辺をまずお聞きしたいと思います。

以上です。

○服部委員長　住民保険課長。

○和田住民保険課長　それでは、まず１つ目ご質問いただきました療養費等指定公費返還金の枠取りということで、こちらは平成20年から26年まで高齢者医療費制度の円滑運営臨時特例交付金がございまして、70歳から74歳までの高齢者に対して窓口２割のうち１割を指定公費として給付を行っていたというような制度がございまして、実際その制度はもう既に終わっておりますが、これだけ年がたっているので、ないと思うんですが、万が一の遡及適用とかいうことも考えられなくはないので、毎年度このように枠取りを出していただいております。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　よく分かりました。それなら、この立替金のほうはもう説明しなくて結構です。ありがとうございます。

次、お願いします。

○服部委員長　住民保険課長。

○和田住民保険課長　それでは、ヘルスアップ事業の受診勧奨の件につきまして、国保ナンバー12で資料は示させていただいております。件数につきましては、まず健康相談、健康教育が2,000人予算計上しております。続きまして、特定健診の未受診者に対する対策につきましては400名。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　意外と多い人数なんですけれども、特定健診を受けていない方が対象でということでよろしいですか。

○服部委員長　住民保険課長。

○和田住民保険課長　そのような予算取りをしております。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　この特定健診の対象者人数は何名なんですか。

○服部委員長　住民保険課長。

○和田住民保険課長　令和６年度、概数になるんですけれども、対象者としましては3,066名となっております。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　よく分かりました。特定健診の対象者は3,066名で、特定健診未受診者が2,000人もいらっしゃるということですか。

○服部委員長　住民保険課長。

○和田住民保険課長　健康教室が2,000名が対象ということで事業を行っていまして、特定健診の未受診者勧奨は400名とさせていただきましたので、お願いします。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　よく分かりました。これで質問を終わります。

○服部委員長　ほかに質疑ございませんか。

石丸委員。

○石丸副委員長　石丸典子です。令和７年度の国民健康保険特別会計の予算について質疑を行います。

まず、歳入、４、５ページの国民健康保険税です。保険税については、被保険者の人数が194人減ることが主な理由で保険税の収入が減額されるということは資料等でも出していただいております。そこでお聞きしたいのは、国民健康保険税の滞納繰越分についてですけれども、繰越分の収入見込額を33％というふうに見込まれています。資料、国保のナンバー１で出していただいているんですけれども、昨日の一般会計のところでも、それぞれの滞納繰越分の収納率が比較的低く見込まれているんですけれども、いろんな物価高等でなかなか税金とか国民健康保険税の支払が困難になっているのではないかと心配するところですけれども、この収納率を33％と見込んだ理由、これをお願いしたいと思います。

項目は２つですので、次、２つ目は８、９ページの歳出になります。一般管理費のところで、一般管理費の12委託料です。９ページの真ん中より下あたりにシステム改修委託料ということで、資料ナンバー３で1,089万円の支出が組まれております。これについての説明をお願いいたします。

以上の項目です。

○服部委員長　税務課長。

○山本税務課長　それでは、予算書４、５ページの滞納の部分につきましてご説明させていた

だきます。収納率が33％という形で、0.7％前年度より落ちている理由でございますが、はっきり申しまして、今年度につきましては国保のマイナンバーカードと健康保険の一体化になったことが大きな要因でございます。まず、それにつきましても、収納の方法が以前とかなり変わりますので、滞納者の方にアプローチする方法が変わってきております。収納に関しましても初めての取組でございますので、どれぐらい取れるんだろうというのが、まず当課での課題となりました。課題としては、決算見込額を基に大体これぐらいは通常どおりはいけるであろうという形で約33％という形で算出させていただきました。マイナンバーカードの一体化となりまして、今１年間の猶予という形で健康保険証を発行しているわけなんですが、その次の部分で新しい取組を取り組ませていただくに当たりまして、滞納額、これがどういうふうに増額になってくるのかが一番の課題という形で、今回の予算計上もそれが一番の課題であることが問題となりましたので、こういう形で0.7％の減となりました。そういう形で予算計上を上げさせていただいております。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　早く言えば、マイナンバーカードが普及すれば滞納者の状況がうまくつかめて収納につなげることができるけれども、令和７年度はまだ過渡期なので収納率がこのような状況だということですか。違いますか。

○服部委員長　税務課長。

○山本税務課長　今過渡期という形ではないんですが、取組方法がまた変わって、資する取組という形で４つの項目ございましたけども、その方向で取組をしていくという形になっておりますので、滞納されている方なんですが、これ滞納があれば10割負担になると。10割負担になった場合、ぶっちゃけの話、ここで滞納してもかまへんやろと思わはる人も出てきはると思うので、そういう方を取りこぼさんように徴収するために、今までの方法とは違うんですが、相手方と接触させていただいて、できるだけ多く面談させていただいて、分納誓約とかそういう形で回収の方向を向けた方法で当課としては取っていきたいなと考えてのことになっております。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　分かりました。窓口で十分相手の話を直接聞かれて、生活状況であるとか収入の状況であるとか、支払が困難な状況もあると思いますので、丁寧な対応が要ると思います。

先ほどの委員も質疑されましたけれども、人間ドック等の助成制度も滞納があれば利用で

きませんものね。直近の保険税が滞納であれば、そういう人間ドックも助成は受けられないということで悪循環になりますよね。健康も金次第ということにつながらないように、本当に生活が大変になってきたら、やはり食べることが一番で、保険税とか税金はどうしても待ってほしいという方も今後出てくることもありますので、丁寧な対応をしていただきますようによろしくお願いいたします。

次の項目、お願いいたします。

○服部委員長　住民保険課長。

○和田住民保険課長　それでは、ご質問いただきました一般管理費のシステム改修費用の中身ということでございます。資料でも国保ナンバー３として出させてもらっております。システム改修内容につきましては、子ども・子育て支援金制度の施行に向けたものということになっております。この子ども・子育て支援金制度ということなんですけれども、こちら子ども・子育て支援法で決められました支援納付金というものがございます。対象としまして、費用としましては、出産・子育て応援給付金の制度化、共働き・共育てを推進するための経済支援、こども誰でも通園制度、児童手当、子ども・子育て支援特例公債の償還金等に充てる拠出金としまして、令和８年度から毎年度、医療保険者から支援納付金を徴収する、また、医療保険者はこの支援納付金を納付する義務を負うというような制度でございます。それに対しまして、実際のところ、まだこれも数値的なものも、国が決めている設計図といいますか、そういったものでは示されているような段階でございまして、詳細については下りてきていないんですけれども、内容としましては、協会けんぽ、健保組合、共済組合と言われるような被保険と、私どもの国民健康保険、並びに後期高齢者医療制度におきまして、拠出する金額についても構造的なことを考えて、平均した額ではなくてばらつきを持たせると。被保険者は平均300円を令和８年度見込んでおられるんですけども、協会けんぽが250円、健保組合は300円、共済組合は350円。それに対しまして、国保は250円であったり、後期高齢者200円であったり、負担は今言った保険の状況に応じてばらつかせるというような制度でございます。これの国保部分と、後期も同じようにシステムを上げておるんですけども、対応するための改修費用となっております。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　この委託料は全額国庫支出金で1,089万円、全額国庫からの支出金で賄う事業ですけれども、子ども・子育て支援法の改正で、今説明がありました児童手当の拡充であるとか、妊婦等の経済的負担の軽減とか、共働きや共育ての推進など、子育て世代の給付面

では本当に実現が待たれている課題です。しかし、その財源の１つに医療保険のそれぞれの健康保険、国民健康保険などの保険税に上乗せして徴収するという新たな支援金ですよね。現在、国保の制度では医療分と介護分と後期高齢者支援金分と３つあります。そこにプラス子ども・子育て支援金分が上乗せされるということは、今、国保では250円というふうな金額も出されましたけれども、国民健康保険税の引上げにつながるということですね、そういうことでよろしいですね。250円は１世帯250円ですか、１人250円ですか。

○服部委員長　住民保険課長。

○和田住民保険課長　まず、今申しました金額につきましては、こども家庭庁から令和６年７月１日に出されております連合会議がございまして、その資料の数値を述べさせていただきました。ですので、実際の実施のときに今申し述べた金額でなるかといったらまだ分からんようなところがあるんですけども､資料詳細見ますと､おっしゃっていただきましたように、正しく１世帯当たりは350円、１人当たりで250円の試算として国は設計図をつくっているというような状況でございます。それと、おっしゃっていただきましたように、まだ最終制度的確定はしておりませんけれども、私どもも予測としまして、当然システムの改修はするんですけども、予算計上におきましても医療費分、支援分、介護分とございまして、そこにもう１つこの子ども・子育て支援分が増えるんじゃなかろうかというような見込みを立ててこれからは事務を執行しないといけないなというようなことを考えている状況でございます。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　これ、国の方針に関わる問題ですけれども、これ以上の新たな負担は家計をさらに圧迫して貧困や格差を広げるものでありますし、本当に医療が必要な方が受けられるような国民健康保険制度から遠ざかるということでは大変問題だと思います。財源のあとは求め方、それぞれの医療保険に上乗せではなくて、やっぱり国がそこまで責任を持って財源も考えていかなければというのは私どもの党の見解ですけれども、ここでは行政としてはこれに沿って予算化をされたということですけど、大変問題がある仕組みだということを指摘させていただきまして、質問を終わります。以上です。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　予算書の18、19ページの説明欄の財政調整基金費なんですけれども、基金残高が１億3,865万4,000円になっているんですけれども、令和６年度の予算書によりますと、２億2,576万8,000円と。基金残高がすごい、貯金が8,700万も取り崩すという理由について教えていただきたいと思います。

○服部委員長　住民保険課長。

○和田住民保険課長　基金残高につきましては、財政調整基金と言っておりますように、歳入歳出で出た差額分を基金から補うことがございます。そして、令和６年度当初部分をおっしゃっていただきましたけれども、補正予算でも金額は動いておりまして、そして、令和７年度当初予算分の歳入歳出と調整した後の金額が今おっしゃっていただきました１億3,865万4,000円という形となっております。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　今後の基金残高の見通しはどのように減っていくんですか。私の記憶では、大体この貯金は４億ぐらいずっとあって、それが気がついたらこのぐらいまで減ってきているというのもなんですけど、この先どのようになるのか教えていただきたいと思います。

○服部委員長　住民保険課長。

○和田住民保険課長　基金残高につきましてですけれども、平成30年度の改正前までは３か年の保険給付金の平均の５％を保有するのが国が示した指針としてございましたけれども、改正後はそういうものもなくなっておりまして、全国の市町村を平均見ていきますと、25％程度の団体が保険給付費の10％から20％程度の基金を保有していることが健全安定化に向けて望ましいというような状況であるということで、実際ご指摘いただきましたように令和６年度の予算までは10％以上の保有はしておりましたが、今回保険給付費の19億901万4,000円に対しまして、１億3,865万4,000円の基金保有ということであれば、7.26％しかございません。先ほどより申しておりますように、医療給付費がどんどん増えているような状況の中で、やっぱりある程度の基金の確保は必要だと当方も考えております。ですので、今後の対応としましては、一般会計からの繰入金等もございますので、法定内事業の範囲の中で、そこは一般会計もすごく厳しい状況でございますので、財政当局ともまた検討しながら、この基金保有残高を安心して国保運用ができるようなレベルまでは上げる、またはキープし続けたいなと、そういうような予算措置を今後は検討したいと考えております。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　間違いなら言うてくださいね。人間ドック、あれの原資はここにあると思っておったんですが、そうじゃないんですか。

○服部委員長　住民保険課長。

○和田住民保険課長　おっしゃるとおり、保健事業の人間ドックの部分につきましては、基金を取り崩して賄っているというような認識で結構かと思います。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　よく分かりました。以上で終わります。

○服部委員長　これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

討論はございませんか。

（「討論なし」と言う者あり）

○服部委員長　討論なしと認めます。

これから採決いたします。

本案を原案どおり可決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○服部委員長　ご異議なしと認めます。

したがって、本案は原案どおり可決するものと決定いたしました。

議第28号　令和７年度上牧町後期高齢者医療特別会計予算について、これを議題といたします。

提案理由の説明は終わっておりますので、これから質疑を行います。

質疑はございませんか。

石丸委員。

○石丸副委員長　石丸典子です。令和７年度後期高齢者医療特別会計予算についての質疑を行います。

まず、歳入のところで、４、５ページで、後期高齢者医療保険料のところで資料を出していただいておりますけれども、現年度分の保険料が前年度に比べて減額となっているところの要因をお願いしたいと思います。被保険者数については、232人増えているところです。それともう１つは、歳出、６、７ページですけれども、総務費の一般管理費で、これも国民健康保険と同じくシステム改修が行われており、子ども・子育て支援新制度の移行に向けてのシステム改修ということで同じ説明がされておりますけれども、75歳以上の方の、後期高齢者の保険料の引上げにつながっていくものであるというところの点で確認をしたいと思います。以上の２点です。

○服部委員長　住民保険課長。

○和田住民保険課長　それでは、ご質問いただきました、まず歳入、保険料の試算といいますか、予算計上の理由ということでございますけれども、こちらにつきましても運営主体は広

域連合で後期高齢者医療は行っておりまして、そちらから示された数字がございまして、当然毎月報告しておりますので、保険者は増えている形にはなっていると思いますが、広域連合でまた医療費とも鑑みた形で示された数字を反映しておりますので、その結果でございます。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　分かりました。では、２つ目をお願いいたします。

○服部委員長　住民保険課長。

○和田住民保険課長　この２点目、システム、今回予算書上は委託料という形にさせていただいております。実際、厳密に言いますと、先ほど言った制度対応でシステムの対応をするんですけれども、こちらも基本的には広域連合で大幅なシステム改修が行われて、そのデータを受け取るというような仕組みになっておりまして、この金額を上げさせていただいております。ですので、ご質問いただいているような制度についてということでございますので、内容については国保と全く同じ形でございます。先ほどご指摘いただきました内容につきましても、同じ件でございますので、そのように認識させていただきます。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　分かりました。新たな負担につながっていくのではないかと大変心配をするところです。

以上です。ありがとうございます。

○服部委員長　ほかにございませんか。

（「なし」と言う者あり）

○服部委員長　これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

討論はございませんか。

（「討論なし」と言う者あり）

○服部委員長　討論なしと認めます。

これから採決いたします。

本案を原案のとおり可決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○服部委員長　ご異議なしと認めます。

したがって、本案は原案どおり可決すべきものと決定いたしました。

議第29号　令和７年度上牧町介護保険特別会計予算について、これを議題といたします。

提案理由の説明は終わっておりますので、これから質疑を行います。

質疑はございませんか。

安中委員。

○安中委員　安中です。お願いいたします。

予算書の18、19、款３地域支援事業費の19ページの12委託料、認知症地域支援ケア向上事業費というところなんですけれども、タブレットの８ですね、ここの去年の分の数字が、令和６年の委託のところが350万から今年290万で60万減っているんですけれども、この理由をまずお聞かせ願えますか。

○服部委員長　生き活き対策課長。

○杉分生き活き対策課長　ご質問にご回答させていただきます。減額としては今29万ということでよろしいでしょうか。

○服部委員長　安中委員。

○安中委員　29万、それの減額した理由をお願いします。

○服部委員長　生き活き対策課長。

○杉分生き活き対策課長　こちらに関しましては、令和７年度に関しまして、オレンジカフェの需用費、オレンジカフェの傷害保険を減額させていただいているところでございます。

○服部委員長　安中委員。

○安中委員　オレンジカフェの損害保険料が減額しているということの理由をお願いできますか。

○服部委員長　生き活き対策課長。

○杉分生き活き対策課長　オレンジカフェにつきましては、コロナ等の事情もあり、現在休止させていただいているところでございます。令和７年度に関しましても、どうやってオレンジカフェを存続していくかというところから、検討から開始しないといけないというところでございまして、今現在のところ検討段階ですので、傷害保険は今のところ減額とさせていただいております。

○服部委員長　安中委員。

○安中委員　認知症のオレンジカフェは、家族の方とかの相談でいろいろ各地でも行われていますよね。この間、法隆寺のカフェ行きましたら、法隆寺は５か所のところにオレンジカフェみたいなのをつくってられるんですが、とてもいい雰囲気で、役場とは違う、役場の会議

室とは違う、役場と離れたところで全く普通の喫茶店のところに行きやすい形でつくってられるんです。それはなぜかというと、まだまだ隠れ認知症、すごく認知症に対して臆している方がいらっしゃる、なかなか認知症ですというのを、うちの家族が認知症ですというのを言いづらいという方がたくさんおられて、町の中見ても、スーパーでも、本当、認知症だなという方、家族が連れ添っていられるんだということは見受けることが多くなりました。そういう方々のために、まず最初は、これが大っぴらになってくるといいんですけど、最初は上牧町でも考える、そういう場所を増やしていただければすごくやりやすいというか、住民が助かる。認知症は、自分の経験からもそうですけども、家族の者のほうがつらいんですよ。だから、ここのところをもうちょっとしっかり考えていただいて、増やしていただければなと思いますので、企画としてお願いいたします。どうですか。

○服部委員長　生き活き対策課長。

○杉分生き活き対策課長　認知症カフェに関しましては、キャラバン・メイトのご協力なしではできないのかなとこちらでは考えております。事務局の力だけではやはり力不足というところもございます。今現在、キャラバン・メイトも８名というところで各事業所で頑張っていただいているところではありますが、何分、無報酬でございまして、事業所も事業の途中で抜けてキャラバン･メイトの活動にしていただいているので､そういう問題も解決しつつ、認知症カフェの再開に向けて地域包括支援センターで取り組んでいきたいと考えております。

○服部委員長　安中委員。

○安中委員　そうですよね。どうやったらこれができるのかな。でも、法隆寺なんかは、他地区の部分のところに見学に行ったり、とにかく勉強されていると思うんですけれども、ああいうふうになったらいいなと、中の方々が認知症の抱えている家族は二、三人で、ほか、職員の方とあと経験者がいらっしゃっていて、その方々のお話がすごくよかったので、キャラバン・メイトをしっかりと、キャラバン・メイトって、結局今までおじいさん、おばあさん、親御さん等を介護の経験があるという方は上牧町の中でもたくさんいらっしゃると思うんですよ、私もお話聞いて慰められたりしてきましたので。そういうところをもっと積極的に集められたらいいのかなと思いますので、いかがでしょうかと聞いても、頑張っていらっしゃると思うんですけども、今後も頑張っていただきたいと思います。

以上です。頑張ってください。終わります。

○服部委員長　ほかにございませんか。

氏原委員。

○氏原委員　予算書の15ページ、款３地域支援事業費、項２一般介護予防事業費、目１一般介護予防事業の説明欄の一番下、シルバークラブ助成事業費の分について、これはどういった分で委託をされているのか、お聞かせください。

○服部委員長　生き活き対策課長。

○杉分生き活き対策課長　シルバークラブ助成事業費についてご説明させていただきます。

まず、各地区で友愛活動をされておられる方に関しまして、チーム数がありますので、そのチームが１チーム４万5,000円というところで補助させていただいておりまして、令和７年度に関しては28チームの登録があるというふうにお伺いしておりますので、その分を予算化させていただいております。また、シルバークラブもこの友愛のまとめとして１チーム８万円というお金を補助させていただいております。その中で、また文化芸能、軽スポーツ、ハイキングといった活動に対して町から委託させていただいているところでございます。

○服部委員長　氏原委員。

○氏原委員　よく分かりました。ありがとうございます。

以上でございます。

○服部委員長　ほかにございませんか。

石丸委員。

○石丸副委員長　石丸典子です。介護保険の令和７年度の予算について質疑を行います。

まず、歳出です。10、11ページから成ります保険給付費ですけれども、資料ではナンバー１とナンバー２でそれぞれ出していただいています。前年度予算との対比は３年間の事業計画での数値ですので特徴が分からないんですけども、資料のナンバー１、介護サービス等諸費並びにナンバー２の介護予防サービス等諸費について、それぞれ利用状況の特徴、高齢化が進んで認定者も多くなってきて、上がってきていると思うんですけれども、それぞれのサービスについてどんな傾向になっているのかということを資料の数字も出していただいているんですけれども、説明をお願いいたします。

もう１点は、歳出のほうでお聞きをしますが、18、19ページからの地域支援事業費の中の任意事業費の中で、上牧町では配食見守り支援事業をやっておられるんですが、19ページです。この対象者と役割の見直しが必要ではないかと思うんですけど、これは栄養の管理であるとか見守りを兼ねてしているんですけれども、利用者の数としたら20件ぐらいという、補正予算でもそういうような数値であったと思います。対象者が限定されているので、なかなかここに該当する方がいないと。希望する方は多いかと思いますけれども、希望者にこの支

援をするというだけではなくて、私は軽度認知症への支援が今大切だということでマスコミ等でも大変報道されています。認知症の予防策としてまず運動、食事、社会参加が言われていますね。これ、もっともだと思います。食事のところについては、バランスのいい食事を１日１回でも食べていくことが大変大事だとつくづく感じております。私も高齢のところの真っただ中に突入しておりますので、そうなんですけれども、家にいろいろ材料があっても、それを使ってうまく調理ができない。買物に行くけれども、自分の好きなものを買ってきて、簡単なパンと牛乳だけで済ませたりということがかなりありまして、だから、買物に行ける方やから大丈夫やとか、自分で料理してもらったほうがいいから、介護予防になるからということで、今までそういう説明もありました。もちろん、自分で買物行って献立を考えて買物して家で作るのはすごい能力が要ります。だんだんそれができなくなってきているというところから認知症が始まっているというふうにも、周りでも感じる方が本当に多くなっているなと思います。その点から対象者の見直しをするとか、もうちょっと手続を簡単にするとか、書類たしか３枚も４枚も書類あったと思います。私も１回もらったことがありますけれども、ややこしい。町でそのような判断をして、この人にはもう少しこういう支援が要るという観点から、この支援事業の在り方の見直しをされてはいかがでしょうかというのが提案です。

以上の項目です。

○服部委員長　生き活き対策課長。

○杉分生き活き対策課長　それでは、まず保険給付の部分からご回答申し上げます。

石丸委員のおっしゃるとおり、保険給付の部分に関しましては、第９期介護保険事業計画の下、算定させていただいております。今のところ、傾向といたしましては、令和４年から５年にかけては、介護保険に関しましては、介護の項に関しましては訪問介護、訪問看護、通所介護、福祉用具の貸与が増加傾向でございます。介護予防に関しましても訪問リハ、通所リハ等が増加傾向にあります。介護予防に関しましては、本人の意思で自宅でどうにか生活したいというところでリハビリに通っておられる方が増えているような傾向でございます。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　資料で見ますと、施設利用者が金額でしたらちょっと少なくなっていたかと思うんですけども、どういう傾向ですか。

○服部委員長　生き活き対策課長。

○杉分生き活き対策課長　資料で提示させていただいたものに関しましては、あくまで介護保

険事業計画に基づいて前年度比で算出させていただいているところでございまして、今、私がお伝えさせていただいた令和４年度や５年度のものに関しましては、あくまで実利用数で一番伸びているところをお伝えさせていただいたところでございます。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　分かりました。自分で言っておきながら、この資料のところで、令和７年度の介護保険の予算の数値とは食い違いが起こってきているということですね。年度途中で過不足が出たら補正対応されるということですね、この給付費のところで。

○服部委員長　生き活き対策課長。

○杉分生き活き対策課長　おっしゃるとおりでございます。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　理解いたしました。ありがとうございます。

　では、２つ目は提案なんですけども、考えていただける１つになればと思うんですけど、配食見守り支援の対象、どういう方を対象にされているというのをここで改めて説明ください。

○服部委員長　生き活き対策課長。

○杉分生き活き対策課長　現在、当町の配食見守りサービスにつきましては、独居高齢者、高齢者世帯等の対象要件を満たす方に対して週３回を上限として昼食または夕食のお弁当を手渡しで配達させていただいており、安否確認と栄養改善を行う事業として取り扱っているところでございます。利用者に関しましては、町内に居住する高齢者の単身世帯、高齢者のみ及びこれに準ずる世帯、訪問系サービスを利用していない者、介護サービス予防を使っていない者として制度を使わせていただいているというところでございます。

　今、石丸委員のおっしゃるとおり見直しをというところでございますが、介護保険サービスと併用して今のところは使えないというところで当町としては配食を実施させていただいているところでございますので、今後こういう見直しは実施しないといけないかなと思うんですが、そうなると、やっぱり介護保険の制度とこちらの任意事業の制度との兼ね合いもございますので、調査検討を重ねていかせていただければと思います。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　介護保険を利用していると使えない、ヘルパーに来ていただいたりした場合は駄目だ、家族がいたら駄目だ、近くに身内がいたら駄目だと、いろいろあると思うんですけれども、これ考え方ですけれども、介護保険の特別会計の中ではなくて一般会計の中で高

齢者の支援ということで、考え方としてもできますよね、一般会計の中で支援を町独自でするということも極端に言ったらできると思います。介護保険の中でしようとすれば、地域支援事業費の全体の枠の中でなりますので、それも含めてやはり上牧町の支援策として一度考えていただきたいと思います。手続等も簡単にできるようにということでよろしくお願いしたいと思います。できれば町の職員等が訪問していただけたりするといいんですが、そこは現在は委託の業者が届けて、元気にいらしたとか、届けられたというふうなところになっていると思いますけれども、その辺についてもぜひ考えていただいて、軽度の認知症の方への支援が大変大事だと思います。これ何か数年間こういう期間があって、だんだん重症化になるということですので、何でもやっていた方が急にという方も本当に多いので、こういう食事の面から支援をするということが大事ではないかと思いましたので提案をさせていただきました。検討いただきますようお願いします。

○服部委員長　生き活き対策課長。

○杉分生き活き対策課長　今、石丸委員のおっしゃるとおり、委員の申出に関しましては検討調査をさせていただきたいと思います。また、地域包括支援センターでは、例えば配食を使っていただいて今業者で見守りはしていただいているところでございますが、連絡とれないところに関しましては包括の職員が伺わせていただいて安否確認等もさせていただいております。窓口に関しましても、今おっしゃるとおり軽認知症に関しましても、ほぼほぼ毎日、今の２月時点で1,100件ほどのご相談もありますので、そういったところで対応できるところは包括支援センターの制度を使いつつ、その方に応じたサービスを提供できるように調査検討させていただいておりますので、よろしくお願いいたします。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　いろいろご苦労いただいておりますことは大変お礼申し上げます。大変ご苦労さまです。

以上で介護保険の予算に対する質疑終わらせていただきます。

○服部委員長　ほかにございませんか。

（「なし」と言う者あり）

○服部委員長　これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

討論はございませんか。

（「討論なし」と言う者あり）

○服部委員長　討論なしと認めます。

これから採決いたします。

本案を原案のとおり可決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○服部委員長　ご異議なしと認めます。

したがって、本案は原案どおり可決するべきものと決定いたしました。

ここで休憩とし、再開は午後１時といたします。

休憩　午前１１時５７分

再開　午後　１時００分

○服部委員長　再開いたします。

議第30号　令和７年度上牧町住宅新築資金等貸付事業特別会計予算について、これを議題といたします。

提案理由の説明は終わっておりますので、これから質疑を行います。

石丸委員。

○石丸副委員長　石丸典子です。令和７年度の上牧町住宅新築資金等貸付事業特別会計予算について質疑を行います。

１点でありますけれども、４、５ページの歳入です。諸収入で、宅地取得資金元金収入106万3,000円、現年度分ということで予算計上されております。この収入をもって貸付事業の償還に充てるというふうな会計なんですけれども、この会計は昭和63年、1998年３月制定されて27年が経過します。現在、収入、返金がありますけれども、人数ですね、恐らく１件とか２件とか、以前そういう件数を確認したことがあるんですけれども、何件の分かということと、この会計の終了の見込み、返済が全て終わってこの会計がなくなるということで、ほかの会計のように、ここでは基金がたくさん積み上がっていますけれども、この基金を使って貸付金を返してしまうというものではなく、返金があるまで続く会計というふうな仕組みで、ほかの会計と違うので疑問を最初持ったものでした。それで、人数とこの会計の終了の見込み、どのように見込んでおられますか。

○服部委員長　まちづくり推進課長。

○細川まちづくり推進課長　それでは、住宅貸付け、新築事業の人数なんですが、今３名の方が対象となっております。それと、終了になりますが、令和９年度をもって終了となります。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　では、今回予算に計上されている分も３人分の元利収入ということでよろしいですね。

○服部委員長　まちづくり推進課長。

○細川まちづくり推進課長　おっしゃるとおりでございます。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　令和９年度で終わるということ、予定どおり返金があればということですね。分かりました。伺っておきます。

以上で終わります。

○服部委員長　ほかに質疑ございますか。

康村委員。

○康村委員　10番、康村昌史です。令和７年度上牧町住宅新築資金等貸付事業特別会計予算について、１点お尋ねいたします。

予算書の８ページなんですけれども、この表によりますと、住宅新築資金貸付事業債はゼロと。２番目の宅地取得資金貸付事業債は24万2,000円となっておりますので、この事業はもう令和８年度で終わっちゃうんじゃないんですか。なぜ令和９年度なのか、その説明だけお願いいたします。

○服部委員長　まちづくり推進課長。

○細川まちづくり推進課長　今、先ほど申し上げたお３方の中で、最終的に返済していただく方１名については令和９年度までとなっておりますので、令和９年度までの事業ということで回答させていただきました。

○服部委員長　ほかにございませんか。

（「なし」と言う者あり）

○服部委員長　ほかにないようです。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

討論はございませんか。

（「討論なし」と言う者あり）

○服部委員長　討論なしと認めます。

これから採決いたします。

本案を原案のとおり可決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○服部委員長　ご異議なしと認めます。

したがって、本案は原案どおり可決すべきものと決定いたしました。

議第31号　令和７年度上牧町下水道事業会計予算について、これを議題といたします。

提案理由の説明は終わっておりますので、これから質疑を行います。

質疑はございませんか。

氏原委員。

○氏原委員　氏原でございます。

予算資料の24、25ページで、款１下水道事業費用、項１営業費用、目１完了維持費の右側の委託料のウォーターＰＰＰ導入可能性調査業務委託料なんですけども、ウォーターＰＰＰ調べでもよく分からなくて、どういった事業を委託するのかをお聞きしたくて質問させていただきました。よろしくお願いいたします。

○服部委員長　上下水道課長。

○南浦上下水道課長　それでは、款・下水道事業費用、項・営業費用、目・環境維持費の節・委託料のウォーターＰＰＰ導入調査について説明させていただきます。

下水道事業につきましては、施設の老朽化や人材不足などの課題を抱えており、経営状況や執行体制は厳しさを増している状況にあります。このような状況下において、国は民間企業のノウハウや特徴を生かしたＰＰＰ導入を推進しており、水道、下水道、工業用水道分野において効果が期待できる官民連携方式として、管理・更新一体マネジメント方式を含めたウォーターＰＰＰの活用が新たに位置付けされたことに伴い、導入可能性調査を実施するものでございます。資料につきましては、下水道ナンバー１で載せさせていただいております。この右の表で表している契約の関係、あと事業フォロー、こういう形になってまいりまして、地方公共団体と民間業者とが契約して、その民間業者が管渠の更新に関すること、維持管理を10年間していただくと、そういう形になってまいります。今、うち、ストックマネジメント計画やっているんですけれども、それの調査についても生かされることとなってまいります。

○服部委員長　氏原委員。

○氏原委員　来年度については単費として370万円、先ほど説明のありました10年間やっていくことなんですけども、この370万円は来年度のみなんでしょうか。それとも毎年370万円が計上されるんでしょうか。

○服部委員長　上下水道課長。

○南浦上下水道課長　金額につきましては、2,370万円の予算になっております。これは導入可能性調査だけのものであって、７年に導入可能性調査、それと８年に実施方針の検討業務がございまして、その作業を行って令和９年から今言っている契約という形になってまいります。

○服部委員長　氏原委員。

○氏原委員　そうしましたら、調査をした後、また契約をして、10年間ということで、そこでまた予算が上がっているという理解でよろしいですか。

○服部委員長　上下水道課長。

○南浦上下水道課長　そのとおりでございます。

○服部委員長　ほかにございませんか。

石丸委員。

○石丸副委員長　石丸典子です。令和７年度下水道事業会計予算についての質問をさせていただきます。

24、25ページのところですけれども、今の氏原委員の質疑のウォーターＰＰＰの下のところで、下水道ストックマネジメント計画に伴う修繕・改築計画策定業務委託料ということで、これに関することで、私、今回の一般質問で下水道管の改築計画ということで通告しておりますので、ここちょっと関わってくるところなんですけれども、本会議場でまたお聞きするかも分かりませんが、ここであらかたのことをお聞きしたいと思いますけども、資料を見ますと、令和７年度予算においては友が丘で修繕・改築のための業務を行う、次年度以降において友が丘地区における改築の設計業務を行う、その後に工事ということで、実際に取りかかるにはまだ今年と来年と丸２年があって、それから工事が始まるということで、なかなか息の長い工事ですね。１地域においても何年かかるか分からないということで、調査結果に基づいてそれも何年かが分からなくて、なかなか大変な事業だと思われます。その辺で、そういうふうな認識でいいのかどうかの説明をまず１点目です。

それと２つ目は、同じページの真ん中あたり、手数料ということで、下水道使用料徴収事務手数料ということで、これが大幅に増額になっているんですけれども、恐らく下水道の使用料の徴収方法ということで、企業団の関係が水道の広域化に伴うのに関連してきているのではないかと思うところですが、説明をお願いいたします。

それと、次のところ、もう１つ目というか、あと２つですけれども、30、31ページで、資本的収入及び支出のところで、31ページの真ん中より上のほうで備消品、備品、消耗品かな、

事務用品の下に書籍追録代が新しく項目が入ってきているんですが、これの説明をお願いいたします。

それと、下水道の汚水管の築造工事については資料を見させていただきましたら、北上牧地区で行われるということと、公共下水道のストックマネジメントの計画によった改築工事においては片岡台の一部の地域が行われるというふうな資料での内容を確認させてもらったところです。確認ですけれど、以上の点ですけれども、回答をお願いいたします。

○服部委員長　上下水道課長。

○南浦上下水道課長　それでは、１点目の25ページの下水道ストックマネジメント計画に伴う修繕・改築計画策定業務委託料について説明させていただきます。本業務につきましては、平成30年度策定の上牧町下水道ストックマネジメント基本計画に基づき、友が丘地区におきまして修繕・改築計画策定業務を実施するものでございます。業務延長といたしましては430メートルでございます。それと、この修繕・改築計画、策定してから、さっき言われている策定期間、工事期間、それは検討に入るんですが、基本的には５年で１くくりにされておりますので、一応５年という形になってまいります。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　そうしますと、友が丘地区での改築工事は５年間の計画、工事期間が５年間というふうに区切られるということですね。

○服部委員長　上下水道課長。

○南浦上下水道課長　修繕・改築計画を立ててからの５年ですので、設計業務も含まれてまいります。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　計画を立ててから５年内に工事を終了させるということ。その期間が地域によっては広範囲に改築工事が要るところもあるのではないかと思いますけど、それは切られるわけですか。予算との関係ですか。この修繕・改築計画は５年計画の事業であるということですか。もう一度説明をお願いいたします。

○服部委員長　上下水道課長。

○南浦上下水道課長　修繕・改築計画を立ててから５年ですね。設計も入って５年です。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　５年以内で改築が全て終了するのが前提ですね。残ってしまうところは出ないわけですか。

○服部委員長　上下水道課長。

○南浦上下水道課長　残らないような形で設計に入って、工事に入っていきますので。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　ということは、それに必要な予算もそこに充てられるということですね、５年間で終了できるように。

○服部委員長　上下水道課長。

○南浦上下水道課長　修繕・改修計画の中で概算の工事費を出しますので、そこで計画が立てられるという形になっています。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　お聞きしておきます。一般質問の中で、何年でどのぐらい終わるのかというところをまたあとざっくりとお聞きしたいと思います。友が丘地区での計画の策定ということでお聞きをしておきます。結構です。

次の手数料のところをお願いいたします。

○服部委員長　上下水道課長。

○南浦上下水道課長　その下の下水道使用料徴収事務手数料でございます。このことにつきましては、令和６年度も予算付けていただいておったんですが、単価が企業団で定められましたので、その単価が上がったことで金額が上がったものでございます。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　単価が上がっただけで仕組みは変わっていないということなんですね。

○服部委員長　上下水道課長。

○南浦上下水道課長　そのとおりでございます。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　この件に関しましては、広域水道企業団への水道事業の統合に伴って、徴収のところにおいては企業団に委託するため、下水道使用料の徴収方法は企業団が定める方法の例に改めるというふうな条例改正のところで出ていたんですけれども、これはもう既にこういう手数料という形で徴収事務手数料をお支払いされているのは、令和６年度から行われているという理解でよろしいですか。

○服部委員長　上下水道課長。

○南浦上下水道課長　令和６年度は、下水道から水道事業に委託料を渡しておったんですが、それが今度企業団になりますので、企業団の単価でお支払いするという形になるということ

です。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　単価が上がっているということですね、手数料がね。それで、下水道使用料の徴収方法についてはこれまでどおりですね。

○服部委員長　上下水道課長。

○南浦上下水道課長　そのとおりでございます。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　分かりました。次、お願いいたします。

○服部委員長　上下水道課長。

○南浦上下水道課長　次に、31ページの備消品費の書籍追録代、これ、去年の予算書には研修費という形で組んでおったんですが、その研修費でこの書籍を入れるのはおかしいとチェックが入りまして、こちらの形で７年度は上げさせていただきました。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　分かりました。結構です。

工事費については確認ですので、資料のとおりでということで分かりましたので、結構です。

最後に、恐れ入ります、確認ですけれども、この下水道事業会計においての人件費分ですね、職員数の内訳をお願いできますか。

○服部委員長　上下水道課長。

○南浦上下水道課長　基本、今の人数分の形で予算を運用させていただいております。昨日も報告させていただいた企業団への派遣の人数が職員５名、会計任用は１名という形で報告させていただいていますので、残り５名と会計任用２名で上げさせていただいております。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　それは上水道の職員で、下水道を担当する職員の数は。

○服部委員長　上下水道課長。

○南浦上下水道課長　予算書の８ページに人数は載せさせていただいております。今言うていますように、10名と５名派遣になりますので、職員は５名で下水のほうの人件費は見させていただいております。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　数が見にくいんですけれど、この予算書の給与費明細書の８ページのところ

で、一般職総括で７人ということと、これが総数ですよね、会計年度任用職員が２名と正職員５名で合計７名。下水道会計における人件費の数は７名ですね。

○服部委員長　上下水道課長。

○南浦上下水道課長　そのとおりでございます。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　それプラス上水道の職員もここに入っているというふうな認識をしたんですが、それは違いますか。

○服部委員長　上下水道課長。

○南浦上下水道課長　ここには入ってないです。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　暫時休憩をお願いいたします。

○服部委員長　暫時休憩します。

休憩　午後　１時２５分

再開　午後　１時２７分

○服部委員長　再開いたします。

石丸委員。

○石丸副委員長　石丸です。職員数について少し誤解をしておりましたので、訂正させていただきます。

上下水道両方合わせた職員数の中において６名、正職員５名と会計年度任用職員１名が企業団に出向されて、雑入でその分の給与の分と児童手当分も含めて一般会計で入ってくるということですね。今回の今審議中の下水道事業会計においての職員は７名であるという理解でよろしいですね。

○服部委員長　上下水道課長。

○南浦上下水道課長　そのとおりでございます。

○服部委員長　石丸委員。

○石丸副委員長　大変失礼いたしました。理解できました。以上で私の質疑終わります。

○服部委員長　都市環境部長。

○吉川都市環境部長　先ほど石丸委員の質問のうち、課長答えていただいている部分で、修繕・改築計画の部分がございました。これにつきましては、先ほど課長もお答えさせてもうたとおり、おおむね５年をかけて改築工事をするということで、これ、それの財政計画、おおむ

ね５年分の財政計画を立てて国から補助金もらって工事をやっていくというところでございますので、その改築計画に伴って、これをもって次、実施設計を行います。こういう工事をするという設計を行って５年間ということなので、そこだけ補足させていただきたいと思います。

○服部委員長　ほかにございませんか。

康村委員。

○康村委員　10番、康村昌史です。１点質問させていただきたい。予算書の16、17ページなんですが、令和７年度上牧町下水道事業会計予定貸借対照表、令和８年３月31日時点での予定貸借対照表が載っております。この資料から、令和８年３月31日時点での有形固定資産、ここでは１－１－ロ、構築物についてのみ質問させていただきたいんですが、この構築物の減価償却率は幾らですか。私の計算では0.109ですので、約11％だと思うんですが、それで間違いありませんか。

○服部委員長　上下水道課長。

○南浦上下水道課長　おおむねその数字で合っているのかなと。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　この有形固定資産の減価償却率は、上牧町内の下水道管、この構築物はほとんどそれですね。それの新しさを判断する資料として国が示した計算方法で出すんですけれども、上牧町の下水道管はまだ11％しか価値が下がっていないという数字が11％という数字なんですけれど、上牧町はもう昔からあくまで僕の知る限りでは下水道にはすごく力を入れて、今は普及率が97.5％ぐらいまで増して、都市化並みの下水道が普及されていると思っています。だから、西大和ニュータウンは昭和40年代ですか、それとほかにもいろんなミニ開発とか入れて下水道がどんどん造られて今現在に至っていると思うんですが、上牧町の下水管、まだ１割ほどしか価値が下がっていないのがどうしても僕には納得できないんですけれど、この数字は本当に正しいのかという結論に達してくるんですけど、その辺いかがですか。つまり、ここにある構築物が取得価額が77億3,681万6,000円と、これはもう工事費の単純な合計だと思うんですけれども、それに対して減価償却が8億4,770万円しか減価していないという資料なんですけれども、これ、途中から公営企業会計、公会計入ったので、全部業者に委託してこの金額が出てきたと思うんですけれども、どうしても私自身が11％ほどしか減価していないのがよく分からないんですけれども、この数字は本当にこれでいいんですか。

○服部委員長　上下水道課長。

○南浦上下水道課長　公共下水道事業入ったのが昭和60年ぐらいですので､その以前にあった、今言われた西大和とか桜ケ丘は古い管になってまいりますので、その辺で今言われている11％で挙がっているのかなと。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　ということは、昭和60年ということはそれでもう40年たっています、今、計算上は昭和100年になるので。それまでに何度も古い管をやり替えているなら分かるんですけれども、その辺をちゃんと説明していただければ結構ですので、お願いします。

○服部委員長　上下水道課長。

○南浦上下水道課長　18ページに構築物の耐用年数が書いてありますので、耐用年数が50年という形になってきていますので、11％ですか。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　つまり、構築物の耐用年数は50年。ということは、50年に割り振ってこの価値の減価を見ることですやんか。だから、今この有形固定資産としての減価償却率は僅か11％、耐用年数が50年の11％しかたっていないという計算にしますと、僅か５年ほどしかたっていないという計算になると僕は思うので、だからどう考えても元の金額が間違っているんじゃないかなと思うんですけれども、出し方が国からの指示で出しているのか、その辺はいかがですか。やはり今全国で下水道は陥没とかしている、それの判断材料として構築物の減価償却率を国が出してきているので、うちが11％ほどというのは分からないんですけど、その辺だけ説明していただければ結構です。

○服部委員長　暫時休憩します。

休憩　午後　１時３６分

再開　午後　１時３９分

○服部委員長　再開いたします。

康村委員。

○康村委員　それでは、16ページの構築物について簿価が77億3,681万6,000円、その下にあります減価償却累計額、これの計算された資料を確認したいと思うんですけれども、その資料を出していただけますか。

○服部委員長　上下水道課長。

○南浦上下水道課長　資料を提出させていただきます。

○服部委員長　康村委員。

○康村委員　これで僕は質問終わらせていただきます。

○服部委員長　ほかにございませんか。

（「なし」と言う者あり）

○服部委員長　これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

討論はございませんか。

（「討論なし」と言う者あり）

○服部委員長　討論なしと認めます。

これから採決いたします。

本案を原案のとおり可決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○服部委員長　ご異議なしと認めます。

したがって、本案は原案どおり可決するべきものと決定いたしました。

以上で、本委員会に付託されました議案は全て終了いたしました。

理事者側より挨拶をお願いいたします。

今中町長。

○今中町長　全議案可決すべきものと決定を頂きまして、ありがとうございます。また本会議でも議決を頂きますようお願いを申し上げまして、お礼のご挨拶にさせていただきます。ありがとうございました。

○服部委員長　これをもちまして予算特別委員会を閉会いたします。皆様、ご苦労さまでした。

閉会　午後　１時４１分

上牧町議会委員会条例第２７条第１項の規定により署名する。

予算特別委員長　　服　部　公　英

令和７年第１回（３月）上牧町議会定例会会議録

議　事　日　程（第２号）

令和７年３月１１日（火）午前１０時開議

第　１　一般質問について

３番　竹　中　亮　造

１番　服　部　公　英

４番　安　中　　和

１０番　康　村　昌　史

９番　石　丸　典　子

本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

◇

出席議員（１１名）

１番	服　部　公　英	２番	氏　原　賢　一
３番	竹　中　亮　造	４番	安　中　　和
５番	東　　初　子	７番	遠　山　健太郎
８番	竹之内　　剛	９番	石　丸　典　子
１０番	康　村　昌　史	１１番	木　内　利　雄
１２番	牧　浦　秀　俊		

欠席議員（１名）

６番　上　村　哲　也

◇

地方自治法第１２１条により説明のため出席した者の職氏名

町　　長	今　中　富　夫	教　育　長	松　浦　教　雄
総　務　部　長	中　川　恵　友	都市環境部長	吉　川　昭　仁
住民生活部長	山　下　純　司	健康福祉部長	寺　口　万佐代
教　育　部　長	松　井　良　明	総務部理事	髙　木　真　之
総　務　課　長	丸　橋　秀　行	建設環境課長	武　安　康　至
まちづくり推進課長	細　川　夏　人	上下水道課長	南　浦　伸　介
福　祉　課　長	俵　本　大　輔	こども未来課長	木　下　優　子
教育総務課長	辻　村　　純		

◇

職務のため議場に出席した事務局員

議会事務局長	金　﨑　恭　彦	書　　記	森　本　香寿美
書　　記	横　田　大　樹	書　　記	林　　大　貴

開議　午前１０時００分

◎開議の宣告

○議長（牧浦秀俊）　皆さん、おはようございます。ただいまの出席議員数は11名です。上村議員より欠席届が出ておりますので、報告いたします。それでは、定足数に達しておりますので、これから本日の会議を開きます。

まず初めに、平成23年の本日、東日本大震災が発生いたしました。この震災により犠牲となられた全ての方々に哀悼の意を表すため、黙禱をささげたいと思います。

全員ご起立をお願いいたします。

黙禱。

（黙禱）

○議長（牧浦秀俊）　黙禱を終わります。

ご着席をお願いいたします。

―――――――――――――――――――― ◇ ――――――――――――――――――――

◎議事日程の報告

○議長（牧浦秀俊）　本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。それでは、日程表に従い、順次議事を進めてまいります。

―――――――――――――――――――― ◇ ――――――――――――――――――――

◎一般質問

○議長（牧浦秀俊）　日程第１、一般質問について。

一般質問の持ち時間は、理事者側の答弁を含め１人１時間以内です。質問者はその点、十分心得て質問し、理事者側は的確かつ簡潔に答弁をお願いいたします。

―――――――――――――――――――― ◇ ――――――――――――――――――――

◇竹　中　亮　造

○議長（牧浦秀俊）　それでは、３番、竹中議員の発言を許します。

竹中議員。

（３番　竹中亮造　登壇）

○３番（竹中亮造）　３番、竹中亮造です。よろしくお願いします。

一般質問に入る前に、岩手県大船渡市の山林火災について、一言お見舞い申し上げます。新聞報道によりますと、大船渡市では９日、おととい、やっと鎮圧状態になったと。発生から12日かかったそうです。それから、大変な大災害で、焼失面積は大船渡市の面積の９％、約3,000ヘクタール弱あるそうです。3,000ヘクタールといいますと、私たちの上牧町の全体の約５倍にも達する、広い範囲の焼失面積です。平成以降、林野火災の最大規模のものだそうです。本当に今苦しんでおられる現地の方々、それから、亡くなった方もおられるということです。心よりお見舞い申し上げます。なお、建物の被害は210棟にも及びますので、これからが生活再建に向けて大変なときだと思いますけれども、どうぞ一日も早く生活再建をお祈りしておりますので、苦しい中、頑張っていただきたいと思います。

では、議長の許可を得ましたので、一般質問をさせていただきます。

今回の私の一般質問は、大きく２点です。１つはまちづくりに関すること、１つは給食と地域食材に関することになります。その概要をまずお伝えしたいと思いますので、一般質問の通告書、概要の部分を読み上げます。

１、まちづくりに景観配慮の視点を。

上牧町が選ばれるまちであるためには、景観配慮の行き届いたまちであることが欠かせない。しかし、景観に配慮したまちづくりは、従来、本町の弱かった面ではないか。最近、民間の動きが活発になり、景観の改善が見られるが、公共の観点から、町は長期的な視点で地域の価値を高める景観政策を示すべきだ。以下、提案も含め、具体的に質問する。具体的な質問は後でさせていただきます。

２つ目、学校給食と地域食材の活用について。

学校生活の中において、給食の時間は、単に空腹を満たし、栄養を補給する時間にとどまらない様々な教育的意義がある。食育と地域食材の観点から、以下について質問する。以下、具体的な質問も、再質問という形で質問者席でさせていただきます。

では、この後、質問者席に移り、質問させていただきます。

○議長（牧浦秀俊）　竹中議員。

○３番（竹中亮造）　まず、具体的な質問に入る前に、この景観に関する質問をする動機とい

いますか、私の基本的な考えを述べさせていただきたいと思います。

問題意識を持ちましたのは、これは私が議員になる前から持っていました。ちょうど議員になる前に、２年少し前の、その頃ですけれども、非常に上牧町の景観が、一言で言えばよろしくなかった。例えば、旧レインボーはかなり廃墟のような状態になっていました。それから、駐車場の辺りも、後で見ますけれども、今は住宅街が形成されていますけれども、造成だけが終わっていて、まだ何も建っていない、ほとんど建っていないというような状態でした。それから、近々再開がされるそうですけれども、ちょうど虹の湯が閉店になった頃でした。それから、これも２年近く前に開通しましたけれども、町道の服部台明星線、これも行き止まりになっていて、その当時は私もただの一般住民でしたので、この道はいつ通るんやという気持ちでいました。ですから、倒産だとか、閉店だとか、あるいは大きな道の行き止まりというような状況で、非常に町の景観がよくない状態がありました。ところが、いろんな好循環が生まれたんだと思います。このところ、息を吹き返したように改善が進んだ面があります。

ちょっと具体的に見ていきたいんですけれども、そしたら、まず旧レインボーの辺り、写真。これ、既に完全な更地になっていまして、工事を待つ状態になっています。これは滝川のほうから撮った写真です。この写真を撮りましたのは、２日前の日曜日です。一番新しい状態。ここもやがて、町の説明では、１年後、大きなスーパーが再開されるということですので、非常に楽しみである。

それから、虹の湯のところ、これは下から撮りました。再オープンが、何か今月の27日なんだということを聞いているんですけれども、これも楽しみな施設です。ちょうど２年前は閉店が決まった頃でしたので、これも非常にいいことだと思います。

それから、これ、滝川沿いの住宅街ですね。旧レインボーの駐車場の辺りです。今、本当にきれいな住宅街が形成されています。これは外から撮りました。これは中からですね。本当にまちの活気を表現している住宅街なんだろうなというふうに思います。

それから、先ほど言いました町道の服部台明星線ですね。これも長期にわたって行き止まりになっていましたので、これが通るということは、景観はもちろん、それから、ここで渋滞なんかも解消されますので、非常にいろんな面でこの道の開通、この三差路の開通というのは、僕はよかったと思います。ありがとうございます。

ここでやっぱりこういう流れ、好循環になってきた、この流れを今後の上牧町に大切にしていきたいということで、選ばれるまち、今中町長もよくおっしゃるフレーズだと思うんで

すけれども、選ばれるまちになるためには何が大事かということで、その中の１つですよ。教育政策も、福祉政策も、いろいろ形にならないサービスも大事だと思うんですけれども、その中の１つとして、やっぱり景観に配慮したまちづくりというのが大切なんじゃないかなという、そういう提案です。

私たちが、例えば移住を考えるとき、そこへ住むというようなことですね。あるいは今、春ですから、行楽のシーズンです。行楽に行く場合、どこへ行くかというたら、やっぱり景観のいいところ。行楽でしたらやっぱり花の美しいところにも人が集中するわけですよ。あるいは買物だとか、散策だとか、写真撮影をするだとかというときに選択されるのは、やはり景観のいいところ。簡単に言えば見栄えのいい、元気の感じられる、そんなところだと思うんですね。

かなり今、さっき確認しましたように、上牧町、好循環になってきましたので、この流れをさらに進めていくということで、やっぱり現状では何か物足りないんです、歩いたら。そこに何らかの具体的な策を施していくという場合、僕が思うのは、花や緑のある美しい景観であったり、できましたら、そこにぽつんぽつんとばらばらにするんじゃなくて、統一感のある景観づくりというのをしていったらどうかという。景観はやっぱり地域社会の財産なんだという、そういう発想ですね。人がやっぱり行くところというのは、そういうところに集中していますので､上牧町もやっぱり今後､いろんなことが基本ができてきたわけですから、やっていくべきではないかなということですね。

それで、具体的な質問に入っていきます。

まず、笹ゆり回廊、滝川の遊歩道なんかも含むんですけれども、どこか場所を決めて、植樹だとか植栽を施して、四季折々の、歩いて楽しいまちづくり、景観づくりをしてはどうかということですね。例えば春だったら桜、芝桜もそうだと思います。夏だったらアジサイだとか、秋だったら彼岸花やコスモスだとか、冬だったらハボタンだとか、これもいろんなのがあると思うんですけれども。植栽の場所は、考えるときに、そんなん大変やないかというふうに言われるかもわかりませんけれども、私の提案は、新たに場所を切り開くとかそんなんじゃなくて、基本は未利用地です。特にのり面だとか、あるいは変形地だとか、あぜ道なんかを利用するという。未利用地で、全然広くなくていいですし、構造物の必要もないですのでね。

心地よい景観というのはつくれるということで、ちょっと写真、事例を見ていきたいと思うんですけども。そしたら、上牧町の芝桜の、これ、今まだ季節になっていませんけれども、

これも１つの大きな事例だと思うんですね。もうじき芝桜が満開の頃になりますと、物すごくきれいな景観が、やっぱりここで生まれていきます。これはかなり費用もかかっていると思うんですけれども、先ほど言いましたように、未利用地を利用するということですね。

有名な明日香の彼岸花、ちょっと見てください。これはネットから取ったものです。明日香の彼岸花といえば非常に有名ですけれども、別に何か新しいところを使っているわけではないんですね。逆にのり面で、斜めやから、斜めのところを使えば余計見てもらいやすい、見やすいということもありますのでね。

昨日、明日香のほうに、ちょっと担当のところへ電話しましたら、ほとんどボランティアだそうです。村はボランティアのＮＰＯだとか公社に資金提供というか、応援はしていますけれども、やってもらっているのはＮＰＯとボランティアであるということで、棚田のオーナー制度をつくっておられるそうですけれども、自発的にやってもらっていると。球根なんかの提供は村がしているそうです。

これは一事例ですけれども、例えば藤原宮のコスモスだとか、あるいは菜の花だとか、非常に美しい景観があります。その場合、ボランティアの方に力を借りるということは１つの大きなやり方だと思います。ちょっとこれに関しまして、答弁を求めたいと思います。

○議長（牧浦秀俊）　都市環境部長。

○都市環境部長（吉川昭仁）　まず、本町におきましては、南上牧地区にございます葛下川流域沿いに整備されている水辺公園では、桜の木が多く植樹されておりまして、春には花、秋には紅葉を楽しめます。そして、滝川遊歩道では野鳥や季節ごとの草木及び、先ほどスライドにもございましたが、芝桜が観察できる、町民にとっても身近な散歩道となっておるところでございます。また、公共施設等美化緑化推進事業ということで、片岡台３丁目地区及び桜ケ丘地区にボランティアの方の協力を得まして、パンジーやビオラ等、季節の花を、また、片岡城跡では、片岡城址盛り上げ隊の方々によってコキアの植栽が行われておりまして、四季の彩りを添えていただいておるというところでございます。

今後も継続してボランティアの方々と連携を密にして景観づくりを進めていきたいというふうには考えておりますが、笹ゆり回廊につきましては、回廊部分が町有地ではあるんですが、周辺の土地については個人の所有地ということにもなっておりますので、整備については地権者の同意が必要であるということで、諸問題を解決していく必要があるということでございます。そういった部分を整理させていただきながら、前向きに取り組んでいきたいなと考えているところでございます。

○議長（牧浦秀俊）　竹中議員。

○３番（竹中亮造）　多分そうだろうというふうに思います。町有地、それから個人の所有地の問題があると思いますので、これはいろんな地域で行われている事例なんかも参考にしていただきまして、知恵を絞って、共に取り組むというようなことを考えていただければ、一番実現の可能性は高いと思いますので、ぜひよろしくお願いします。

では、２つ目の質問、提案させていただきます。

２、コンパクトシティの利点を生かして、適所にポケットパークなどを設け、町に個性的な表情と安息の場を、これ、造っていったら、上牧町のイメージが随分上がるんじゃないかなというふうに思います。人の集まりやすい場所、ちょっとした小さな空間を整備する。例えば散歩の人だとか、あるいはジョギングの人、愛犬家、そういった人たちがふと自然に集まっていくような。やっぱり人間、足を止め、体を休めるためには、椅子のあるところへ行くんです、自然と。日陰のあるところへ行くんだと思うんです。草ぼうぼうの、景色の悪いところは誰も行きませんので、ふと自然に人が集まるような場所、そんなところを想定しています。ですから、広さは要らない。もう小は10坪ぐらいから、大はせいぜい100坪ぐらいまで。もう広さは要らないし、変形地なんかのほうがむしろ変化があって僕はいいかなというふうに思っています。それから、要するにまちを、ちょっとイメージアップというか、おしゃれにする、お化粧するようなものですから、そこに緑やとか花壇やとか芝生、ベンチ、日除けなんかを設けてはどうかということで言っています。

ちょっとこれ、事例で、ネットから拾ったものです。ですから、これが多分どこかのポケットパークなんだと思いますけれども。

それから、次のこれ、馬見丘陵公園の、大きな公園じゃなくて、馬見丘陵公園に接続してある池部の駅からの緑道ですね。幅の細い緑道に設けてあるポケットパークといいますか、こんなイメージなんですけども。

それから、もう１個。これ、上牧町の葛城台のバサ池という、この細長い池畑のところに、七、八年前に造ってもらったポケットパークです。これも、これがない前はどうやったのかといえば、もう草ぼうぼうで、非常に景色の悪いものでした。しかし、これがあると、もう全然雰囲気はやっぱり違ってくるということです。

今度は、そしたら町内の適地を探していかなあかんと思うんですけれども、いっぱいあると思うんです。小さな面積でできるというわけですから。でも、最有力はやっぱりここかなというので、ちょっと開けていただけますでしょうか。これ、芝桜の隣接するところです。

水辺広場のところの上ののり面なんかも、ちょっと町有地が民有地かは分かりませんけれども、協力し合いながら、今ぽつんと東屋があり、やっぱり、おといでも人がそこでたたずんでおられました。ここら辺りなんか手を入れたらリフォームで済みますので、非常にいいんじゃないかなと。ちょうど虹の湯があり、ラスパがあり、ペガサスホールがありという、一番人が集まるところですので、すぐそこに近いところですのでいいかなと僕は勝手に思っているんですけれども、こんなイメージです。

できるだけ、小さなところでもいいですから、成功事例をつくって、息長く、年々少しずつ数を増やしていってはどうかなという、そういう考えです。これにつきまして、町のほうでお考えのこと、回答をお願いします。

○議長（牧浦秀俊）　都市環境部長。

○都市環境部長（吉川昭仁）　町内でのポケットパークということでございまして、一例といたしまして、今、スライドで挙げていただいた部分もあります。そして、滝川遊歩道沿いの部分と、下牧地区にありますほほ笑みサロン片岡、そして、南上牧地区にございます、先ほども申しましたように水辺公園に、散歩のときに休息できるためのベンチを設置させていただいた施設がございます。新たな箇所に設置するに当たっては、町の所有する土地が、住民の方々が有効に利用できるような場所にあるか否かを判断した上で、今後、検討していきたいというふうに考えているところでございます。

○議長（牧浦秀俊）　竹中議員。

○３番（竹中亮造）　ぜひ検討だけに終わらず、具体的に進めていってもらえたらというふうに思います。小さな場所に集中するといいますか、そこを印象のある姿に変えていただけたら、全体がやっぱり大きなイメージアップにつながると僕は思っていますので、ぜひ成功事例をつくってもらいたいと思います。

それから、３つ目の質問に入りますけれども、優れた景観づくりには、例えば町広報で紹介をしたり、顕彰したり、民間の動きをやっぱり引き出すといいますか、動機づけをするというようなことが僕は効果的じゃないかなというふうに思っています。民間でやってもらう分は、もうこれ、一番効果的ですので、広い範囲の土地もお持ちですので、ぜひやってもらいたい。町は戦略を練り、民間は民間で、自分の場所ですから、これは言わなくても基本的にはやってもらえると思うんですけれども、三方よしの関係をつくる。要するに、売手もそれで自分のところの企業のイメージアップになる、買手は気持ちよくそこへ集まっていく、買物に行く、それから町としても、これはもう景観づくりに、町のイメージアップに、選ば

れるまちにつながっていくということで、そういう顕彰制度なども本当に考えてみてください。

それからもう１つ、先ほど言いましたボランティアの力を借りるということで、ちょっとさっきのこれ、この馬見丘陵公園の緑道の花壇の部分なんかは、ボランティアの方が実は維持管理をやっているそうです。ちょっと映してください。ここへありますように、花壇の中に説明書があって、この維持管理は緑道ボランティアがやっていますというふうに書いてあるんですね。実際に僕が行ったときも、ボランティアの方が草をぱぱっと抜いて、また５分ぐらい作業をしたら通り過ぎるというふうなことをされていました。お花の作るのが好きな方なんかも多分いっぱいいると思うんですよ。これもやり方次第で、上牧町でも僕はできるのではないかなというふうに考えています。これについて、回答をお願いします。

○議長（牧浦秀俊）　都市環境部長。

○都市環境部長（吉川昭仁）　現状においては、町が広報とかホームページ等で景観づくりに係る民間企業の紹介とか顕彰とかという部分については、実例はございません。しかしながら、民間企業の知恵や工夫、そして活力を引き出すという１つのツールとして、今後検討していきたいなというように考えているところでございます。

○議長（牧浦秀俊）　竹中議員。

○３番（竹中亮造）　ぜひよろしくお願いします。それでは、今後、景観配慮に基づく町並み整備ですね。これ、具体的な計画はあるんでしょうか。あれば教えてほしいです。

○議長（牧浦秀俊）　都市環境部長。

○都市環境部長（吉川昭仁）　現在、具体的な計画案というのはございません。ですけど、上牧町都市計画マスタープランにおきまして、景観・保全形成への取り組みということで明記されております住民、事業者、行政が一体となって良好な景観形成に努めるということでございますので、しっかりと取り組んでいきたいなというふうに考えておるところでございます。

○議長（牧浦秀俊）　竹中議員。

○３番（竹中亮造）　ぜひよろしくお願いします。最後に今中町長にコメントをお願いしたいんですけれども、本当に４期16年間、ご苦労さまでした。財政再建等、いろいろ残されたことは大きいんですけれども、もう１つ町長が残されたことで、久渡古墳群だとか、あるいは片岡城跡の整備方針を、その流れをつくっていただいた。久渡古墳群のほうはもう既に動いていますし、片岡城跡も答申をもらって、今後整備されていく方向性が決まっています。そ

ういう歴史遺産を生かした整備というのは景観づくりにも直接つながりますので、これは大きな政治的な町長のレガシーだと思います。まだ半ばかなとは思うんですけれども、町長の、景観形成という意味でお考え、思いを聞かせていただけたらと思いますので、よろしくお願いします。

○議長（牧浦秀俊）　今中町長。

○町長（今中富夫）　まず景観でございますが、この景観についても自然景観と人工景観、この２つがあるということだというふうに思います。竹中議員も葛城台にお住まいでございますので、河合町との境界、それとあの付近の景観もよくご存じだろうというふうに思いますので、案外住民さん、夫婦で、今はそう多くはございませんが、これからよく散歩に歩いておられる方、たくさんおられます。そういう人たちはこの里山の自然景観、こういうものを愛して、この景観がいいと、田んぼのあぜ道であるとか、ちょっとした丘の間の里道、こういうところを歩きながら、たくさんこれからいろんな人たちが上牧の里山の中を歩いて来られるだろうというように思います。まず、そういう自然景観が、上牧町はそれなりのバランスで残っているということは、私は上牧町、すばらしいまちだなというふうにまず実感をしております。

それと、今、竹中議員がおっしゃっているのは人工景観をつくれと、こういうことでございますので、バランスよくつくっていくことが大事だろうと。自然景観の中にどんどん人工景観をつくっていくということは、これ、いかがなものかなというふうにも私自身考えておりますし、そういうポイントポイントの中で、人工と自然とをつなぐ役目、そういう役割を果たせるような人工景観、これは当然必要だろうというふうに思いますので、先ほど担当部長がお答えをさせていただいておりますように、そういうポイントポイントで有効な土地を利用しながら、これはしっかりやっていく必要があるだろうというふうに考えております。

○議長（牧浦秀俊）　竹中議員。

○３番（竹中亮造）　町長、ありがとうございます。まさに私が思っていたポイントに草花を植える、ポイントに小さなポケットパークを造るというような形で、トータルとして非常に景観が形成されていくということはすばらしいことじゃないかなというふうに思いますので、どうも町長、ありがとうございました。

○議長（牧浦秀俊）　竹中議員。

○３番（竹中亮造）　そうしましたら、２つ目の質問に入りたいと思います。学校給食と地域食材のことについての質問に移ります。

まず、給食に関する自分の基本的な考えといいますか、私、以前、教職をしておりましたので、少しだけ述べさせていただきたいと思います。

まず、給食ですけれども、私の経験から言いましたら、非常に年々よくなってきている。子どもたちの関心も、それからその時間が楽しみだということも、以前から感じているところです。そして、たしか今から15年ぐらい前に食育基本法というのができたと思うんですけれども、その頃からよく、今、僕が言いました食育という言葉が定着してきたように思うんですね。食べることは生きることだとか、あるいは食べることは学ぶことだとか、食べることは命を頂くことだから、これは命を尊重することなんだというふうなことが言われるようになり、まさにそのことが給食に反映してきたと思います。

給食の時間、いろいろ意義があると思っています。これはみんなで協力して準備をしたりだとか､後片づけをしたりだとか､あるいは談笑の時間になっていたりだとかということで、この給食をやっぱり大事にしていきたいという思いは今も続いているわけです。

もう１つ見落としてはならないこととしまして、やっぱり最近の情勢の中で格差が広がる中で、３食のうち給食が唯一の安定した食事の時間なんだという児童、生徒も一定数いるわけです。そういう意味でも、給食の時間というのが非常に貴重であるということ、まず述べておきたいと思います。

では､そういう給食の時間ですけれども､上牧町では､学校生活の中で給食の時間、これ、どのように位置づけておられるのか、お考えを聞かせてください。

○議長（牧浦秀俊）　教育部長。

○教育部長（松井良明）　それではお答えをさせていただきます。

学校給食は、児童、生徒の心身の健全な発達に資するものであり、かつ児童、生徒の食に関する正しい理解と適切な判断力を養う上で重要な役割を果たすものであると学校給食法第１条において規定をされているところでございます。また、学習指導要領においては、特別活動の学級活動の中で、食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成を目的として実施することとされているところでございます。

これらのことを受け、本町におきましても、給食の時間は楽しく食事をすること、健康によい食事の取り方、給食時の清潔、食事環境の整備などに関する指導により、望ましい食習慣の形成を図るとともに、食事を通して、よりよい人間関係の構築を推進しているところでございます。

○議長（牧浦秀俊）　竹中議員。

○３番（竹中亮造）　ありがとうございます。いろんな観点から、給食ということを大事にされているということは分かりました。

ここで、もう少し子どもたちの様子が知りたいと思いますので、質問させていただきます。学校給食におきましては、みんな楽しく食べているというのはもう間違いないと思うんですけれども、現実には、やはりそれでも残食というのが生まれてくるようなこともあるんじゃないかなというふうに思いますので、そんなケースをどんなふうに指導しているか。残食が悪いと言っているんじゃないんですけれども、これ、大事にするという観点もありますので、ちょっとそのあたりの指導の状況をお伝えください。

○議長（牧浦秀俊）　教育部長。

○教育部長（松井良明）　それでは、お尋ねの学校給食における残食について回答をさせていただきます。

各学校におきましては、適切な栄養摂取とフードロスの観点から、しっかり食べるように指導はしてはおりますが、子どもたちにも好き嫌いは当然のことながらございますので、日々の残食については、多少の残食はやむを得ないものと考えているところでございます。また、日頃間食をしている子どもが、食が進まず残食をした場合など、心身の不調の可能性もございますので、担当教員は細やかな目配りの下、給食指導に当たってもらっているという現状でございます。

○議長（牧浦秀俊）　竹中議員。

○３番（竹中亮造）　これは両面あると思います。完食を目指すという面と、それからあまり、体調なんかもありますし、無理強いもやっぱりいけないことだと思いますので、そのあたりの加減は難しい面があるかと思いますけれども、子どもたちが、できることなら残食が少なく食べてもらいたいなという思いはありますので、よろしくお願いします。

２つ目、給食のときの机の配置ですね。これ、コロナのときに黙食という味気のない時間がありましたけれども、その後、もう２年たっています。最近はどうなんでしょう。この様子をお聞かせください。

○議長（牧浦秀俊）　教育部長。

○教育部長（松井良明）　それでは、学校給食に際しての机の配置及び黙食の対応について回答をさせていただきます。

給食時の机の配置につきましては、全員が前向きの場合や、机を四角に合わせグループ化する、または円形に配置をする、いわゆる対面給食による場合など、それぞれのクラスの自

主性を尊重した形態としております。現在は給食を楽しくおいしく頂くという考えの下、黙食の徹底はしてはおりません。給食時間においては、授業時間とは異なった形での子どもたちのコミュニケーションの機会であるという認識の下、大声でなければ、若干の会話による意思疎通を容認しているというのが現状でございます。

○議長（牧浦秀俊）　竹中議員。

○３番（竹中亮造）　僕はもうそれでいいんじゃないかなというふうに思います。今どき、この時期に及んで黙食なんて味気ないことはせずに、大いに楽しく、おいしくやっていただけたらというふうに期待して質問しました。

もう１つ、学校給食といえば、教員をやっていた頃はアレルギー問題、かなり神経質になったことがあります。今も変わりないと思うんですけれども、学校給食とアレルギー対応について、簡単で結構です、ご説明ください。

○議長（牧浦秀俊）　教育部長。

○教育部長（松井良明）　それでは、学校給食に際してのアレルギー対応について回答をさせていただきます。

学校給食に際して、アレルギー対応が必要な子どもに対しましては、調理段階においてアレルゲンを除去した、いわゆる除去食による対応や、またアナフィラキシーが強く憂慮される場合など、より高度な対応が必要な場合には、保護者のご理解とご協力の下、弁当持参による対応もしているというのが現状でございます。いずれにいたしましても、アレルギー対応をはじめ、給食の安全を確保することは、子どもたちの命にも関わる重要な事項であり、細心の注意をもって対応しているという状況でございます。

○議長（牧浦秀俊）　竹中議員。

○３番（竹中亮造）　これはもう一定のマニュアルの下でされていると思います。慎重にされていること、敬意を表したいと思います。このところ、そういう事故等はどうでしょうか。

○議長（牧浦秀俊）　教育部長。

○教育部長（松井良明）　学校からのアレルギーによる事故の報告は、現時点では受けていないという状況でございます。

○議長（牧浦秀俊）　竹中議員。

○３番（竹中亮造）　安心しました。ぜひ引き続きよろしくお願いします。

そうしましたら、３つ目の質問をさせていただきます。地域食材、これを使ってもらいたいたいと思うんですけれども、食育と地域食材の活用という観点から、学校給食法の考え方

をどのように反映しているか、これ、ちょっと説明をお願いします。

○議長（牧浦秀俊）　教育部長。

○教育部長（松井良明）　議員お尋ねの件につきまして、学校給食の目標として、我が国や地域の優れた伝統的な食文化についての理解を深めることが学校給食法第２条第６号に規定をされているところでございます。このことを受けまして、本町では、学校給食においては２か月に１回以上､奈良県の伝統的な食を体験できる献立を導入しているところでございます。また、食育の観点からも地産地消を推進し、地域食材の積極的な使用に努めているという状況でございます。

○議長（牧浦秀俊）　竹中議員。

○３番（竹中亮造）　よく配慮された指導といいますか、推進していただいていると思うんですけれども、今おっしゃった地産地消、これ、学校給食において具体的に、そしたら地域食材をどのように使っているのかということでお答えいただきたいと思います。特に上牧町の地域食材の使用状況をよろしくお願いします。

○議長（牧浦秀俊）　教育部長。

○教育部長（松井良明）　現在の学校給食における地域食材の使用状況について回答をさせていただきます。

町内産の食材といたしましては、恒常的に納入をしていただいているというわけではございませんが、タマネギ、サツマイモ、イチゴ等を町内から納入をしていただいているという状況でございます。また、精米、小麦粉や大和まなといった野菜等をそれぞれ利用しており、本町の学校給食における地域食材の活用割合はおおむね３割程度となっていると承知をしているところでございます。

○議長（牧浦秀俊）　竹中議員。

○３番（竹中亮造）　そうしましたら、今後、この地域食材の使用拡大ということでお考えはあるでしょうか。よろしくお願いします。

○議長（牧浦秀俊）　教育部長。

○教育部長（松井良明）　町内産品等の納入をいただく上においては、学校給食に利用するということで、一定の量も必要になってまいりますので、その辺、十分調整が図れれば、さらなる町内産の使用について検討していきたいというふうに考えております。

それともう１点、先ほどの回答で漏れましたが、お米と小麦粉の状況について説明を追加でさせていただきたいと思っております。精米とパンの原料となる小麦粉につきましては、

公益財団法人奈良県学校給食会から提供を受けておりまして、精米にあっては、その全てが奈良県産のヒノヒカリ、小麦粉にあっては、奈良県産のものが10％程度含まれている。小麦粉についての我が国の自給率については、おおむね12％だというふうに言われておりますので、国内産、とりわけ奈良県産の本町における小麦粉の使用の割合については、高く評価できるものであると認識をしているところでございます。

○議長（牧浦秀俊）　竹中議員。

○３番（竹中亮造）　使用の割合が高いんだということ、それはお聞きしておきます。

それから、上牧町の農家さん、生産者、子どもたちが食べているんだということになりますと、非常に生産意欲も高まると思います。朝市なんかも地道にされているということも聞いておりますので、できるだけ上牧町の食材で子どもたちが給食を食べる、あるいは子どもたちが育っていくという、そういう環境づくり、今後ともよろしくお願いします。

それからもう１つ、最後にしたいと思うんですけれども、学校給食で子どもたちは地域を学ぶという側面があると思うんです。生産者の仕事の様子やとか、その１年だとか、そういう地域を学ぶということ、これはどういうふうに考えているか。

それから、もう１つは、上牧町産の農産物のアピールにもつながると思います。地域おこしの機会にできるんじゃないかなというふうに考えますので、そのあたりのお考え、お聞かせください。

○議長（牧浦秀俊）　教育部長。

○教育部長（松井良明）　本町におきましては、学校における給食の献立表におきまして、地場産物を使用する場合においては、当該献立表に明記をさせていただき、子どもたちへの周知を図っているところでございます。また、上牧町商工会からも、学校給食において上牧町産の地場産物を使用できないかと問合せもいただいているところでございますので、商工会とも連携をしながら、さらなる検討を加えていきたいというふうに考えているところでございます。

また、本町の学校給食は、皆様ご承知のとおり、自校方式により運営していることに加え、栄養士の先生や給食調理員の方々の日々の頑張りにより、おいしい給食は提供されているものと認識をしておりまして、児童、生徒や教職員からも一定の評価を得ているところでございます。

○議長（牧浦秀俊）　竹中議員。

○３番（竹中亮造）　努力していただいていること、ありがとうございます。上牧町から、私

の願いといいますか期待は、給食と関連しまして、新しい特産品が生まれる。それに、特産品づくりに給食が支援するといったらちょっと言い過ぎかもわかりませんけれども、つながっているというふうな関係が生まれたら非常にいいんじゃないかなというふうに思っていますので、その点はどうでしょうか。

○議長（牧浦秀俊）　教育部長。

○教育部長（松井良明）　議員が今お述べのことに対しまして、教育委員会といたしましては、学校給食に季節ごとの地域食材を積極的に利用することにより、子どもたちの地域への理解を深め、郷土愛を育むことが期待できるとともに、学校給食の付加価値を高め、学校給食のおいしいまちをアピールすることにより、町の魅力向上につながるものと考えているところでございます。

また、先ほどお述べの特産品につきましても、我々としても他にアピールできる何かということは日々模索をしておりますので、引き続き検討のほうをされる部署と連携、協調をしながら進んでいきたいというふうに考えているところでございます。

○議長（牧浦秀俊）　竹中議員。

○３番（竹中亮造）　他の部署と連携を取りながらでないと難しいところがあると思いますけれども、その方向で努力していただきまして、学校給食を豊かなものに、そして地域の産業とつながっているという形に進めていっていただけたらと思います。

そしたら、私の質問はこれで終わらせていただきたいと思います。ありがとうございました。

○議長（牧浦秀俊）　以上で３番、竹中議員の一般質問を終わります。

ここで暫時休憩とし、再開は11時といたします。

休憩　午前１０時５１分

再開　午前１１時００分

○議長（牧浦秀俊）　再開いたします。

◇

◇服　部　公　英

○議長（牧浦秀俊）　次に、１番、服部議員の発言を許します。

服部議員。

（１番　服部公英　登壇）

○１番（服部公英）　おはようございます。１番、服部公英です。議長の許可を得ましたので、一般質問通告に従い質問してまいります。

通告書に入ります前に、少し時間を頂きます。今日、３月11日は、東日本大震災から14年目になります。当議会でも黙禱を行い、多くの被災者の方々のご冥福をお祈りいたしました。今回は、大震災に続き、岩手県大船渡市で大規模な山林火災が起こりました。被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復興・復旧を祈念しています。日本政府においては、素早い支援対策をお願いいたします。自然災害がいろんな形で、日本中どこで起こるとも限りません。ふだんから減災・防災を心がけ、準備しておきましょう。

次に、今期限りで退任される今中町長、誠にお疲れさまでした。４期16年にわたり、強いリーダーシップの下により上牧町発展に努められてきたことに感謝するとともに、敬意を表します。これからも上牧町のためにご協力をお願いいたします。

続きまして、同じく今期限りで退任される松浦教育長におかれましても、上牧町の教育に大いに貢献され、同和教育にも国際交流にも力を入れていただき感謝するとともに、敬意を表します。ありがとうございました。今後とも上牧町の教育環境のため、町長並びに教育長とも、一住民としてご意見、ご指導いただきますようお願いいたします。

それでは、一般質問通告書に従い、質問させていただきます。今回、私の一般質問は２項目から成っておりますが、両方とも環境衛生についてでございます。

まず１つ目、山辺・県北西部広域環境衛生組合について。

２市８町で構成された環境衛生組合については、計画段階から建設段階、そして施設完成、試運転を経て、令和７年度５月から本格稼働になります。先日、組合議員として現地視察させていただきました。やまとｅｃｏリサイクルセンター（不燃ごみ及び粗大ごみ・エネルギー回収型廃棄物処理施設）及びやまとｅｃｏクリーンセンター（可燃ごみ処理施設）の施設について紹介させていただきます。

続きまして、質問に入ります。

①現在の試運転について、当町の運営状況を聞かせてください。

②本格的運営が始まる５月からの体制を説明してください。

③前年度の可燃ごみ量は何トンで幾らの費用になっているのか聞かせてください。

④不燃ごみ及び粗大ごみについてはどのようになっているのか、引き続き聞かせてください。

⑤資源ごみの取扱いについてはどうするのか聞かせてもらいます。

⑥運搬業務について説明してください。

大きな項目の２番目、ごみの出し方について。

家庭ごみ収集についての分別方法を説明してください。

①スプレー缶及びガス管の出し方について。

②収集方法について。

③資源ごみ置場に家庭ごみ、スプレー缶、ガス缶、化粧水空き瓶等を出すことは禁止されています。不当に置かれていた場合、どのように対応しているのか聞かせていただきたいと思います。

以上が質問項目になりますので、よろしくお願いいたします。再質問におきましては質問者席からさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○議長（牧浦秀俊）　服部議員。

○１番（服部公英）　それでは、まず先日、私が視察に行ったときに撮ってきた写真がありますので、まず皆さんに見てもらいたいと思いますので、画面を見てもらうか、タブレットを見てもらうかで、どちらかでお願いします。

まず、今見せてもらっている、天理にあるリサイクルセンターの、今度オープンする場所なんですが、今写っているところが４階部分になりまして、搬入された不燃物をベルトコンベヤーであの上にまで上げてきて、ブルーのところで、両側に職員が立って、手で選別して見分けるというところになります。

次のところをお願いします。これが搬入する場所の場内です。今見えている右側の写真の一番奥のところから進入していきまして、左側のピットのところに入れていきます。今、左側の写真、ちょっと見にくいんですけども、右側の端のほうにペットボトルやいろんなものが積み込まれています。ありがとうございます。

それでは、次の写真をお願いいたします。今、続きで、先ほど言ったそのピットのところが拡大で写してあります。左側の写真ですね。今、この写真も先ほどの写真なんですけども、アップして写してくれていますので、ああいう形で持ってきたやつを一時置いております。奥に見える青いコンベヤーで上へ、先ほどのコンベヤーのところへ上げていきます。

次、お願いします。ここは見学施設になっていまして、私もびっくりしたんですけども、すごい施設になっていまして、ああいう大型スクリーンに資料としてずっと画面が映されています。

次、お願いします。またこの階に、同じように円形のスクリーンがございまして、そこにも２市８町になるところの各市町村の、その数のスクリーンが作ってありまして、例えば上牧町のいいところを１か月ずつ、12か月分映し出されるという形で展示されております。なかなか見学に行ったらいいところかなというふうに感じたので、載せていますので、また見てください。

次、お願いします。これ、今、説明したとおり上牧町の展示している内容になります。ちょっと見にくいんですけども、右のほうが笹ゆりを撮ったところで、左側が芝桜を夜景として映し出されているところが提供されています。

次、お願いします。これも上牧町の、右側が五軒屋の農村部分の風景で、右側はちょっと見にくいんですけども、多分、明神山から上牧町を見たという形で紹介された写真だと思います。

次、お願いします。これも上牧町の中で、南上牧の浄安寺かな。ちょっとまた今度、行ってみてください。

次、お願いします。これがピットの写真なんですけど、中に５階建ての高さの、30メートルのごみをためる部分になります、左側の部分が。右側は先ほどの展示施設の中で、また子どもたちが遊べるというか体験できるような部分になっています。

次、お願いします。これ、右側が発電施設になっております。発電機になっております。焼却した熱を利用しての発電。左側がこの施設内の動きをモニターで見ながら、職員の方がずっと監視しているようなところになります。

次、お願いします。これが先ほどの30メートルのところじゃないんですが、持ち込んですぐに入れるところになりますね。今、試運転しているので、もう入っています。

次、お願いします。この施設にはレクリエーションというか、奈良県の県民であれば無料で使えるというような形で開放している施設がございまして、４階部分になるんですが、こういう施設がございます。右側が、ランニングマシンが２台ほどありまして、左側がヨガとかができる、鏡の置いてあるスペースがあります。

次、お願いします。マッサージ機も４台ありまして、右側はお風呂になります。お風呂はあのぐらいの大きさなんですけども、きれいなお風呂になっておりました。

次、お願いします。これ、右側がこの施設の屋上になるんですけども、公園のように開放されていまして、屋上から見る天理市内の風景とかいろんなところが見れて、子どもたちでも、みんな住民の方が利用できるような形になっています。右側が先ほどの入浴施設に入るところのロッカーになりますね。トレーニングルームになるところのロッカーになります。

次、お願いします。これが先ほど丸いスクリーンに映し出されている、上牧町から出されている資料になります。これは南上牧にある葛下川沿いの桜、松里園のほうに向いて撮っています。

次、お願いします。これが先ほどの芝桜の夜景になります。こうして映しますと、すごくきれいですよね。

次、お願いします。花火がありますね。これがメタセコイヤ、上牧の屋上から撮った写真で、商工会が打ち上げている花火で写真を撮った分というふうに聞いております。すいません、長い間、時間を取らせまして。こういう形で天理市のほうで山辺の組合が始まろうとしております。

それでは、質問に入っていきたいと思います。

質問事項、２市８町で構成された衛生組合については、計画段階から建設段階、そして施設完成、試運転を経て、令和７年５月から本格稼働になります。先日、組合議員として現地視察させていただきましたやまとｅｃｏリサイクルセンター及びやまとｅｃｏクリーンセンターの施設について質問していきます。

①現在の試運転について、当町の運営状況を聞かせてください。

○議長（牧浦秀俊）　都市環境部長。

○都市環境部長（吉川昭仁）　現在の試運転につきましては、現在は可燃ごみのみ、やまとｅｃｏクリーンセンターへ搬入しておるというところでございます。運営状況につきましては、これまでどおり町が行います。会計年度任用職員３名を含む計19人の町職員と運搬委託業者とで運用しております。家庭系一般廃棄物の収集は町職員、事業系一般廃棄物の収集は上牧町収集運搬許可業者が行い、町職員がやまとｅｃｏクリーンセンターへの運搬用コンテナにごみの積替えを行います。その後、運搬委託業者により可燃ごみの入った運搬用コンテナをやまとｅｃｏクリーンセンターに運般します。同センターへの搬入時間ということで、午後１時から午後５時の間と決められておりますので、曜日により異なりますが、通常、毎日１台から３台の車両で、それぞれ１から２回運搬するということになろうかと思います。

なお、運搬用コンテナの積替え作業を行うに当たり、コンテナをごみ中継施設内で移動さ

せる必要がありますので、常時、運搬車両のうち人員１人を含めた１台を、朝９時からの１日常用として、コンテナ移動の作業を含めて運搬委託業者に行っていただくことになります。また、万が一トラブル等によりやまとｅｃｏクリーンセンターへの搬入ができない場合におきましては、委託先に同日処理をしていただく体制を整えておるというところでございます。

○議長（牧浦秀俊）　服部議員。

○１番（服部公英）　今、答弁いただいた中で、運搬委託業者３人（曜日や繁忙期には変動あり）というような形で答弁いただいたんですが、この運搬業者３人というのは、今までも運搬委託業者として採っていたんですか。今回から雇われるようになったのか、その辺をお聞かせ願えますか。

○議長（牧浦秀俊）　都市環境部長。

○都市環境部長（吉川昭仁）　基本的に今までどおりでございますが、追加でいろんな状況を踏まえて、２者追加しているというところでございます。

○議長（牧浦秀俊）　服部議員。

○１番（服部公英）　事業系一般廃棄物の収集は、これまでどおり上牧町収集運搬許可業者が行いというふうな形になっているんですけれども、事業系の一般廃棄物は上牧町の持ってきたときに、事業系廃棄物の運搬業者から搬入に対して料金を支払ってもらっているわけなんですけれども、そこから今度、山辺のほうに持っていくときに、山辺のほうで利用料金として支払うというか、上牧町が出す分との差額というのはあるんですか。同等の部分を事業系廃棄物の収集車から頂くんですか。どのような形になるんですか。

○議長（牧浦秀俊）　都市環境部長。

○都市環境部長（吉川昭仁）　基本、今、議員申されましたように事業系の一般廃棄物につきましては、処理手数料ということで本町が頂く形になります。これは令和７年度の予算ベースでいいますと約3,500万弱ぐらいの入りはあるかなと予想はしておるところなんですけども、ただ、それを山辺に持っていったときに、向こうで支払うのかということはまた別の話でありまして、基本的には処理量、山辺としては事業系ごみであろうが、一般系のごみであろうが一緒ですから、それを処理する費用ということでお支払いする形になるかと思います。

○議長（牧浦秀俊）　服部議員。

○１番（服部公英）　分かりました。それでは、②の本格的運営が始まる５月からの体制を説明してください。

○議長（牧浦秀俊）　都市環境部長。

○都市環境部長（吉川昭仁）　まず、５月からの体制につきましては、可燃ごみは現行どおりの運営を行います。また、４月からは試運転期間として不燃ごみ、粗大ごみ、プラスチック製容器包装、ペットボトル、缶、瓶をやまとｅｃｏクリーンリサイクルセンターのほうに搬出が始まるということでございます。常用の車を新たに、不燃ごみと中継施設内においてもコンテナ移動を行っていただくほか、それぞれのごみについて、あらかじめ搬入曜日と時間が組合により定められておりますので、可燃ごみと同様の体制で進めていくというところでございます。

○議長（牧浦秀俊）　服部議員。

○１番（服部公英）　この搬入曜日、ペットボトル・月曜、瓶・火曜日というふうに書いてあるんですけども、上牧町内の収集日と同じ曜日に、そのまま集めた日にペットボトルを持っていく、月曜日であれば月曜日にペットボトルを持っていくという形になるんでしょうか。

○議長（牧浦秀俊）　都市環境部長。

○都市環境部長（吉川昭仁）　いや、ペットボトルにつきましては、基本的に上牧町については火曜日が収集日かと思います。ただ、搬入できるのは月曜ということなんですけども、当然、この曜日の合わすというところも１つあるんですけども、以前からこの形で、もう長年、上牧町がやってきておりますので、何とかこの形を崩さずに搬入できないものかと模索した結果、こういう形で、今までどおりというような形でさせていただいておるということが現状でございます。

○議長（牧浦秀俊）　服部議員。

○１番（服部公英）　そうしたら、ペットボトルを回収して、一旦、上牧町の中継施設に置いておいて、月曜日に搬出するという形で理解してよろしいですか。

○議長（牧浦秀俊）　都市環境部長。

○都市環境部長（吉川昭仁）　はい、そのとおりでございます。

○議長（牧浦秀俊）　服部議員。

○１番（服部公英）　それでは次の、前年度の可燃ごみ量は何トンで幾らになっているのか教えてください。

○議長（牧浦秀俊）　都市環境部長。

○都市環境部長（吉川昭仁）　令和５年度の可燃ごみ量は5,143.1トンでございます。運搬処理費用が１億7,990万5,635円ということになっておりまして、可燃ごみ１トン当たり約３万5,000円の処理費用がかかっておるということになろうかと思います。また、令和４年度につ

きましては5,391トン、そして令和３年度は5,521トンということになっておりまして、住民の皆様の努力により、徐々にではございますが、ごみ量が減少しておるという状況でございます。

○議長（牧浦秀俊）　服部議員。

○１番（服部公英）　それでは次の、不燃ごみ及び粗大ごみについてはどのようになっているのかお願いします。

○議長（牧浦秀俊）　都市環境部長。

○都市環境部長（吉川昭仁）　それでは、不燃ごみについてでございます。令和５年度の不燃ごみ及び粗大ごみ量は333.01トン、そして運搬処理費用につきましては1,164万8,686円で、不燃ごみ１トン当たり約3万5,000円の処理費用がかかっておるというところでございます。また、令和４年度は376.76トン、令和３年度は428.43トンということになっておりまして、こちらにつきましても、可燃ごみ同様、徐々にごみ量が減少しておるという、こういう状況でございます。

○議長（牧浦秀俊）　服部議員。

○１番（服部公英）　③と④の答弁をいただいて聞いていたんですが、１トン当たりの費用が約３万5,000円、同額になっているんですけども、持ち込んだごみで、可燃ごみでも不燃ごみでも一定の料金の費用がかかるということで、可燃ごみについては、やっぱり住民の方の努力によって、水分を含んでいるような状況で出すよりも軽くなるように出してもらうということに努めてもらうことによって、可燃ごみはごみの量を減らせるというふうに思うんですけども、住民の皆さん、自分たちの税金がたくさん使われているのを少しでも減らせるように、有効に税金が使えるようにというので、ごみ行政についてまた協力していただいたほうが、上牧町のごみの費用が安くなるというような理解をしています。

そこで、不燃ごみの部分も減っているんですけども、不燃ごみ、粗大ごみというのは軽くなったりはしませんが、今回、ごみの減少しているというのは、軽くはできないですけども、不燃ごみにならない、粗大ごみにならないような形で、買う前から自分で使う分を考えながら生活してもらうということで、初めからごみが出ない形の暮らし方を考えていくという形がごみを減らす１つの方法になるというふうに考えますけれども、上牧町として不燃ごみ、可燃ごみに対しても減らせるような考えを住民の方に周知するというのは、どのような形で今されていますか。

○議長（牧浦秀俊）　都市環境部長。

○都市環境部長（吉川昭仁）　上牧町といたしましては、広報とホームページも併せてですが、そちらのほうでしっかりと周知させていただいている中で、住民さんの努力により、今、服部議員も申されましたように、ごみ減量というところの意識が高くなっておられるのかなというところを考えます。

それで、今言う不燃ごみの減量等につきましては、基本的に、例えば不要となった場合、リユースとかリサイクル、こういった部分も意識がかなり高まっておるのかなというところの思いもございますので、年々減少傾向にあるというふうに認識しておるというところでございます。

○議長（牧浦秀俊）　服部議員。

○１番（服部公英）　よく分かりました。住民の意識の改善により、だんだんごみ量は減らしていっているという形で、古着屋さんに売るのもいいですし、ごみとして出さないような生活をするという形がごみの減量にもつながってくるというようなことで理解しておきます。

それでは次、眼鏡に慣れていなくて、眼鏡を外すと見えないし、眼鏡でこうして見ますと部長の顔が見えないし、ややこしいことになっております、すいません。どこまで言ったかな。⑤の資源ごみ置場についてはどのようになるのかという形で、答弁をお願いいたします。

○議長（牧浦秀俊）　都市環境部長。

○都市環境部長（吉川昭仁）　そしたら、５番の資源ごみ置場、資源ごみの取扱いについてというところでございます。

現在、ペットボトル、瓶に関しましては町が費用を負担させていただきまして、民間事業所へ引渡しを行っておるということでございます。また、缶に関しましては、民間事業所へ売却をしておるという状況でございます。山辺・県北西部広域行政組合稼働後は、プラスチック製容器包装、そしてペットボトル、瓶、缶はやまとｅｃｏリサイクルセンターに運搬し、同施設で選別、圧縮を行った後に日本容器包装リサイクル協会へ搬出される予定となっております。これによって山辺・県北西部広域環境衛生組合を通じて、負担割合に応じたリサイクル返還金が返還されることになります。

また雑誌、新聞、段ボール、雑紙、古布類、牛乳パック等の回収につきましては、引き続き町内団体の再生資源集団回収として積極的に実施していただく、今後もしっかりと啓発を行っていきたいなと思っているところでございます。

それと小型家電回収、そして廃油回収、そして使用済みペン回収においても引き続き実施させていただきまして、ペットボトルのキャップの回収につきましては、現在準備を進めて

おるという、こういう状況でございます。

○議長（牧浦秀俊）　服部議員。

○１番（服部公英）　自治会等に協力いただいて資源ごみ置場の活用が進んでいるんですけれども、片づける身としては、たくさん持ってこられると片づけるのが大変なんですけども、結局、資源ごみ置場に持ってきていただくと、山辺のほうに行っていくごみ量が減るということで、やはり住民の皆様には、少々面倒くさいですが、資源ごみ置場の活用には、これからも協力して、ペットボトルであればきれいに洗って出す、瓶であれば透明の瓶、茶色の瓶に分けて、きちんとした形で資源ごみ置場の運営に協力をしていただきたいということで理解しました。

雑誌、新聞、段ボールというような形で、北上牧の場合ですと、老人クラブが主となって、その運営に助成するという形で収集して活動しているんですけども、これについてもやはり積極的に力を入れてもらいますと、山辺に持っていくごみの量が減ると重さが軽くなるというふうなことで､引き続き協力して出していってもらいたいなというふうに考えております。

この中で、小型家電回収とか廃油回収とかあるんですけども、これについては上牧町ではどのような形で行っていますか。

○議長（牧浦秀俊）　都市環境部長。

○都市環境部長（吉川昭仁）　小型家電回収につきましては、今、当課の隣に多分、回収ボックスを設けて回収している。これもかなり東京オリンピックのときに有償金属というんですか、この回収でスタートした事業でございまして、民間業者の協力の下、回収を行っておるというところでございます。廃油回収につきましても、今年度からスタートさせていただきまして、まだ実績的にはなかなか、数字的には上がってきていないんですが、かなり住民の住民の皆様の協力も得ているという報告は受けておるところでございます。

○議長（牧浦秀俊）　服部議員。

○１番（服部公英）　私なんかでも、燃えないごみの緑の袋にラジカセを入れてほったり、扇風機を入れてほったりするんですけれども、しょっちゅうしょっちゅうほるものじゃないんですけども。こういったものは、役場に持ってきたら回収してくれる場所があるということですか。

○議長（牧浦秀俊）　都市環境部長。

○都市環境部長（吉川昭仁）　ラジカセぐらいの大きさであれば小型家電回収の対象となるかと思うんですけど、扇風機は多分、ボックスの大きさがありますので、ここに入る分という

ところの原則がありますので、そこに入らなければ回収はできないということになります。

○議長（牧浦秀俊）　服部議員。

○１番（服部公英）　分かりました。ラジカセでしたら、そういう形で取ってもらえると。携帯電話とかでしたら､そこへ持っていかなくても高い値段で売れるようなこともありますし、小型家電という、どの小型家電を指しているのかはっきり分かりませんけども、またそういうのがあれば役場のほうに持っていきたいと思います。

廃油の回収については、上牧町ではどのようにされているんですか。

○議長（牧浦秀俊）　都市環境部長。

○都市環境部長（吉川昭仁）　廃油の回収につきましては、本庁の玄関を出たところに、北側の出入口のところに回収ボックスを設置しております。廃油をペットボトルか何かに入れていただいて、そちらのほうに出してもらうという形になります。

○議長（牧浦秀俊）　服部議員。

○１番（服部公英）　分かりました。この使用済みペンの回収については、どのような形になっていますか。

○議長（牧浦秀俊）　都市環境部長。

○都市環境部長（吉川昭仁）　使用済みペンにつきましては、ちょうど玄関、ホールのところに回収ボックスを設けさせていただいているかと思うので、使用済みのボールペン等をそこに捨てていただくという形になるかと思います。

○議長（牧浦秀俊）　服部議員。

○１番（服部公英）　使用済みペンって、黄色の袋に入れてほってはいけないんですか。

○議長（牧浦秀俊）　都市環境部長。

○都市環境部長（吉川昭仁）　ごみ減量でございますので、そちらのほうでほっていただいたらありがたいと思います。

○議長（牧浦秀俊）　服部議員。

○１番（服部公英）　分かりました。ペンなんか軽いもんやと思って言ってしまいました。申し訳ないです。

それでは、運搬業務について説明していただきます。

○議長（牧浦秀俊）　都市環境部長。

○都市環境部長（吉川昭仁）　それでは、運搬業務につきましては、民間業者に委託いたしております。可燃ごみ中継施設と不燃ごみ等中継施設内での運搬用コンテナ移動を行うために、

毎日１台は常用で契約をいたしております。令和６年４月に厚生労働省によりトラック運転者の改善基準告示が改正されまして、作業を含む連続乗車時間が４時間以内と規定されたこと、また、山辺・県北西部広域環境衛生組合への搬入時間が午後１時から午後５時までと決められていることから、１台につき毎日の運転が、運用上２回までとなります。例えば、現在、月曜日は６回可燃ごみの運搬を行っておりますが、朝９時から常用１台で２回運搬、その他２台が午後から中継施設に来て、２回ずつ運搬を行っている、こういう状況でございます。

また、運搬委託業者につきましては、先ほども申しましたように３者と契約させていただいております。理由といたしましては、先ほども申し上げました厚生労働省によるトラック運転者の改善基準告示により、1年間のトラック運転者の労働時間の上限が3,300時間と規定されたことで、複数者でないと対応できないというところでございます。また、年末年始等、ごみ量が多いときに対応できることや、急遽山辺・県北西部環境衛生組合への搬入ができなくなった場合とかというところで、同日処理が可能であることも理由の１つでございます。

その他、山辺・県北西部広域環境衛生組合と天理市地元自治会との間で、10トン車で搬入すること、そして可燃ごみは密閉型の専用コンテナで搬入する、そして決められた道路を通行する等の規定がございますので、町はこれを遵守するという形になろうかと思います。

○議長（牧浦秀俊）　服部議員。

○１番（服部公英）　これ、年末年始等のごみ量が多いときに対応できるようなというところを考慮して、これまで利用してきたところの、どこでしたか、奈良中央でしたか。今まで使っていたところの業者と委託契約をしたというふうに聞いているんですが、実際にごみの量というのはなかなか予想できないから、こういう対応は大切だと思います。

それで、資料をもらっている中で、この可燃ごみの運搬処理費というところで、令和５年度が１億7,900万5,635円になっておりまして、令和６年度が314万9,000円というような形で、ごみの運搬処理費は低くなるんですけれども、一般廃棄物運搬費という形で6,497万7,000円、令和７年度については、今度要るという形。令和５年度にはないんですけれども、令和７年度から山辺が運営するという形で、6,497万7,000円という形で上がってきております。

また、この中で有価物返還金、可燃物という形で、マイナス８万2,879円という形で示していただいているのは、これは還付金という形だから、払わんでいいからマイナスという形で示していただいていると思うんです。これを見ますと、缶、122万678円、売却金額が令和５年度には入っているんですけれども、令和７年度には294万9,000円という形で、概算ですが、

令和７年度、多分山辺のほうから還付される金額を計算して示していただいていると思うんですが。

今回、事務負担金、これ、令和５年度に１億1,984万4,000円で済んでいた部分が、今度、令和７年度になりますと１億3,201万7,000円という形になるんですが、その事務負担金について説明いただけますか。

○議長（牧浦秀俊）　都市環境部長。

○都市環境部長（吉川昭仁）　この事務負担金と申しますのは、経常経費のことでございます。今、令和５年度が1,984万4,000円というところでございますが、これにつきましては、通常の、今までどおりという形にはなるんですけども、令和７年度からぐっと上がっておるというところでございます。これは何でやというところでございますが、基本的に焼却業務が始まっておりますので、当然、焼却灰の運搬とかいろいろその辺のところで稼働するに至って、燃料費の話とかというところもありますので、その辺が経常経費の中に乗っかってきているということでございます。

○議長（牧浦秀俊）　服部議員。

○１番（服部公英）　分かりました。その下の売電収入というような形で、1,640万9,000円という形で入ってくるというようになっているんですけれども、これは山辺の売電収入を２市８町で割り振った金額の予想額ですか。

○議長（牧浦秀俊）　都市環境部長。

○都市環境部長（吉川昭仁）　はい、そのとおりでございます。

○議長（牧浦秀俊）　服部議員。

○１番（服部公英）　分かりました。それでは、大きな項目の、スプレー缶の出し方についてお願いします。

○議長（牧浦秀俊）　都市環境部長。

○都市環境部長（吉川昭仁）　それでは、２つ目でございます。スプレー缶及びガス缶の出し方についてということでございます。

これまで不燃ごみとして緑色の指定ごみ袋に入れて出していただいておりましたが、令和７年４月からは山辺・県北西部広域環境衛生行政組合の基準に合わせ、出し方を変更いたします。新たな出し方につきましては、中身を空にする、キャップの分別をする、透明または半透明の袋に入れるというところと、スプレー缶・カセットボンベの日、隔週の水曜日になりますが、燃えないごみと同じ集積場所に出すというような形になっております。

○議長（牧浦秀俊）　服部議員。

○１番（服部公英）　これまで、スプレー缶の出し方というのは、今回初めて変わったということで、回覧も回したり、広報にも入れてもらったり、住民に周知はしているんですけれども、今回、何せ初めてのことなので、ここでもう一度質問しているわけなんですが、住民の方の手間は増えるんですけれども、こういったことを細かくしていくことによってごみの量が減らせるというような形で協力していただきたいと思うんです。スプレー缶、カセットボンベというような形で出すんですけれども、スプレー缶を、残っている部分は必ず穴を空けて出すとか、カセットボンベは残っていると自分で空けて出すとか、そういう決まりはあるんでしょうか。

○議長（牧浦秀俊）　都市環境部長。

○都市環境部長（吉川昭仁）　基本的には空けないでいただきたいというところです。ただ、どうしてもという方は、任意で空けられる方もおられるかもわかりませんけども、基本的には空けなくて出してくださいということと、そして、その中身が残っているやつの処分というか処理方法なんですけども、この辺はホームページ等で、ＱＲコードを用いてそういう紹介、どういった形で中身を出すかという紹介、事業所のほうからのやり方のチャンネルがありますので、そちらのほうに検索できるような形では周知していこうと考えているところでございます。

○議長（牧浦秀俊）　服部議員。

○１番（服部公英）　ほとんど使い切っているんですけど、少し残っているというようなガス缶というのはあると思うんです。そういった場合、透明の袋に入れて、穴も空けずに出しても、町のほうで残っている分は、危険の及ばないような形で処理するというふうに考えていいですか。

○議長（牧浦秀俊）　都市環境部長。

○都市環境部長（吉川昭仁）　それは町のほうでやりますけども、基本的に中身が残っているというのは、収集のタイミングのときに火災の危険性があるというところが大きく影響しておるところでございますので、できるだけ住民の皆さんにおかれましてもご協力いただきまして、しっかり中身を使い切っていただくというふうに、そういうところも併せてしっかりと周知をしていきたいなというように考えておるところでございます。

○議長（牧浦秀俊）　服部議員。

○１番（服部公英）　それではもう１回、しつこいですけども、収集方法について答弁をお願

いします。

○議長（牧浦秀俊）　都市環境部長。

○都市環境部長（吉川昭仁）　周知方法につきましては、先ほども申しましたように、隔週の水曜日に新たにスプレー缶、そしてカセットボンベの回収日を設けるということでございます。

なお、集積場所につきましては、燃えないごみと同じ場所のところに出していただくということになっております。

○議長（牧浦秀俊）　服部議員。

○１番（服部公英）　分かりました。それでは、資源ごみ置場の家庭ごみ、スプレー缶、ガス缶などを出すことは禁止されています。それでも今回、スプレー缶というのは回収してもらえるようになったんですけども、出しにくいものですから、資源ごみ置場に持ってきて、無造作に置いている人がいるということがいまだに続いています。今後ともないようにはお願いしたいんですが、こういったごみがごみステーションにあった場合、町としてはどのような対応をされていますか。

○議長（牧浦秀俊）　都市環境部長。

○都市環境部長（吉川昭仁）　まず、資源ごみ置場ということでございますが、資源ごみステーションにつきましては指定のアルミ缶、そしてスチール缶、ペットボトル、瓶以外のものが廃棄並びに投棄されていた場合は、基本的には不法投棄という形になります。ですので、警察に被害届を提出するか、または廃棄した者が分かれば町から指導も行いますし、ごみ分別の徹底を図るためにホームページ等で周知を行うといったことをいたしておりますが、併せて、ごみ集積場や資源ごみステーションは、ごみを出す住民の皆さんに清潔を保っていただきたい旨をお願いしております。ですので、ごみステーションを清潔にして不法投棄のしにくい環境をつくるということと、間違った捨て方をした人を見かけた場合は地域で教え合うなど、町民の皆様にもご協力を引き続きお願いしたいというふうに考えておるところでございます。今後も地域と行政が相互で協力することで、不法投棄や誤った捨て方を是正していければというふうに考えているところでございます。

○議長（牧浦秀俊）　服部議員。

○１番（服部公英）　分かりました。ありがとうございます。やっぱりマナーを守ってみんなできれいに使うということが大切だと思いますので、今後とも町行政と、また自治会と協力してやっていければいいなというふうに考えております。

私の質問は以上です。どうもありがとうございました。

○議長（牧浦秀俊）　以上で、１番、服部議員の質問を終わります。

ここで暫時休憩とし、再開は１時といたします。

休憩　午前１１時４７分

再開　午後　１時００分

○議長（牧浦秀俊）　再開いたします。

◇

◇安　中　　和

○議長（牧浦秀俊）　次に、４番、安中　和議員の発言を許します。

安中議員。

（４番　安中　和　登壇）

○４番（安中　和）　４番、安中　和です。よろしくお願いいたします。議長のお許しを頂きましたので、一般質問させていただきます。

その前に一言お伝えさせていただきます。東日本大震災におきまして被害に遭われました方々に、心より哀悼の意をささげさせていただきます。

防災に関し、いろいろなお話、ご意見を伺う中、必ず最後には、いかに日頃からのコミュニティーが重要かということを教えていただいてまいりました。上牧町内でどのような災害に見舞われるかは分かりませんが、防災、防犯ともに助け合いの必要があります。町長がつくり上げてこられた安全・安心なまちづくりの基本は、共に助け合う共助の気持ちを守り続けていくことだと思います。今後もその気持ちを持って邁進してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

では、一般質問は自席で行わせていただきます。よろしくお願いいたします。

○議長（牧浦秀俊）　安中議員。

○４番（安中　和）　では、一般質問させていただきます。４つございます。１番、防災グッズ購入内容について。２番、町内の樹木による下水道管への影響について。３番、青色パト

ロールについて。４番、町内に子どもが遊べる施設を造る予定はということで、まず１番、防災グッズ購入内容についてということを伺わせていただきます。

毎年、役場から各自治会に、防災品の購入のために10万円が助成されていると聞いております。大変よい取組だと思います。ありがたいことですが、住民は被災経験が少ない方が多いので、資材の購入を考えるときに、何を購入すればよいのかを迷われるとお聞きしています。他の地区がどのような防災品を購入しているかを開示していただければ、各自治会の今後の購入の参考になると思いますが、その点いかがでしょうか。よろしくお願いいたします。

○議長（牧浦秀俊）　総務部長。

○総務部長（中川恵友）　まず１つ目の、防災グッズの購入についての、購入内容を開示してほしいというご質問でございます。

この分につきましては、自治会防災事業補助金については、令和５年度から事業実施をさせていただきまして、令和５年度決算でおきましたら、225万8,000円で補助等をさせていただいたというところでございます。６年度におきましては、現在、各自治会から計画を出していただきまして、最終年度末ということもございまして、全てではございませんが、今、事業実績の報告をいただいているところでございまして、今後、開示という部分でございますが、情報の共有となり、各自治会の今後の備品の備蓄計画等々についても活用していただけるのかなというふうに考えているところでございますので、開示といいますか、一覧等、整いましたらお示しできるように進めてまいりたいと考えているところでございます。

○議長（牧浦秀俊）　安中議員。

○４番（安中　和）　ありがとうございます。先日、他地区の防災訓練の見学に行きましたときに、自分のところの、我が地区が買ってあるものとの相違が結構ありまして、台車など、大きなものと小さいものがございまして、小さいものしか思い浮かばなかったのでそれを購入したんですけども、人が何人か乗れる大きなものを購入しておられて、すごいなと思って、ちょっと目からうろこなことがありましたので、とても参考になりました。

女性の会長が選ぶものと男性の会長が選ぶものの違いがあるんですね。これは皆さんもご覧になっているし、もう周知の事実なので、はばからず言わせていただきますけど、やっぱり生理用品、尿漏れパット。それは男性にも使われますので、そういうものもしっかりと今回は、我が地区は購入したと聞いておりますので、そういうこともほかの地区の男性の方々の会長の参考にもなると思うんです。災害時に聞きましたのは、男性の方が、そういうものを渡すときに１つだけ渡されて、それも男性でということで、とても女性の方々が寂しいと

いうかつらい思いをされたというのは事例として挙がっていましたので、そういうことがないように、そういうことも含めてお願いしたいというのと。

もう１つは、今、本当に混沌とした世の中で、上牧町内でもいろんな事件が起こっていたりします。それで、これは防災グッズの中身なんですけれども、例えば、防犯カメラとかがあった場合、火つけ、たき火の火や野焼きということで、今すごい問題になっていますよね。そういうところのちょっとしたこと、子どもたちのちょっとした火事の、花火の火とかいろんなものが燃え移るということだって、あり得ないことではないと思うんです。それの原因を突き止めたり、いろんなことで使用が可能、安全に過ごせるのではないかなという意味で、その防災グッズの中に防犯カメラを入れていただければなということも考えておりますが、その点について、いかがでしょうか。

○議長（牧浦秀俊）　総務部長。

○総務部長（中川恵友）　現状、今ご回答させていただいた部分につきましては、一応、令和５年度から、いろいろなところから、議会等からもご要望いただきまして、防災に関する備品に使いたいので、そういう補助をしてもらえないかということもございまして、町といたしましても検討させていただきまして、補助の対象にさせていただいたというところでございます。ただ、今、安中議員がおっしゃっていただきました防犯カメラという分の、この中に、要綱に入れてもらえないかということでございますが、現状におきましては、防災の部分での補助事業ということでさせていただきたいと考えております。といいますのも、防犯カメラにつきましても、各議員さんからも、以前から少しご意見等、要望いただいているところでございますが、ただ、いきなり補助にするのではなしに、前もって、先に一応、基準的なものをきれいに設置、基準を定めるということが必要になるのかなと思います。

というのは、防犯カメラにつきましては、現状、今、安中議員もおっしゃっていただきましたように、いろいろ防犯等、事件等が起きた場合の解決にも役に立つということもありまして、防犯カメラの重要性というのは認識はさせていただいているところでございます。ただ、一方でプライバシーというのも配慮しないといけないという部分もございますので、いろんなところにつけるのかということになりますと、その辺、一定限度の基準なり、要件なりを設けてしていく必要があると思いますので、まずはそちらのほうの整理をさせていただきたいというふうに考えているところでございます。

○議長（牧浦秀俊）　安中議員。

○４番（安中　和）　分かりました。今後それを考えていただいて、いち早くつけていただく

ことを望みますので、どうぞよろしくお願いいたします。

この件につきましては、これで結構でございます。ありがとうございます。

○議長（牧浦秀俊）　安中議員。

○４番（安中　和）　では、２番目の町内の樹木による下水道管への影響についてということで、上牧町は1972年12月に誕生して、2022年に50周年を迎えました。我が家に植えた木々も立派に育ち、しっかりと根を張った大木になっています。

昨今、町内のあちらこちらで下水管の修理工事が行われています。私たちが植えました木々の根が、年月をかけて下水管に入り込んだことが原因です。昨日も近隣で工事が行われました。そのときに、うちの木が原因でこのようになっているのだから、何かできることはないでしょうかとお話を頂きました。町民の協力を頂きながら町を整えていくことができればと思いますが、ここで図をちょっと見ていただきたいと思います。配管ですね。これ、下水管で。

次、お願いします。このぐらいの、もっとたくさんの木の根っこが、これは取ったところなんですね。

次、お願いします。中にこれぐらいのものが入って、引き出すと上のようになるということで、かなりたくさんの小さな木々が入り込んでいるのが原因で、詰まってしまうという現状があちらこちらで起こっているようなんですね。

これをその方が、自分のところの下水管を開けて修理しているところを見たときに、物すごく驚かれて、その家は、私たちが住んでいたところは木を植えるのがステータスで、松とかいろんなものを植えてきましたよね。今の若い人は、それ、一切庭には植えないというお考えをお持ちのようで。だから、私たちの年代は、自分たちが植えたものが今、こういう結果になっているということで、ちょっとどうしたらいいのかなと悩まれているというお話だったんですけど、そのお答えを頂きたいかなと思いますので、お願いいたします。

○議長（牧浦秀俊）　都市環境部長。

○都市環境部長（吉川昭仁）　対策ということでございますが、各宅内にあります配水管や公共汚水ますの定期的な点検をしていただくということが、木の根による詰まり等を未然に防げるものというふうに考えておるところでございます。公共の汚水ますが詰まれば、基本的には原因者であります方の責任で本来は復旧していただくという、これは本来の話かなと思うんですが、本町といたしましては、基本、町が管理する部分でもございますので、町のほうで対応させていただいてきておるということでございます。今、この部分につきましても、

ホームページとか、また広報等でしっかり周知をさせていただきたいなというふうに考えているところでございます。

○議長（牧浦秀俊）　安中議員。

○４番（安中　和）　以前にお伺いしたときに、マンホールの、家の中の四隅にありますでしょう。あれを開けて、自分で点検してくださいとおっしゃったので開けに行ったんですけど、開きませんわ、重たくて。回るところの穴が２つありますやん。それをどうやって、あれ、器具ってあるんでしょうか、開ける、引っ張る。

○議長（牧浦秀俊）　都市環境部長。

○都市環境部長（吉川昭仁）　器具はあるんですけども、各ご家庭でお持ちの方というのはなかなかおられないのかなと思います。ですので、ハンマー等で縁をちょっとたたいて、ドライバーでこじるとか、その方法はいろいろあるかと思うんですが、あまり無理にしてもあれなので、できないとなれば役場のほうにご相談いただければと思います。

○議長（牧浦秀俊）　安中議員。

○４番（安中　和）　そうですよね。もう高齢の方の家のところの周囲ですので、私でも高齢に近いんですけど、それよりも年齢が上の方がこれをするとなると、かなりの力が要りますので、そのときにはご連絡させていただければいいということですね。分かりました。

それと以前に、それこそ屋根の修理じゃないけれども、下水道管の修理じゃなくて様子を見させていただきますというお話で、若い方が来られたんです、そういう役場のような格好をした方が。小さなボトルを持って、これでちょっと入れていけば長年もちますということであって、十五、六年前で、私もまだ浅はかなときだったので、まだ若くて。そうなんですかということで、じゃ、ちょっとやってくださいということで見てもらったんですけども、今考えたら、すごい怖いことですよね。家の中に入ってもらって、家の周りを、間取りというか、位置を見に来たんだなと今なら分かるんですけども、そういうことってまだまだあると思いますので、またそういう注意喚起もしていただければなと思いますので、よろしくお願いいたします。

私のはこれで、以上で終わりです。ありがとうございます。

○議長（牧浦秀俊）　安中議員。

○４番（安中　和）　３番目は青色パトロールについてということなんですが、昨今、凶悪な事件、事故が多発しています。上牧町内においても、ガラス窓を割って侵入したという事件が報告されました。現在、片岡台地区と桜ケ丘地区において、住民が自ら青色パトロールの

資格を取り、自分たちの地区を月に何度か巡回しています。役場も月に１度、上牧町内を巡回してくださっていると伺いました。我がまちは自分たちの手で守るという精神を育むためにも、他地区にも青色パトロールの実施を促してはどうかと思いますが、その点について、見解をお聞かせください。

○議長（牧浦秀俊）　総務部長。

○総務部長（中川恵友）　では、青色防犯パトロールについてご回答させていただきます。

今、安中議員からもご紹介ございましたように、一応、片岡台、桜ケ丘地区におきまして、青色防犯パトロールの活動をしていただいていると認識しているところでございます。そのほかにも１つの自治会並びに地域安全推進委員さんの登録をしていただきまして、防犯パトロールをしていただいているところでございます。

そのほかにおきましても、一応、安中議員からご紹介ございましたが、役場のほうで月１回ということでございます。現状、今、月６回、登下校の見守りを、防犯パトロールを兼ねて実施させていただいているところでございます。そのほかといたしましても、各自治会であったり、学校地域パートナーシップ事業の中で、登下校の見守り活動を行っていただいているというふうにも認識しているところでございます。

また、上牧町の自治連合会におきましても、10月１日から12月31日を防犯活動強調月間という期間と定めていただいて、活動も行っていただいているところでございます。この場を借りまして、関係者の皆様にお礼を申し上げたいと思います。

次に、一応、上牧町につきましては月６回ということでご紹介をさせていただきましたが、ここも引き続き、また町のほうで取り組んでまいりたいと考えているところでございます。

青色防犯パトロールの実施を促してはどうかというご質問でございますが、防犯ボランティア活動は皆様の、自分たちのまちは自分たちで守るという気持ちや、日常生活の中でできる人が、できるときに、できることを無理なく行うことが大切であるというふうに考えておるところでございまして、この志こそが活動の継続につながると考えておりますので、一人でも多くの方々に防犯ボランティア活動に参加、協力いただけるように、町といたしましても周知、啓発に努めてまいりたいと考えているところでございます。

○議長（牧浦秀俊）　安中議員。

○４番（安中　和）　そのとおりでございますが、上牧町内の治安情報を調べましたら、不審者・声かけ26.2％、ひったくり・窃盗20.7％、詐欺12.3％、子ども被害9.6％、暴力・強盗・恐喝6.4％、痴漢4.1％といろいろ、薬物0.3％、ちょっと増えているようで、こういうことが

起きつつあります。今までどおりのことをやっていても、とても大切なことで、いいことで、私自身も青パトの免許を取りまして、ぐるぐる運転して回っていますが、別にできることをできる人が、「はい、できることを私はしています」という、私もそうです。そういう方をもっと周知して伝えてあげていただきたいということを述べさせていただいています。

もちろん歩きパト、いろんなことは大切なことで、これを今後もやっていただきたいと思うんですけど、もうここまで大変な世の中になってきましたら、もう少し、夏場になったら必ず痴漢とか窃盗とか万引きとか、いろんなことが上がってきます。だから、そういうことを踏まえて、もうちょっと進みませんかということでこの質問をさせていただいております。ほかのところからも、「何をやっているの。青色パトロールって何？」とかいうことも聞かれたりしますので、ご存じない方も結構いらっしゃいますので、それをチョイスするかしないかはその方々にお任せするとして。でも、青色パトロールを行うにも規定があって、いろんなこと、難しいこともあるかもしれませんけれども、それを説明していただいて、そこから進めていただければなと思うんですけど、その点について、いかがでしょうか。

○議長（牧浦秀俊）　総務部長。

○総務部長（中川恵友）　今おっしゃっていただきました防犯パトロールにつきましては、先ほど議員のお話の中にございましたように、一定限度、基準というのがございまして、個人ではなしに一応団体ということで警察のほうに届出をしていただいて、適格団体というふうに警察のほうから認めてもらえない限り、青色パトロールというのはできないわけでございますので。ただ、それにつきましても、周知のほうはさせていただきたい、そういう取組がありますということの周知もさせていただきたいと思っておりますし、なおかつ、これ、住民の方、皆様にご協力いただけるというのがもう１つ、ながら見守りというのがございまして、ふだんの日常の中で、子どもたちの登下校時であったり、見守りを日常生活の中で、例えば朝、水やりとか散歩へ行ったときに、子どもの登下校時間に散歩をしていただいて様子を見ていただくというような、ながら見守りというのがございまして、これも皆さん、日常生活の中でしていただくことは可能なのかなというふうに思いますので、これも併せて、こういうことにご協力いただけるような形で周知、啓発にも努めてまいりたいと考えているところでございます。

○議長（牧浦秀俊）　安中議員。

○４番（安中　和）　分かりました。もちろん、ながら、私たちも注意喚起して、歩きパトとかも月に１回させていただいたり、いろいろさせていただいています。でも、それじゃ間に

合わないような世の中になっているということでこの質問をさせていただきましたので、方法というのを告知していただき、広めていただければと思います。選択肢を増やすということをしていただければと思いましたので、よろしくお願いいたします。

この件については以上です。ありがとうございます。

○議長（牧浦秀俊）　安中議員。

○４番（安中　和）　４番目の、町内に子どもが遊べる施設を造る予定はというところで、以前に他の議員からも質問が出されていましたが、服部台前の建設跡地に商業施設が建つとのことで、その中に、若い方から、各地にある屋内での子どもの遊べる広場、例えば天理にあるわんぱくランドや桜井市のひみっこぱーくなどのような施設を造ってほしいという意見を頂きました。こういうのは商業施設側のことですので、役場に申し上げてもなかなか難しいと思いますが、これを見ていらっしゃる商業施設の方にお願いできればと思って、ちょっと一言言わせていただいておりますが、３月２日の奈良新聞に、大手のスーパーが橿原に屋内型子ども向けの遊び空間というのをつくったそうです。それが載っておりました。さすがに今の世情に合った集客の仕方をされたことを感心しました。上牧町にできます商業施設にもこういった場所が少しでもあればなと願いますが、上牧町内で今後こういう、子どもたちのために、今ある施設プラスアルファ子どもの遊べる施設は造る予定というか、考える予定はございますでしょうか。

○議長（牧浦秀俊）　健康福祉部長。

○健康福祉部長（寺口万佐代）　それでは回答させていただきます。

天理市のわんぱくランドや桜井市のひみっこぱーくは、屋内型の子どもたちが楽しめる様々なものがある施設です。近頃は、先ほどおっしゃっていましたように、大型商業施設の中に、有料ではありますが、天候に関係なく遊べ、それぞれの年齢に合った大型遊具やおもちゃなどが置いてあり、子どもたちはとても楽しそうに遊んでいる様子であると聞いております。

第３期上牧町子ども・子育て支援事業計画策定のためのニーズ調査におきましても、子どもたちが安全で伸び伸びと遊べる公園があればよい、公園の遊具についての要望や室内の遊び場が欲しいなど、様々なご意見を頂いておりますが、今現在のところ、上牧町内に子どもが遊べる大型施設を造る予定はございません。雨の日や暑さ、寒さなど、天候に関係なく遊べる子ども向けの遊具などがある施設というのがあれば、私どももいいなとは考えております。今後、調査、研究して検討してまいりたいと考えております。大型施設じゃなくても、

工夫を行いながら､今あるところで何とかなるのではないかとか､そういったところも今後、進めてまいりたいと考えております。それから、2000年会館にございますプレイルームについても、周知も今後、続けてまいりたいと思います。

○議長（牧浦秀俊）　安中議員。

○４番（安中　和）　分かりました。今後またいろいろと考えていただければありがたいと思いますし、プレイルームも、お使いいただいている方も喜んでおられることは聞き及んでおります。だから、それを少し拡充したり、種類を違ったものにしたりということで、飽きない施設をまた造っていただければなと思いますので、よろしくお願いいたします。ありがとうございました。

今回、私の質問は、年初の抱負であります共に手を携えてという言葉で、町と住民が協力して上牧町をつくっていくという点に重きを置いて言わせていただきました。今後とも住民と役場の相互理解、橋渡しを行っていきたいと思います。皆様のご協力をどうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。これで終わりにさせていただきます。

以上です。

○議長（牧浦秀俊）　以上で、４番、安中議員の一般質問を終わります。

ここで暫時休憩とし、再開は１時35分といたします。

休憩　午後　１時２５分

再開　午後　１時３５分

○議長（牧浦秀俊）　再開いたします。

◇康　村　昌　史

○議長（牧浦秀俊）　次に、10番、康村議員の発言を許します。

康村議員。

（１０番　康村昌史　登壇）

○１０番（康村昌史）　10番、自民党の康村昌史でございます。議長の許可を得ましたので、

一般質問を行います。

その前に、少しお話ししたいことがございます。2025年、令和７年２月13日木曜日付の読売新聞の朝刊ですが、奈良版でございます。表題として、「奈良市　ふるさと納税最高　前年度比４割増　返礼品数拡充2.5倍が後押し」と、こう書かれております。内容に入っていきたいと思います。奈良市の今年度のふるさと納税の寄附総額が、１月14日時点で、前年度比４割増の約８億1,500万円となり、過去最高を更新した。返礼品の拡充に積極的に取り組んだのが奏功したと見られる。市は10億円の達成を目指しており、年度末までＰＲにしっかり取り組みたいとしている。市によると、これまでの寄附総額の最高は23年度の約５億7,400万円で、約２億4,100万円の増となった。寄附の件数も1.7倍の約３万7,000件に伸びた。後押しになったのは、返礼品の充実だ。市は今年度、ふるさと納税室を新設し、返礼品の提供事業者向けの説明会を定期的に開催して出品を依頼。事業者のホームページなどで返礼品になりそうなものを見つけると、訪問して協力を求め、今年度の返礼品数は約2.5倍の1,300以上に増やした。登録ポータルサイトも12件から19件とし、寄附先を選ぶ人の目につきやすいようにした。途中、カットしますが、市はふるさと納税の寄附を文化財の保存や活用、独り親家庭への支援などに充てている。

さらに付け加えておきますが、令和７年１月14日、奈良市長が会見で、令和６年度奈良市のふるさと納税が単年度黒字になり、継続して寄附促進に取り組みますとの発表がありました。上牧町のふるさと納税を担当している企画財政課も本当に頑張っていると思いますので、エールを送りたいと思います。

それでは、一般質問に入らせていただきます。

私の一般質問の質問事項は、上牧町手話言語条例の制定後についてです。質問内容の要旨は、令和５年12月議会で、上牧町手話言語条例が制定されました。まず、令和元年９月議会と令和２年３月議会で私、康村が手話言語条例の制定を求め、次に、令和３年12月議会で東議員がこの手話言語条例の制定を求めました。その後、かなりの期間が経過しましたが、令和５年12月議会で上牧町手話言語条例が制定されました。その制定後、上牧手話言語条例はどのように活用されているのかを詳しくお話しください。

以上が私の一般質問の内容でございます。再質問につきましては質問者席で行わせていただきます。よろしくお願いいたします。

○議長（牧浦秀俊）　康村議員。

○１０番（康村昌史）　それでは、まず初めに、上牧町手話言語条例の制定に至るまでの経緯

をお聞かせいただきたい。

○議長（牧浦秀俊）　健康福祉部長。

○健康福祉部長（寺口万佐代）　お答えさせていただきます。

上牧町手話言語条例は、議会での一般質問にて制定の要望を頂き、その後、令和４年２月に上牧町聴覚障害者協会様より条例制定の要望書の提出があり、令和４年11月より制定に向けたワークショップを開始し、手話を使用される当事者の方々や関係機関の方々と、条文や制定後に想定される施策などについて、約１年間の議論を重ね、令和５年７月にパブリックコメントを実施、広く条例に対する意見を募り、令和５年12月に制定させていただいたところでございます。

○議長（牧浦秀俊）　康村議員。

○１０番（康村昌史）　なるほど。今、寺口部長の答弁の中に、約１年間の議論を重ねたとありましたが、回数や参加人数等を教えていただきたいと思います。

○議長（牧浦秀俊）　健康福祉部長。

○健康福祉部長（寺口万佐代）　上牧町手話言語条例の制定に向けたワークショップを５回開催し、当事者団体や手話サークル、手話通訳者、社会福祉協議会、町関係部局、延べ58名の方々にご参加いただき、ご議論を頂きました。

○議長（牧浦秀俊）　康村議員。

○１０番（康村昌史）　今の内容で、議論を重ねて手話言語条例が制定されたことがよく分かりました。

それでは、次にパブリックコメントの住民からの意見内容を教えていただきたいと思います。

○議長（牧浦秀俊）　健康福祉部長。

○健康福祉部長（寺口万佐代）　令和５年７月１日から１か月間、パブリックコメントの募集を行い、結果、13件の意見を頂きました。手話を必要とする方々が安心して生活できるよう、手話という言語がより普及していくこと、また、子どもたちが手話に接する機会を確保できるような施策の実施を望む声を頂いていたところでございます。

○議長（牧浦秀俊）　康村議員。

○１０番（康村昌史）　それでは、次に、この手話言語条例制定の目的をいま一度お聞かせいただきたいと思います。

○議長（牧浦秀俊）　健康福祉部長。

○健康福祉部長（寺口万佐代）　手話は、耳が聞こえない、聞こえづらい人が意思疎通を伝え合う言葉として大切に育まれてきました。この手話が、音声の聞き取りや発声に障害のない人が意識せず使用している音声言語と同様の言語として、障害者の権利に関する条約や障害者基本法で位置づけられ、手話に対する正しい理解の深化や、手話を使用しやすい環境の整備が求められています。このようなことから、手話を使いやすい環境をつくり、聞こえない人の生活や手話を深く理解して、地域で支え合い、手話を使用する人も安心して暮らすことができるぬくもりあるまちづくりを実現するため、条例を制定いたしました。

○議長（牧浦秀俊）　康村議員。

○１０番（康村昌史）　なるほど。よく分かりました。つまり手話を使いやすい環境をつくり、聞こえない人の生活や手話を深く理解して、地域で支え合い、手話を使用する人も安心して暮らすことができるぬくもりのあるまちづくりを実現するため、条例を制定したとのことですが、本当にそのように思います。

次に、質問ですけれども、条例制定後、上牧町手話言語条例はどのように活用されているのかを詳しくお話しください。

○議長（牧浦秀俊）　健康福祉部長。

○健康福祉部長（寺口万佐代）　本条例は、手話に対する理解の促進や手話の普及を推進し、ぬくもりのある地域共生社会を目指すものであり、施策の推進については、第６条３項において、聾者、手話通訳者、その他の関係者の意見を聞くため、これらの者との協議の場を設け、推進していくものとすると規定しております。制定後の令和６年１月に上牧町聴覚障害者協会様、手話サークル様、上牧町設置手話通訳者、福祉課が参画する手話推進会議を立ち上げ、定期開催しながら、実施していく施策などについて話合いを行ってまいりました。

制定後に実施させていただいた事業でございますが、１つ目は、手話に対する理解の促進に関する取組といたしまして、令和６年度当初に手話言語条例が制定されたことを周知するためのパンフレット及びポスターを作成いたしました。

２つ目が、手話の普及に関する取組といたしまして、令和６年度４月号の町広報紙により、毎号、裏表紙に手話言語講座を掲載し、簡単な手話を動画でも見ていただけるよう啓発を図っています。また、特に子どもたちへの手話の普及に努めてほしいと制定前のワークショップやパブリックコメントでもご意見を頂いていたことから、町内各小学校にもご協力を頂きまして、簡単な手話と聴覚障害についての理解を深める内容の講座を開催いたしました。それから、ペガサスフェスタでも、手話推進会議の中で立案した「ゲームで手話にふれてみよ

う！（こども手話体験）」と題した手話体験のイベントを上牧町聴覚障害者協会様と共同で実施し、また、令和６年11月からは毎月、町職員向け手話講座を開催いたしております。

３つ目といたしまして、災害に関する取組として、災害対策学習会を開催いたしました。

令和６年度に実施しましたこれらの事業は、定期的な手話推進会議の中で適宜報告させていただき、よりよい施策を目指すべく、その評価、改善についても話合いを行っておるところでございます。

○議長（牧浦秀俊）　康村議員。

○１０番（康村昌史）　具体的に３つに分けてお話しいただき、本当にありがとうございます。担当の福祉課が本当に頑張っているなということがよく分かりました。

それでは、令和６年度４月号の町広報紙より、毎号の裏表紙に手話言語講座を掲載し、簡単な手話を動画でも見ていただけるよう啓発を図っていますとのことですが、このアイデアには本当にびっくりいたしました。私も手話をやってみようかなという気になるような、本当にいいアイデアと感服いたしました。

また、次の質問ですけれども、町内各小学校での講座の開催と、町職員向けの講座を実施したとのことですが、この講座は今後、引き続き実施されるのでしょうか。お話しいただきたいと思います。

○議長（牧浦秀俊）　健康福祉部長。

○健康福祉部長（寺口万佐代）　引き続き実施したいと考えております。小学校での講座の開催については、７年度も実施予定であります。その後につきましては、学校側との協議をしながら続けていきたいと考えております。今後におきましても、手話に関する理解や手話の普及を一層推進していくため、聾者や手話サークルなど関係機関の皆様と協働体制を進めながら、継続して取り組んでいきたいと考えております。

○議長（牧浦秀俊）　康村議員。

○１０番（康村昌史）　部長の答弁には本当、感服いたしました。手話に関する理解や手話の普及を一層推進していただくようお願いしまして、私の一般質問はこれで終わらせていただきます。ありがとうございます。

○議長（牧浦秀俊）　以上で、10番、康村議員の一般質問を終わります。

ここで暫時休憩とし、再開は２時５分といたします。

休憩　午後　１時５０分

再開　午後　２時０５分

○議長（牧浦秀俊）　再開いたします。

◇

◇石　丸　典　子

○議長（牧浦秀俊）　次に、９番、石丸議員の発言を許します。

石丸議員。

（９番　石丸典子　登壇）

○９番（石丸典子）　９番、日本共産党の石丸典子です。議長より発言の許可を頂きましたので、一般質問の通告書に従って質問を行わせていただきます。

今日は３月11日、東日本大震災から14年ということで、本当に、最初に黙禱もさせていただきましたけれども、もう14年もたったんだなという思いがしておりまして、改めて地震の怖さ、備えの大切さを感じているところです。

今回、私は４項目あります。１つ目は、小学校統廃合について。２つ目、下水道修繕改築計画について。３つ目、小・中学校の教員の勤務状況について。４つ目、化学物質ＰＦＡＳによる汚染についてです。

まず１つ目です。小学校統廃合について。

町内３つの小学校は地域のコミュニティーの施設でもあります。なくすと、その地域が衰退します。現在の３校の存続を強く望んでいます。小学校の統廃合については、令和７年度に人口動向、社会情勢等の観点から再検証して方針を決定しますという説明でした。その後の状況をお伺いします。

２つ目、下水道修繕改築計画について。

今年１月28日、埼玉県八潮市の大規模な道路陥没で、下水道管の老朽化が問題になっています。

そこで、次の３点についてお伺いいたします。

１つ目、陥没事故後の上牧町の対応をお伺いします。

２つ目、上牧町では、平成30年、2018年に下水道ストックマネジメント基本計画を策定し、

築造年度の古い地区から修繕が行われています。進捗状況と予定をお伺いします。

３つ目、町内のマンホール周辺で、ひび割れ等の傷みが見られます。修繕の基準をお伺いします。

３つ目、小・中学校の教員の勤務状況について。

教員の長時間労働が深刻な事態をもたらしています。その原因として、教員定数が少な過ぎる、公立の小・中学校の教員には残業代を払わなくてよい制度となっているという２つの問題があります。町内の学校での勤務と残業状況をお伺いします。

４つ目、化学物質ＰＦＡＳによる汚染について。

ＰＦＡＳは炭素にフッ素が結合した有機フッ素化合物の総称です。１万4,000種以上あると言われています。主なものにＰＦＯＡ、ＰＦＯＳなどがあります。スマホやフライパン、撥水加工の衣服、泡消火器の消火剤などに含まれています。その毒性は、免疫力低下、がん、低体重出生などをもたらします。水道水、河川、土壌汚染が心配です。町の検査はどうかお伺いいたします。

以上の４項目です。再質問につきましては質問者席から行わせていただきますので、よろしくお願いいたします。

○議長（牧浦秀俊）　石丸議員。

○９番（石丸典子）　それでは、１つ目から順次お願いいたします。

○議長（牧浦秀俊）　教育部長。

○教育部長（松井良明）　それではお答えをさせていただきます。

まず､小学校統合に関する現在の考え方等について説明をさせていただきたいと思います。小学校の統廃合に関する考え方につきましては、令和５年９月定例会におきましてご質問を頂いたところでございますが、当時から基本的な考え方は変わっておらず、令和７年度において実施を予定しております人口動態等の調査の結果を基に、現在３校ある小学校を２校とする上牧町学校適正化基本計画の方針が適切かつ妥当であるかどうかという検証を行った上で、最終的な方針を決定するとしているところでございます。したがいまして、現時点におきましては、計画に基づき、統合することを基本的な考え方としておりますが、３校を存続する可能性を否定するものではございません。いずれにいたしましても、実際に影響を受ける児童たちがよりよい教育環境で過ごせるよう、当該児童の思いやその保護者の願いに寄り添うことを基本的な考え方、もしくはスタンスとして検証を行ってまいりたいというふうに考えているところでございます。

○議長（牧浦秀俊）　石丸議員。

○９番（石丸典子）　これまでの答弁と変わっていないということの確認となりましたけれども、令和７年度の予算の中では、特に私、この項目、触れなかったんですけれども、令和７年度においては、学校適正化協議会というのを新たにまた開かれるということで、この内容を見たときに、この一般質問の項目、もう答えがここに出ているなと思ったところです。

小学校の統廃合を検討されたときは、第二小学校が、児童数が一番少ないからということで、廃止の案に挙げられたと思います。予算の中で、今後５年間の児童数の推移という資料を出していただいているのを見ますと、この中で、上牧小学校も児童数が減ってくる、第三小学校も減ってくる、第二小学校だけが右肩上がりで、４年後ぐらいまでは上がってくるような状況で、今の試算では、第二小学校の子どもは増えてくるという状況の資料となっています。

今後、どこで住宅開発が起こるか分からないということで、どの地域で子どもさんが増えるかということも分かりませんけれども、私はこれまでから述べさせていただいていますとおり、やっぱり町内３つの小学校は存続させて、どの地域にも若い人が住めるようなということで、学校があるかないかが大きいので、ぜひその点も要望していきたいと思いますし、協議会での８回の協議を行われるというふうな予算になっておりますので、この内容も注視してまいりたいと思います。

町としては、今のところどうこうというのはなく、絶対２校にするというのではないということを確認させていただきました。結構です。ありがとうございます。

それでは、次の項目をお願いいたします。

○議長（牧浦秀俊）　都市環境部長。

○都市環境部長（吉川昭仁）　それでは、２つ目のご質問でございます。陥没事故後の上牧町の対応ということでございます。

陥没事故後につきましては、本町といたしましては、町長からの指示もございまして、流域下水道へ接続となる幹線管渠等のマンホール内での目視点検及び管路上の道路状況を調査させていただいております。調査の結果につきましては、特に異常はないと報告を受けておるところでございます。

○議長（牧浦秀俊）　石丸議員。

○９番（石丸典子）　確認をさせていただいたところです。それで、今後の計画というところですけれども、説明をお願いしたいと思います。これも令和７年度予算の中でも出てきてお

りまして、大体はつかめたのですけれども、５年単位の計画で、財政の計画も含めた計画になっているということを委員会の中では聞かせていただいたんですけれども、この中で、もう一度ご説明をお願いしたいと思います。計画と、進捗状況と、今後の予定をお願いいたします。

○議長（牧浦秀俊）　都市環境部長。

○都市環境部長（吉川昭仁）　それでは、下水道ストックマネジメント計画といたしましては、令和２年度から片岡台１丁目地区内において改築工事を進めておるところでございます。それと、令和７年度から友が丘地区におきまして修繕改築計画の策定を行いまして、おおむね５年間かけまして改築工事を進めていくという予定となっておるところでございます。

○議長（牧浦秀俊）　石丸議員。

○９番（石丸典子）　この下水道ストックマネジメント基本計画に沿ってですけれども、標準的な耐用年数は50年というふうにされているんですけれども、上牧町において、古い地区というのはどの辺りになりますか。

○議長（牧浦秀俊）　都市環境部長。

○都市環境部長（吉川昭仁）　まず、一番古いとなりますと、片岡台地区になります。これが昭和43年頃の築造になるのかなというふうに考えております。その次に大体、桜ケ丘地区というところになってくるかと思います。

○議長（牧浦秀俊）　石丸議員。

○９番（石丸典子）　計画の策定と設計と工事ということで、一連で、５年間ぐらいで完了できるようなということで、そこに予算もつけられるということでありますので、地域によったら広いところもありますね。片岡台が一番古くて、令和７年度においては友が丘ということなんですけども、友が丘も同じように古いということですか。令和２年度から工事が行われて、ほぼ片岡台が終了しているということですね。大体５年です。予算委員会の中では、ちょっと頭の中がこんがらがっていたんですけど、令和２年度に修繕改築計画を策定して、令和２年で2020年、ほぼ５年でこの一連が終わって、新たに次は友が丘ということなんですね。この今後の予定、ちょっとこれまでの資料をたぐり寄せてみますと、令和４年においては松里園と葛城台の一部についても調査とか診断というのが出てきまして、少し診断とかあったんですけれども、その辺も絡めて、今後の計画、進捗状況をお願いいたします。

○議長（牧浦秀俊）　都市環境部長。

○都市環境部長（吉川昭仁）　まず、先ほども申しましたように片岡台地区、そして桜ケ丘に

ついて、友が丘につきましては桜ケ丘と同じ年代ぐらいかなというところでございます。そして、実質、平成24年からそういう工事等をスタートさせていただいている中で、桜ケ丘３丁目、そして片岡台３丁目周辺、そして片岡台２丁目につきましては、もう改築工事の実施が済んでおるというところでございます。そして、先ほど言いましたように、片岡台１丁目については令和２年度からの改築工事、おおむね５年間かけての改築工事というところと、そして友が丘地区につきましては令和７年度からスタートしていくということになるんですけども、５年をかけて工事するというところと、その規模によって大きさは大小あるかと思います。その中で、大きいところについては、やっぱり事業規模が膨らむというところになるのかなと。計画としましては、財政計画も含めて、５年間の計画を立ててやりますので、そういうところで、若干上下は変動するのかなというところでございます。

そして、ＴＶカメラ調査について、先ほど議員のほうからもご指摘いただきましたが、これにつきましては、友が丘地区とか、あと桜ケ丘１丁目・２丁目、そして葛城台全域についてと、あと松里園の一部についてはＴＶ調査・診断業務は済んでおるというところでございますので、これについては順次、友が丘が終わりましたら、次は桜ケ丘１丁目を次の計画として進めていこうかなというふうに今後考えているところでございます。

○議長（牧浦秀俊）　石丸議員。

○９番（石丸典子）　順次、財政の計画も同時にということなんですけど、全部終了するのにどのぐらいかかりますか。

○議長（牧浦秀俊）　都市環境部長。

○都市環境部長（吉川昭仁）　ざっとですけども、おおむね25年ぐらいはかかるのかなと思っております。

○議長（牧浦秀俊）　石丸議員。

○９番（石丸典子）　先ほど、一番最初にお聞きしましたとおり、陥没事故後の調査では、上牧ではそういう大きな被害は出ないだろうということで、その下で、老朽化のところの水道管については、順次全体の基本計画に沿って、それぞれの地域ごとに修繕の改築計画を立て、設計調査をし、工事に入っていくという一連で、１つの地域でもかなりかかると。５年以内ということで、１つの地域で５年ぐらいかかるところで、全体としては、全部終了するには25年ということで、当然、財政も底をついてきますので、財政との相談もあるということで、なかなか計画どおりに難しいというところもあるかもわかりませんけれども、本当に大事な事業ですので、しっかり業務が進みますようにお願いしておきます。ありがとうございます。

それでは、町道に、下水道用のマンホールでひび割れていて、車が、特に交通量の多いところなどは振動するというふうな被害等もあるんですけれども、この修繕をするに当たっての基準というのは設けられていますか。

○議長（牧浦秀俊）　都市環境部長。

○都市環境部長（吉川昭仁）　上下水道課といたしましては、修繕につきましては、マンホールの蓋の段差やがたつき補修に伴う舗装のやり替えは修繕の対象ということにしております。また、一般的には道路舗装の車の修繕ということになろうかと思いますので、舗装維持修繕計画に基づきまして順位づけを行って、併せて自治会要望も勘案した上で、計画的に舗装工事を実施しているというところでございます。

○議長（牧浦秀俊）　石丸議員。

○９番（石丸典子）　全体の舗装ではなく、特にマンホールの周辺だけを少し修理するというところも要望があって、被害があれば行っていただいているというふうな、その理解でよろしいですか。

○議長（牧浦秀俊）　都市環境部長。

○都市環境部長（吉川昭仁）　はい、そのとおりでございます。

○議長（牧浦秀俊）　石丸議員。

○９番（石丸典子）　分かりました。これでこの下水道に関係するのは結構でございます。ありがとうございます。

次、小・中学校の教員の勤務の状況についてお願いいたします。

○議長（牧浦秀俊）　教育部長。

○教育部長（松井良明）　それでは、議員お尋ねの本町の小・中学校における教員の時間外在校等時間、いわゆる残業時間の実態について、文部科学省による教育委員会における学校の働き方改革のための取組状況調査の結果を基に、校種ごとの本町の令和５年度の状況を回答させていただきます。

小学校３校の平均につきましては、時間外在校等時間が月45時間以下の割合は77.4％で全国平均よりも2.2％高く、月45時間を超え80時間以下の割合は20.1％で全国平均よりも3.1％低く、月80時間を超える割合は2.5％で全国平均よりも0.9％高くなっております。小学校における月80時間を超える割合につきましては、本年度に入り、令和６年４月から令和７年１月までの暫定数値が全国の平均値よりも下回っており、改善の兆しが見られるというふうに認識をしているところでございます。

一方、中学校におきましては、２校の平均において、時間外在校等時間が月45時間以下の割合が55.8％で全国平均よりも1.7％低く、月45時間を超え80時間以下の割合は40.7％で全国よりも6.3％低く、月80時間を超える割合は3.5％で全国よりも4.6％低くなっております。中学校の月80時間を超える割合につきましては全国平均よりも低くなってはおりますが、45時間を超え80時間以下の割合が40.7％と全国よりも高く、全体としては長時間勤務が憂慮されるという傾向が表れているところでございます。

○議長（牧浦秀俊）　石丸議員。

○９番（石丸典子）　それぞれ平均値で、今、報告がありましたけれども、全国平均よりも高いとか低いとか、そういう比べ方もあるんですけれども、要は長時間勤務の方がどれぐらいいて、特に80時間というのは過労死ラインって言われていますね。だから、多かろうと少なかろうと、80時間以上の残業する人がいるということは、本当に過労死の状況につながるということなので、大事なのは、それぞれ先生がどのぐらい残業されているかという状況を町としてもよくつかんでいるかということと、やっぱり相談なり、疲労がたまっていないかとか、そういう病気につながるようなことになっていないかというところに気が配れるように、やはり行政と学校側もそうですけれども、情報がしっかり共有されているかどうかということが一番大事だと思います。個々の先生の働き方というか、何時に来られて、何時に帰られるというのは、一応把握できるようになっているということですね。

○議長（牧浦秀俊）　教育部長。

○教育部長（松井良明）　教員の出退勤管理につきましては、以前はいわゆる出勤簿で印鑑の対応だったので、明確な出勤時間、退勤時間が確認はできていないんですけど、今に至っては機械的に管理をしておりますので、出勤をした時刻と退勤をした時刻については、客観的に把握することが可能となっております。

○議長（牧浦秀俊）　石丸議員。

○９番（石丸典子）　この働き、教員の給料の決め方といいますか、残業した分が出るのではなくって、月給に対して、あらかじめ４％とか上乗せがされているということで、今、改定が決められようとしているのは、基本給に４％上乗せというのを10％に増額するからということが今、言われているんですけど、それで解決する問題ではないですね。残業は減らないだろうし、残業代そのものを支給するものではなくって、基本給に上乗せて支給するものでありますから、一定の額で働けるだけ働かされるというふうなことで、本当にブラックな状態は解決しないとは思うんです。その辺はこれで安心とはならないんですけど、町でこの分

野については、特にどうこうはできないところはあるかもわかりませんけれども、大事なところは、それぞれの先生方の働き方がどんな状況になっているかということを、やっぱりしっかりつかんでいただくかどうかということが大事だと思いますが、その辺はいかがですか。

○議長（牧浦秀俊）　教育部長。

○教育部長（松井良明）　教員の働き方改革につきましては、月に１回開催をしております小学校・中学校・幼稚園校園長会において、教育長のほうから、基本的にきめ細やかな気配りの中で、教職員に過度な負担がかからないということに十分に配慮した上で、当然、長時間勤務がちょっと常態化している職員にあっては、管理職の責任において日頃から声かけを行うなど、その辺のメンタル等、体、健康面を十分留意するという方向での手だてはなされているものと承知をしております。

ただ、今おっしゃいましたとおりかなり、やっぱり学校の先生は、正規の勤務時間では、子どもたちへの授業等でしておられまして、子どもたちが帰ってから以降の放課後の仕事量というのは、かなり残ってしまうというような現状があるので、その中にあっても、ちょっと管理職のほうで、体調的に低下している職員がいるということであれば、日頃の声かけの中でコミュニケーションを活発に行って、先生方の健康を守るということについては、一定、運用ができているのかなというふうに認識をしているところでございます。

○議長（牧浦秀俊）　石丸議員。

○９番（石丸典子）　いろいろ大変な様子は伺っているところです。やっぱり教員をもう少し増やしていただくということであったり、１クラスのクラス数を減らすとかという根本的な対策がまず要るのではないかと思っているところですけれども、いろんな先生の補助をする支援員さんであるとか、町としてできることはいろいろされているんですけれども、やっぱり職員の定数が少な過ぎるというあたりと、１クラスの数をもっと減らして、負担のないように、子どもたちにしっかり目が届くようなというところが基本だと思いますが、その点はそのように認識されていますか。

○議長（牧浦秀俊）　教育部長。

○教育部長（松井良明）　教職員定数については、その時々、状況によって変わるんですけども、現状の40人学級であれば、40人を超えて41人になれば２学級という編制が可能になってまいります。その部分は法で決まっているので致し方ないところであるというふうには考えておりますけども、国の動きとして、令和８年度から中学校の学級数を、いわゆる40人学級から30人学級に引き下げる方針も示されるというふうに聞き及んでいるところでございます

ので、その分、小学校についても35人学級は実現をしておりますので、35人と40人、かなり違いがございますので、その部分に期待をさせていただきながら、町の費用において、恒常的に定数を変えるということは難しいと思いますので、その部分は、各学校の実情に即した形で、町費で手当ができる部分であれば、その部分を、全体的なことも考え合わせながら、総合的に対応していきたいというふうに考えているところでございます。

○議長（牧浦秀俊）　石丸議員。

○９番（石丸典子）　ありがとうございます。やはりしっかり教員を増やしていただくというところが大事だと思います。

ここで、教育長、一言。長年にわたり教育の分野でご苦労いただきましたけれども、何か見解などありましたら、最後にお聞きしたいと思います。

○議長（牧浦秀俊）　教育長。

○教育長（松浦教雄）　今の部長の答弁はおおむねそのとおりではございますが、何分この教員定数につきましては、働き方改革を行う中で、成り手不足の解消というのがございます。議員お述べのごとく、教員調整額の中で４％という位置づけがされてきたわけですが、教員になりたいという大学生や大学を卒業された方が､小学校や中学校の先生になりたいという、このブラックなイメージを払拭するための国の施策も必要ではなかろうかなと。その最たる一例が、やはり再来年から施行されます中学校の部活動の外部指導者導入という部分にも差し迫ってくるわけでございます。教員の中でも、その部活動に携わりたいなという方もおられますし、地域のスポーツ協会や総合型の中でどういう人材が生まれてくるのか、そのことすら厳しい現状の中で、教員の成り手不足というのが今、一番最大の問題になるかなと。それは質も、これから誰彼なしに教員になっていただくと、また質のことが問われてきます。だからといって子どもが学びたいという、一番のこの思いに立っていただく先生方が不足であれば、またこれは教育の向上につながっていかないという部分もございますので、学校長の思いと、また町教委との思いを毎年、この１月の中旬から２月、３月にかけて県教委との連絡調整の中で今、行っているところでございます。おおむね、明日内示が発表されるわけでございますので、何とか上牧町にお勤めの先生方が、上牧町で勤めてよかったなという先生が一人でもたくさん出てくるような取組を来年度も続けていきたいなと、そんなように思っているところでございます。

○議長（牧浦秀俊）　石丸議員。

○９番（石丸典子）　教育長、ありがとうございました。いろいろ長年にわたりお世話になり

まして、ありがとうございました。この場でお礼申し上げます。

これで３番目の項目の質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（牧浦秀俊）　石丸議員。

○９番（石丸典子）　では、４つ目のＰＦＡＳの汚染について、上牧の状況はどうでしたでしょうか。

○議長（牧浦秀俊）　都市環境部長。

○都市環境部長（吉川昭仁）　上牧町の水道水につきましては、ご存じのとおり、県水100％で運用しておるというところでございますので、送水元であります県水道局において、ＰＦＡＳ等の異常数値についての報告はされておりませんが、念のため、町内水栓におきまして、ＰＦＡＳの一種でありますＰＦＯＳ及びＰＦＯＡに対する水質検査を実施させていただいております。結果といたしましては、基準値を超える数値は検出されておりません。

○議長（牧浦秀俊）　石丸議員。

○９番（石丸典子）　基準値ということなんですけれども、日本では特に基準値というか定めがなく、規制値はこのぐらいというのを決められているそうでありまして、それも水道水だけということらしいです。基準値というか、目標値を超えていないので安心だと言われているんですけれども、この目標値といいますのは、国の暫定的な値と言われていまして、ちなみに、最も厳しい基準がアメリカの環境保健庁で決められているそうなんですけれども、それが昨年の４月に改定を行われたところなんですけれども、その数値と比べると、上牧の基準値はかなり超えているというところで、日本が基準としているところが１リットルに、日本の目標値が１リットルに対して50ナノグラムというふうにされているそうです。上牧の数値というのは、１リットルに対して５ナノグラムということで、ちょっと細かい数字でしたんですけど、１ナノグラムは１グラムの10億分の１ということなので、０が１個変わってくるぐらいで、10分の１で大丈夫だというふうにはならないというところを今回、この場でちょっと認識をしていただいて、共有していただきたいなというところで、今回これを取り上げたところなんですけれども。

これは去年の５月に環境省と国土交通省がそれぞれの水道施設等に調査の依頼が行われてされているということで、国の基準値というのは、アメリカの12.5倍も緩いということになっていますので、その基準値と比べて安心でしたということにはなりませんので、やっぱり数値をしっかり公表して、これからこういうふうな有機フッ素化合物を出さないような取組というのが、やっぱり数値を明らかにしてから対策を考えるということの１つにするべきだ

と思いますので、その点で、今回ちょっと難しい問題でありまして、数値もなかなか分かりづらいんですけれども、そういうことで、上牧には直接関係ないというものではなくて、水道水であったり、河川であったり、土壌汚染というところにはなかなか手がつけられていませんので、環境問題を考える１つのきっかけとして今回入れさせていただいたところです。何かほかの取組等、工場の問題とかいろいろありますので、上牧には直接関係ないという問題ではないと思いまして、取り上げさせていただきました。何かあればお願いいたします。

○議長（牧浦秀俊）　都市環境部長。

○都市環境部長（吉川昭仁）　今、議員申されましたとおりだと思います。

補足で、申し訳ございません、上牧町の水質の検査の数字でございますが、５ナノグラムって議員おっしゃっていただいたんですけども、正確には５ナノグラム未満ということの数字でございますので、５ではない。それ以下の数字ではあるかと思うんですけども、ただ、その数字は出ていないというところの話でご理解いただければと思うんです。

それと、今言う水質基準項目というところで、51項目、大体定められておるところでございますけども、それ以外の水質管理項目に設定されておるというところで、ＰＦＡＳ、ＰＦＯＡにつきましてはというところで、ここは必ずしも検査しなければならないという部分でもないんですけども、そこは注視していかなきゃいけないというところの話で、今後、上牧町におきましても、その辺のところも踏まえて、しっかりその辺の数字、水質検査というところも積極的に検査していければなというのは考えているところでございます。

○議長（牧浦秀俊）　石丸議員。

○９番（石丸典子）　いろいろ対応していただき、ありがとうございます。ちょっと難しい、ＰＦＡＳって何と思われる方もあったかと思いますけれども、こういう問題が起こっているということと、上牧でも調査をされたということで、お伺いしたところです。

以上で質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（牧浦秀俊）　以上で、９番、石丸議員の一般質問を終わります。

これで本日の一般質問を終わります。

◇

◎散会の宣告

○議長（牧浦秀俊）　本日はこれで散会いたします。どうも皆様、ご苦労さまでした。

散会　午後　２時４４分

令和７年第１回（３月）上牧町議会定例会会議録

議　事　日　程（第３号）

令和７年３月１３日（木）午前１０時開議

第　１　一般質問について

２番　氏　原　賢　一

５番　東　　初　子

８番　竹之内　　剛

７番　遠　山　健太郎

１１番　木　内　利　雄

本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

◇

出席議員（１２名）

１番	服　部　公　英	２番	氏　原　賢　一
３番	竹　中　亮　造	４番	安　中　　和
５番	東　　初　子	６番	上　村　哲　也
７番	遠　山　健太郎	８番	竹之内　　剛
９番	石　丸　典　子	１０番	康　村　昌　史
１１番	木　内　利　雄	１２番	牧　浦　秀　俊

欠席議員（なし）

◇

地方自治法第１２１条により説明のため出席した者の職氏名

町　　長	今　中　富　夫	教　育　長	松　浦　教　雄
総　務　部　長	中　川　恵　友	都市環境部長	吉　川　昭　仁
住民生活部長	山　下　純　司	健康福祉部長	寺　口　万佐代
教　育　部　長	松　井　良　明	総務部理事	髙　木　真　之
健康福祉部理事	林　　栄　子	総　務　課　長	丸　橋　秀　行
建設環境課長	武　安　康　至	上下水道課長	南　浦　伸　介
福　祉　課　長	俵　本　大　輔	健康推進課長補佐	水　本　多朱子
こども未来課長	木　下　優　子	教育総務課長	辻　村　　純
社会教育課長	吉　川　信一郎		

◇

職務のため議場に出席した事務局員

議会事務局長	金　﨑　恭　彦	書　　記	森　本　香寿美
書　　記	横　田　大　樹	書　　記	林　　大　貴

開議　午前１０時００分

◎開議の宣告

○議長（牧浦秀俊）　おはようございます。ただいまの出席議員数は12名です。定足数に達しておりますので、これから本日の会議を開きます。

――――――――――――――――――――◇――――――――――――――――――――

◎議事日程の報告

○議長（牧浦秀俊）　本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。それでは、日程表に従い、順次議事を進めてまいります。

――――――――――――――――――――◇――――――――――――――――――――

◎一般質問

○議長（牧浦秀俊）　日程第１、一般質問について。

一般質問の持ち時間は、理事者側の答弁を含め１人１時間以内です。質問者はその点、十分心得て質問し、理事者側は的確かつ簡潔に答弁をお願いいたします。

――――――――――――――――――――◇――――――――――――――――――――

◇氏　原　賢　一

○議長（牧浦秀俊）　それでは、２番、氏原議員の発言を許します。

氏原議員。

（２番　氏原賢一　登壇）

○２番（氏原賢一）　皆様、おはようございます。議席番号２番、公明党の氏原賢一でございます。議長の許しを得ましたので、通告書に基づき一般質問をさせていただく前に、今期で勇退されます今中町長、４期16年、本当にありがとうございました。財政破綻寸前の上牧町をよくぞここまで再建していただいたことに敬意を表します。

松浦教育長におかれましても、今月末で職を辞するとお聞きいたしました。上牧中学校の

建設に伴い、一部の児童の通学経路が変更となり、上牧町役場の敷地内を通ることになってから､教育長を筆頭に教育委員会事務局の職員が児童の見守りをしていただいていることに、米山自治会見守り隊の隊長に代わり、厚く御礼申し上げます。ありがとうございます。町長及び教育長、お二人の功績は、この先永遠に語り継がれることを確信しております。誠にありがとうございます。

それでは、通告書に基づき一般質問をさせていただきます。私からの質問は２点でございます。

１点目は、防犯対策の強化についてでございます。

令和５年12月の一般質問で、安心安全なまちづくりの１つとして、ドライブレコーダーで犯罪抑止についての答弁が、事件、事故などの発生した場合は、警察が情報提供の呼びかけとして看板を設置しているのが現状なので、今後、警察と協議していくことと、先進地事例を研究していきたいとのことでしたが、その後の進捗状況などについてお伺いいたします。

１つ目は、警察との協議内容及び先進地事例の研究、結果について。

２つ目は、住民の防犯対策について。

３つ目、防犯機器の補助について。

２点目は、外国人交流ボランティアの今後についてでございます。

上牧町在住の外国人の方が、この上牧町で安心して楽しく住んでいただくために何かできないかの思いから、令和５年７月３日にボランティア団体Ｔｏｇｅｔｈｅｒを設立し、日本人と外国人がお互いに理解を深め合い、外国人同士が交流できる催しや居場所づくり、暮らしの不安を解消できるよう気軽に相談できる場をつくっていくための活動をしております。月に１回、上牧町保健福祉センター、2000年会館で開催していますが、現在は中心メンバーが集まり、具体的な活動を計画しています。

様々な地域で外国人に関する話題が持ち上がります。例えば、外国の人が近くに住んでいるようだけれども、どこに、どんな仕事を、家族は、と気になることはたくさんあっても、家庭事情などに踏み込んで尋ねてもいいものかと躊躇してしまうようです｡それだけでなく、もし災害が起こったとき、きちんと情報が伝わるのだろうかという心配もあります。

ふだんからご近所さんが外国の人との関係を持つことが大切であることから、この活動が始まりました。ボランティア団体Ｔｏｇｅｔｈｅｒについて、上牧町が支援できる範囲をお伺いいたします。

以上の再質問は質問者席で行わせていただきますので、よろしくお願いいたします。

○議長（牧浦秀俊）　氏原議員。

○２番（氏原賢一）　それでは、１つ目の質問として、警察との協議内容及び先進地事例の研究結果についてお聞かせください。

○議長（牧浦秀俊）　総務部長。

○総務部長（中川恵友）　１つ目のご回答をさせていただきます。まず先に、先進地事例の研究結果についてご報告をさせていただきます。

あくまでドライブレコーダーの提供につきましては任意でありまして、強制力がありません。警察の捜査に必要がある場合に協力できることを条件といたしまして、ドライブレコーダーの購入費用の助成を行っている自治体は他府県等ではございますが、実情、実施されてない団体もいろいろございます。また、奈良県下におきましては、過去に同種の助成事業を行っている団体が１団体だけございました。ただ、現状におきましては、もう事業を終了されておりまして、奈良県下における事業を実施されている団体はございません。

こういうことの結果も踏まえまして、警察の協議についてのご回答にはなるんですが、ドライブレコーダーにつきましては、先ほども言いましたように、任意での情報提供であるということから、本町といたしましては、現在、犯罪捜査に関しましては、警察と協議をさせていただきまして、求められれば防犯カメラの画像を提供するなど、捜査機関に協力をしているというところでございます。

○議長（牧浦秀俊）　氏原議員。

○２番（氏原賢一）　ありがとうございました。よく分かりました。

次に、２つ目の住民の防犯対策について。上牧町が住民に対してできることは周知及び啓発だと考えておりますが、いかがでしょうか。

○議長（牧浦秀俊）　総務部長。

○総務部長（中川恵友）　ご回答させていただきます。防犯対策ということでございます。

議員おっしゃっていただきましたように、防犯対策をするに当たりまして、行政といたしましては周知、啓発が重要であるというふうに考えておりまして、日頃から対策を講じることが重要でございますので、対策といたしましては、ドアに補助鍵を取り付ける、また、ガラスを割りにくくするなど侵入に時間をかける、また、センサーライト、人感センサー照明を設置、庭先に砂利を引くなど、音や光で威嚇する、また、民間事業者でのセキュリティー対策を実施するなどの方法がございます。また、その他といたしましても、防犯管理も有効であるとのことでございますので、引き続きこういうことの防犯対策についての周知も努め

てまいりたいと考えているところでございます。

それとまた、情報を得ることも大切であるというふうに考えておりまして、現在、奈良県警で運用されております奈良県警安全・安心アプリ「ナポリス」というアプリがございまして、これには不審者情報や不審者電話情報等などが随時メールで届くようなアプリもございますので、こういうアプリも活用していただきまして、情報を得ていただきまして、防犯対策に役立つと思っておるところでございます。これも併せて周知をしていきたいと考えているところでございます。

○議長（牧浦秀俊）　氏原議員。

○２番（氏原賢一）　ありがとうございます。私もそのアプリはもう入れさせていただいております。引き続きの周知及び啓発をよろしくお願い申し上げます。

３つ目としましては、先ほども防犯対策の１つとして、防犯機器の補助について、防犯対策で一番効果があるのが防犯カメラです。上牧町は、平成27年から、プライバシーに配慮しながら交差点などに防犯カメラを設置し、現在41台、来年度は４台を追加する予定と伺っておりますが、設置場所はいずれも住宅を避けた場所になっております。狙われるのは住宅なのですから、一番効果がある防犯カメラの補助ができないものでしょうか。お答えをお願いいたします。

○議長（牧浦秀俊）　総務部長。

○総務部長（中川恵友）　防犯カメラの有効性は、先般の一般質問の中で少しお答えをさせていただきましたが、現状、かなり有効であると。捜査解決に当たっても、防犯カメラを追跡するということで早期に犯罪が解決しているという報道等もされておることで、これについての重要性は十分認識をさせていただいております。

ただ、本町におきましては、通常、現在、先ほどご紹介いただきましたように、令和７年度で45台を目標にということで計画をさせていただいておりますが、これは通学路、交通量の多い交差点をメインに防犯カメラを設置させていただいたところでございます。これにつきましては、上牧町の屋外防犯カメラ設置及び管理運用に関する要綱等を制定させていただきまして、個人情報等にも配慮しながら、現在運用しておるところでございますが、ただ、この分につきましては、先ほどからもいろいろお話しいただいておりますように、なかなか個人の中にとなりますと、個人のプライバシー等のこともございますので、十分その辺をしっかりと精査していく必要があるのかなと思っておるところでございます。現在におきましては補助というのは考えておりませんが、ただ、今後におきましては有効性があるというこ

となので、町としてもそういったことについてどういうふうにしていくかということは考えていかなければないと考えているところでございます。

○議長（牧浦秀俊）　氏原議員。

○２番（氏原賢一）　できれば、安心安全のまちづくりのためにも調査研究を進めていっていただきたいと考えております。

ここからは要望なんですけども、首都東京では、足立区や狛江市をはじめ、荒川区など計10区市で個人住宅向けに設置支援を展開しております。こうした動きに呼応して、東京都では、この４月から防犯カメラの設置や、工事費の半額を１世帯２万円まで区市町村を通じて補助する方針ですので、安心安全なまちづくりのためにも先進地事例の調査研究を進めていただけるよう要望して、防犯対策についての質問は以上でございます。ありがとうございます。

○議長（牧浦秀俊）　氏原議員。

○２番（氏原賢一）　次に、２点目の外国人交流ボランティアの今後についてお伺いいたします。

上牧町に住む外国の人たちとの交流を目的としたボランティア団体Ｔｏｇｅｔｈｅｒは、２年前の統一地方選挙で当選した新人、安中　和議員、そして竹中亮造議員、そして私の３人が主になって設立いたしましたが、その後は、日本国籍の会長、副会長、会計の活躍で今日があり、３人の新人議員と、そしてまた遠山健太郎議員については会員として携わっていただいております。

先月の８日土曜日には、奈良県社会福祉協議会主催の奈良ボランティア研究集会で発表をし、３つの分科会で一番多い参加者で、先日、アンケートの結果が届き、上牧町さんの取組がすばらしいとのうれしい評価を頂きました。これもひとえに、上牧町協働のまちづくり公募型補助金制度のおかげだと感謝しております。

まず、お聞きしたいのは、上牧町在住外国人の令和５年１月から令和７年１月までの人口の推移をお伺いいたします。お願いいたします。

○議長（牧浦秀俊）　総務部長。

○総務部長（中川恵友）　ご回答させていただきます。令和５年１月末現在で227人、令和６年１月末現在で252人、令和７年１月末現在で296人でございます。

○議長（牧浦秀俊）　氏原議員。

○２番（氏原賢一）　ありがとうございます。徐々に徐々に外国の方の支援を頂きながら、日

本は経済の発展を目指していることだと思います。今は、議員の立場でお聞きすればこのようにお答えを頂けますが、我々議員がこの先も携わっていくわけにもいかず、この先、Ｔｏｇｅｔｈｅｒを継続していくためにも上牧町との関わりが大事になるので、上牧町ボランティア連絡協議会に加盟しているＴｏｇｅｔｈｅｒに外国人の情報を含めて、上牧町が支援できる範囲をお伺いいたします。お願いいたします。

○議長（牧浦秀俊）　総務部長。

○総務部長（中川恵友）　すいませんが、数字の訂正をお願いしたいと思います。令和５年１月末現在の数字を先ほど227人と申しましたが、222人でございますので、訂正をよろしくお願いさせていただきます。

それでは、Ｔｏｇｅｔｈｅｒへの支援という部分でございますが、先ほど少し議員からもお述べいただきましたように、現在、協働のまちづくり公募型補助金を活用していただきまして事業を実施していただいているところでございます。この外国人交流ボランティアＴｏｇｅｔｈｅｒにおきましては、上牧町の住民の方々と上牧町在住の外国人のコミュニティーの構築を図りながら、相互の理解を深め、地域活性化を図ることを目的に設立された団体でございまして、お互いに文化に触れる機会といたしまして、食や遊びなどを通じて外国人の方々と交流イベントを開催していただいておるところでございまして、この分につきましては、なかなか本町におきましては、外国人の支援という施策的なものができない現状でもございますので、Ｔｏｇｅｔｈｅｒさんに代わりこういう事業をしていただいているということもございまして、公募型補助金等を交付させていただいているというところでございます。

今後におきましても、いろいろこの公募型補助金等の要綱におきましても、過去からいろいろご意見等を賜りながら、少し要綱等も見直しをさせていただきながら事業展開をさせていただいているところでございますので、ここにつきましても令和７年度からの事業についても要綱を見直しさせていただきまして、少しでも活用していただけるようにというふうに考えてもございますので、もしＴｏｇｅｔｈｅｒのほうにおきましても今後の支援という中で、この補助金以外にも、もしこういうことで困っているんやというようなことがございましたらお聞かせいただきまして、協議をさせていただきまして、こういう補助金がいいのか、もしくはほかの補助金があるのとか、こういうところにご相談をされてはどうですかというようなこともいろいろ協議して、支援できることはあろうかなと思いますので、十分その辺につきまして情報共有をさせていただけたらと思っているところでございます。

○議長（牧浦秀俊）　氏原議員。

○２番（氏原賢一）　上牧町からボランティア団体に対してよい評価を頂いたと感じております。引き続き、Ｔｏｇｅｔｈｅｒは継続していく決意でございますので、何かございましたら、また情報の提供などをよろしくお願いいたします。

以上をもちまして、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（牧浦秀俊）　以上で、２番、氏原議員の一般質問を終わります。

ここで暫時休憩とし、再開は10時半といたします。

休憩　午前１０時１８分

再開　午前１０時３０分

○議長（牧浦秀俊）　再開いたします。

◇

◇東　　初　子

○議長（牧浦秀俊）　次に、５番、東議員の発言を許します。

東議員。

（５番　東　初子　登壇）

○５番（東　初子）　皆様、おはようございます。５番、公明党、東　初子でございます。議長の許可を得ましたので、一般質問を行わせていただきます。

その前に一言お話しさせていただきます。この３月11日、東日本大震災から14年を迎えました。災害関連死も含めた２万2,000人を超える死者、行方不明者へ思いを致すとき、今なお深い悲しみを覚えます。犠牲となられた方々とご遺族に哀悼の誠をささげます。そして、このたびの大規模な森林火災により、さらなる被害に遭われた皆様へ心よりお見舞い申し上げます。被災した人たちが希望を取り戻し、再び前を向いて歩める人間の復興を成し遂げられる日まで、私たちも祈り、寄り添い続けてまいります。

それでは、通告書に基づき一般質問を行わせていただきます。

質問事項の１番目でございます。豪雨時の通学路安全対策について。

質問の要旨としまして、上牧第二小学校東詰交差点から上牧大橋南詰交差点に向かう道路

沿いの上牧第二小学校南側に流れる雨水路ですが、ゲリラ豪雨のような雨が降ったときにあふれて土のうを押し流し、近隣の会社にも流れ込んで車が浸水したという事象が2023年９月に発生いたしました。この雨水路は、その何年か前にもあふれています。通学路の歩道沿いでもあり、登下校時に突然の豪雨であふれた場合、重量のある土のうを押し流す水量が児童、生徒を襲う事態を考えると、空恐ろしいことになりかねません。何とか一日も早い対策を行ってほしいとの住民の方からのご要望です。この件の対策等の進捗状況を伺います。

質問事項の２つ目です。不在者投票の手続簡素化について。

住民票を上牧町に残したまま進学や単身赴任などで町外に転居した人や、転出先で選挙人名簿に登録されていない人が不在者投票をする際、地元の選挙管理委員会に投票用紙を郵送で請求する必要があり、封筒や切手の準備など、手間と時間がかかっています。マイナンバーカードを活用してオンラインで申請するなど、簡素化できるのではとのお声があります。本町における不在者投票手続の現状況と今後について伺います。

３つ目の質問です。帯状疱疹ワクチン接種費用助成について。

厚生労働省の専門部会は、帯状疱疹を予防するワクチンについて、本年４月から定期接種化する方針を了承しました。経済的負担の重さから接種をためらう人がおられる実情ですが、ワクチンの有用性を踏まえ、希望する高齢者の方々が一人でも多く接種できるよう、後押しする意義は大きいと考えます。接種費用を公費で助成する定期接種化を受け、本町としての見解と取組について伺います。

再質問につきましては、質問者席にて行わせていただきます。よろしくお願いいたします。

○議長（牧浦秀俊）　東議員。

○５番（東　初子）　それでは、１番目の豪雨時の通学路安全対策について伺わせていただきます。次の議員が同じ質問を行いますので、私はこの件の対策等の進捗状況のみを伺うことといたします。よろしくお願いいたします。

○議長（牧浦秀俊）　都市環境部長。

○都市環境部長（吉川昭仁）　それでは、対策と進捗状況についてお話しさせていただきます。

上牧第二小学校南側水路におきましては、過年度から冠水被害が発生しておりまして、特に近年は被害が頻繁になってきていることから、現在、冠水対策における詳細設計業務を発注しておるところでございまして、請負業者及び関係機関との協議を重ねているところでございます。本格的な対策工事の着手につきましては、ライフラインの移設等、必要な時間がかなりかかりますので、緊急的な対策についても検討を行っておるというところで、一時的

に設置している土のうを撤去し、仮設の木製パネルでかさ上げを今年度中に実施するということでございましたが、３月８日の土曜日に１回目の工事を実施させていただいております。残りの部分につきましては３月22日に行うというふうに業者から聞いておりますので、お伝えさせていただきます。あと、令和７年度におきましては、この本体工事において詳細設計業務をしっかりと進めさせていただきまして、一日でも早い改修工事の完了を目指していきたいというふうに考えているところでございます。

○議長（牧浦秀俊）　東議員。

○５番（東　初子）　分かりました。詳細設計業務が７年度ということで、現時点で土のうを撤去して、それから一時的に仮設の、ちょっと見させていただきましたら、腰高ぐらいの板を張っていただいているように見受けられましたが、そういう形で町としてのまず一応のことを今、頑張っていっておられるということで、少し安心いたしました。

上牧町では、通学路の安全の確保に向けた対策は継続的に推進できていると考えておりますので、これからも子どもたちの安全確保について全力でお願いいたしまして、この質問を終わらせていただきます。ありがとうございます。

○議長（牧浦秀俊）　東議員。

○５番（東　初子）　不在者投票の手続の簡素化についてということでございます。

まず最初に１つ、郵便等の投票の対象外の方であっても、現実的には投票所に行くことが困難な方も多く、高齢化により今後も増加していくものと考えられます。現行の要介護５から対象者の範囲拡大についてということで、住民の方からも相談もございます。そういう方向は町としてはなかなか難しいというふうに思うんですが、お聞かせ願えますでしょうか。

○議長（牧浦秀俊）　総務部長。

○総務部長（中川恵友）　議員ご質問の郵便投票ができる方の対象者ということでございまして、現状、これにつきましては公職選挙法で郵便投票ができる方の基準が定められておりまして、先ほど議員もおっしゃっていただきましたように、町の選管で独自でそれを緩和するということは、現状、法律に基づいての事務作業になりますので、この分についてはできませんが、今後、今、要望という形で議員から頂きましたので、選挙管理委員会とも協議をさせていただきたいと思っているところでございます。

○議長（牧浦秀俊）　東議員。

○５番（東　初子）　分かりました。また県や国へと町のほうからもそういうご要望があるということをお伝え願いたいと思います。

また、高齢者とか障害のある方など、投票所までの移動が困難な方への支援に取り組み、より多くの方が投票できるよう、投票機会の確保に努めていただきたいと考えますが、いかがでしょうか。

○議長（牧浦秀俊）　総務部長。

○総務部長（中川恵友）　投票率につきましては、いろいろと各議員からも上牧町における投票率の低いことからご質問等も頂きまして、投票率向上に向けて取り組むということで、現在、取組をさせていただいているところでございます。

投票率を上げるための支援となりますと、現状で言いますと、ささゆりルームを活用させていただきまして、期日前投票できるような形でということで投票所を新しく拡大させていただいたりということで取組をさせていただいているところでございます。ただ、移動が困難な方への取組ということになりますと、多分いろいろ以前からお話しいただいておりますように、バスを、デマンド交通をということでおっしゃっていただいているのかなと思うところでございますが、この分につきましては、今後、循環バスの在り方についても町としても検討していく必要があるのかなと思っておるところでございますので、今後、その中で、今頂いたことも踏まえまして、今後の在り方を検討させていただきたいと思っております。

○議長（牧浦秀俊）　東議員。

○５番（東　初子）　ありがとうございます。検討、また、お取組のほどよろしくお願いいたします。

それでは、自分の１票を無駄にせず投票するために、今私たちが手にしている参政権は、日本では自由民権運動などを通じて、戦後になってようやく国民の権利として憲法にも保障されたものです。約150年前から続く民衆の声を政治に届けたい、政治に参加したいという人々の強い思いと多くの犠牲の上にようやく手に入れたものです。そのことを踏まえた上で、誰ひとりとして取り残さないという観点、また、これ以上の投票率の低下を防ぐという観点から、様々な苦難の末にやっと獲得した参政権に基づく私たち一人一人の１票をもっと大切に考え、より多くの方の投票機会が確保できるよう取り組んでいくべきではないかと考えます。そこで、まず、不在者投票手続の現状況をお伺いします。

○議長（牧浦秀俊）　総務部長。

○総務部長（中川恵友）　不在者投票の現状の状況ということでございます。

進学や就職、転勤などで引っ越す場合には、原則、住民票を動かすことが必要となります。ただ、上牧町から転出して間もない方や、選挙期間中に上牧町の投票所に来ることが難しい

方につきましては不在者投票制度というのがございまして、滞在地での選挙管理委員会が指定する不在者投票所での投票が可能でございます。現在、上牧町選挙管理委員会におきましても、不在者投票用紙等交付請求書兼宣誓書申請をしていただきまして、それを郵送していただきまして、滞在地の投票用紙を送らせていただきまして、それを選挙管理委員会に持っていっていただきまして､投票させていただくという事務になっておるところでございます。

○議長（牧浦秀俊）　東議員。

○５番（東　初子）　今おっしゃっていただいたとおり、手間もかかります。送って、送り返してということでございまして、そこで、不在者投票用紙を請求する手続につきまして、マイナンバーカードを活用してオンラインで申請できるよう、同投票用紙の請求は、国が運営するマイナポータルぴったりサービスからオンラインで申請を行っている先進地があるようですが、本町の今後の申請方法について伺わせていただきます。

○議長（牧浦秀俊）　総務部長。

○総務部長（中川恵友）　議員のお話がございましたように、マイナポータルのぴったりサービスをご利用していただくことでオンライン申請ができるということでございますので、これにつきましては実施していきたいと考えているところでございます。

○議長（牧浦秀俊）　東議員。

○５番（東　初子）　ありがとうございます。不在者投票手続のオンライン化を行っていただけるということで、事務手続等の手間も時間も削減することができ、また、少しでも投票率のアップにつながることと確信いたします。そのためには周知の徹底が必要と考えますが、この申請方法の開始時期と周知の方法を伺わせていただきます。

○議長（牧浦秀俊）　総務部長。

○総務部長（中川恵友）　まず開始時期ということでございますが、次の選挙からというふうに考えておりまして、通常、今年の夏ですか、参議院議員選挙がございますので、その選挙からは実施していきたいということを思っておりまして、選挙等を実施するに当たりましても、広報等、また期日前投票も実施するという旨の周知もさせていただいておりますので、その中で併せて、今回からはこういうオンライン申請ができるということで周知をしていきたいと思っているところでございます。

○議長（牧浦秀俊）　東議員。

○５番（東　初子）　分かりました。次の参議院選挙からということで、ぜひともお願いいたします。

以上でこの質問を終わらせていただきます。

○議長（牧浦秀俊）　東議員。

○５番（東　初子）　それでは、帯状疱疹ワクチン接種費用助成についてでございます。

まず初めに、定期接種化の方針の内容を伺わせていただきます。

○議長（牧浦秀俊）　健康福祉部理事。

○健康福祉部理事（林　栄子）　定期接種化の方針でございますが、厚生労働省で審議会、検討会を重ねられながら、この７年度より定期接種化というふうに私どもに指示が参りました。指示が参ったのが、年明けもう随分してからでございますので、準備ができた自治体から実施するようにという通知をもらっております。

○議長（牧浦秀俊）　東議員。

○５番（東　初子）　分かりました。７年度よりということで、指示は年明けだったんですね。

対象者が効果などを十分に理解した上で接種できるよう、周知の徹底、また周知の方法を伺わせていただきます。

○議長（牧浦秀俊）　健康福祉部理事。

○健康福祉部理事（林　栄子）　今のところ、私どもが考えておりますやり方でございますが、この接種につきましてはＢ類接種になりますので、努力義務はございません。ですが、一応、皆様に公平に対象者に知っていただきたいということで、個別通知をしたいと考えております。それと、いつもと同じですが、広報やホームページなどでお知らせをさせていただきたいと思っております。

○議長（牧浦秀俊）　東議員。

○５番（東　初子）　分かりました。Ｂ類ということで、努力義務がないけれども、個別通知を行っていただけるということでございますね。

それでは、そういう形で定期接種が円滑に進められるよう、そのような形で準備を行っていただいているというふうなことだと思いますが、もし状況がありましたらお聞き願えますか。

○議長（牧浦秀俊）　健康福祉部理事。

○健康福祉部理事（林　栄子）　予防接種は王寺周辺広域包括の医師会との契約で行われますので、そういったような準備を進めさせていただいておりますと同時に、私どもの町としては、どのくらいの全部で費用がかかるのかというふうな形で試算をし始めているところでございます。

○議長（牧浦秀俊）　東議員。

○５番（東　初子）　分かりました。医師会との契約や町としての試算、そのような準備を行っていただいているということを理解できました。

また、ここからはワクチンの有用性を踏まえ、希望する高齢者の方々が一人でも多く接種できるよう後押しをする意義は大きいというふうに考えますが、住民の皆様から、帯状疱疹ワクチン接種費用が高額なのでぜひ費用助成をしてほしいという切実な要望が多々ありまして、私も、その前から、前の議員、公明の富木議員も行いました。そこから私は令和５年３月、また令和６年３月定例会の一般質問で帯状疱疹ワクチンの公費助成を求める質疑をさせていただきました。そして、令和６年７月３日に帯状疱疹ワクチン予防接種費用の全額助成の実施を求める要望書も上牧公明党としまして氏原議員とともに今中町長に提出させていただきました。そのような経緯から、全額助成も要望もしておるところから、その辺についての全額助成についてのお考えをお伺いさせていただきます。

○議長（牧浦秀俊）　健康福祉部理事。

○健康福祉部理事（林　栄子）　近隣市町村、あと王寺周辺広域の７町との近隣の状況もございますので、全額費用というのは少々難しいかなと今思っているところでございます。

○議長（牧浦秀俊）　東議員。

○５番（東　初子）　分かりました。近隣７町との状況もありというところでございますね。

まずは定期接種の初めの段階として、全額は無理としましても半額助成などのご検討を行っていただければというふうには思っているところでございます。その辺はご検討をよろしくお願いいたします。

希望する高齢者の方々が一人でも多く接種できるよう、今後の展開に期待を込めまして、私、東　初子の一般質問を終わらせていただきます。丁寧なご答弁に感謝を申し上げます。

以上でございます。

○議長（牧浦秀俊）　以上で、５番、東議員の一般質問を終わります。

ここで暫時休憩とし、再開は11時10分といたします。

休憩　午前１０時５２分

再開　午前１１時１０分

○議長（牧浦秀俊）　再開いたします。

◇

◇竹之内　　剛

○議長（牧浦秀俊）　次に、８番、竹之内議員の発言を許します。

竹之内議員。

（８番　竹之内剛　登壇）

○８番（竹之内剛）　皆様、改めまして、おはようございます。議席番号８番、竹之内剛です。私の質問は、議長のお許しを得ましたので、一般通告書に従い一般質問させていただきます。

一般通告書を読む前に、訂正を１つお願いいたします。質問の要旨の欄でございます。上より３行目、上牧町下牧１丁目１－８の地所と明記されておりますが、下牧２丁目１－18に訂正をお願いいたします。

それでは、通告させていただきます。

質問事項、水害対策について。

質問の要旨、近年の異常気象のために全国的にゲリラ豪雨による風水害が発生しています。本町においても、降水量が増加した際、上牧町下牧２丁目１－18の地所で滝川に放水するための水路の水が道路に氾濫する水害が発生しています。この地所は、路線バスの走行ルートになっており、交通量が多い県道です。また、上牧第二小学校・中学校の通学路に加えて、住宅も建つ地所でもあります。そのため、水害による２次災害発生の可能性が懸念されるので、早急な対応が必要と考え、以下の質問をいたします。

１、町で把握している上牧町下牧２丁目１－18の水害に関するこれまでの状況について。

２、本地所に対する今後の対策について。

再質問につきましては、質問者席で行わせていただきます。

○議長（牧浦秀俊）　竹之内議員。

○８番（竹之内剛）　それでは、１番の町で把握されている水害に関するこれまでの状況についてですが、パネルを使用しまして、自分自身で撮影したパネル、そして、現住所、地所の在住の住民の方の協力によるパネルで質問させていただきますので、よろしくお願いいたします。

まず１枚目でございます。こちらは本地所にあります高速道路下側交差点ですけれども、

上牧第二小学校東の交差点から下牧２丁目の交差点に向かう約100メートルの距離であります。お願いします。

これが逆側から見ました、滝川のほうから見ました増水、氾濫する水路、そして道路になります。こちら右側に住居があります。お願いします。

こちらは上牧第二小学校下、バスも通る路線になっており、これは住民の方の住居から撮りました写真です。お願いします。

こちらは道路逆側から撮りました。こちらに住まれている住居は10軒あります。そして、今回、こちらの方の要望という形で質問させていただきます。お願いします。

今、３枚のパネルをまずご覧いただきましたけれども、あの箇所につきましての氾濫が起こるということで、まずはこれまでの状況についてお伺いいたします。

○議長（牧浦秀俊）　都市環境部長。

○都市環境部長（吉川昭仁）　当該箇所における冠水被害につきましては、数年前までは何年かに１度の割合で発生していたという状況でございます。過去には水路があふれるということで、円滑な排水処理ができるよう、付近の管路清掃等を実施させていただきながら対策を行ってまいりました。しかしながら、近年、令和４年度以降は年に数回の割合でゲリラ豪雨による冠水が発生している状況であります。議員のスライドにもちょっと映っておりますけども、こういった状況であるということでございますので、通行車両や近隣住宅にも被害が及び、早急な対策が必要とされておるというところでございます。

○議長（牧浦秀俊）　竹之内議員。

○８番（竹之内剛）　説明をお聞きしました。住民の方から連絡を受けまして、役場にお伺いして、課長にちょっと説明をしていただきたいということで、水路の氾濫で道路を覆ってしまうということでお聞きしました。令和５年より基礎調査、方法を検討しているということで、今答弁いただきました。

要因について、少しパネルをめくりながらお聞きしたいと思います。先ほどの状況の洪水になった場合にどのような状況になるかをまず少し、これは住民の方が提供していただきました資料ですので、よろしくお願いします。

では、めくって、これが先ほど映っていました住民の住宅の方から見ました、一番向こうの端が水路になって、あふれた状態になっています。次、お願いします。

このように、トラックがほとんど何十センチかタイヤの上まで来るぐらいに水がたまります。よろしくお願いします。

これが住民の方の玄関先から撮りました、道に水があふれて、そして住民の住居のほうにどんどんどんどん波打ちながら水が浸水してくるという形です。次、お願いします。

これは道側から撮りましたが、どんどんどんどん侵食していって、向こうのほうにずーっと、向こうは坂になっているんですが、どんどん上がっていってしまうという状況です。次、お願いします。

こちらも住居のほうから撮っていただきました。大体これで水かさがどれぐらい上がるのかなという形が分かります。次、お願いします。

ここまでで、浸水という形で氾濫した場合にあのような形になるんですけども、対策としましては、まず、いろいろお聞きしました。この状況、あれ、水が引いているなという状況になるんですけれども、実はこれは時系列のパネルなんですけれども、洪水、あふれるなという、住民の方が撮り始められて、水があふれました。そして、あふれたけれども、こういう状況になっているので救急対策を連絡しました。救急の方が到着されたときには水が引いている状態だということで、このパネルを提供してもらいました。次、お願いします。

非常に多くの緊急車両、消防車等も来ていただきましたが、こういう状況で水が引いてしまう。だから、何時間もあふれているわけではなく、数十分、１時間かからないぐらいあふれて、このような状態になるということです。

要因をさきの議員のときにも説明していただきましたが、次、お願いします。

もう１枚お願いします。一番大変な状況になっているのが、これがマックスの状態のときで、これは下牧２丁目の交差点から来た車が立ち往生して、助けを求めるために車両の屋根の上で待機している状態でございます。次、お願いします。

これは、高速道路のほうから走ってきまして、もうここは通るしかないという形で、一挙に通っていく、非常に危ない状況の中を通っていく車です。次、お願いします。

このような状態で行ってしまう車もあったということです。次、お願いします。

ここから、これは平常時です。これは溝の中から撮りましたが、ここに雨水が流れてきて、これだけの水が容量を許容するのに対してあふれてしまうという形が考えられる。なぜこのようになるのか住民さんも最初分かっておらなかったんですが、現地に行って写真を撮ってきました。次、お願いします。

これも平常時の水路になります。お願いします。

こちらが要因となります最大の、これがカルバートボックスという専門用語で、あそこに水が流れていって排水をするということですが、次、お願いします。

流れてくる水に対して排水の容量が少ないということが分かります。この容量では雨水に対して対応できないという形で上がります。次、お願いします。

これは中の状態です。次、お願いします。

これが滝川に流れる出口です。最初、住民の方は、滝川が逆流であふれてなっているのかと思われたんですけども、そうではなくて、次、お願いします。

滝川からは、このような高さ、約数メートルあるんですけども、向こうから流れてきた水が下に流れない、排水し切れないという形でこのようになっているということで、行政のほうにどのような対策があるかということでお聞きしましたので、その辺の説明をよろしくお願いします。

○議長（牧浦秀俊）　都市環境部長。

○都市環境部長（吉川昭仁）　今現在、冠水被害の一時的な対策としまして、もともと土のうを積んで対策をさせていただいていたんですけども、今、３月８日に緊急的に木製パネルを設置させていただいて、かさ上げをして、水路の容量を確保したという対策は取らせていただいているところです。これはあくまでも緊急的な手段でございます。今、抜本的な対策というところで、令和５年度に、先ほど議員もお教えくださいましたが、基礎調査を行いました。既存の水路及び県道下のボックスカルバートの流下能力の調査、そして流域面積の調査も実施させていただきました。この結果、既存のボックスカルバートの断面を、現在のこの大きさの倍程度のボックスカルバートの断面を確保しなければ流下しないというところの答えも出ておるというところでございますので、この辺の対策に向けて、今、鋭意取り組んでおると、いろいろ検討しておるというところでございます。

○議長（牧浦秀俊）　竹之内議員。

○８番（竹之内剛）　今のを聞いて、写真に示しますボックスカルバートを下のほうに、もうちょっと大きめのボックスを設置して排水能力を上げるということで理解しました。

この件につきまして、道路は県であるとお聞きしました。水路は上牧町であるということで、上牧町は対策としては、水路の検討を今するしかない。早急に緊急の対策を考えているということで、今お聞きしました。私、道路が県だということで、県の高田土木事務所にお伺いして、県の検討を伺ってきました。その内容によりますと、ボックスカルバートの改修については、幅、長さ、角度について話合いをされた中で検討されているということでした。水路は上牧町、道路は県、そして、県としては水路と道路の両面を工事するかを検討中であると。道路の場合も検討しますと。道路工事についてはいろんなことが考えられますが、そ

れは後でにします。道路工事については警察が介入しないといけないので、話合いも必要であり、やはり交通モニタリング、経過観察を通じて町と協働してやっていきたいということで、この話合いは何回かなされたんですね。

○議長（牧浦秀俊）　都市環境部長。

○都市環境部長（吉川昭仁）　何回か設計業者等を交えて打合せさせていただいているところでございます。

○議長（牧浦秀俊）　竹之内議員。

○８番（竹之内剛）　今、部長とも話をさせていただいた中で、今は町の見解で、道を両双方で水路を造るということで、今、一通の道路がありまして、その下にカルバートがあって、上の欄干のところがちょうど一通のところで、その道路をなくす方法も考えられるけども、直進していく車がそっちに行くのが、逆にこっちから左折すると、非常に道路の問題が起こってくるということで、そのほうは調整というか話合いはされましたか。

○議長（牧浦秀俊）　都市環境部長。

○都市環境部長（吉川昭仁）　いろんな手法というんですか、方法というんですかというところも踏まえて、県とも相談させていただいている中で、今、議員申されましたように、一方通行のところを開削して、溝を確保するというような手法も１つの案として、いろいろ県の検討も協議させていただいておる中で、ただ、今言われましたように、交通の部分で、下牧大橋ですか、そこの交差点のところでの大型車両の通行等の問題とか、そういう交通量の量の問題で、いろいろ県とも一応協議させてもらっている中で、いろいろ慎重にならざるを得ないところもあるというところでございます。

そして、もう１点大きな問題がございまして、今、この道路の部分でございますが、その下に複数のライフラインが入っておりまして、ですので、県水とか上水、下水、そして関電、大阪ガスといったライフラインが入っておりますので、こいつを移設せなあかんという問題も起こってきます。こうなると、単年で工事が可能なのかどうなのかというところの話で、複数年かかるであろうという見通しも立っておるところでございますので、しっかりとその辺のところもいろいろ協議を進めながら、しっかり検討させていただいて取り組んでいきたいなというふうに考えておるところでございます。

○議長（牧浦秀俊）　竹之内議員。

○８番（竹之内剛）　住民さんのご心配もあるし、２次災害も考えられますので、その辺、しっかりと県ともっと調整しながらやってほしいと思います。

今、現状況において、これからの計画をお聞きしました。次、めくっていただいてよろしいですか。

これ、ちょっと前後します。私が通告書を出しましたときは、まだ先ほど説明いただいたパネルの設置をされていませんでした。ここは通学路ということで、このような土のうがあると、本来歩道の幅がこの辺り、140センチあるんですが、土のうを置くことによって100センチぐらいになってしまうという、広がって歩いてしまいます。次、お願いします。

同歩道はやはり利用しますので、歩行者が来ますとなかなか、この子たちは上手に１列になってスルーしていましたけれども、次、お願いします。

そのような状況になりますのでということで、ここにちょっと飛ぶんですけれども、先ほど答弁いただきました、このように３月８日の午前中に住民さんから連絡いただきまして、何かもう工事が始まっているということで、その夜お伺いしましたら、このようになっていました。次、お願いします。

今、高さ90センチのパネル板、川は140センチありました。パネル板を置いていただいて、この90センチで今のところは豪雨もないので、多分研究していただいて、このような状況になったと思います。次、お願いします。

これは反対側から撮りました。左にまだ土のうが残っていて、ここをどのようにされるかと質問をしようと思っていましたが、先ほど３月８日にここまで工事をして、３月22日から続きをやる予定ですということで、その辺は板がこちらまで来るという理解でよろしいですか。

○議長（牧浦秀俊）　都市環境部長。

○都市環境部長（吉川昭仁）　そのとおりでございます。

○議長（牧浦秀俊）　竹之内議員。

○８番（竹之内剛）　その点は引き続きよろしくお願いいたします。水があふれてしまうと、どうしても住民さんの不安を少し聞いたんですが、板やけど大丈夫やろうかという質問があったので、私、行って調べました。非常にがっちりとボルトナットで締めて、隙間のないようにされているので、その辺の強度については少しお聞きしてよろしいですか。

○議長（牧浦秀俊）　都市環境部長。

○都市環境部長（吉川昭仁）　それは堅固なものではないかと思いますが、緊急的な対策というところでご理解いただければと思います。それと、これで終わりという話ではないので、あくまでも緊急対策というところで理解していただきたいと思います。

○議長（牧浦秀俊）　竹之内議員。

○８番（竹之内剛）　これは今までの計画にあったことを実行していただいたと理解します。これから７年度に向けて、非常に大がかりな工事になるのか、それとも先ほど説明いただいたボックスカルバートを大きくすることでしのげるのか、その辺はまた研究していただいて進めていただきたいと思います。

ここから１つ提案です。ゲリラ豪雨は７月から９月にかけて異常気象で発生します。先ほどの状況になると思うんですけれども、住民の方は、この雨やったらまた来るかなと思われると思うんですが、ただ、通行される方は、その辺の喚起がされておられないので、先ほどの船のように走っていく軽トラックの方、車の上で避難される方ということが出てきます。私の提案ですけれども、冠水区間、約100メートルにわたってあると思うんです。両サイドから見えるように、冠水に関しての注意を促す注意喚起のような看板等の設置をしてはどうかと思いますが、その点についてはいかがですか。

○議長（牧浦秀俊）　都市環境部長。

○都市環境部長（吉川昭仁）　今、議員から提案いただいている部分でございますが、当然、できる範囲で、今言うそういう注意喚起の看板とかを設置できればというふうには考えているところでございます。

○議長（牧浦秀俊）　竹之内議員。

○８番（竹之内剛）　その辺、ご検討よろしくお願いします。看板があるのとないのと、日頃から見ていると、ここは冠水するなという認識をしていると少し違うと思います。

それと、県でも話をお聞きしたんですけども、ここを冠水時に通行止めという対応についてはどうですかとお聞きしましたら、通行止めについては、やはり警察機関との連携、対策を検討しなければならないので、その辺はこれから町のほうとまたしっかりと話し合っていきたいということでした。看板については検討いただくということで、よろしくお願いします。

２番の今後の対策についても、本地所における対策はお聞きしました。今、３月８日に始まりました緊急の対策工事、これはここで終わりじゃないと。これからもう一度対策を考えて、シーズンまでには何らかの措置を考えていくという理解でよろしいでしょうか。

○議長（牧浦秀俊）　都市環境部長。

○都市環境部長（吉川昭仁）　すぐさま今年度中にというところでもございませんけども、できるだけ一日でも早く、抜本的な、基本的な改修工事を終われるように取り組んでいきたい

なと考えておるところでございます。

○議長（牧浦秀俊）　竹之内議員。

○８番（竹之内剛）　最後になりますが、めくっていただいてよろしいですか。次、お願いします。

これが先ほど言っておりました一通の道路になります。この道路を通れなくなるということは非常に交通のことも考えられるということで、警察機関との連携が必要だということでした。それで、道路を通行止めにして工事するということはかなり時間がかかると。先ほど部長おっしゃっていただいた、水路の下にはいろんな線が入っていると、それもおっしゃっていました。今後、県においては中期、長期になってくる計画ですということをおっしゃっていたので、部長にも答弁いただいたように、今年度中とか１年以内には、その辺はできないということで、しっかり計画を立てて研究をしてやっていただきたいと思います。ゲリラ豪雨には耐え得る、住民の方が安心できる対策を講じていただきたいと思います。

以上で私の一般質問を終わらせていただきます。ご答弁ありがとうございました。

○議長（牧浦秀俊）　以上で、８番、竹之内議員の一般質問を終わります。

ここで暫時休憩とし、再開は１時といたします。

休憩　午前１１時３５分

再開　午後　１時００分

○議長（牧浦秀俊）　それでは再開いたします。

◇遠　山　健太郎

○議長（牧浦秀俊）　次に、７番、遠山議員の発言を許します。

遠山議員。

（７番　遠山健太郎　登壇）

○７番（遠山健太郎）　上牧町議会、議席番号７番、ラッキーセブン、遠山健太郎でございます。議長より発言の許可を頂きましたので、通告書の記載に従い、私自身37回目となります

一般質問をさせていただきます。37回目ですが、私自身、初めての２日目の登壇となります。今までは大体初日の１番バッター、２番バッターだったので、野球で言うところによると、試合の流れが分からない中で、手探りな状態で、多少緊張しながら、どういう流れをつくったらいいのかなということで挑んできたわけですけども、今、緊張してないわけではないんですが、おとといから引き続いて、トップバッターの竹中亮造議員から先ほどの竹之内剛議員まで、８人の方の流れをしっかり酌みながら、１時間しっかり時間をかけまして、最終バッターの木内利雄議員につなげていけたら、そんな１時間にしたいなというふうに思っています。

今日は大項３点、大きく３点ございまして、たくさん、いろいろ思うところもありまして、お話を聞きたいところもありますので、冒頭でのここでのお話はそこそこにしまして、早速質問内容に移りたいというふうに思います。

まず、大きく１点目なんですけども、結婚応援事業の今後についてというところで、去る２月６日、天理市文化センターにおいて、天理大学生の結婚に関する意識調査報告会として地域連携シンポジウムが開催をされました。周辺自治体の議会議員の方々や関係者の方と共に私は参加をしてまいりました。

天理市の結婚事業は、産官学、いわゆる企業、そして官、天理市、学、天理大学との連携がすばらしく、地元の企業、天理大学、そして天理市とが協働しながら、まち全体で結婚応援をしている印象を受けました。同じ結婚応援事業を推進している上牧町、それ以上にいち早く結婚応援事業を実施してきた上牧町の常に一番の理解者であった担当部長に、上牧町が実施する結婚応援事業のさらなる発展について伺いたいと思います。

続いて、大項の２点目、部活動の地域移行についてです。

去る２月７日、上牧町議会の有志５名で公益財団法人兵庫県スポーツ協会にて、部活動の地域移行の先進地事例の視察をさせていただきました。同行していただいた有志議員の皆様、視察先の関係者の皆様、本当にありがとうございました。

上牧町では、来年４月の新上牧中学校開校と同時に部活動の地域移行を始めるという方針ですが、その地域移行に対する考えや現在の課題について伺います。

１つ目、上牧町にある総合型地域スポーツクラブの現状について。

２つ目、地域移行には総合型地域スポーツクラブの関わりが欠かせないと思うが、問題点はあるか。

３つ目、部活動の地域移行の現在の進捗状況は。

最後に４つ目、上牧町が進める部活動地域移行の着地点は。

大項３点目、新しい上牧町について。

今中富夫町長の任期満了に伴い、上牧町では16年ぶりに新しいリーダーが誕生することになりました。今期まで４期16年にわたり、財政再建やコロナ禍等の難局の中、見事にかじ取りを果たされた今中富夫町長の功績に対し、改めて感謝の気持ちでいっぱいです。新しいリーダーの下でつくる新しい上牧町に対して、長年町長を務め上げた今中富夫町長が新しいリーダーに対して求めるものは何か。そして、新町長へのエールとその思いを述べていただきたいと思います。

再質問は質問者席で行わせていただきますので、どうかよろしくお願いいたします。

○議長（牧浦秀俊）　遠山議員。

○７番（遠山健太郎）　それでは、１つ目の結婚応援事業の今後についてというところで、担当部長であります寺口部長に答弁をお願いしたいと思います。

○議長（牧浦秀俊）　健康福祉部長。

○健康福祉部長（寺口万佐代）　結婚応援事業の今後についてということです。

天理市文化センターにおいて、２月６日に開催されました地域シンポジウムと２月７日に開催されました研修会にも、私も貴重な機会を得て参加させていただくことができました。上牧町にも私にももっとできることはあるのではないかという気持ちになり、お声かけいただいた方に感謝いたしております。

参加されていたハロパトメンター、これ、少子化という大きな課題について学び、考え、行動し、あらゆる立場の垣根を乗り越え、手をつないでいける人材のことをハロパトメンターと呼ばれております。天理のハロパトメンターさんと地元のハロパト応援団になっていただいている企業の方々、天理大学生と天理市とが１つとなり、結婚応援を行っておられる様子がとてもすばらしかったです。総勢180名の方々が参加されてのシンポジウムでした。遠方からは、2023年、令和５年度に全国初の結婚応援課を誕生させた福井県坂井市からも職員の方とサポーターさんが参加されていました。とても寒い夜でしたが、文化センターのホール内は皆さんの熱いエネルギーがあふれており、そのパワーを頂き、こちらまであったかな気持ちになりました。

上牧町での結婚・婚活事業の始まりは、2016年、平成28年当時、合計特殊出生率が1.09という奈良県下で下から２番目という数値であったことや、2015年に実施した町内在住の18歳から40歳の無作為に抽出した既婚・未婚者の男女を対象としたアンケート調査の結果、結婚

は考えているが、出会いの場、知り合う機会がない、結婚に踏み切れない等の回答が多かったこともあり、少子化対策としてマリッジサポーターの育成、出会いの場となるイベントの開催を行い、結婚希望者の登録制度や結婚相談会を実施してきました。最初の頃はどうして行政が婚活事業をしているのか、成果が出るか分からない事業への支出はどうなんでしょうね、成果はなかなか出ないよねなどと厳しい声も耳に入ってきたこともありましたが、サポーターさんたちの熱意ときめ細やかなサポートのおかげで、2019年度には３組の成功者が誕生しました。一報を聞いたときは、サポーターと手を取り喜んだことを思い出します。

これまでに13組のご成婚が調っております。全ての方がお知らせいただいているわけではございませんが、そのうち報告を頂いておる中では、３人のお子さんが誕生し、現在妊娠中である方がいらっしゃると聞いております。当事者ももちろんそうですが、親御さんもとっても喜ばれていて、サポーターに結婚式に出席してほしいと複数の方からのお声かけもあるほどで、上牧町から幸せの輪がどんどん広がっております。

しかし、課題もございます。事業内容をより多くの方に知っていただくことや、この事業によりご成婚された方が上牧町に定住していただけるよう、魅力あるまちにしていかなければならないことなどが挙げられます。また、令和４年４月にかんまき未来創造マリッジサポーターは、特定非営利活動法人かんまきマリッジサポート「赤い糸」を設立し、ＮＰＯ法人で独立した団体となっていますが、登録を行っているサポーターは現在18名ですが、特定のサポーターに負担がかからないよう、サポーターの増員も考えていく必要があるのではないかと考えております。

今後は、結婚支援、少子化対策事業の取組を始めている県内他市町村が増加していることから、他市町村と連携し、サポーター同士情報共有を、連携を取りながら、さらに活動の輪を広げたいと考えております。町単独で活動を進めるよりも、令和６年度より奈良県に配置されております県の結婚コンシェルジュのサポートを得たり､様々なネットワークを利用し、市町村の枠を超え、広域連携を進めることで、結婚を希望する方々への支援の輪が広がり、町全体、広域全体、県全体で結婚応援ができるようになればよいなと考えております。

○議長（牧浦秀俊）　遠山議員。

○７番（遠山健太郎）　もりもりな回答をありがとうございます。すいません、僕これ、さわってしまうんですけど、理事者の方一部から言われまして、僕これ、なくてはならなくてじゃないですけど、ついさわってしまう癖があって、性格上、腕を組んでしまうですよ。腕を組んじゃいけないと、何かさわらなきゃいけないと思ってさわってしまうんですけど、ご理

解を頂きたいというふうに思います。

今、寺口部長から天理での熱い、あれはすごい寒い日だったんですよね。寒い日だったんですけど、本当に湯気が出るような熱気の中で180名の方が参加をされていまして、天理大学生が意識調査のことをしながら、そして、天理の市長さんから認定の企業の人に対して表彰式をしたりというところがあって、本当に熱のこもった、その映像とか資料も皆さんにお示しできたらいいんですけど、著作権等とか天理市の肖像権とかの関係でちょっとお示しができないのが残念なんですけども、大変熱いところに参加をしていただきました。

そこに上牧町のマリサポの方もいらっしゃっていたと思いますし、今お話がありましたけども、上牧町の結婚応援は、サポーターの方の本当に熱い思いが詰まった事業になっているんじゃないかというふうに思っています。ＮＰＯになってどうしたらいいんだろうかということで、サポーターの方が大変心配をしていた中で、私が忘れもしないんですけども、サポーターの皆さんが最初のうちはＮＰＯ化することをすごい悩まれてたんですね。ＮＰＯ化することで町から離されてしまうんじゃないかと、町の事業じゃなくなってしまうんじゃないかと心配なときに、私、忘れもしません。そのときはまだ私、マリッジサポーターの一員であったんですけど、僕は当時、寺内課長の顔を初めて見たんですけど、ある意味すごい怖い顔で、真剣な顔をされまして、そんなことするわけないじゃないですか、これは町の大切な事業で、町がちゃんとやりますよということをあんなに熱く言う、当時、寺口課長を僕は初めて見たんです。その熱意もあって、ＮＰＯ化することになって、今、ＮＰＯで事業を実施しているというふうに認識をしています。

今、寺内部長から今後の課題までお話をしていただきました。まずは知ってもらうことだということと、将来的には上牧町に定住してもらうために、上牧町をより魅力的なまちにしなければいけない。たしか今、そんな答弁を頂いたというふうに思います。上牧町に定住というのは、さきの12月議会で、私は当時の阪本副町長にこの話をさせてもらったときに、この結婚応援事業は定住促進もこれから考えていきたいという話があったんですが、そもそも論、私、忘れもしないんですけど、今中町長がもっと大きな枠で考えようじゃないか、別に上牧町に住んでくれなくてもいいじゃないかと。結婚応援事業、子どもが増えることというのは、別に上牧町に固執することはないんじゃないかということを言われていた、その流れじゃないかというふうに思っています。

という中で、やはり町単体では限界がある。広域連携も必要だということで、令和６年と今言われましたかね、県のサポートとかも始まっているということもあって、先ほどありま

した天理市の場合は産官学、要は民間企業と官、要は役所、それと学、学校の連携があるんですけども、上牧町はご承知のとおり、上牧町単体でいくと、大学も高校もありませんので産と学については限界があると思うんです。という中で、広域連携、隣の広陵町であったりというのは学校もあるわけですから、というのも今後、展開をしていくべきだというふうに思っています。

そういう中で、私、実は、先ほど話しましたけども、マリッジサポーターに入っていたんですが、ＮＰＯ化することになりまして、ＮＰＯが委託を受けることになったら、その構成員になることは少し抵抗があったので、自分の政治倫理の中で脱退をさせてもらって、結婚応援をする応援者になろうというふうに決めたんですけども、今後、寺口部長におかれましてもそういうような形で、部長と職は外れることになりますけども、引き続き結婚応援を応援する側として温かく見守っていただきたいと思うんですが、その辺りいかがでしょうか。

○議長（牧浦秀俊）　健康福祉部長。

○健康福祉部長（寺口万佐代）　どの部署に配置になるかは分かりませんが、結婚を望む方がおられたり、相談等があれば、私自身の経験や、それから講座とか研修とかで得たことも少しは役に立つのかなと思いますので、相談を聞き、一歩前に出れるよう後押しをしたいと思います。

○議長（牧浦秀俊）　遠山議員。

○７番（遠山健太郎）　頼もしいお言葉ありがとうございました。

ここでちょっとだけ紹介したいことがありまして、私、この質問をするという話になりましたら、お一人の方から寺口課長にぜひメッセージをということで頂いているので、ちょっとお預かりしています。上牧町が初めて結婚応援事業をするときに委託を受けましたグランエスペランサの棚橋さんという方がいらっしゃるんですけども、その方からメッセージを預かっていますので、ちょっとだけ読まさせてもらいますね。

2016年、奈良県で初めて私どもを訪問してくださったのが上牧町の職員の方々でした。県で初めての取組、どれだけ心配なことも多かったことかと思います。その中で、2018年度から寺口課長が担当課の課長として私たち委託業者と二人三脚で、そしてゴールを見失うことなく邁進してくださいました。ご提案したことを全てやり切れるように、いいえ、それ以上のものとなるよう全力を尽くしてくださいました。

忘れもしないのは、ビーチボールバレーの婚活イベント。婚活している皆さんとのチーム戦、何と婚活者の皆さんのチームを差し置いて、寺口課長率いる上牧町チームが優勝してし

まわれました。いつもどんなときも全力で本事業を進めてくださった上牧町、今の事業が着々とじわじわと少しずつ住民の皆様の心に届くようになったこと、奈良県の皆様が少子化のためにボランティアさんの力を借りて、一人でも多くの結婚組数を出そうと１つになっていること、その基礎を誰が築いたのか。それは上牧町の今中町長と寺口部長がいてくださらなければなり得ません。

今中町長に、「地方自治体にはそれぞれ市町村の事情がある。だけどな、先生、あなたが一たび決めたことや、たくさんの応援をもらって実現せんとあかんで」と頂いた言葉は、私の事業の人生の柱となっています。いろいろな事情、いろいろなタイミング、一つ一つ、焦ることなく、本当に奈良県の一人でも結婚を望む未婚者のためにボランティアの皆さんと力を合わせていただきたい。今中町長が大切なお時間をおつなぎいただきました寺口部長には感謝しかありません。どうぞこれからも新たな寺口部長のフィールドで輝いてください。本当にありがとうございました。新しい門出、心よりお祝い申し上げます。

ちょっとはしょっていますけども、そういうお話を頂きました。本当に寺口部長におかれましては、この結婚応援、大変熱い思いで従事していただいていたと思います。少し話がそれますけども、寺口部長、今度の３月をもちまして役職定年を迎えられるということで、入庁された年、もう役職定年だから言ってもいいんですかね。昭和61年であったと思います。昭和61年、寺口部長は今、第一線の管理職で働いていますけど、入庁された４月は、男女雇用機会均等法が改正をされた年です。男女等しく要は出世をする、そして仕事をしていかなければいけないと改正された昭和61年で、覚えている方いらっしゃるかもしれないですけど、76年ぶりにハレー彗星が接近をするというふうに言われた年が昭和61年だったと思います。そして、野球に造詣の深い方は、夏に奈良県初で甲子園で優勝した天理高校、これが1986年、昭和61年だと思います。そんな中で、寺口部長はそこから長きにわたってお仕事をされたと思います。

うわさによりますと、お仕事する前、ここに入る前はいろんなことをされていたということで、高田のオークタウンではモデルをされていて、ポスターがあるんです。その映像が肖像権の関係で今日はお見せできないんですけども、そういう形ですごい一生懸命第一線でいろいろ働かれた寺口部長におかれましては、これからもますますお仕事をして頑張っていただきたい。趣味がお遍路さん、四国の88か所を回られるということで、今まで５回も回られているという話も聞きましたので、そういうことも楽しみながら、引き続き上牧町の町政発展にいろいろサポートいただきたいと思います。本当に今までありがとうございました。

では、次の質問に移りたいと思います。部活動の地域移行についてです。

去る２月７日、上牧町議会の有志５名、こちらにいます氏原議員、竹中議員、そして東議員、上村議員、そして私の５名で、公益財団法人兵庫県スポーツ協会に視察に行きました。そこで聞いた内容を踏まえて、１つ目、上牧町にある総合型スポーツクラブの現状について伺いたいと思います。

○議長（牧浦秀俊）　教育部長。

○教育部長（松井良明）　それでは、本町における総合型地域スポーツクラブの現状について回答させていただきます。

活動の内容につきましては、小学生対象の陸上教室、高校生以上対象のトランポビクス教室及びヨガ教室、全ての年代対象のバドミントン教室の４教室を展開されているところでございます。

陸上教室にあっては、毎週日曜日、２名の指導者の下、53名の児童、生徒が学校グラウンド及び同体育館を会場として活動をされております。ヨガ教室にあっては、毎週月曜日に１名の指導者の下22名が、トランポビクス教室にあっては、毎週金曜日に３名の指導者の下17名が、バトミントン教室にあっては、毎週土曜日、２名の指導者の下13名が、学校体育館、第二町民体育館及び庁舎西館集会室を会場としてそれぞれ活動をされているところでございます。

なお、それぞれの活動人数につきましては、年度当初に報告があった登録人数でございまして、現時点において実際に活動されている人数とは異なる場合がございますので、ご了承をお願い申し上げます。

○議長（牧浦秀俊）　遠山議員。

○７番（遠山健太郎）　今、上牧町にあります総合型地域スポーツクラブの現状ということで、名称が里風総合型クラブ上牧だと思うんですが、ホームページがありましたので、そこを引っ張ってきて、そこの中で話を聞いてみたところ、今４つの教室でそれぞれ指導者さんがいると。ホームページを見ると10ぐらいあるんですけども、そのうちの４つということで、指導者を配置してされているという話は聞きました。

という中で、今現状で活動内容を聞いたんですけども、この総合型スポーツクラブというそもそもの団体がどういう団体なのか、例えば法人化されているのか、代表者がどうなのか、その辺りについての現状について教えていただけますか。

○議長（牧浦秀俊）　教育部長。

○教育部長（松井良明）　今回答させていただきました当該スポーツクラブの組織の位置づけについて、まずご説明をさせていただきます。

本町に現在存在する総合型スポーツクラブの組織の位置づけにつきましては、複数の者が一定の目的を達成するために結合した団体のうち法人格を有しない団体、いわゆる任意団体であると教育委員会は認識をしているところでございます。

○議長（牧浦秀俊）　遠山議員。

○７番（遠山健太郎）　任意団体ということですね。ちょっと前置きが長くなってしまったんですけど、兵庫県に私、視察に行った理由というのが、兵庫県が大変地域移行が盛んというか先進地なんです。兵庫県のスポーツ協会に行ったら、先進地の具体的な市町村を教えてくれるんじゃないかと思って行った。その先にあるところは何かと調べると、総合型スポーツクラブがすごいしっかりしているところが地域移行が進んでいるんです。総合型地域スポーツクラブにどうやったら移行できるのかということを考えると、その組織がすごい大事になっている。結論から言いますと、ほぼほぼのうまくいっているところはそこがＮＰＯ団体になっているんですよ。特に兵庫県でいうと播磨町というところも見ていただいたら分かるんですけど、ネットをたたいたらすぐ出てきますわ。ＮＰＯ法人に移行してスムーズに移行している、そういうところもあって聞いたんですが、上牧町の場合は任意団体というところなんですが、もしよければ団体の代表とか、あと指導体制とか、その辺り、もし分かっている範囲で教えていただけますか。

○議長（牧浦秀俊）　教育部長。

○教育部長（松井良明）　代表は今、この場にいらっしゃいます竹之内剛氏であるというふうに承知をしているところでございます。

○議長（牧浦秀俊）　遠山議員。

○７番（遠山健太郎）　なるほど、分かりました。うそも隠しもなく、竹之内議員は同僚なので、私も事前にお話は聞いていたんですけど、代表は別の方だという話も少し聞いていたりするんですけど、代表は竹之内議員だということで認識はしました。任意団体というところなんです。分かりました。

という中で、これ、任意団体なんですけど、先ほど部長から話がありましたが、年度初めに報告を頂いているという話がありましたけども、この任意団体である総合型スポーツクラブと町との関与、関係、この辺り、報告を受けている以外に、例えば公金の支出があったり、あるいは何か優遇措置があったり、優遇措置と言ったらちょっと語弊があるな、そういう関

係はどうなんでしょうか。

○議長（牧浦秀俊）　教育部長。

○教育部長（松井良明）　当該総合型スポーツクラブからは、毎年度、展開される教室ごとの活動計画書を添付して、スポーツクラブ登録を行ってもらっているところでございます。また、当該活動に係る施設の使用料につきましては、地域におけるスポーツ振興に資する活動であると認められることから、原則免除とさせていただいているところでございます。

なお、同スポーツクラブの自主性を尊重するという観点から、当該運営に関しましては、教育委員会として直接的かつ能動的な配慮は行っていないというのが現状でございます。

○議長（牧浦秀俊）　遠山議員。

○７番（遠山健太郎）　分かりました。年度初めの報告といいますか、登録、何名の人数が何をやっているのかという報告をすることによって、お金を支出というよりも使用料の一部免除とかが発生をしている、そういう関係であって、あくまで自主性、任意団体なので、その団体に経営といいますか運営は委ねている。例えば、どんなスポーツをやってほしいであるとか、指導者をもっと増やしてほしいとか、そういうことではないということで認識をさせてもらいました。

という中で、２番目に行くんですけども、先ほど少しお話をしましたが、いろんな先進地事例を見ますと、実は私、来月、長崎県の長与町、まあまあ遠いんですけど、そこも地域移行の先進地ということで兵庫県に教わったので、頑張って、日帰りにはなるんですけど、電車に乗って行こうかというふうに思っているんですけど、そこでも聞こうかと思っているんですが、地域移行には総合型地域スポーツクラブの関わりが欠かせないというふうに思っているんですが、上牧町で地域スポーツクラブ、里風総合型クラブ上牧に移行するとした場合、何か問題点はあるんでしょうか。

○議長（牧浦秀俊）　教育部長。

○教育部長（松井良明）　中学校の部活動に係る地域移行に際して、総合型地域スポーツクラブを当該地域移行の受皿として位置づけることにより、円滑な移行が実現し、効果的かつ有効に機能していると、先進地事例は教育委員会として承知をしているところでございます。本町におきましても、総合型地域スポーツクラブは既に組織されておりまして、本町の中学校部活動の地域移行を考える上におきましては、当該スポーツクラブとの連携及び協働体制の在り方を模索、検討することが必要であるとの考えの下、同スポーツクラブ代表の方に本年度設置をいたしました部活動改革検討委員会に参画をしていただいているところでござい

ます。

しかしながら、既存の総合型地域スポーツクラブに中学校部活動の地域移行の受皿として事務局をお願いする上におきましては、安全管理や出納管理、学校との連絡調整、生徒及び保護者の保険加入などの運営業務を担っていただくことを想定しており、事務局としての負担はかなり大きくなることが想定され、同スポーツクラブの理解と協力が不可欠であることから、今後、十分な協議、調整を行いながら、その方向性を的確に見定めていきたいというふうに考えているところでございます。

○議長（牧浦秀俊）　遠山議員。

○７番（遠山健太郎）　ありがとうございます。問題点、何個か指摘を頂きました。その前として、今、部長から紹介いただきました上牧町の部活動を地域移行するに当たって、部活動改革検討委員会が立ち上げられていますよね。その名簿ももう公表されているので、そこに里風総合型スポーツクラブ上牧の代表の竹之内さんのお名前も記載されています。この委員会で何度かいろいろ協議をされて、地域移行のことをしようと思っているという話があるんですが、やっぱりどうしても今気になったのが、問題点の中で学校との連携体制はさることながら、安全管理、出納管理、あと保険加入、この点について、すごい言葉が難しい言い方を多分されたので、十分な検討とか協議をしていかなければいけないという、そこに課題ももしかしてあるのかと。

元に戻すと、なので兵庫県とか長与町とかは、ＮＰＯは毎年事業計画、そして採算ベース、費用については公表されますし、提出が義務づけられている。なので、そこが安心なので移行していると。そこがちょっと上牧町には足りない、足りないといいますか、今そこが問題点になっているのかということの認識はさせていただきました。

３番目なんですけども、そういうことも踏まえまして、上牧町の部活動の地域移行、今どのような現状で進んでいるのか。令和８年度の新上牧中学校開校に合わせて部活動の地域移行を考えていくということで、今までの委員会等の答弁であるんですけども、その現状について教えていただけますか。

○議長（牧浦秀俊）　教育部長。

○教育部長（松井良明）　中学校部活動の地域移行に向けた本町における進捗状況につきましては、先ほど来説明をさせていただいております上牧町部活動改革検討委員会において協議を進めているところでございます。その中で、令和８年度に統合する新中学校において実施を予定している部活動のうち、地域における指導者の人選につき、めどが立っている部活動

種目において、行政主導の方式により教育委員会事務局社会教育課が中心となって地域クラブ活動運営団体を設置し、本機関との連携により、実証事業として令和７年度において試行的に実施する旨を当該委員会で承認いただいたところでございます。

○議長（牧浦秀俊）　遠山議員。

○７番（遠山健太郎）　今、現状といいますか進捗状況については、今聞いた中で、私、間違ったらごめんなさい、めどが立っているものについては行政主導で、まず令和７年度に実証事業をするというお話だったと思います。この実証事業の内容については、今年の１月31日に総合教育会議が開催された、そのときの添付書類という中で、令和７年度休日部活動の実証事業についてというところでありまして、卓球男子・女子、陸上男子・女子、バドミントン女子、これについては令和７年度のゴールデンウイーク後に実証事業をするというような資料があると思うので、多分それに基づいてされているのではないかと思うんですが、ここで私が懸念をすることというのが、めどが立っているものについては行政主導の下、実証事業をするというところなんですけど、課題なのはめどが立っていないものだと思うんですよね。というのは、例えばそのほかであると、テニスであるとか、バスケットであるとか、野球は今、上牧町はなくなってしまいましたが、であるとか、めどが立っていないものに対する問題点というのがもう１つ。

そして、行政主導というのは私はいいと思うんです。いいと思うんですけども、やはりそれは行政にとっての負担になると思いますし、地域移行というのは大きな２つの柱があると思うんですよ。一番が教員の方々の負担軽減ですよね。もう１つは、地域に寄り添った、子どものニーズに合わせた部活動の運営、これも大事で、子どもの心身を育むという意味でのということを考えると､行政主導にしてしまうと､そこにちょっと限界があるのではないか。やっぱり現場にいる人たちがこういう指導者がここにはふさわしいよねということで選ぶというほうがいい。なので、ＮＰＯのところに事務局を置いて、そこで指導者をやる。そこがうまくいっているという概念になってくるかというふうに思うんですけども、めどが立っていないところであるとか、それについては今後どういうような、例えば、いわゆる実証実験をしない部分の部活動があると思うんですけども、その辺りについては今後どういうような展開を予定していますか。

○議長（牧浦秀俊）　教育部長。

○教育部長（松井良明）　現在、指導者の人選等、めどが立っていない部活動につきましても、来年度行います行政主導により行う実証事業と並行しながら、継続的に人選の確保等につい

て検討、調整を図ることとしているところでございます。

また、先ほど回答させていただきましたとおり、行政が主導というのは基本的には臨時的な措置だという認識をしておりまして、やはり地域に移行ということでございますので、地域で中核をなす総合型のクラブ運営への移行を視野に考えておりますが、現在の部分について、先ほど申し上げましたとおり、受けていただける相手方のほうでそのような体制が整えられるのかどうかということにつきましても、来年度の実証事業の実施と並行して、部活動改革検討委員会の意見も聴取をさせていただきながら方向を見定めていきたいというふうに考えているところでございます。

○議長（牧浦秀俊）　遠山議員。

○７番（遠山健太郎）　分かりました。行政主導でやっていくんだということをアドバルーン上げている中で、今少し言っていた臨時的な措置というのはすごい苦しい答弁だと思います。いずれは、本来でしたら行政指導ではなくて、地域移行の中でやるべきではないかというところの中で、最後なんですけども、上牧町が進める部活動地域移行の着地点、現段階ですが、どのように考えられていますか。

○議長（牧浦秀俊）　教育部長。

○教育部長（松井良明）　中学校における部活動の地域移行による改革を推進することにより、生徒の健やかな心身の成長を促すとともに、教員の部活動に係る負担軽減を図る上においては大変意義深いものであると認識をしているところでございます。このような考え方の下、来年度、令和７年度におきましては、教育委員会事務局社会教育課が中心となって、本町スポーツ協会及びスポーツ推進委員並びに大学等関係機関との連携により指導者を確保し、中学生への指導を行う、いわゆる行政主導型による実証実験を実施しておりますが、本町の実情やスポーツ環境、生徒のスポーツニーズなど、本町の実情に即した地域移行の受皿となり得る団体の模索、移行後の制度設計について、引き続き検討をしているところでございます。

いずれにいたしましても、休日における新たな活動の在り方が対象となる生徒たちにとって意義があり、有意義なものとして受け入れられ、初期の目的である教員の働き方改革による負担軽減、生徒の健やかな心身の成長を促進するという観点において、持続可能なものとなることが一定の着地点であり、実証事業に着手する来年度、令和７年度においては、そのスタートラインに立つことができたものと考えているところでございます。

○議長（牧浦秀俊）　遠山議員。

○７番（遠山健太郎）　ありがとうございました。今後は実情に即した関連団体の模索という

のもあると思いますし、私は、せっかく今、総合型スポーツクラブがありますので、そこがより改善と言ったら語弊があるかも分からないですけども、しっかりと担い手になるべきだと。ならなければ、新しい団体をつくる、探すとなったらすごい大変だと思うので、その辺とかも今後考えていただけるという中で、今一番言われたのが、実証実験でスタートに立ったというところですね。だから、令和８年の４月からもう完全移行するんだということよりも、今回、令和７年度に実証実験することでスタートに立って、先ほど言いました２つのものですよね。教員の要は負担軽減と併せて、生徒たちの健やかな成長を祈念するという中での模索、これから着地点といいますか、スタートラインで着地点って難しいんですけど、スタートラインに立ったというイメージでこれからの推移を見守っていきたいというふうに思っています。ありがとうございました。

最後になりますけれども、松井部長もこの３月をもちまして役職定年を迎えられるというふうに聞いています。松井部長におかれましては、42年間上牧町で奉職されたというふうに伺っていまして、そのうちの半分以上、約22年間は教育委員会で仕事をされていたというふうに伺っています。残りの10年間の中で、私が実は議会に入る前に、まちづくり基本条例の策定委員会をさせてもらっているときに事務局にいらっしゃっていて、私が議員になる前のことを知っている理事者の方が本当に実は数少なくて、私もともと上牧町の出身ではありませんのでなおさら、私の議員になる前のことを知っているのは松井部長と松浦教育長ぐらいかというふうに思っていたりするぐらいで、そのときに本当にまちづくり基本条例をつくるときには事務局の方に本当にお世話になりました。もう僕、本当に泣きそうになって、覚えていると思うんですけども、熱い住民の方たちに波にのまれて、ぼこぼこ溺れながらもうってなっているときに寄り添っていただいたあの恩は一生忘れることはありませんし、それゆえに、そのときに私、答申書で書いたんですけども、これをつくった、先ほどのスタートラインの話と一緒ですね。つくって、これだけ絵に描いた餅にしちゃ駄目だと、せっかくこんだけつくったんだからちゃんと広めたい、その一心で私も議会に入らせてもらって、まちづくり基本条例のことをさせてもらっています。

話は別にしまして、松井部長はほとんど教育委員会にされている中で、少しお話を聞きましたら、教育委員会にいられたときには国際交流事業、今は桃園でやっていますけども、オーストラリアとの交流事業を先駆けで実証されたのが今の松井部長だというふうに伺っています。その子どもたちとの交流が今でも続いているというお話は聞いていますので、いま一度、松井部長、上牧町の今後の教育行政等について、何か一言ありましたら一言いただきた

いと思います。

○議長（牧浦秀俊）　教育部長。

○教育部長（松井良明）　今おっしゃっていただきましたとおり、正確には21年９か月、教育委員会部局におりました。そのうち19年ほどは教育総務課におりましたので、学校教育は主に担当させていただいておりました。残り４年については、教育委員会全般を見る教育部長として、微力ながら努力をさせていただいたところでございます。

以前に、私が主事クラスのときにいたときの教育委員会と今の教育委員会は違い、やっぱり学校を取り巻く環境がかなり変わっていると思っております。４年前に教育部長にならせていただいたときについては､我々が若いときに認識をしていた学校との関係性であったり、保護者対応であったり、変わったなというのを実感したところでございます。今後、教育に係る部分については不変な考え方が多いと思いますので、当然、保護者の考え方、子どもたちの様子は変わっていきますけど、基本的に子どもたちを支えていく、また、社会教育等生涯スポーツにいそしんでおられる方について、良好な環境を与え続けるということが教育委員会の使命だというふうに認識をしておりますので、このことについては全て教育委員会部局の職員の共通認識をしているところでございますので､今後も上牧町の教育行政の発展を、ちょっと役場からは離れますけど、一町民として見守っていきたいなというふうに考えているところでございます。

○議長（牧浦秀俊）　遠山議員。

○７番（遠山健太郎）　ありがとうございました。教育行政は不変だという力強いお話がありました。今、部長から話もありましたとおり、３月をもって役場を離れられるということで話を伺っています。大変残念なんですが、町民として支えていただきたいと同時に、松井部長は電車系がすごい好きだということでお話を聞きまして、３月13日、今日なんですけど、電車好き、電車男の人にはまらないんですが、1988年に青函トンネルが今日開通しまして、寝台特急北斗星第１号が走ったのが1980年３月13日なんです。ただ、くしくも2009年、当時、寝台特急にははやぶさと富士というのがあったんですけど、東京発の九州に行く寝台特急が廃止になりました。これも３月13日。その６年後の2015年に今度、北斗星も廃止になったんですね。ということで、寝台特急がなくなったのが３月13日なんですが、何が言いたいかといいますと、役場を離れて、これから少し時間もあると思いますので、ご夫婦そろって電車の旅などをしながら、上牧町の今後の将来を見守って、そしてまた陰で支えていただきたいと思います。本当に長期間にわたりまして、ありがとうございました。

では、次に移ります。新しい上牧町について、新しいリーダーに対して求めるものは何かということで、今中町長にそのエールと思いを述べていただきたいと思います。よろしくお願いします。

○議長（牧浦秀俊）　今中町長。

○町長（今中富夫）　新しい町長に求めるものって、なかなかこれ難しいんですが、私、ここ最近、ちょっとお話しさせていただく中の話で、遠山議員から去年の９月、この話ばっかりここ最近至るところでするんですが、町長の資質ということではなしに、仕事をしていく上においての資質というのが、私この前申し上げました、例えば理解力があるのか、判断力はどうなのか。そして、判断した後の決断力、これがしっかりあるのかどうか。それと、決めた限りは皆さん方に説明をするということになりますので、その説明能力、これも十分あるのかどうか。そして、全てが全てうまくいくということではございませんので、調整能力、これもしっかりあるのかどうか。こういうことがリーダーとして仕事ができるというふうに評価される上で､私が今申し上げている部分が一番ベースになるのではないのか｡この上に、例えば、人脈があるのかどうか、それと情報のそういう部分について的確にやれるのかどうか、それプラスがいろいろその上に乗っかってくるということになりますので、まずベースはそこなんだろうと。これがバランスがいい人というのが、まず人から評価される、仕事ができるということになるのではないのかなと、まず１つはそういうふうに思っております。

それともう１つ、やっぱり熱い思いがなければ、こういう能力があったにしても、自分が何がしたいのか、この町をどのようにしたいのか、そういうものが熱い思いがなければ仕事はできないだろうというふうに思います。

それともう１つ、私、町長になってから、コロナ禍でやめましたけれども、タウンミーティングを実施してきました。これは住民の声を聞く、そして協働でまちづくりをやろうという考え方が出発点でございますので、私、それをずっとやってまいりましたが、町長が変わるわけでございますので、また新しい町長、これに代わるべきものを、協働、一緒にやろうという考え方でやるとしたら、また、新しい発想力がそこに出てくるのではないのかなというふうに思います。最近、メールで住民さんからいろんなご意見を頂きます。意見であったり要望であったり、そういうものが増えてきているというのが今の現状でございますので、新しい考え方で、新しい町長が住民さんとのそういう接触というのか、そういうことをされるのが、またこれからの時代にそぐうのではないのかなというふうに考えたりしているところでございます。

○議長（牧浦秀俊）　遠山議員。

○７番（遠山健太郎）　ありがとうございました。新しい町長が誕生したのが無投票だったので、告示日の午後５時だったんですけれども、６時以降に祝勝報告会がありまして、私も傍らで見させていただいたんですが、そこで今中町長が言われたのがまさに今の話で、新しい考え方、そして目線で住民の人たちと共に上牧町をやっていってほしいという話がありました。

今、今中町長からありましたタウンミーティング等を通じて住民との協働を推し進めてきたと。私もまちづくり基本条例、今中町長が町長になるときに公約に掲げたというところで担当させてもらったときに、私、当時まだ30代だったんですけど、町長も50代だったと思いますけど、協働という言葉をあまり知らなかったんですよ。協力の「協」に「働く」という、共に同じという「共同」はすごい知っていたんですけど、こういう言葉があるんだと。最初はぴんと来なくて、だからこれをなおさらに絵に描いた餅にしちゃいけないという思いでまちづくり基本条例をつくった記憶がありますし、この４期16年、今中町長はその協働というものを共に働くんだということをメインにされたんじゃないかと思います。

そういう中で、リーダーに求めるものということで、今、熱い思いと言われましたけども、それも実は先日の祝勝会で、私、すいません、数を数えていたんですけど、熱い思いって10回ぐらい言われてたんです。熱い思いでやってほしい、熱い思いで、多分きっとそれを今中町長は次のリーダーに託す気持ちであるのではないかというふうに思います。

最後になりますが、今中町長におかれましては、本当に４期16年大変お世話になった上牧町の一住民としてお礼を申し上げるとともに、これからも引き続きお願いしたいと思いますが、もしよかったら最後に一言お願いします。

○議長（牧浦秀俊）　今中町長。

○町長（今中富夫）　その熱い思いというのは、私、何でそういうふうに言うかというのは、古い議員さん、木内議員、安村議員、石丸議員、そして服部議員、よくご存じだと思うんですけど、土地開発公社の解散のときの話。私、そのときの事務責任者をやっておりまして、金融機関を駆けずり回って、お金を借りに行って、みんな断られて、そのときの指定金、りそなさんから厳しくお叱りを受けて、議会からもいろんな問題がございまして、それぞれご意見を頂いて、100条委員会の設置であるとか、いろんな話がそのとき出ておりました。私、もうあのときのことを考えると夜も寝れなかった、そんな日がございました。どうなるのかなと。このままでは上牧町は潰れてしまうんと違うかなというような、そんな思いを持った

日もございました。しかし、これを乗り切らなくては上牧町が潰れてしまうということで、皆さん方にはけんか腰でお願いをしたという、そういう思いがございます。

ある議員からもいろんな話が出て、大変困惑をしたこともございます。私、そのときに、議員さん、ひょっとしたら覚えていただいているかも分かりませんが、亡くなった人に責任を押しつける、かぶせる、そういうことをやって何の益があるのかと。確かに、その当時の上牧町の状況を考えてみますと、おっしゃられていることは十分分かる、分かるけれども、新しい上牧町をつくるんだと、そういう思いでぜひ議員の皆さん方も理解してほしいということで、私、それぞれに個別にも、みんなの前でもお願いをしたという記憶がございます。あのときのその思いをいまだに持っておりまして、自分の生まれ育った町、私の場合は。新しく入ってこられた方は、これからここがふるさとになるんだと。そういう思いを持って、しっかりと熱い思いで難局を乗り切る。その思いが伝わらなくては誰も理解をしていただけないので、そういう自分の思いがしっかり相手に伝わるような、そういう思いを持って町をつくっていってほしいなというのが、私が言っている熱い思いと、そういうことでございますので、新しい町長も私のその当時の姿も見ておるというふうに思いますので、その気持ちは十分新しい町長も分かってくれているというふうに思いますので、しっかり新町長もやってくれるというふうに信じておりますので、どうぞ皆さん方もしっかりと協力を頂きますように、最後にまたお願いをして、遠山議員のお答えにさせていただきたいというふうに思います。

○議長（牧浦秀俊）　遠山議員。

○７番（遠山健太郎）　ありがとうございました。少し振り返りますと、今中町長が言われました先ほどの判断力、理解力、決断力、説明力、そして調整能力、そのバランスが必要、その上に政策があると。ただ、今の話を聞きますと、５つの力の根底にあるものが熱い思いだと。その熱い思いがなければその力を発揮することができないし、周りに伝わることができない、その思いがなかったら実現する力もない。多分それを今、次の町長、次のリーダーには託したい、それができると信じているというお話だと思います。

最後になりましたが、我々議会も新しい町長を迎えまして、その熱い思いをしっかりと受け止めることができるように､熱い思いを感じることができるような議論､そして政策論争、是々非々の判断、これをしたいということを今中富夫町長に最後に私からもお約束を申し上げまして、私の一般質問を終わりたいと思います。長時間にわたりまして答弁ありがとうございました。

以上です。

○議長（牧浦秀俊）　以上で、７番、遠山議員の一般質問を終わります。

ここで暫時休憩といたします。再開は２時10分といたします。

休憩　午後　１時５３分

再開　午後　２時１０分

○議長（牧浦秀俊）　それでは再開いたします。

◇

◇木　内　利　雄

○議長（牧浦秀俊）　次に、11番、木内議員の発言を許します。

木内議員。

（１１番　木内利雄　登壇）

○１１番（木内利雄）　11番、木内利雄でございます。議長より指名、許可を頂きましたので、通告書に従い、順次質問をさせていただきます。

質問事項の１点目は、生活保護世帯の熱中症対策についてでございます。

２点目は、家庭などに水を供給する給水管のうち健康被害を及ぼすおそれのある鉛製給水管の使用状況についてお伺いをいたします。

次に、３点目でございますが、学校教育及び見守りシステムｏｔｔａについて伺います。

質問事項は以上でございますので、よろしくお願い申し上げます。

それでは、早速ですが、質問に入らせていただきます。

昨年2024年９月議会で、私、木内が一般質問の中で取り上げた生活保護受給世帯の熱中症対策に関して、上牧町が生活保護受給世帯におけるエアコン設置についてとの要望書を奈良県中和福祉事務所所長に提出、その回答が昨年12月18日付であったものでございます。よって、以下についてお伺いをいたします。

回答書面の中に次のような記述があります。保護の実施要領により、熱中症予防が特に必要とされる特別な事情がある生活保護世帯については、要件に該当すればエアコンの購入費

用を支給することが可能となっており、当初、つまり、奈良県中和福祉事務所では生活保護申請時に特別の事情のある世帯かどうか確認を行い、必要な場合には適切に支給していますとありますが、その特別な事情とはどのようなものか、まずお伺いをいたします。

次に、家庭などに水を供給する給水管のうち健康被害を及ぼすおそれのある鉛の管、鉛管、つまり鉛製給水管についてお伺いをいたします。

国が2004年に早期全廃の目標を掲げたにもかかわらず、20年経過した2023年３月時点で、全国で約203万件残っていることが日本水道協会の調査で分かった。専門家は、国や自治体など、水道事業者が住民に交換の必要性などを強く周知すべきだと指摘しているとの報道があります。

同時に、健康被害の一例として、山口県の30歳男性は、山口市内のアパートに住んでいた2017年末、吐き気と下血が続いて入院、山口市上下水道局が調べると、台所などの水から基準値の40倍を超える鉛が出た。男性は両手のしびれや倦怠感などに悩まされ、アパートの大家を相手取り、損害賠償を求め提訴、山口地裁は2022年10月の判決で、症状は水道管から溶けて出てくる、溶出した鉛に起因するものと合理的に推認されると認定。アパート大家側に約700万円の支払いを命じたというものであります。男性は今も車椅子生活を余儀なくされており、取材に、日本の水道水は安全だと信じていた、まさかと思ったと明かしたと報道されています。

また、都道府県別の鉛管の残存率で一番高いのは香川県の27.75％、続いて石川県、岩手県、そして奈良県は４番目に高く、13.49％と公表されているところでございます。そして、2003年４月に水道水中の鉛濃度に関する基準値が改正され、従来の１リットル中0.05ミリグラムから0.01ミリグラムに強化されたところであります。そこで、まずは上牧町の鉛管使用状況について答弁を求めます。

次に、学校教育及び見守りについてお伺いをいたします。

スポーツ庁が昨年2024年12月に発表した2024年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査、いわゆる全国体力テストの結果で、奈良県内の小学５年生、中学２年生の男子がともに体力合計点が全国平均を上回ったのに対し、小学５年生、中学２年生の女子は全国平均を下回った。奈良県教育委員会は、体育の授業でデータを活用し、運動習慣や体力を向上させる工夫が必要だとしている。そこで、まずは上牧町の結果についての答弁を求めるものであります。

次に、見守りシステムｏｔｔａについてお伺いをいたします。

上牧町では、児童が安心かつ安全に通学できるようにと、昨年2024年７月から見守りシス

テムｏｔｔａを導入しました。同サービスには、位置情報記録のみの無料プランと保護者の携帯電話、スマートフォンに児童の位置情報通知等を付加する有料プランが設定されております。そこで、同サービスの登録申込み状況及び運用状況について答弁を求めます。

質問事項は以上でございますが､再質問に関しましては質問者席で行わせていただきます。

○議長（牧浦秀俊）　健康福祉部長。

○健康福祉部長（寺口万佐代）　それでは、回答させていただきます。

１、特別な事情がある生活保護世帯についてはの特別な事情とは。

生活保護法による保護の実施要領で定められています、ア、保護開始時に持ち合わせがない場合、イ、単身保護世帯であり、長期入院・入所後に新たに単身で居住を始める場合で持ち合わせがない場合、ウ、災害により喪失し、災害救助法等で他制度からの措置がない場合、エ、転居の場合で、新たな住居に設備がない場合、オ、犯罪等により被害を受け、生命、身体の安全確保のために新たに転居する場合で持ち合わせがない場合、以上、アからオのいずれかに該当し、世帯員に高齢者や乳幼児、障害のある人など、熱中症予防が特に必要である者が属する世帯を指すものと解釈しております。

○議長（牧浦秀俊）　木内議員。

○１１番（木内利雄）　次に、②のところですが、昨年の９月議会でこのことに関して質問をさせていただきました。そのときの生活保護受給世帯数は、令和６年７月時点で325世帯ということでございましたが、現時点では、直近ではどのような数字になっているでしょうか、お答えを頂きたいと思います。

○議長（牧浦秀俊）　健康福祉部長。

○健康福祉部長（寺口万佐代）　令和７年１月１日時点でございますが､320世帯でございます。

○議長（牧浦秀俊）　木内議員。

○１１番（木内利雄）　ありがとうございます。

そこで次ですが、生活保護受給世帯数が320、321、ごめんなさい。

○議長（牧浦秀俊）　健康福祉部長。

○健康福祉部長（寺口万佐代）　320世帯でございます。

○議長（牧浦秀俊）　木内議員。

○１１番（木内利雄）　直近の調べでは320世帯が生活保護受給世帯数ということでございますが、この320世帯のうちで、先ほど述べていただいた特別な事情に該当する世帯数はいかがなっているんでしょうか。答弁を頂きたいと思います。

○議長（牧浦秀俊）　健康福祉部長。

○健康福祉部長（寺口万佐代）　町では該当世帯数は把握しておりませんので、令和７年２月25日に奈良県中和福祉事務所に確認をいたしました。中和福祉事務所では、特別な事情に該当する世帯にはエアコン購入費用の給付が可能であることを伝え、エアコン設置に向けてのその都度支援されておりますが、世帯数については把握できていないとの回答でございました。

○議長（牧浦秀俊）　木内議員。

○１１番（木内利雄）　そこはお聞きしておきます。

次に、生活保護受給世帯数の320世帯のうちのエアコンの未設置世帯数、要は、エアコンが設置されていない世帯数は答弁いただきたいと思います。

○議長（牧浦秀俊）　健康福祉部長。

○健康福祉部長（寺口万佐代）　こちらにつきましても、令和７年２月25日に福祉事務所に確認をいたしましたが、把握できていないとの回答でございました。

○議長（牧浦秀俊）　木内議員。

○１１番（木内利雄）　資料を頂いたんですけども、昨年の８月31日付のしんぶん赤旗のニュースなんですけども、ここで奈良市選出の山村共産党議員さん、長くやっておられる議員さんで、県会で質問等をされておったんですが、今、部長が答弁なさったようなことを県会でもそういうような答弁になっとるんです。まさにもどかしいというか、ここで新たに文句を言っているんじゃないですからね。中和福祉事務所にとっては、生活保護受給者のうち、ここととここ、つまり、何件中何件はエアコンは設置されてないというのを当然知っていなければ、自分らの仕事が前へ進めへんのじゃないかなと思うんです。だから、全く今言うたように県会でもそういうような答弁しかされてないし、今、寺口部長からもそういう答弁なんですよね。全くもどかしいというか、隔靴掻痒の感は免れないというふうに思っておるんです。

ここで中和福祉事務所の人がいてないから言うたって仕方ないんですが、そこで、部長には、上牧町としてはこういった社会的弱者に対して、町としてどういうふうに今後取り組んでいくべきなのか、しっかりと取り組んでいただきたいと思うんですが、このエアコンの設置、未設置の数については、また違う方法で私も考えますので、今は上牧町として、こういった社会的弱者に関して、一人一人に寄り添った施策が必要だと思うんですが、きめ細かな施策が必要だと思うんですが、寺口部長の考え方を答弁いただきたいと思います。

○議長（牧浦秀俊）　健康福祉部長。

○健康福祉部長（寺口万佐代）　町の対応策といたしましては、秘書人事課において取りまとめをしていただいております令和８年度政府予算編成に関する提案・要望におきまして、生活保護世帯エアコン購入費用の給付条件緩和について、福祉課より提出いたしております。内容といたしましては、財源確保の課題のほか、助成額など、単独町による制度設計では他市町村との乖離が懸念されるところであり、統一的にエアコン購入及びエアコン修理代について、生活保護受給者に対し、生活保護基準の一時扶助として認めていただけるよう要望しております。

　このように、今後につきましても引き続き国や県に対して生活保護制度内におけるエアコン支給基準の緩和を要望してまいりたいと考えております。

○議長（牧浦秀俊）　木内議員。

○１１番（木内利雄）　しっかりと町として取り組まれるように強く求めておきたいと思います。それでは、この件は結構でございます。

　それじゃ、次、鉛管の使用状況について答弁をお願いしたいと思います。

○議長（牧浦秀俊）　都市環境部長。

○都市環境部長（吉川昭仁）　それでは、鉛管、鉛製の給水管についてでございますが、鉛管は加工がしやすく、施工性に優れているということでございますので、水道の普及当初から全国的に給水管として使用されておりまして、本町上牧町におきましても、昭和50年代中頃までに建築された家屋では鉛管が使用されている可能性があるということでございます。給水管につきましてはあくまでも個人所有物でございますので、布設替工事は所有者が行うべきものでありますが、漏水や管路更新工事等において給水管を更新する必要がある場合は、町の水道事業で対応させていただいておるというところでございます。

○議長（牧浦秀俊）　木内議員。

○１１番（木内利雄）　まずお聞きをしたいんですが、どの地域が鉛管を使用されているのかお分かりでしたら、地域名を示して答弁を頂きたいと思います。

○議長（牧浦秀俊）　都市環境部長。

○都市環境部長（吉川昭仁）　現在まで、上牧町給水区域内におきましては、米山台、そして服部台、滝川台、松里園で、約230件の鉛管布設替工事を実施しております。

○議長（牧浦秀俊）　木内議員。

○１１番（木内利雄）　それで、年間どの程度、今述べられた服部台、米山台、松里園、滝川の４地域で年間どの程度、鉛管使用が発見というか確認されたんでしょうか。

○議長（牧浦秀俊）　都市環境部長。

○都市環境部長（吉川昭仁）　年間の数字自体は申し訳ございません、つかんでおりません。担当からは総数の件数を確認させていただいております。それと、当然、管路更新の際に発見された部分については､その工事のタイミングで交換しているというところでございます。

○議長（牧浦秀俊）　木内議員。

○１１番（木内利雄）　確認のためにお聞きするんですが、先ほど私、壇上で申し上げた山口県山口市の話なんですが、こういったひどいまでにも行かずとも、健康被害等については上牧町としては承知をしているのか承知をしていないのか答弁いただきたいと思います。

○議長（牧浦秀俊）　都市環境部長。

○都市環境部長（吉川昭仁）　現在、そういった事案は報告を受けておりません。

○議長（牧浦秀俊）　木内議員。

○１１番（木内利雄）　そこで、この間、お知らせいただいて、上牧町の水道事業Ｑ＆Ａというのがあって､そこで上牧町の鉛製給水管､いわゆる鉛管について触れられているんですが、これ私、初めて見たんですけども、一部抜粋してご紹介申し上げますが､「上牧町でも昭和50年代中頃までに建築された家屋では、鉛管が使用されている可能性があります。鉛管をポリエチレン管などに取り替えており、今後も計画的に事業を実施しながら鉛製給水管の解消を進めていきます。ただし、給水管は個人の財産になり、原則として取り替え工事は個人の負担で行っていただくことになりますので、独自に取り替えされる場合の工事費は個人の負担となり、上下水道課で行う取り替え工事の際も、一部費用負担を要する場合もあります」、これはこういうことでよろしいでしょうか。

○議長（牧浦秀俊）　都市環境部長。

○都市環境部長（吉川昭仁）　おおむねそのとおりでいいんですが、基本的には布設替工事の際には町の負担で全て全額をさせていただいているということでございます。

○議長（牧浦秀俊）　木内議員。

○１１番（木内利雄）　要は、この鉛管が確認された場合は、町で全額負担でやるというふうに聞こえたんですが、そういうことでよろしいですか。

○議長（牧浦秀俊）　都市環境部長。

○都市環境部長（吉川昭仁）　基本的には配水管から水道メーターまでは、当然、町の管理の部分もございますので、町でさせていただく。そして、水道メーターから自宅の中に至る部分については、当然、個人負担になろうかと思います。

○議長（牧浦秀俊）　木内議員。

○１１番（木内利雄）　大事なところなので確認させていただきますが、水道メーターがあります。水道メーターの一次側、要は公道、公の道に行くほうは、水道メーターから一次側のほうに関しては町が全額負担と。水道から二次側に関しては、要は自宅の蛇口に行くほう、これに関しては各自負担だということでよろしゅうございますか。

○議長（牧浦秀俊）　都市環境部長。

○都市環境部長（吉川昭仁）　そのとおりでございます。

○議長（牧浦秀俊）　木内議員。

○１１番（木内利雄）　そこで、今までで230件ほど確認されたということなんですが、まだあるようでございますので、これは私も言われなかったら、この鉛管の水道事業Ｑ＆Ａ、分からなかったので、もう少し住民に広く周知をされるほうがよろしいかと思うんですが、そこら辺はいかがお考えでしょうか。

○議長（牧浦秀俊）　都市環境部長。

○都市環境部長（吉川昭仁）　今、議員ご指摘のとおり、水道事業Ｑ＆Ａというところでホームページで掲載させていただいております。ちょっと分かりにくいと、まさしくそのとおりかなと思います。そこをしっかり、特集ではないですけど、ある程度大きく周知できればなとは考えておりますけれども、この４月より水道企業団になりますので、ホームページ自体も水道企業団に水道事業の分については移りますので、そちらのほうでしっかりと周知をさせていただきたいなと思っております。

○議長（牧浦秀俊）　木内議員。

○１１番（木内利雄）　さっきの山口県山口市の話じゃないですけども、ほうっておくと広報をしなかった、周知徹底をしなかったということで、上牧町もしくは移行した県が訴訟の対象になるかも分からないということで、しっかりと県、もしくは上牧町で周知をされるように求めておきたい。

それとまた、このときに注意しなければならないのが、今、地名が挙がりました米山、服部、滝川台、松里園、こういったところが混乱を起こさないように、そこら辺は細心の注意を払って周知徹底を頂きたいと思いますが、よろしゅうございますか。

○議長（牧浦秀俊）　都市環境部長。

○都市環境部長（吉川昭仁）　当然、今、地名を挙げられたところについては、やっぱり心配なのかなと思いますので、その辺ところで、ご相談等がございましたら上下水道課でしっか

りと対応させていただきたいと思います。

○議長（牧浦秀俊）　木内議員。

○１１番（木内利雄）　限られた人数で対応されているので、これを大々的に広報して、私、想像がつかんのですが、電話が鳴りっ放しみたいなことですと困るので、そこら辺の体制をしっかり整えた上で周知徹底をされて、上牧町内の住民の誰ひとりもこういった鉛によって体を壊すことのないように、お取組をしっかりとされるように強く求めておきますが、よろしいですか。

○議長（牧浦秀俊）　都市環境部長。

○都市環境部長（吉川昭仁）　そのように努めていきたいと思っております。それと、広報のときに合わせて、対策として、朝一番の水はバケツ１杯の水を捨てるというか、飲料水に利用しないでほかの水に使ってくれというところの部分も併せてしっかりと周知していきたいなと思っております。

○議長（牧浦秀俊）　木内議員。

○１１番（木内利雄）　部長、しっかりとお取り組みいただきますようにお願いしておきます。

それでは、次に、学校教育及びｏｔｔａについてお伺いをいたします。答弁を頂きます。

○議長（牧浦秀俊）　教育部長。

○教育部長（松井良明）　それでは、まず初めに、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の概要について説明をさせていただきます。

同調査は、握力、上体起こし、長座体前屈、反復横跳び、20メートルシャトルラン、50メートル走、立ち幅跳び、ソフトボールまたはハンドボール投げの８項目から成る実技に関する調査と、運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査で構成をされ、小学５年生と中学２年生の児童、生徒全員を対象として実施をされるものでございます。

次に、本町の結果につきまして、項種ごと、男女別に順次回答をさせていただきます。

小学校につきましては、男子にあっては、当該調査８項目中、握力、上体起こし、長座体前屈、50メートル走、立ち幅跳び、ソフトボール投げの６項目で県平均を上回り、調査８項目の総合指標である体力合計点の本町の小学校３校の平均は51.6となり、県平均の50.1を1.5上回る結果となっております。一方、女子にあっては、当該調査８項目中、握力のみ県平均を上回り、体力合計点の本町の小学校３校の平均は45.5となり、県平均の49.9を4.4下回る結果となっております。

中学校につきましては、男子にあっては、当該調査８項目中、握力、長座体前屈、反復横

跳び、50メートル走、立ち幅跳び、ハンドボール投げの６項目で県平均を上回り、体力の合計点の本町の中学校２校の平均は51.7となり、県平均の50.2を1.5を上回る結果となっております。一方、女子にあっては、当該調査８項目中全てで県平均を下回り、体力合計点の本町の中学校２校の平均は46.9、県平均は49.9で3.0下回る結果となっているところでございます。

○議長（牧浦秀俊）　木内議員。

○１１番（木内利雄）　ただいま答弁いただきました。

次に、当該調査の結果から、学ぶもの及び、また今後の活用について答弁を頂きたいと思います。

○議長（牧浦秀俊）　教育部長。

○教育部長（松井良明）　本町町内各学校では、保健体育の授業のみならず、体育的学校行事を充実させ、小学校にあっては業間の外遊びの推奨、中学校にあっては運動部活動の適切な指導を通じて、運動の楽しさや体を動かすことの充実感を子どもたちに体感させているところでございます。全体的な持久力の弱さや、相対的に女子の結果が思わしくないなどの原因を分析し、今後、当該調査結果を基に、子どもたちの体力向上を一層推進していきたいと考えているところでございます。

また、運動習慣等調査においては、体育の授業は楽しい、運動が好きという質問項目への肯定的な回答が比較的多い傾向にございます。しかしながら、一方で、学習以外でテレビやＤＶＤ、ゲーム機、スマートフォン、パソコンなどの画面を１日５時間以上見ている子どもの割合が、小・中男女ともに県平均より高くなっております。また、睡眠時間が１日６時間未満という児童、生徒の回答は県平均より多い傾向となっております。

これらのことから、日常の生活習慣が乱れて、学習意欲や集中力の低下につながっていないか懸念をしているところでございまして、ひいては、運動習慣にも悪影響を及ぼしている可能性があるというふうに認識をしているところでございます。

生涯スポーツの観点からも、小・中学校の時期に体づくりやスポーツの基礎を身につけるということはとても重要なことでございますので、学校、家庭との協力を図りながら、よりよい運動習慣、生活習慣を養うことができるよう、取組を進めてまいりたいというふうに考えているところでございます。

○議長（牧浦秀俊）　木内議員。

○１１番（木内利雄）　今の答弁の中にもありましたけども、女子児童、生徒、小学生、中学

生、女子の結果が県平均を下回った要因とその対策、今後の取組はどのようにお考えになっているのか答弁を頂きたいと思います。

○議長（牧浦秀俊）　教育部長。

○教育部長（松井良明）　本町において、女子児童、生徒の結果が伸び悩んだ原因として明確なものがあるというわけではございませんで、児童、生徒の体力や運動能力は、学校の授業や学校生活の中でのみ培われるものではなく、家庭も含めた日頃の運動習慣の積み重ねが影響しているものでございますので、子どもたちの遊びも含めた様々な要因が複合的に影響して、男女差として表れたものであるというふうに考えるところでございます。

対策といたしましては、今回、女子児童、生徒の運動能力が低位になったことを意識しながら、男女を問わず、体を動かすことの楽しさやスポーツの面白さを子どもたちに伝え、学校でスポーツをする機会をできる限り増やしていきたいと考えております。加えて、女子児童、生徒が運動に取り組みやすくするような工夫や雰囲気の醸成についても学校に対してお願いをしていきたいというふうに考えているところでございます。また、各家庭における運動習慣も改めて見直していただくなど、健康保持という観点からも体を動かす活動やその機会を保護者の方々に増やしていただくなど、協力をお願いするというスタンスも必要であるというふうに認識をしているところでございます。

○議長（牧浦秀俊）　木内議員。

○１１番（木内利雄）　ありがとうございます。これは１月25日の土曜日の読売新聞でした。この体力テストについては報道があったわけですけども、先ほど部長から答弁ありました。「スマートフォンやテレビなどを１日５時間以上視聴する割合も、いずれも全国平均を上回った。小学校５年生男子と中学校２年生の男女は２割を超えた。睡眠時間が６時間未満とした回答もいずれも全国平均以上だった。生活スタイルが運動習慣に影響している可能性がある」というふうに報道をされております。

そこで、これは学校だけの問題じゃなくて、ご家庭の問題もあろうかと思いますが、ここら辺のスマートフォンやテレビの見過ぎ、また睡眠時間が短い等々については、学校では具体的な指導はどのようになさっているんでしょうか、答弁を求めたいと思います。

○議長（牧浦秀俊）　教育部長。

○教育部長（松井良明）　学校で統一的、画一的な指導は行うことは難しいのかなと考えております。ただ、基本的に家で過ごす機会の長期休業期間中であったりする部分については、保護者に対して、そのような今、議員お述べのことについての注意喚起もしくは適切な配慮

をお願いしているというのが現状でございます。

○議長（牧浦秀俊）　木内議員。

○１１番（木内利雄）　一定の体力がある、そうでないと勉強も取り組みにくい。だから、一定の体力がなければ何したって伸びないというのは私、基本的に思っとるんです。そこで、授業において､学校では体育に関しては基本的にはどういう取組をされているんでしょうか。

○議長（牧浦秀俊）　教育部長。

○教育部長（松井良明）　体力については、基本的に、今、議員おっしゃっていただきましたとおり、基本的な学習に際しての基礎条件となるという認識の下、その部分については個別の子どもたちの特性も配慮しながら､体力を増進するという部分についての取組については、一定重点的な課題として取り組んでいるというのが現状だというふうに認識をしております。

○議長（牧浦秀俊）　木内議員。

○１１番（木内利雄）　今後ともこの体力テストに学んで、しっかりと児童、生徒がこういった体力テストをクリアできるように、しっかりとした学校でのお取組をされるように求めておきたいと思います。このことは結構でございます。

次に、見守りシステムｏｔｔａの運用状況についてお伺いをいたします。

○議長（牧浦秀俊）　教育部長。

○教育部長（松井良明）　議員お尋ねの登下校時子ども見守りシステムｏｔｔａの状況について回答をさせていただきます。

令和７年２月28日時点の利用状況につきましては、対象児童824名中296名にご利用いただいており、その利用率については35.9％になっているところでございます。小学校ごとの利用数につきましては、上牧小学校95名、上牧第二小学校94名、上牧第三小学校103名となっております。

○議長（牧浦秀俊）　木内議員。

○１１番（木内利雄）　前後しますけども、利用率が35.9％ということでございますが、利用率が高いように思わないんです。要は、つまり言うたら利用率が低いなというふうに思います。これはなぜ35.9％にとどまっておるのか、部長はどのようにお考えなのか答弁を頂きたいと思います。

○議長（牧浦秀俊）　教育部長。

○教育部長（松井良明）　当該見守りシステムの利用率の低い要因といたしましては、それぞれの保護者の考え方もございますので、一概に断言してお答えすることは難しいと考えてお

ります。強いてお答えをさせていただくならば、町長が標榜され、常日頃から指示を受けております安心で安全なまちづくりに向けた種々なる取組が住民の皆様方にご理解と一定のご評価を頂いている表れではないのかなというふうに考えるところでもございます。また、本システムに係る利用を促進することで、一定、当町は安心安全なまちということにはなっておりますが、それらの機器を使うことにより、より安心で安全なまちになり得るものであるというふうに考えておりますので、今後についても利用者の拡大に取り組んでいきたいというふうに考えるところでございます。

○議長（牧浦秀俊）　木内議員。

○１１番（木内利雄）　せっかくのシステムでございますので、できるだけ多くの方々に利用をしていただくように、しっかりとしたお取組を頂くように求めておきますが、よろしゅうございますか。

○議長（牧浦秀俊）　教育部長。

○教育部長（松井良明）　当町におきましては、登下校時の見守り、地域の方々の実際の目で見守っていただいている部分と、ｏｔｔａを活用することによって、より有機的な効果が期待できますので、その部分についてもしっかりと取り組んでいきたいというふうに考えるところでございます。

○議長（牧浦秀俊）　木内議員。

○１１番（木内利雄）　そしたら次に、受信機はどういうところに主に設置をされておるのか、また、設置状況はどのようになっているのか答弁を頂きたいと思います。

○議長（牧浦秀俊）　教育部長。

○教育部長（松井良明）　受信機につきましては、通学路上に53か所設置をしており、その内訳につきましては、上牧小学校18か所、上牧第二小学校20か所、上牧第三小学校15か所となっております。

なお、当該受信機につきましては、基本的に小・中学校校区にそれぞれ20台程度というふうに予定をしておりまして、最大町内に60か所設置が可能となっておりますので、状況に応じて順次設置箇所についても拡大するという方向で考えているところでございます。

○議長（牧浦秀俊）　木内議員。

○１１番（木内利雄）　しっかりとお取り組みも頂いて、ｏｔｔａのシステムが有効に活用されるように強く求めておきたいと思います。結構でございます。

結びになりましたけども、役職定年の松井部長、また寺口部長、大変ご苦労さまでござい

ました。また、松浦教育長、また今中町長、大変ありがとうございました。今後ともまた大所高所から私どもに指導いただけますようにお願いを申し上げ、私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（牧浦秀俊）　以上で、11番、木内議員の一般質問を終わります。

これで本日の一般質問を終わります。

◇

◎散会の宣告

○議長（牧浦秀俊）　本日はこれで散会いたします。どうも皆様、ご苦労さまでした。

散会　午後　２時５１分

令和７年第１回（３月）上牧町議会定例会会議録

議　事　日　程（第４号）

令和７年３月１７日（月）午後１時開議

第　１		予算特別委員長報告について
第　２	議第２６号	令和７年度上牧町一般会計予算について
第　３	議第２７号	令和７年度上牧町国民健康保険特別会計予算について
第　４	議第２８号	令和７年度上牧町後期高齢者医療特別会計予算について
第　５	議第２９号	令和７年度上牧町介護保険特別会計予算について
第　６	議第３０号	令和７年度上牧町住宅新築資金等貸付事業特別会計予算について
第　７	議第３１号	令和７年度上牧町下水道事業会計予算について
第　８		総務建設委員長報告について
第　９	議第　１号	刑法等の一部を改正する法律及び刑法等の一部を改正する法律の施行に伴う関係法律の整理等に関する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例について
第１０	議第　３号	上牧町議会議員の議員報酬等に関する条例の一部を改正する条例について
第１１	議第　４号	特別職の職員で常勤のものの給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例について
第１２	議第　５号	一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について
第１３	議第　６号	一般職の任期付職員の採用等に関する条例の一部を改正する条例について
第１４	議第　７号	上牧町会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について
第１５	議第　８号	地方公務員法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整備に関する条例の一部を改正する条例について
第１６	議第　９号	職員の旅費に関する条例の一部を改正する条例について
第１７	議第１０号	職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例について

第１８　議第１１号　上牧町非常勤消防団員に係る退職報奨金の支給に関する条例の一部を改正する条例について

第１９　議第１２号　上牧町消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例について

第２０　議第２０号　令和６年度上牧町一般会計補正予算（第９回）について

第２１　議第２４号　令和６年度上牧町住宅新築資金等貸付事業特別会計補正予算（第２回）について

第２２　文教厚生委員長報告について

第２３　議第　２号　奈良県広域水道企業団への水道事業の統合に伴う関係条例の整理に関する条例について

第２４　議第１３号　上牧町国民健康保険税条例の一部を改正する条例について

第２５　議第１４号　上牧町指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について

第２６　議第１５号　上牧町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について

第２７　議第１６号　上牧町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について

第２８　議第１７号　上牧町下水道条例の一部を改正する条例について

第２９　議第１８号　奈良県広域水道企業団設立準備協議会の廃止に関する協議について

第３０　議第１９号　公の施設の指定管理者の指定について

第３１　議第２１号　令和６年度上牧町国民健康保険特別会計補正予算（第４回）について

第３２　議第２２号　令和６年度上牧町後期高齢者医療特別会計補正予算（第２回）について

第３３　議第２３号　令和６年度上牧町介護保険特別会計補正予算（第４回）について

第３４　議第２５号　令和６年度上牧町水道事業会計補正予算（第４回）について

本日の会議に付した事件

第１から第３４まで議事日程に同じ

◇

出席議員（１２名）

１番	服　部　公　英	２番	氏　原　賢　一
３番	竹　中　亮　造	４番	安　中　　和
５番	東　　初　子	６番	上　村　哲　也
７番	遠　山　健太郎	８番	竹之内　　剛
９番	石　丸　典　子	１０番	康　村　昌　史
１１番	木　内　利　雄	１２番	牧　浦　秀　俊

欠席議員（なし）

◇

地方自治法第１２１条により説明のため出席した者の職氏名

町　　長	今　中　富　夫	教　育　長	松　浦　教　雄
総　務　部　長	中　川　恵　友	都市環境部長	吉　川　昭　仁
住民生活部長	山　下　純　司	健康福祉部長	寺　口　万佐代
教　育　部　長	松　井　良　明	総務部理事	髙　木　真　之
総　務　課　長	丸　橋　秀　行		

◇

職務のため議場に出席した事務局員

議会事務局長	金　﨑　恭　彦	書　　記	森　本　香寿美
書　　記	横　田　大　樹	書　　記	林　　大　貴

開議　午後　１時００分

◎開議の宣告

○議長（牧浦秀俊）　皆様、こんにちは。ただいまの出席議員数は12名です。定足数に達しておりますので、これから本日の会議を開きます。

――――――――――――――――――――◇――――――――――――――――――――

◎議事日程の報告

○議長（牧浦秀俊）　本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。それでは、日程表に従い、順次議事を進めてまいります。

――――――――――――――――――――◇――――――――――――――――――――

◎予算特別委員長報告について

○議長（牧浦秀俊）　日程第１、予算特別委員長報告について。

服部委員長、報告願います。

服部議員。

（予算特別委員長　服部公英　登壇）

○予算特別委員長（服部公英）　１番、服部公英です。

令和７年度予算特別委員会の報告を行います。

予算特別委員会の審議日程は３月６日、７日の２日間で、全委員６名出席の下、慎重に審議をいたしました。

次に、予算特別委員会に付託された議案は以下のとおりです。

議第26号　令和７年度上牧町一般会計予算について、議第27号　令和７年度上牧町国民健康保険特別予算について、議第28号　令和７年度上牧町後期高齢者医療特別会計補正予算について、議第29号　令和７年度上牧町介護保険特別会計予算について、議第30号　令和７年度上牧町住宅新築資金等貸付事業特別会計予算について、議第31号　令和７年度上牧町下水道事業会計予算について、以上、６会計予算を審議いたしました。

次に、各会計予算に対する主たる質疑内容と質疑結果についてです。

議第26号　一般会計予算における質疑は、総括、歳入、歳出と分けて行いました。

総括では、問い。近年、上牧町の予算規模の拡大が続いている。令和７年度一般会計当初予算は町長選挙に伴う骨格予算だが、約115億円、伸び率11.5％の大型予算となった。財政の健全性や持続性の観点から、今後の上牧町の財政規律は大丈夫か。答え。中学校新築工事等の大型事業が相次ぎ、約26億円、伸び率10.5％の地方債の計上などで規模が拡大した。今後、大型事業が一段落したら予算規模も落ち着き、財政の健全性は維持していけるものと考えている。問い。上牧町税条例第141条から149条まで入湯税が規定されており、総務省は１人１日150円を標準としており使い道も明確化されています。入湯税については定着化していて利用者の理解が得られやすいのではないかということと、上牧町については１人１日150円よりも少ない金額のほうが受け入れられるのではないかと模索しております。以上、入湯税について上牧町のお考えをお伺いいたします。答え。入湯税については目的税であり、環境衛生施設の整備、鉱泉源の保護管理施設の整備、消防施設、その他消防活動に必要な施設の整備、観光の振興に関する費用に充当されていますが、上牧町税条例において日帰りで鉱泉浴場に1,000円未満の利用料金で入湯する者には入湯税を課さないとしているところですので、今後、リニューアルオープンする温泉施設が1,000円以上の利用料金または宿泊施設であれば、課税の判断をしてまいりたいと考えています。

次に、歳入について。歳入２、町税について。問い。町民税の個人分所得割額が前年度に比べ約１億1,000万円増となった主な要因は。答え。令和６年度は定額減税が行われたためである。固定資産税について。問い。滞納繰越分の収納見込率が特に低いが説明を。答え。旧レインボープラザのうち、Ｂ社分が約１億6,800万円残っている。雑入について。問い。奈良県広域水道企業団派遣職員給与負担金約3,300万円の説明を。答え。令和７年度は職員５人分と会計年度任用職員１人分の給与が広域企業団から入る。寄附によるまちづくり条例に基づく寄附について。ふるさと納税の寄附額は1,800万円とかなり野心的な数値を見込んでいる。実現できそうか。答え。３年目の事業となるが、返礼品の種類を58から106、143と毎年拡大し、返礼品サイトも１つ増やす予定だ。ぜひ実現したいと考えている。

次に、歳出について。平和祈念資料展開催費について。問い。資料展とともに朗読劇が開催されるが、子役オーディション審査委員謝礼について説明を。答え。昨年は２人出演してもらった。希望者があるので、令和７年度は公募し審査する予定である。一般廃棄物処理事業費について。問い。委託料が約１億円減額の理由、要因は。答え。４月より２市１村７町での山辺・県北西部広域環境衛生組合ごみ処理となるためである。問い。新しいごみの処理

施設の本格稼働は５月であるが、河合町清掃工場の停止は５月から五、六か月後という情報があるが説明を。答え。河川改修の工事で、安堵町、広陵町、河合町の３町合同の中継施設建設が遅れているためと聞いている。公用地樹木植栽について。問い。特定外来生物であるクビアカツヤカミキリムシの被害状況と対応は。答え。倒木の危険性がある桜の木を146本伐採する。景観維持と緑化を目的に９か所に26本のソメイヨシノを植樹する。第二体育館駐車場整備について。問い。令和６年度の工事内容は樹木伐採と整地、ブロックで囲う、アスファルト舗装だったが、完了はどうか。答え。ブロックでの囲いは実施していないが、工事は10月で完了した。その後、利用者から車止めの要望が出たので、建物に面したところに６台分の車止めを設置、舗装する。選挙啓発費について。問い。選挙啓発費の予算額が８万4,000円と低い。上牧町の選挙の投票率は低く、直近の選挙（令和５年度議会議員選挙投票率48％）では50％を切っている。投票率の50％はレッドラインだと思う。もっと予算をつけ啓発を積極的に進めるべきだ。答え。中学生に啓発ポスターをお願いしたり、施設に入所している方に投票のお願いをしたりした。今後も様々な角度から投票率の向上を図るように努力していきたい。病児・病後児児童保育事業費について。問い。事業費委託料が利用者数に比べて相当多額になっている。サービスの質を保ちながら、もっと安い経費でケアする方法を模索していくべきではないか。検討していきたい。問い。各種検診委託料について。令和６年度と比較して令和７年度は倍以上になっているので、精算根拠を。答え。自身の健康問題を置き去りにしている方が多いので､各種の検診を受診して生活習慣病を見直していただくことと、啓発に力を入れていくためにも、受診者数を増加して予算計上しました。道路冠水防止対策事業費について。問い。町道服部台明星線西端の三差路、信号付近が集中豪雨のとき、膝の高さぐらいまで道路冠水する。喫緊の課題だと思われるが、対策は考えているのか。答え。まちづくり推進課とも協議しながら対策を取っていきたいと考えている。教育総務課備品購入費ＧＩＧＡ第２期端末について。問い。約7,800万円かけたタブレット端末の更新事業であり、子どもたちの学習には有意義に活用してほしい。また、更新による旧端末はどうする計画か。５年間の使用ではまだまだ使えるはずだ。第１期もほぼ同額の導入費用がかかっていたと思うので、下取りや売却などで資金回収を図ってはどうか。答え。よく検討して取り組んでいきたい。フリースクール事業について。問い。現在、不登校の児童、生徒数の人数と、フリースクールに通う子どもの人数を教えてほしい。答え。令和６年度の不登校の状況は、小学生26名、中学生36名、計62名である。そのうち11名の児童、生徒がフリースクールに登録し、全員ではないがフリースクールに通い学習している。問い。フリースクールの運営委

託料が60万5,000円増額されている。説明を。答え。運営スタッフ、補助スタッフの時給1,055円を1,183円に上げました。問い。公民館等集会施設補修補助金の金銭の流れについて。答え。自治会が施工業者に工事代金を全額支払った後、上牧町から交付決定金額を自治会に支払います。学校地域パートナーシップ事業費の報償費について。問い。学校と学校支援ボランティアの調整がコーディネーターの大事な仕事でかなりの苦労があると思うが、その仕事量から考えると学校地域パートナーシップ事業コーディネーターの謝礼、時給1,200円は低過ぎるのではないか。答え。現在コーディネーターは７人いますが、要望があれば検討させていただきます。公債費利子について。問い。公債費については、元金が大きさも気になるが、今後、金利上昇が続くと利子負担が大きくなっていることも懸念される。内外の金利差や昨今の金利情勢から、長期的に見て公債費の利子負担をどう考えているのか。答え。長期利率の動向には十分注意しながら、今後とも健全な財政運営が維持できるよう努める。

議第27号　令和７年度上牧町国民健康保険特別予算について。

人間ドック等助成事業費について。問い。令和７年度人間ドックの助成予算は、１人当たり４万円掛ける410人の受診見込みで、1,640万円計上された。生活習慣改善や病気の早期発見に資する大事な事業と思うが、過去の利用状況はどうなっているのか。答え。助成事業を使った人間ドックの受診者は、令和３年度から５年度まで309人、341人、354人と増加してきた。脳ドックの受診者もそこに加わるので、７年度は410人と見込んだ。多くの人に助成事業を活用してもらいたいと考えている。システム改修委託料について。問い。子ども・子育て支援法の改正による新たな支援金の創設で、国民健康保険税の引上げになるのではないか。答え。令和８年度から子ども・子育て支援金制度の実施に向けてシステムを改修する。国民健康保険税では、国において１人当たり250円、世帯当たり300円が検討されている。特定健診未受診者・特定保健指導未利用者対策委託料5,680万円について。特定健診受診対象者は何名ですか。答え。令和６年度概算で3,660名です。問い。健康教育・健康相談事業対象者は何名ですか。答え。2,000名の予定です。問い。特定健診未受診者勧奨者は何人ですか。答え。400名です。

議第28号　令和７年度上牧町後期高齢者医療特別会計予算について。

後期高齢者医療システム委託料について。問い。子ども・子育て支援制度の実施で75歳以上の保険料引上げにつながるのではないか。答え。システム改修の全体は県広域連合で行われる。

議第29号　令和７年度上牧町介護保険特別会計予算について。

配食見守り支援事業について。問い。認知症予防の１つにバランスのよい食事が大切だと言われている。ひとり暮らしや高齢世帯への配食見守りサービスの対象者や手続の見直しを提案する。答え。検討したい。問い。認知症地域支援ケア向上事業費について。昨年度から60万円減額になっている理由は。答え。コロナのために休んでいたので、おれんぢカフェ損害保険料がなくなったため。問い。シルバークラブ助成事業費の委託内容について。答え。各地区で友愛活動をされているチームに４万5,000円、令和７年度については28チームの登録、また、シルバークラブも友愛のまとめとして１チーム８万円、その中で文化系の軽スポーツ、ハイキングといった活動に対しても上牧町から補助させていただいております。

議第30号　令和７年度上牧町住宅新築資金等貸付事業特別会計予算について。

住宅新築資金等貸付けについて。問い。この事業ができて37年経過した。返済人数と終了の見込みは。答え。返済者は３名、令和９年度で終了予定である。

議第31号　令和７年度上牧町下水道事業会計予算について。

下水道修繕改修計画策定委託料について。問い。令和７年度は友が丘地区の計画策定が行われるが、次年度以降の業務の説明を。答え。おおむね５年間に係る財政計画等を作成し、修繕改築計画を策定。その後、詳細設計、改築工事を実施。

それぞれ採決の結果、全６議案について全委員異議なく可決するべきものと決しました。

以上、予算特別委員会報告といたします。

○議長（牧浦秀俊）　委員長の報告が終わりましたので、ただいまより議案の審議に入ります。

◇

◎議第２６号の質疑、討論、採決

○議長（牧浦秀俊）　日程第２、議第26号　令和７年度上牧町一般会計予算について、これを議題といたします。

提案理由の説明は終わっておりますので、これから質疑を行います。

質疑はございませんか。

遠山議員。

○７番（遠山健太郎）　議席番号７番、遠山健太郎でございます。

先ほど服部委員長から報告がありました予算特別委員長報告について質疑をさせていただきます。

質疑に先立ちまして、委員長報告にもありましたとおり３月６日、７日、２日間にわたりまして、服部委員長以下、委員の皆様におかれましては、予算の慎重審議、本当にお疲れさまでございました。私も傍聴させていただきまして、闊達な審議に対して心から敬意を表したいと思います。

その中で先ほど報告にもありましたが、今回の予算は、町長選挙を控える骨格予算にもかかわらず、115億円を超える予算、そして特別会計を合わせると170億円を超えるという大型予算となっています。これはひとえに前年比228.8％という大幅な増加となっている教育費ですね、予算全体で見ましても、去年ですと全体構成比の10.8％だった教育費ですが、今年度は31.7％と、予算の約３割を占める大きな予算となっていることが特徴かなと思います。これについては先ほど委員長報告にもありましたとおり、学校適正化事業としての新上牧中学校新築工事約23億円、久渡古墳群の整備事業約1.7億円、町民体育館の空調整備工事約１億円等の大型事業があるからですが、未来への投資という観点、そして子育て環境の充実促進という観点、上牧幼稚園の老朽化等に伴う認定こども園の開設等を考えれば、今後も教育費の全体予算に占める割合は大きくなると思います。

そこで、今後の上牧町の教育行政全般の中長期的な所見につきまして、今回の予算を見据えた上で所見を伺いたいと思います。よろしくお願いします。

○議長（牧浦秀俊）　服部委員長。

○予算特別委員長（服部公英）　本来なら予算特別委員長の私が答弁するところですが、遠山議員より詳しく説明していただきたいということで、教育長への質問ということで、教育長から答弁させていただきます。教育長、よろしいでしょうか。

○議長（牧浦秀俊）　松浦教育長。

○教育長（松浦教雄）　これは予算の数字的な面を言わせてもらったらいいのか、私自身の中長期的な教育の中身に関わることをお答えさせていただいたらいいのでしょうか、どちらでしょうか。

○議長（牧浦秀俊）　遠山議員。

○７番（遠山健太郎）　教育長、言葉足らずで申し訳ございません。数字に関しましては詳しい資料を理事者側より頂いていますので、数字については認識をしています。できればぜひ松浦教育長に、今後の中長期的なプランにつきまして伺いたいと思います。

○議長（牧浦秀俊）　松浦教育長。

○教育長（松浦教雄）　大きなプランというのは私自身、今持ち合わせてはおりませんが、学

校という１つの枠組みの中で、学力というものを含む教育水準を高めていくということがとても大切かなと。さらにそれを保つことができれば、それにこしたことはございません。令和４年３月に私ども、第２期上牧町教育大綱及び教育振興大綱基本計画、すなわち上牧の学び推進プランというものを改定させていただきました。その中身は上牧町の将来を担う子どもたちの育成に向けて、私自身、大局的に基本理念、また目標、さらには基本方針に基づく４つのテーマ、20の施策について明記しております。

矢継ぎ早に申し上げますと、４つのテーマの中身がございまして、確かな学力の育成、豊かな人間性の育成、たくましい心身の育成、家庭、地域との連携という４つの枠組みでございます。とりわけ学習意欲の向上については、令和２年より適用されております学習指導要領で主体的・対話的で深い学びの現実が掲げられておりまして、その実現に向けて基礎・基本の定着につながればなと思っております。ただ、ご承知のごとく学校の学びの領域はとてつもなく広く、多様化、複雑化、急速に変化しつつある社会に即応しつつ、一定水準の教育を等しく受け、義務教育の質を保障する仕組みを構築することが学校に今求められている中身でございます。

ところで、私は学校教育にとどまることなく、度々この文言フレーズを使わせてもらってきたわけでございますが、家庭と地域のトライアングルの良好な関係こそが子どもの生きる力を育む人づくり、大きなパワー、また原動力となり得るものかなと、極めて注目をしてまいりました。いみじくもこのことは我々大人の果たすべき大切な役割であり、ちなみに、よく言われる学校、家庭、地域社会、社会教育のこと、総じて本町の教育を進める中で大切なことは、上牧町で育ち、上牧町を育てる人づくりを教育理念として、上牧町で学び育つ子が心身ともに一人前の人間に成長して社会人となって、上牧町で子育てをして、そして上牧町をふるさととして育てていく人づくりかな、そんなように思っております。

昨今、子どもたちを取り巻く状況や環境の変化、地域の教育力の低下、叫ばれておりまして、本町でお勤めの先生方にはもちろん、私自身にもこのことを言い聞かせてまいりました。

というのは、まず１つ目は、子どもたちに知・徳・体のバランスの取れた生きる力を育む人づくりを、そういう力を身につけさせてあげてほしいということ。

２つ目は、学びたい、成長したい、夢をかなえたいと思っている子どもたちによく言われる、教師は授業で勝負をするんだと。魅力ある分かりやすい授業を展開することと同時に、よいところがあれば積極的に子どもたちを褒めてあげてほしいということでございます。まさしく教育は人なり、そのものでございます。

３つ目は、どこの組織にもリーダーがおります。トップに立つ人がおります。学校においては校長先生でございます。その校長先生が一家一城のあるじとして、子どもたちの命はもちろん教職員の命を大切に守り、組織として総力を挙げて取り組むマネジメント、教員の資質及び意識改革に全力で取り組むというものでございます。子どもたちにとっては、教師は家族以外に接する初めての客観的な大人でございまして、子どもたちは先生の一挙手一投足を見て、自分のおのれの人生のモデルとしているかもしれません。また、教師は常に保護者や地域の人々からこのような目で見られているということを絶対に忘れてはならないかな、そんなようにも思っております。

教師という職に身を置いた48年前から、目指す教師道として持ち続けてきた私のモットーでございます。もちろん私といたしましては、誠実、ひたむきな思いを持って、この10年、本町、上牧町の教育行政に努めてきたつもりではございますが、何分未熟、力不足で、議員の皆様方にも大変ご迷惑をかけ、お世話をかけ、ご尽力いただいたことを、大変この場をお借りいたしましてお礼を申し上げたいと思っております。

いずれにいたしましても、本町の学校教育方針の具体目標にもお示しをさせていただいておりますように、上牧町が連綿と築き上げてまいりました、相手の気持ちを思いやり行動できる人間形成づくりと人権教育を基軸とした教育と、ゆとりや詰め込みではなく、学力、人間力、体力の向上を目指すとともに、上牧のよさ、歴史や自然や文化や人権が大切にされるまちづくりを、そのことを中心に据えながら、知・徳・体のバランスの取れた生きる力を育む人づくりの実現に全精力を傾けていただけたらとご祈念を申し上げ、大変口幅ったい雑駁な中身ではございましたが、お答えになったかどうか分かりかねますけれども、ぜひ遠山議員さんにおかれましてはご理解いただけたらな、そんなように思っております。

以上でございます。

○議長（牧浦秀俊）　遠山議員。

○７番（遠山健太郎）　松浦教育長、ありがとうございました。

大型予算、これから教育費が増大するという中で、やはり上牧町の教育というところで、いつも教育長が教育論を語るときに意識しているのがバランスを取れたということをかなりいつも言われていた印象があります。バランスの中でトライアングルの話をよくされていまして、教育長がよく言われるトライアングルは２つありまして、１つは地域・学校・家庭のトライアングル、そしてもう１つは知・徳・体のトライアングル、このバランスが上牧町の教育にとても大事だと。そして、思いやりであって、あと人権教育を中心とした社会教育を

推進する上牧町として、これからも教育行政について積極的な予算を多分計上していくことになるのではないかなというふうに思います。

教育長のほうから未熟、力不足というお話がありましたけど、全くそんなことがなくて、今回は予算委員会での質問になりますので過去のお話はできませんが、教育長、48年間教育行政って言われましたけども、この教育長になってからもフリースクールの開校、そしてまきっ子塾の開校、そして通級指導教室の開講など様々な子どもたちに寄り添った、子どもたちの多様性を重視した教育行政を推進していただいたことに対して、心からお礼を申し上げたいと思います。

個人的な話になりますが、私、議員になってこの４月で10年になりますが、10年前の私を知っている理事者の方というのは実はあまりいらっしゃらなくて、そのうちの１人が教育長だというふうに認識をしています。私が最初の頃から質問をするたびにいつも教育長のことをすごい気にしていまして、教育長が小さくこくこくとうなずいていただく姿を見ると、この質問は的を得ていたんだな、この質問は的確だったんだなということを少し安心をしていて、いつも教育長がうなずいてくれるたびに、次も頑張ろうというふうに思っていた10年間でもありました。

教育長におかれましてはお体に気をつけていただいて、これからも上牧町の行政のため、そして教育行政のためにご尽力いただきますように心からご祈念を申し上げまして、質問とさせていただきます。ありがとうございました。

○議長（牧浦秀俊）　服部議員。

○予算特別委員長（服部公英）　先ほど委員長報告の中で、議第27号　令和７年度上牧町国民健康保険特別予算の中の報告の中の特定健診未受診者・特定保健指導未利用者対策委託料5,680万円と私、間違えて報告しまして、実際は568万円ということで訂正をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

○議長（牧浦秀俊）　了解いたしました。

ほかにございませんか。

（「なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

討論はございませんか。

（「討論なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　討論なしと認めます。

これから採決いたします。

本案を委員長の報告どおり可決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　ご異議なしと認めます。

したがって、本案は委員長の報告どおり可決されました。

―――――――――――――――――――― ◇ ――――――――――――――――――――

◎議第２７号の質疑、討論、採決

○議長（牧浦秀俊）　日程第３、議第27号　令和７年度上牧町国民健康保険特別会計予算について、これを議題といたします。

提案理由の説明は終わっておりますので、これから質疑を行います。

質疑はございませんか。

（「なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

討論はございませんか。

（「討論なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　討論なしと認めます。

これから採決いたします。

本案を委員長の報告どおり可決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　ご異議なしと認めます。

したがって、本案は委員長の報告どおり可決されました。

―――――――――――――――――――― ◇ ――――――――――――――――――――

◎議第２８号の質疑、討論、採決

○議長（牧浦秀俊）　日程第４、議第28号　令和７年度上牧町後期高齢者医療特別会計予算に

ついて、これを議題といたします。

提案理由の説明は終わっておりますので、これから質疑を行います。

質疑はございませんか。

（「質疑なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

討論はございませんか。

（「討論なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　討論なしと認めます。

これから採決いたします。

本案を委員長の報告どおり可決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　ご異議なしと認めます。

したがって、本案は委員長の報告どおり可決されました。

◇

◎議第２９号の質疑、討論、採決

○議長（牧浦秀俊）　日程第５、議第29号　令和７年度上牧町介護保険特別会計予算について、これを議題といたします。

提案理由の説明は終わっておりますので、これから質疑を行います。

質疑はございませんか。

（「質疑なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

討論はございませんか。

（「討論なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　討論なしと認めます。

これから採決いたします。

本案を委員長の報告どおり可決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　ご異議なしと認めます。

したがって、本案は委員長の報告どおり可決されました。

―――――――――――――――――――― ◇ ――――――――――――――――――――

◎議第３０号の質疑、討論、採決

○議長（牧浦秀俊）　日程第６、議第30号　令和７年度上牧町住宅新築資金等貸付事業特別会計予算について、これを議題といたします。

提案理由の説明は終わっておりますので、これから質疑を行います。

質疑はございませんか。

（「質疑なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

討論はございませんか。

（「討論なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　討論なしと認めます。

これから採決いたします。

本案を委員長の報告どおり可決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　ご異議なしと認めます。

したがって、本案は委員長の報告どおり可決されました。

―――――――――――――――――――― ◇ ――――――――――――――――――――

◎議第３１号の質疑、討論、採決

○議長（牧浦秀俊）　日程第７、議第31号　令和７年度上牧町下水道事業会計予算について、これを議題といたします。

提案理由の説明は終わっておりますので、これから質疑を行います。

質疑はございませんか。

（「質疑なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

討論はございませんか。

（「討論なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　討論なしと認めます。

これから採決いたします。

本案を委員長の報告どおり可決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　ご異議なしと認めます。

したがって、本案は委員長の報告どおり可決されました。

――――――――――――――――――――◇――――――――――――――――――――

◎総務建設委員長報告について

○議長（牧浦秀俊）　日程第８、総務建設委員長報告について。

上村委員長、報告願います。

上村委員長。

（総務建設委員長　上村哲也　登壇）

○総務建設委員長（上村哲也）　改めまして、皆様、こんにちは。６番、上村哲也です。

総務建設委員会の報告を行わせていただきます。

去る３月３日、本会議において、総務建設委員会に付託されました町長提出議案は13議案で、次のとおりであります。

議第１号　刑法等の一部を改正する法律及び刑法等の一部を改正する法律の施行に伴う関係法律の整理等に関する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例について、議第３号　上牧町議会議員の議員報酬等に関する条例の一部を改正する条例について、議第４号　特別職の職員で常勤のものの給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例について、議第５号　一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について、議第６号　一般職の任期付職員の採用等に関する条例の一部を改正する条例について、議第７号　上牧町会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について、議第８号　地

方公務員法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整備に関する条例の一部を改正する条例について、議第９号　職員の旅費に関する条例の一部を改正する条例について、議第10号　職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例について、議第11号　上牧町非常勤消防団員に係る退職報奨金の支給に関する条例の一部を改正する条例について、議第12号　上牧町消防団員公務災害補償条例の一部を改正する条例について、議第20号　令和６年度上牧町一般会計補正予算（第９回）について、議第24号　令和６年度上牧町住宅新築資金等貸付事業特別会計補正予算（第２回）について、以上の13議案については、３月５日、全委員出席の下、総務建設委員会を開催し、慎重に審議をいたしました。

結果、さきの13議案は全て可決すべきものと決しましたことをご報告いたします。

次に、各委員から議案に関する主たる質疑は以下のとおりです。

議第１号　刑法等の一部を改正する法律及び刑法等の一部を改正する法律の施行に伴う関係法律の整理等に関する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例について。

問い。今回条例制定は、刑法が本年６月１日付で改正することに伴い、関係条例を整理する条例の制定だが、その刑法改正の内容について説明を。答え。懲役及び禁錮刑を廃止し、これらに代えて拘禁刑が創設されるため、本町の条例で影響のある条例について改正するものである。

議第９号　職員の旅費に関する条例の一部を改正する条例について。

問い。着後滞在費、転居費、家族移転費について、当町に適用はあるのか。答え。当町にはまだないが、発生すれば適用する。

議第10号　職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例について。

問い。人事院はこの条例に関して人事院規則を改正しているが、内容と対応はどうか。答え。小学校３年生修了までの子どもの看護休暇や入園・卒園式、入学式の参加に休暇が取れる改正である。４月から施行するため、現在、規則の改正を準備している。問い。今回の条例改正は、時間外勤務が免除となるのは子どもの年齢を小学校就学までとされた。対象を小学校３年生修了までに統一できなかったのか。答え。国の見直しに合わせた。

次に、議第20号　令和６年度上牧町一般会計補正予算（第９回）について。

初めに、歳入の物品売払収入について。問い。売却に至った経緯、売却先と売却金額決定の経緯の説明を。答え。不要になったパソコン、プリンター、サーバー等を売却することとし、相見積りを取り、金額が高いところに売却した。問い。過去に不要となった物品について積極的に売却することで一般財源の確保に努めてほしいと要望をしていたので、とてもあ

りがたく思っている。今後も物品売払いについては積極的に取り組んでいただきたいが、どうか。答え。このような場合になった際は考え実施していきたい。続きまして、一般寄附金について。問い。住民の方から50万円の寄附があったとの説明だが、寄附者について説明を。上牧町の住民である芳倉清隆様からの寄附であり、広報にも掲載させていただいた。問い。議会としても当該住民の方には心からお礼を申し上げたいと思う。この寄附の実施日と使用用途は。答え。寄附は、令和６年６月１日である。使途は、一般寄附金として町の自主財源の中で使わせていただきたいと考えている。続きまして、雑入の災害派遣に伴う求償費について。問い。入金元の説明を。答え。入金元は石川県である。問い。上牧町は石川県穴水町に災害派遣として職員を派遣した求償費だが、この金額の内訳の説明を。答え。令和５年度分として令和６年度分というくくりで避難所設置のための物資代の求償、事務費として避難所運営に係る職員の人件費、車両の燃料費や賃借料等の救済である。問い。今回の求償は、避難所設営に関する派遣に対するものだと理解した。改めて災害派遣に尽力された職員の皆様に敬意を申し上げたいと思う。

次に、歳出になります。問い。財産管理費の財源内訳補正32万6,000円の説明を。答え。歳入にある災害保険料33万6,000円のうち、車両などの修繕費として支出した32万6,000円の財源補正である。次に、給付金・定額減税一体支援給付金給付事業費について。問い。この事業のうち低所得者支援給付金事業について伺う。この事業は令和６年５月31日付で専決処分され、第２回補正予算で計上されたものです。交付金の予算額は１億1,150万円でしたが、今回6,685万円と約60％の大幅な減税補正が計上されました。なぜこのような減税補正となったのか伺う。答え。予算計上時には対象世帯数を980世帯としていたが、実際には544世帯となったのが主たる要因です。問い。同給付金を受給するために必要な申請を行っていない世帯が計43世帯との記録がある。このような未申請世帯が発生しないように、一人一人に寄り添ったきめ細やかな取組をされるように強く求めておきます。答え。分かりました。次に、障害者総合支援事業費について。問い。補正額444万円とあるが、１人当たりの月平均単価が増加傾向となっている要因は。答え。機能向上のため訓練をしながら子どもの発達を支援する事業で、例えば週１回行っていたが週２回使いたい等、ご家庭の希望で支援方法を決定しているので、今年度は利用が増加している状況です。次に、児童措置費について。問い。予算額３億1,492万円の10分の１に当たる3,097万円が減額になった理由は。答え。児童手当は今年度途中から拡充されることが決まっており、今まで対象でなかった高校生が対象となり、その分は年度当初のシステム改修前の見込みであったため、少し多く見込んでいたというと

ころが主な原因です。続きまして、団体営農地防災事業費について。問い。防災重点農ため池に指定した７か所のため池に対する耐震調査を行うが、今まで改良工事を行った池はあるのか。答え。今現在調査をした５か所のうち３か所は改良工事の必要はなく、残りの２か所は令和７年度に調査をする。次に、避難所生活環境改善事業費について。問い。今回の財源の主となる新しい地方経済生活環境創生交付金は、避難所生活の環境改善だけでなく様々なメニューに活用できる交付金だが、その中で今回の避難所生活環境改善の事業実施に至った経緯の説明を。答え。災害発生時の対策として、今まで非常用トイレなどの資機材の備蓄を進めてきたが、能登半島への災害派遣の教訓を踏まえ、避難所における温かい食料の提供という観点がとても大切だと考え、今回の事業を進めることにした。問い。設置箇所の１つに上牧第二中学校があるが、上牧第二中学校の跡地は来年３月末の廃校後も防災拠点という位置づけに変更はないか。答え。上牧第二中学校は廃校後の跡地活用として、防災拠点、生涯学習、社会体育関係やコミュニティーの場等の利活用の場として、町として方針は決まっている。問い。備品購入費の3,340万円ですが、避難所での温かい食事の提供を目指し、大型ガスコンロや調理場確保のテントや防災倉庫の設置・整備が行われるが、具体的な活用法を伺う。答え。平常時には、自治会等の防災訓練などでキッチン資機材の貸出しを行い、炊き出し訓練も行うというように考えている。

以上が総務建設委員会に付託された13議案についての審議経過要旨であります。

以上をもちまして、総務建設委員会委員長報告とさせていただきます。

○議長（牧浦秀俊）　委員長の報告が終わりましたので、ただいまより議案の審議に入ります。

◇

◎議第１号の質疑、討論、採決

○議長（牧浦秀俊）　日程第９、議第１号　刑法等の一部を改正する法律及び刑法等の一部を改正する法律の施行に伴う関係法律の整理等に関する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例について、これを議題といたします。

提案理由の説明は終わっておりますので、これから質疑を行います。

質疑はございませんか。

（「質疑なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

討論はございませんか。

（「討論なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　討論なしと認めます。

これから採決いたします。

本案を委員長の報告どおり可決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　ご異議なしと認めます。

したがって、本案は委員長の報告どおり可決されました。

◇

◎議第３号から議第８号の質疑、討論、採決

○議長（牧浦秀俊）　日程第10、議第３号　上牧町議会議員の議員報酬等に関する条例の一部を改正する条例について、日程第11、議第４号　特別職の職員で常勤のものの給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例について、日程第12、議第５号　一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について、日程第13、議第６号　一般職の任期付職員の採用等に関する条例の一部を改正する条例について、日程第14、議第７号　上牧町会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について、日程第15、議第８号　地方公務員法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整備に関する条例の一部を改正する条例について、これを一括して議題といたします。

提案理由の説明は終わっておりますので、これから議第３号から議第８号までを一括して質疑を行います。

質疑はございませんか。

（「質疑なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　質疑なしと認めます。

これから議第３号から議第８号までを一括して討論を行います。

討論はございませんか。

（「討論なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　討論なしと認めます。

これから一括して採決いたします。

議第３号から議第８号までを委員長の報告どおり可決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　ご異議なしと認めます。

したがって、議第３号から議第８号までは委員長の報告どおり可決されました。

◎議第９号の質疑、討論、採決

○議長（牧浦秀俊）　日程第16、議第９号　職員の旅費に関する条例の一部を改正する条例について、これを議題といたします。

提案理由の説明は終わっておりますので、これから質疑を行います。

質疑はございませんか。

（「質疑なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

討論はございませんか。

（「討論なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　討論なしと認めます。

これから採決いたします。

本案を委員長の報告どおり可決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　ご異議なしと認めます。

したがって、本案は委員長の報告どおり可決されました。

◎議第１０号の質疑、討論、採決

○議長（牧浦秀俊）　日程第17、議第10号　職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例について、これを議題といたします。

提案理由の説明は終わっておりますので、これから質疑を行います。

質疑はございませんか。

（「質疑なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

討論はございませんか。

（「討論なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　討論なしと認めます。

これから採決いたします。

本案を委員長の報告どおり可決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　ご異議なしと認めます。

したがって、本案は委員長の報告どおり可決されました。

―――――――――――――――――――― ◇ ――――――――――――――――――――

◎議第１１号の質疑、討論、採決

○議長（牧浦秀俊）　日程第18、議第11号　上牧町非常勤消防団に係る退職報償金の支給に関する条例の一部を改正する条例について、これを議題といたします。

提案理由の説明は終わっておりますので、これから質疑を行います。

質疑はございませんか。

（「質疑なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

討論はございませんか。

（「討論なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　討論なしと認めます。

これから採決いたします。

本案を委員長の報告どおり可決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　異議なしと認めます。

したがって、本案は委員長の報告どおり可決されました。

◇

◎議第１２号の質疑、討論、採決

○議長（牧浦秀俊）　日程第19、議第12号　上牧町消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例について、これを議題といたします。

提案理由の説明は終わっておりますので、これから質疑を行います。

質疑はございませんか。

（「質疑なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

討論はございませんか。

（「討論なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　討論なしと認めます。

これから採決いたします。

本案を委員長の報告どおり可決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　異議なしと認めます。

したがって、本案は委員長の報告どおり可決されました。

◇

◎議第２０号の質疑、討論、採決

○議長（牧浦秀俊）　日程第20、議第20号　令和６年度上牧町一般会計補正予算（第９回）について、これを議題といたします。

提案理由の説明は終わっておりますので、これから質疑を行います。

質疑はございませんか。

（「質疑なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

討論はございませんか。

（「討論なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　討論なしと認めます。

これから採決いたします。

本案を委員長の報告どおり可決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　ご異議なしと認めます。

したがって、本案は委員長の報告どおり可決されました。

――――――――――――――――――――◇――――――――――――――――――――

◎議第２４号の質疑、討論、採決

○議長（牧浦秀俊）　日程第21、議第24号　令和６年度上牧町住宅新築資金等貸付事業特別会計補正予算（第２回）について、これを議題といたします。

提案理由の説明は終わっておりますので、これから質疑を行います。

質疑はございませんか。

（「質疑なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

討論はございませんか。

（「討論なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　討論なしと認めます。

これから採決いたします。

本案を委員長の報告どおり可決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　ご異議なしと認めます。

したがって、本案は委員長の報告どおり可決されました。

◇

◎文教厚生委員長報告について

○議長（牧浦秀俊）　日程第22、文教厚生委員長報告について。

康村委員長、報告願います。

康村委員長。

（文教厚生委員長　康村昌史　登壇）

○文教厚生委員長（康村昌史）　皆様、こんにちは。文教厚生委員長の康村昌史です。

文教厚生委員会の報告を行います。

当委員会に付託されましたのは、議第２号　奈良県広域水道企業団への水道事業の統合に伴う関係条例の整理に関する条例について、議第13号　上牧町国民健康保険税条例の一部を改正する条例について、議第14号　上牧町指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について、議第15号　上牧町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について、議第16号　上牧町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について、議第17号　上牧町下水道条例の一部を改正する条例について、議第18号　奈良県広域水道企業団設立準備協議会の廃止に関する協議について、議第19号　公の施設の指定管理者の指定について、議第21号　令和６年度上牧町国民健康保険特別会計補正予算（第４回）について、議第22号　令和６年度上牧町後期高齢者医療特別会計補正予算（第２回）について、議第23号　令和６年度上牧町介護保険特別会計補正予算（第４回）について、議第25号　令和６年度上牧町水道事業会計補正予算（第４回）について、以上、12議案については、３月４日午前10時から全委員の出席の下、全議案を慎重審議し、採決の結果、全議案について異議なく可決するべきものと決定いたしました。

次に、各委員からの議案の主たる質疑内容を報告いたします。

議第２号　奈良県広域水道企業団への水道事業の統合に伴う関係条例の整理に関する条例について。

問い。第29条第１号中、上牧町下水道条例の下水道使用料の徴収方法を企業団の定める徴収方法の例に改めるということですが、どのようになるのか説明してください。答え。公共下水道の使用料については、集金、納入方法はこれまでと同じです。

次に、議第19号　公の施設の指定管理者の指定について。

問い。指定管理者制度は平成15年９月２日に施行されて22年が経過していますが、いまだに制度を知らない住民が多いので、上牧町が指定している全ての施設を年１回、ホームページに掲載することをお勧めしますが、いかがでしょうか。答え。指定管理者を指定した際にはその都度ホームページで公表しており、全ての施設を一括して掲載することについては検討してまいりたいと考えております。

続きまして、議第23号　令和６年度上牧町介護保険特別会計補正予算（第４回）について。

款２保険給付費、項４高額介護サービス等費、目１高額介護サービス等費については、問い。高額介護サービス等費が今回の補正予算で500万円の大幅な増額補正となっている。支援対象者の増加や高額給付が増えていることは分かるが、補正幅がかなり大きいのではないか。答え。本予算は３年周期で予算額を決定しており、本年度はその２年目となる。過去の給付額の実績からの当初予算額となった。また、問い。本年度の給付額は次期の高額介護サービス費等の予算を決めるときに反映するのか。答え。そうなるものと考えている。さらに、款３地域支援事業費、項３包括的支援事業任意事業費、目２任意事業費の説明欄にあります家族介護支援事業費、紙おむつ支給費及び配食見守り事業費については、問い。紙おむつ支給扶助費が135万円、配食見守り支援事業委託料が80万円、ともに減額補正となっている。施設入所、死亡、訪問サービス利用等の理由で見込額と執行額に差が出るのは理解できるが、減額幅がかなり大きい。制度がありながら同サービスの存在を知らず、必要な人が必要なサービスを利用していないケースはないか。大切な福祉サービスなだけに周知は大丈夫か。答え。広報等で制度やサービスの周知は十分やってきたが、今後さらに周知徹底していくつもりである。

以上で文教厚生委員会の報告を終わります。

○議長（牧浦秀俊）　委員長の報告が終わりましたので、ただいまより議案の審議に入ります。

◇

◎議第２号の質疑、討論、採決

○議長（牧浦秀俊）　日程第23、議第２号　奈良県広域水道企業団への水道事業の統合に伴う関係条例の整理に関する条例について、これを議題といたします。

提案理由の説明は終わっておりますので、これから質疑を行います。

質疑はございませんか。

（「質疑なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

討論はございませんか。

（「討論なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　討論なしと認めます。

これから採決いたします。

本案を委員長の報告どおり可決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　ご異議なしと認めます。

したがって、本案は委員長の報告どおり可決されました。

―――――――――――――――――――― ◇ ――――――――――――――――――――

◎議第１３号の質疑、討論、採決

○議長（牧浦秀俊）　日程第24、議第13号　上牧町国民健康保険税条例の一部を改正する条例について、これを議題といたします。

提案理由の説明は終わっておりますので、これから質疑を行います。

質疑はございませんか。

（「質疑なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

討論はございませんか。

（「討論なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　討論なしと認めます。

これから採決いたします。

本案を委員長の報告どおり可決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　ご異議なしと認めます。

したがって、本案は委員長の報告どおり可決されました。

◇

◎議第１４号の質疑、討論、採決

○議長（牧浦秀俊）　日程第25、議第14号　上牧町指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について、これを議題といたします。

提案理由の説明は終わっておりますので、これから質疑を行います。

質疑はございませんか。

（「質疑なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

討論はございませんか。

（「討論なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　討論なしと認めます。

これから採決いたします。

本案を委員長の報告どおり可決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　ご異議なしと認めます。

したがって、本案は委員長の報告どおり可決されました。

◇

◎議第１５号の質疑、討論、採決

○議長（牧浦秀俊）　日程第26、議第15号　上牧町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について、これを議題といたします。

提案理由の説明は終わっておりますので、これから質疑を行います。

質疑はございませんか。

（「質疑なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

討論はございませんか。

（「討論なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　討論なしと認めます。

これから採決いたします。

本案を委員長の報告どおり可決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　異議なしと認めます。

したがって、本案は委員長の報告どおり可決されました。

―――――――――――――――――――― ◇ ――――――――――――――――――――

◎議第１６号の質疑、討論、採決

○議長（牧浦秀俊）　日程第27、議第16号　上牧町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について、これを議題といたします。

提案理由の説明は終わっておりますので、これから質疑を行います。

質疑はございませんか。

（「質疑なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

討論はございませんか。

（「討論なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　討論なしと認めます。

これから採決いたします。

本案を委員長の報告どおり可決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　ご異議なしと認めます。

したがって、本案は委員長の報告どおり可決されました。

◇

◎議第１７号の質疑、討論、採決

○議長（牧浦秀俊）　日程第28、議第17号　上牧町下水道条例の一部を改正する条例について、これを議題といたします。

提案理由の説明は終わっておりますので、これから質疑を行います。

質疑はございませんか。

（「質疑なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

討論はございませんか。

（「討論なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　討論なしと認めます。

これから採決いたします。

本案を委員長の報告どおり可決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　ご異議なしと認めます。

したがって、本案は委員長の報告どおり可決されました。

◇

◎議第１８号の質疑、討論、採決

○議長（牧浦秀俊）　日程第29、議第18号　奈良県広域水道企業団設立準備協議会の廃止に関する協議について、これを議題といたします。

提案理由の説明は終わっておりますので、これから質疑を行います。

質疑はございませんか。

（「質疑なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

討論はございませんか。

（「討論なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　討論なしと認めます。

これから採決いたします。

本案を委員長の報告どおり可決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　ご異議なしと認めます。

したがって、本案は委員長の報告どおり可決されました。

◇

◎議第１９号の質疑、討論、採決

○議長（牧浦秀俊）　日程第30、議第19号　公の施設の指定管理の指定について、これを議題といたします。

提案理由の説明は終わっておりますので、これから質疑を行います。

質疑はございませんか。

（「質疑なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

討論はございませんか。

（「討論なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　討論なしと認めます。

これから採決いたします。

本案を委員長の報告どおり可決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　ご異議なしと認めます。

したがって、本案は委員長の報告どおり可決されました。

◇

◎議第２１号の質疑、討論、採決

○議長（牧浦秀俊）　日程第31、議第21号　令和６年度上牧町国民健康保険特別会計補正予算（第４回）について、これを議題といたします。

提案理由の説明は終わっておりますので、これから質疑を行います。

質疑はございませんか。

（「質疑なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

討論はございませんか。

（「討論なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　討論なしと認めます。

これから採決いたします。

本案を委員長の報告どおり可決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　ご異議なしと認めます。

したがって、本案は委員長の報告どおり可決されました。

―――――――――――――――――― ◇ ――――――――――――――――――

◎議第２２号の質疑、討論、採決

○議長（牧浦秀俊）　日程第32、議第22号　令和６年度上牧町後期高齢者医療特別会計補正予算（第２回）について、これを議題といたします。

提案理由の説明は終わっておりますので、これから質疑を行います。

質疑はございませんか。

（「質疑なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

討論はございませんか。

（「討論なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　討論なしと認めます。

これから採決いたします。

本案を委員長の報告どおり可決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　ご異議なしと認めます。

したがって、本案は委員長の報告どおり可決されました。

◇

◎議第２３号の質疑、討論、採決

○議長（牧浦秀俊）　日程第33、議第23号　令和６年度上牧町介護保険特別会計補正予算（第４回）について、これを議題といたします。

提案理由の説明は終わっておりますので、これから質疑を行います。

質疑はございませんか。

（「質疑なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

討論はございませんか。

（「討論なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　討論なしと認めます。

これから採決いたします。

本案を委員長の報告どおり可決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　ご異議なしと認めます。

したがって、本案は委員長の報告どおり可決されました。

◇

◎議第２５号の質疑、討論、採決

○議長（牧浦秀俊）　日程第34、議第25号　令和６年度上牧町水道事業会計補正予算（第４回）について、これを議題といたします。

提案理由の説明は終わっておりますので、これから質疑を行います。

質疑はございませんか。

（「質疑なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

討論はございませんか。

（「討論なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　討論なしと認めます。

これから採決いたします。

本案を委員長の報告どおり可決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　ご異議なしと認めます。

したがって、本案は委員長の報告どおり可決されました。

◇

◎閉会の宣告

○議長（牧浦秀俊）　お諮りいたします。

本定例会の会議に付された事件は全て終了いたしました。

したがって、会議規則第７条の規定により閉会したいと思います。ご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（牧浦秀俊）　ご異議なしと認めます。

したがって、本定例会は閉会することに決定いたしました。

◇

◎教育長の挨拶

○議長（牧浦秀俊）　閉会の前に、教育長より挨拶をしたいとの申出がありましたので、教育長、よろしくお願いいたします。

（教育長　松浦教雄　登壇）

○教育長（松浦教雄）　初めに、議長の許可を頂き、このような機会を設けていただきました

こと、大変ありがたく思っております。

さて、教職を退職と同時に教育長として選任をしていただき、教職時代と合わせて48年の月日が経過いたしました。教育長といたしましては３期９年とプラス１年、10年間の務めをさせていただきました。そんな中、教員としてこれまで経験することのなかった特別な年、コロナ禍と直面し、体力と気力を振り絞って歩み続けた満身創痍の何年かであったように感じております。

ところで、本町、上牧町の学校教育の指導方針は、日本国憲法及び学校教育法を踏まえ、人間尊重の精神を養い、豊かな人間性で、知力・体力・忍耐力を身につけ、正々堂々と生きる子どもの育成を目指すこと、また、具体目標としては、教育の根本精神に基づき、人権を尊重する民主的な社会の形成者として、豊かな人間性と創造性を備えた町民の育成を期して推進することを明記されております。

昨今、子どもを取り巻く教育環境は著しく変化をし、多様性、複雑化する社会の中、多くの教育課題、山積いたしております。その課題解決と本町ならではの、すなわち本町でしか成し遂げることのできない教育を創造することを旗印、目的に、微力ながら汗をかかせていただきました。町長の絶大なるご支援とご理解を頂き開校いたしました、足かけ９年、県教育委員会からも子どもと大人を結ぶかけ橋、そしてコミュニティーの場であることを高く評価していただきました、放課後学習塾「まきっ子塾」、外国語教育、国際感覚豊かな人材育成を目的とする台湾との中学生国際交流事業、共生社会の形成、インクルーシブ教育構築に向け、県下で先進モデル地域として指定を受け、就学前、小学校、さらに中学校版ペガサス教室の設置、本町のまちづくり基本条例の未成年の町民から子どもへと改正を重きに置いた中学生子ども議会並びに小学生一日町長体験の隔年開催、防犯・防災を基軸とする県下で最初の認証を受けたＳＰＳ、セーフティプロモーションスクールの設置、学力・国語力・読解力向上に向け、町内教職員によるプロジェクトチームの研修、また、直近では、増加する不登校児童､生徒の居場所づくりを目的とした官民連携の運営基盤｢スマイルファームかんまき」の設置、そして、何より町長の最たる公約の１つでございます中学校統合に向けた取組でございます。これらの取組はどれだけの効果をもたらしたかどうか計り知れず、子どもたちのためにまいた種、きっといつの日にか実となり開花することを期待するばかりであります。

戦後教育における歴史のページをひもときますと､その重点目標は､昭和20年代､民主化､昭和30年代から40年代の現代化、50年から60年代の人間化、平成の時代に入って人間化、生涯化、そして令和に入り多様化へと時代とともに激しく変化しております。現在、学校のパ

ラダイムは拘束から自覚、競争から共生、結果より過程を重視するとともに、一人一人の子どもにとって学校生活が心の居場所、生き方を学ぶ場所となるように、その変革が求められております。障がいのある子や異なるルーツ、文化、言語、価値観を持つ子らを違うということで遠ざけるのではなく、豊かさとして捉え、違いをありのままに受け止められるように取り組むことにいささかの迷いもなく、一人一人の子どもの生き方は急ぐ子ども、ゆっくり行く子ども、一人一人の個性や違いがあり、その違いを許しながら一人一人が一人一人であってよいという安定した人間関係を構築することこそ教育の果たすべき大切な役割だと、教員時代から現在に至るまで大切にしてまいりました私の考えの１つでございます。

結びに、上牧町の子どもたちの将来像を見据えた着実な歩みと、連綿と築き上げられました上牧町の教育を大切にされることをご期待するとともに、上牧町の子どもたちがどんな成長曲線を描いてくれるのか楽しみにしております。

ただただ、先ほども申し上げましたように未熟な私であるがゆえ、多くの皆様方からご指導、ご助言、お力添えを頂き、本日この日までたどり着くことができました。

議員の皆様方におかれましては、健康にご留意され、議員活動に精進され、ますますのご活躍をご祈念申し上げ、私の退任の言葉とさせていただきたいと思います。長い間本当にありがとうございました。

○議長（牧浦秀俊）　松浦教育長、長年にわたり上牧町教育行政にご尽力いただき、心より敬意と感謝の意を表す次第であります。ありがとうございました。

◇

◎町長の挨拶

○議長（牧浦秀俊）　それでは、招集者の挨拶をお願いいたします。

今中町長。

（町長　今中富夫　登壇）

○町長（今中富夫）　全議案議決を頂きまして、ありがとうございます。議員の皆様方には大変ご協力を頂きまして、ありがとうございます。今、教育長があまりに上手にしゃべられたので、後、私、ちょっとしゃべりにくいんですが、職員36年と町長16年、52年間、公務員として上牧町で奉職をさせていただきました。いろんなことがございました。

最近よく話しする財政健全化団体からの脱却と開発公社の話、絶えずしておりますので、

皆さん方よくお分かりだろうというふうに思います。平成23年に健全化団体から脱却をいたしました。平成25年度で土地開発公社を解散させていただきました。これの一番根本になる事柄でございますが、私、選挙に立候補を表明させていただいて、その後、各地域で集会をさせていただきました。そのとき、議員の皆様方もご参加された方もおられると思いますが、どこの地域とは申しませんが、ある地域でこっぴどく叱責をされました。いまだにそれは頭の中に残っております。こういう上牧町をつくったのはおまえたちの責任だ、どうするんだということで、大変厳しく叱責をされたのをいまだ覚えております。それがあるからこそ私も頑張れたというふうに、今では感じているところでございます。

そういうことがあって、先ほどの健全化団体、開発公社の問題、それと合わせてまちづくり基本条例、これが今の上牧町の一番底辺になっているのではないのかなと感じております。そこに参加をしていただきました議員さんもおられるわけでございますが、住民、議会、行政、協働で情報共有をしながらまちづくりをしていこうと、このまちづくり基本条例が制定されて、議会の皆さん方の協議、こういうものも事前事前に情報の交換をしながら現在まで来れているのではないのかなと。こういうものがなければ、行政と議会の関係性、それと住民との関係性が生まれていないのではないのかというふうに考えております。議会のほうからも時々、行政も100％ではございませんので、情報不足、相談、説明、こういう関係でお叱りを受けるところでございますが、そういう関係性がしっかり出来上がってきている、そういう一番の底辺がまちづくり基本条例ではないのかなというふうにも私自身は思っております。

町長16年間、議会の皆さん方とはいろんな話をさせていただきながら、私、いろんな思いを持っております。一々話をすると話が長くなるのでいたしませんが、皆さん方には大変ご理解とご協力を頂きました。職員当時もそうでございますが、大変悔しいこともございましたし、うれしいこともございましたし、泣きたくなるようなこともございましたし、恥ずかしいなというようなこともいろいろ今思い起こせばたくさん出てくるわけでございますが、上牧町も今こういう状況になってきております。

最近、住民の方々から、お世辞かどうか分かりませんが、「町長、上牧町は変わりましたね。大変よくなりました」と、こういうお声をたくさん聞かせていただくようになりました。それの一番の基本は、今私が説明をさせていただいたようなことが曲がりなりにも、私もそうでございますが、この場にいる幹部職員、それと職員、そういうところに浸透してきているのではないのかなというふうに思っております。

新しい町長も誕生をいたしました。新しい町長も職員として、副長として私と一緒に務めてきた人間でございますので、今私がお話をさせていただいたようなこと、十分、新町長も分かっているわけでございますので、それを礎にして、また新しい目線、新しい見方、新しい考え方、そういうものをこれから新町長も皆さん方に提案をしていくだろうというふうに思いますので、今まで同様、私も同様に、新しい町長と一緒に住民の思いをつくり上げていっていただきたいなというふうに思います。人間みんなそれぞれ欲の塊でございますので、これで満足するということはないわけでございますので、今までやってきたこと、それ以上に住民さんは望んでおられるというふうにも思いますので、そういうことから、また、議会の議員さんも、町長とまた行政と一緒に新しい上牧町をおつくりいただきますようにお願いを申し上げまして、私の16年間の町長としてのお礼と、併せて職員36年間のお礼というふうにさせていただきます。本当にありがとうございました。

○議長（牧浦秀俊）　今中町長、４期16年にわたり上牧町のリーダーとしてご尽力いただき、ありがとうございました。心より敬意と感謝を申し上げるとともに、これからも上牧町のよき相談役としてご尽力ください。よろしくお願いいたします。

本年３月31日をもって部長の任を果たされました寺口健康福祉部長と松井教育部長におかれましては、長年にわたり上牧町の行政に携わっていただき、そして、住民の福祉及び教育の向上に努めてこられたことに対し感謝を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

それでは、今中町長、松浦教育長、寺口健康福祉部長、松井教育部長に議会から花束を進呈したいと思います。どうぞ前へお進みください。

それでは、花束の進呈をお願いいたします。ありがとうございました。

これをもちまして、令和７年第１回上牧町議会定例会を閉会いたします。どうも皆様、ご苦労さまでした。

閉会　午後　２時３５分

地方自治法第１２３条第２項の規定により署名する。

議　　長　　牧　浦　秀　俊

署　名　議　員　　服　部　公　英

署　名　議　員　　康　村　昌　史